第十二條　壓延鋼材ノ試驗片ハ鋼板ニ在リテハ横又ハ縱ノ方向ヨリ形鋼又ハ棒鋼ニ在リテハ長サノ方向ヨリ之ヲ採取シ矯正ノ必要アルトキハ常溫ノ儘矯正スベシ

壓延鋼材ノ試驗片ハ鋼材ト共ニスル場合ノ外之ニ燒鈍其ノ他ノ熱處理ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條　鍛鋼材ノ試驗片ハ鍛鋼材ニ適當ナル熱處理ヲ爲シタル後其ノ主体ヨリ小ナラザル截面ヲ有スル部分ヨリ縱ニ切取ルモ妨ナシ

鋼品ノ形狀又ハ用途ニ依リ横ニ切取ルモノトス但シ鍛

第十四條　鑄鋼材ノ試驗片ハ之ヲ鑄鋼材ニ附著又ハ連結シテ鑄造シ鑄鋼材ト共ニ熱處理ヲ爲シタル後切取ルベシ

第二節　壓延鋼材

第十五條　機關ノ重要部分ニ用ウル壓延鋼材ハ平爐又ハ電氣爐ニ依リ製造セラレ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

第十六條　前條ノ壓延鋼材ハ其ノ試驗片ガ左ノ各號ノ試驗ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス但シ同一ノ汽罐又ハ氣槽ニ於テ同一ノ用途ニ供スル鋼板又ハ縱支柱用棒鋼ノ抗張力ノ差ノ範圍ハ毎平方粍七瓲ヲ超ユルコトヲ得ズ

一　抗張試驗　抗張力及標點間伸長百分率ハ左表ニ依ルコト

種類	抗張力（毎平方粍瓲）	標準抗張試驗片	標點間伸長百分率
加工ノ爲加熱スル鋼板又ハ使用中火焰ニ接觸スル鋼板	四一以上五〇以下	第一號	厚サ九粍以上二三以上 厚サ九粍未滿二〇以上

二　屈曲試驗　燒入屈曲試驗ニ於テハ試驗片ヲ濃紅色（日光ノ直射セザル室内ニ於テ判定スルモノニシテ約六五〇度）ニ熱シテ約二八度ノ水中ニ急冷シタル後常溫屈曲試驗ニ於テハ常溫ノ儘試驗片ニ壓力ヲ加ヘ又ハ鎚打ニ依リ左表ノ内側半徑ニテ一八〇度屈曲スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト

種類	内側半徑
鋼板　試驗片ノ厚サノ一・五倍以内	
形鋼　試驗片ノ厚サノ一・五倍以内	
棒鋼　試驗片ノ徑又ハ對邊距離ノ一・五倍以内	

三　縱壓試驗　鉄材ニ在リテハ徑ノ二倍ニ等シキ長サヲ有スル試驗片ヲ赤熱シタル儘原長ノ三分ノ一ニ至ル迄縱ノ方向ニ壓縮スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト

其ノ他ノ鋼板	四五以上五以下	第一號	厚サ九粍以上一七以上	二〇以上
形鋼	四一以上五〇以下	第一號	厚サ九粍以上二二以上 厚サ九粍未滿一九以上	
鉄材	四一以上五〇以下	第二號 第三號	二五以上三〇以上	
汽罐ノ燃燒室又ハ火爐ノ支柱用棒鋼	四一以上五〇以下	第二號 第三號	二三以上二八以上	
其ノ他ノ棒鋼	四五以上五以下	第二號 第三號	二〇以上二四以上	

第十七條　前條ノ抗張試驗ニ於テ試驗片ガ標點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シタルトキハ其ノ試驗ヲ無效トシ更ニ最初ニ試驗片ヲ採取シタル鋼材ニ付再試驗ヲ行フコトヲ得

抗張試驗、屈曲試驗又ハ縱壓試驗ガ不合格ト爲リタルトキハ其ノ試驗片一箇ニ付更ニ二箇ノ試驗片ヲ採取シ再試驗ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試驗ヲ行ヒタル場合ニ於テ試驗片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ之ニ依リ試驗ヲ行ヒタル鋼材ハ總テ不合格トス

第十八條　機關ノ重要部分ニ用ウル鉄ハ第十六條ノ規定ニ合格シタル鉄材ヨリ製造シ左ノ試驗ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

打展試驗　頭部ヲ赤熱シテ脚部ノ徑ノ二・五倍迄扁平ニ打展スルモ其ノ緣ニ裂疵ヲ生ゼザルコト

前項ノ試驗ニ用ウル鉄ノ數ハ同一徑ノモノノ重量四分ノ一毎又ハ其ノ端數毎ニ一箇トス

前條ノ規定ハ鉄ノ再試驗ニ付之ヲ準用ス

第十九條　厚サ六粍未滿ノ壓延鋼材及抗張力ヲ重要トセザル部分ニ使用スル壓延鋼材ニハ抗張試驗及燒入屈曲試驗ヲ省略スルコトヲ得

第三節　鍛鋼材

第二十條　機關ノ重要部分ニ用ウル鍛鋼材ハ平爐、坩堝爐又ハ電氣爐ニ依リ製造シタル鋼塊ヨリ鍛造シ品質均一ニシテ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

前項ノ鍛鋼材ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

第二十一條　主機ノ軸、「ピストン」桿、十字頭、連接桿、推進軸系ノ軸類其ノ他强力ヲ重要トスル部分ニ用ウル鍛鋼材ハ其ノ用途ニ應ジ日本標準規格ニ規定スル第三種、第四種又ハ第五種ノモノ又ハ此等ニ相當スルモノヲ用ヒ其ノ主體ハ其ノ截面積ヲ原鋼塊ノ平均截面積ノ四分ノ一以内ニ、主体以外ノ部分ハ其ノ截面積ヲ原鋼塊ノ平均截面積ノ三分ノ二以内ニ鍛錬スベシ但シ一体型又ハ半組成型ノ「クランク」軸ノ「クランク」部ニ用ウル鍛鋼材ニ付テハ其ノ截面積ノ割合ハ二分ノ一以内トス

軸ノ鍔又ハ桿ノ鍔若ハ叉端ハ之ヲ本體ト鍛合又ハ熔接スルコトヲ得ズ

前項ノ軸ノ鍔又ハ桿ノ鍔若ハ叉端ガ組成型ナルトキハ十分ナル强力ヲ有スル鍛鋼製又ハ鑄鋼製ノモノト爲スベシ但シ乙種機關又ハ丙種機關ニ在リテハ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ之ヲ鍛鋼製又ハ鑄鋼製ニ非ザルモノト爲スコトヲ得

前三項ノ規定ハ船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル補機ノ「クランク」軸ニ用ウル鍛鋼材ニ之ヲ準用ス

第二十二條　前條第一項ニ揭ゲル部分ニ用ウル鍛鋼材ニシテ大サ又ハ形狀ニ依リ其ノ截面積ノ割合ガ前條第一項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ其ノ割合ハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二十三條　第二十一條ニ揭ゲル部分ニ用ウル鍛鋼材ハ其ノ試驗片ガ左ノ各號ノ試驗ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

一　抗張試驗　抗張力ハ毎平方粍四四瓲以上六〇瓲未滿ナルコト、抗

張力が毎平方粍五五瓩未滿ナルトキハ其ノ數値ト標點間伸長百分率ノ一・五八倍トノ和ガ九〇以上、抗張力ガ毎平方粍五五瓩以上ナルトキハ其ノ數値ト標點間伸長百分率ノ一・五倍トノ和ガ九〇以上ナルコト

二　屈曲試驗　常温ノ儘左表ニ掲グル內側半徑ヲ以テ一八〇度屈曲スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト

抗張力（毎平方粍）	內側半徑（粍）
四四以上五〇未滿	六以下
五〇以上五五未滿	一〇以下
五五以上六〇未滿	一六以下

軸ノ計畫仕上徑二五〇粍以上ノ一体型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ノ「クランク」部ハ該鍛造物ノ成ルベク中心部ニ於テ互ニ直角ナル二方向ニ採取シタル試驗片ニ付抗張試驗及屈曲試驗ヲ執行シ左表ノ規格ニ適合スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ前項ノ試驗ヲ省略スルコトヲ得

試驗片採取方向	抗張力（毎平方粍）	標點間伸長百分率	裂疵ヲ生ゼザルコトヲ要スル屈曲角度
軸ノ中心線ニ平行ナル方向	四二以上五三未滿	抗張力ト標點間伸長百分率ノ一・五八倍トノ和ガ九〇以上	一八〇
	五三以上五八未滿	抗張力ト標點間伸長百分率ノ一・五倍トノ和ガ八八以上	
「クランク」腕ノ中心線ニ平行ナル方向	四二以上五三未滿	抗張力ト標點間伸長百分率ノ一・五八倍トノ和ガ八九以上	一五〇
	五三以上五八未滿	抗張力ト標點間伸長百分率ノ一・五倍トノ和ガ八七以上	

備考　屈曲試驗ニ於ケル試驗片ハ常温ノ儘屈曲スルモノトシ其ノ屈曲ノ內側半徑ハ軸ノ中心線ニ平行ナル方向ノ抗張力ガ毎平方粍四八瓩未滿ノモノニ付テハ六粍以下、毎平方粍四八瓩以上五三瓩未滿ノモノニ付テハ一〇粍以下、毎平方粍五三瓩以上ノモノニ付テハ一六粍以下ト爲スベシ

鍛造ノ割合ニ關シ前條ノ規定ニ依リタル鍛鋼材ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル試驗ノ外管海官廳ノ適當ト認ムル試驗ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

第二項ノ「クランク」軸ノ「クランク」部ニシテ鍛造ノ方法其ノ他ノ事由ニ因リ同項ノ規定ニ依リ難キモノハ第一項ノ試驗ノ外管海官廳ノ適當ト認ムル試驗ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

第二十四條　前條ノ抗張試驗ニ於テ試驗片ガ標點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シタルトキハ再試驗ヲ行フコトヲ得

前條ノ材料試驗ニ合格セザルトキハ管海官廳ニ於テ試驗片ノ成績ガ材質ヲ適當ニ表明セザルモノト認メタル場合ニ限リ當該試驗ニ對シ更ニ二箇ノ試驗片ヲ採取シテ再試驗ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試驗ヲ行ヒタル場合ニ於テ試驗片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ之ニ依リ試驗ヲ行ヒタル鍛鋼材ハ不合格トス

第二十五條　第二十三條ノ材料試驗ガ不合格トナリタルトキハ更ニ鍛鋼材ニ熱處理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ熱處理ヲ爲シタル場合ニ於テハ新ニ抗張試驗及屈曲試驗ノ全部ヲ行フモノトス

第四節　鑄鋼材

第二十六條　機關ノ重要部分ニ用ウル鑄鋼材ハ平爐、轉爐、電氣爐又ハ坩場爐ニ依リ鑄造シ其ノ品質均一ニシテ有害ナル疵、鑄巢其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

前項ノ鑄鋼材ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

鑄鋼材ノ疵等ニシテ强力ニ對スル影響輕微ナリト認ムルモノニ付テハ管海官廳ハ鑄掛、電氣熔接又ハ他ノ適當ナル方法ニ依リ之ヲ補修セシムルコトヲ得

前項ノ補修ヲ爲シタル場合ニ於テ管海官廳必要アリト認ムルトキハ補修後更ニ該鑄鋼材ニ適當ナル熱處理ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條　機關ノ重要部分ニ用ウル鑄鋼材ハ其ノ試驗片ガ左ノ第一號及第二號ノ試驗ニ合格シ且該鑄鋼材ガ左ノ第三號及第四號ノ試驗ニ合格スルコトヲ要ス但シ强力ヲ重要トセザル部分ニ用ウル鑄鋼材ニ付テハ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ第一號乃至第四號ノ試驗ノ一部又ハ全部ヲ省略スルコトヲ得

一　抗張試驗　抗張力ハ毎平方粍四一瓩以上五五瓩以下ニシテ標點間伸長百分率ハ二〇以上ナルコト

二　屈曲試驗　常温ノ儘二五粍以下ノ內側半徑ヲ以テ一二〇度以上屈

曲スルモ裂疵ヲ生セザルコト

三　落下試驗　鑄鋼材ヲ約三米ノ高サヨリ硬質ノ地面ニ落下シ裂疵其ノ他ノ缺點ヲ生セザルコト

四　鎚打試驗　前號ノ試驗執行後鑄鋼材ヲ吊シ其ノ重量ニ應ジ三瓲乃至七瓲ノ鎚ヲ以テ其ノ表面ヲ打ツモ有害ナル裂疵、鑄巢、偏肉其ノ他ノ缺點ヲ認メザルコト

形狀特ニ複雜又ハ長大ニシテ落下試驗ヲ執行スルトキハ變形ノ虞アリト認ムルモノニ付テハ該鑄鋼材ノ成ルベク隔リタル兩端ヨリ採取シタル各二箇ノ試驗片ガ前項第一號及第二號ノ試驗ニ合格スルトキハ落下試驗ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ト雖モ鎚打試驗ハ之ヲ省略スルコトヲ得ズ

第二十八條　前條ノ抗張試驗ニ於テ試驗片ガ標點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シタルトキハ再試驗ヲ行フコトヲ得

抗張試驗又ハ屈曲試驗ニ合格セザルトキハ管海官廳ニ於テ試驗片ノ成績ガ材質ヲ適當ニ表明セザルモノト認メタル場合ニ限リ更ニ之ト同數ノ試驗片ヲ採取シ再試驗ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試驗ヲ行ヒタル場合ニ於テ試驗片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ其ノ試驗片ニ依リ代表セラルル鑄鋼材ハ之ヲ不合格トス

鑄鋼材ニハ再試驗用試驗片採取前更ニ熱處理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ熱處理ヲ爲シタル場合ニ於テハ既ニ合格シタル試驗ニ付テモ更ニ試驗ヲ行フコトヲ要ス

第五節　管

第二十九條　機關ノ重要部分ニ用ウル鋼管ハ良質ノ平爐鋼又ハ電爐鋼ヲ用ヰ常溫引拔法又ハ高溫仕上法ニ依リ無接合ニ製造シ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ鍛接合管又ハ鋲接合管ナルモ妨ナシ

水管汽罐ノ水管ニ用ウル鋼管ニシテ外徑四〇粍未滿ノモノ又ハ汽罐ノ給水管ニ用ウル鋼管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ常溫引拔法ニ依リ製造シタルモノナルコトヲ要ス但シ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ高溫仕上法ニ依リ製造シタルモノナルモ妨ナシ

常溫引拔無接合鋼管及鍛接合鋼管ハ製造後之ニ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

第三十條　機關ノ重要部分ニ用ウル銅管ハ常溫引拔法ニ依リ無接合ニ製造シ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス但シ每平方粍五瓲以上ノ壓力ヲ受ケザルモノハ鑞附管ナルモ妨ナシ

每平方粍一二・五瓲以上ノ壓力ヲ受クル外徑一三五粍以上ノ汽管ニハ銅管ヲ用ウルコトヲ得ズ

第六節　雜則

第三十一條　管、特殊鋼材、黃銅材、可鍛鑄鐵材又ハ鑄鐵材ニ付テハ管海官廳ニ於テ特ニ必要アリト認ムル場合ニ限リ其ノ指示スル所ニ依リ材料試驗ヲ行フ

第三十二條　乙種機關又ハ丙種機關ニ用ウル材料ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ材料試驗ヲ省略スルコトヲ得但シ軸ノ一部ニ用ウル鑄鋼材ノ材料試驗及制限汽壓每平方粍一〇瓲ヲ超ユル汽罐若ハ高溫ノ受壓槽又ハ制限壓力每平方粍一四瓲ヲ超ユル其ノ他ノ受壓槽ニ用ウル銅板ノ屈

曲試驗ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十三條　管海官廳ハ材料規格ニ適合セザル材料ト雖モ其ノ使用ノ方法若ハ箇所ヲ限リ又ハ其ノ他ノ條件ヲ附シテ之ヲ使用セシムルコトヲ得

第三章　蒸汽機關ヲ備フル船舶ノ機關

第一節　汽機

第三十四條　汽機ハ容易ニ反轉セシメ且船舶ニ充分ナル後退力ヲ有セシメ得ルモノナルコトヲ要ス

第三十五條　軸ノ寸法ハ汽機及軸ノ種類ニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一　往復動汽機ニ用ウル鍛鋼製ノ「クランク」軸、中間軸又ハ推力軸ノ徑

$$d = K\sqrt[3]{APD^2S^6}$$

dハ軸ノ徑(粍ニテ)

D^2ハ一推進軸系ニ於ケル低壓汽筒ノ數又ハ單式汽機ノ汽筒ノ數一箇ナルトキハ其ノ徑(糎ニテ)ノ二乘、二箇ナルトキハ各汽筒ノ徑(糎ニテ)ノ二乘ノ和

Pハ復水器ヲ備ヘザルトキハ汽罐ノ制限汽壓(每平方糎瓲ニテ)、復水器ヲ備フルトキハ汽罐ノ制限汽壓(每平方糎瓲ニテ)ニ一ヲ加ヘタルモノ

Sハ行長(糎ニテ)

Aハ「クランク」軸ノ場合ニ在リテハ一、中間軸又ハ推力軸ノ場合ニ在リテハ「クランク」軸ノ每分計畫回轉數ト中間軸又ハ推力軸ノ每分計畫回轉數トノ比

eハ「クランク」軸ノ場合ニ在リテハ一、中間軸又ハ推力軸ノ場合ニシテ「クランク」軸トノ間ニ動力傳導裝置若ハ變速裝置アルトキハ其總傳導率、動力傳導裝置若ハ變速裝置ナキトキハ一

Kハ定數ニシテ左表ニ依ル

往復動汽機ノ種類	「クランク」ノ數	「クランク」軸又ハ推力軸	中間軸	
			甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
單式汽機	一	二(「クランク」角九〇度ノモノ)	一・四九	一・四二
		二(「クランク」角一八〇度ノモノ)	一・三八	一・三二
	二(「クランク」角九〇度ノモノ)	一・五五	一・四七	一・四一
		二(「クランク」角一八〇度ノモノ)	一・〇七	一・〇二
二聯成汽機	二(「クランク」角九〇度ノモノ)	一・二〇	一・一四	一・〇八
		二(「クランク」角一八〇度ノモノ)	一・〇三	〇・九八
	三又ハ四	一・〇三	〇・九八	〇・九三
複二聯成汽機	四(「クランク」角一八〇度ノモノヲ九〇度ニ置キタルモノ)	〇・九四	〇・八九	〇・八五
三聯成汽機	三又ハ四	〇・八八	〇・八四	〇・八〇
廣汽「タービン」蒸氣壓縮機附三聯成汽機	三又ハ四	〇・九〇	〇・八六	〇・八二

四聯成汽機	四	○・八六	○・八二	○・八二	○・七八

二　鋼製「クランク」腕ノ厚サ及幅

組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ナルトキ　$t=0.625l$　$w=0.438l$

一体型「クランク」軸ナルトキ　$b^2=0.417d^3$

t　ハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ(粍ニテ)

w　ハ組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ニ於ケル腕ノ孔ノ周圍ノ半徑方向ノ厚サ(粍ニテ)

b　ハ一体型「クランク」軸ノ腕ノ幅(粍ニテ)

d　ハ前號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(粍ニテ)

三　「タービン」汽機ノ鍛鋼製ノ中間軸又ハ推力軸ノ徑

$$d=K\sqrt[3]{\frac{T}{R}}$$

d　ハ軸ノ徑(粍ニテ)

T　ハ計畫軸馬力

R　ハ軸ノ計畫毎分回轉數

K　ハ定數ニシテ左表ニ依ル

軸ノ種類	中間軸	推力軸
	甲種機關又ハ乙種機關 / 丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關 / 丙種機關
K	一〇〇 / 九五	一〇五 / 一〇〇

四　往復動汽機ト其ノ廢汽ニ依リ動作スル「タービン」汽機トヲ同一推進軸系ニ聯動スル汽機ノ鍛鋼製ノ中間軸又ハ推力軸ノ徑

$$d=K\sqrt[3]{975{,}000\times\frac{T}{R}+0.73\times d_e^3\times\frac{r}{R}}$$

d　ハ軸ノ徑(粍ニテ)

T　ハ「タービン」汽機ノ計畫軸馬力

R　ハ當該推進軸系ノ計畫毎分回轉數

d_e　ハ第一號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(粍ニテ)

r　ハ往復動汽機ノ計畫毎分回轉數

K　ハ定數ニシテ左表ニ依ル

軸ノ種類	中間軸	推力軸
	甲種機關又ハ乙種機關 / 丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關 / 丙種機關
K	一・〇〇 / 〇・九五	一・〇五 / 一・〇〇

五　鍛鋼製螺旋軸ノ徑

$$d_S=d+\frac{P}{C}$$

d_S　ハ螺旋軸ノ徑(粍ニテ)

d　ハ汽機ノ種類ニ應ジ第一號、第三號、前號又ハ第二項ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(粍ニテ)

P　ハ螺旋推進器ノ徑(粍ニテ)

C　ハ定數ニシテ左表ニ依ル

第一種螺旋軸ナルトキ	一四四
第二種螺旋軸ナルトキ	一〇〇

「クランク」栓ノ徑ハ前項第一號ノ算式ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

回轉力ノ變動ヲ少カラシムル特殊ノ裝置ヲ備フル推進軸系ノ推力軸又ハ中間軸ニ付テハ第一項第一號ノKノ數値ハ之ヲ管海官廳ノ適當ト認ムルモノト爲スコトヲ得

螺旋軸ハ前部軸鐓ノ附近ニ於テハ其ノ徑ガ汽機ノ種類ニ應ジ第一項第一號、第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ一・〇五倍トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

推力軸ハ推力受臺ノ前部又ハ後部ニ於テハ其ノ徑ガ汽機ノ種類ニ應ジ第一項第一號、第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

第三十六條　軸鐓ヲ連結スル螺釘ノ軸鐓連結面ニ於ケル徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d=0.75\sqrt{\frac{D^3}{Nd_1}}$$

d　ハ螺釘ノ徑(粍ニテ)

N　ハ螺釘ノ數

d_1　ハ螺釘心圈ノ徑(粍ニテ)

D　ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(粍ニテ)

前項ノ螺釘ガ中間軸ト回轉數ヲ異ニスル往復動汽機ノ「クランク」軸ニ用ウルモノナルトキハ前項ノ算式中Dハ前條第一項第一號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(粍ニテ)ニ〇・九五ヲ乘ジタルモノトス

螺釘心圈ニ於ケル軸鐓ノ厚サハ第一項又ハ前項ノ規定ニ依リ算定シタル螺釘ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

螺旋軸ノ螺釘心圈ニ於ケル軸鐓ノ厚サハ前項ノ規定ニ依ルノ外汽機ノ種類ニ應ジ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ〇・二五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

軸鐓根元ニハ當該軸ノ徑ノ〇・一二五倍ヨリ小ナラザル半徑ノ丸味ヲ附スベシ

軸鐓ガ組成型ナルトキハ軸竝ニ軸鐓ヲ後退力ニ堪フル樣適當ナル構造ト爲スベシ

第三十七條　船尾管後端ノ軸受部ノ長サハ第三十五條第一項第五號ノ算式ニ依リ算定シタル軸ノ徑ノ四倍未滿ト爲スコトヲ得ズ

螺旋軸ハ成ルベク其ノ軸身ニ海水ノ接觸セザル樣之ヲ適當ニ包被スベシ

螺旋軸ノ被金ノ厚サハ船尾管及軸支肘ノ「アッシュ」ニ當ル部分ニ付テハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$T=0.0335t+7.5$$

T　ハ被金ノ厚サ(粍ニテ)

d_S　ハ第三十五條第一項第五號ノ算式ニ依リ算定シタル螺旋軸ノ徑(粍ニテ)

前項以外ノ部分ノ被金ノ厚サハ前項ニ依リ算定シタルモノノ四分ノ三ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第三十八條　甲種機關又ハ乙種機關ニ在リテハ往復動汽機ニハ各汽筒ノ兩端及汽筒間ノ蒸汽通路ニ、「タービン」汽機ニハ適當ノ個所ニ有效ナル逃出弁ヲ備ヘ該部ニ於ケル最大汽壓ノ一・四倍以下ノ壓力ニ於テ逃汽スル樣之ヲ調整スベシ

第三十九條　汽筒ニハ適當ナル排水裝置ヲ備フベシ

第四十條　多汽筒式「タービン」汽機一箇ノミヲ裝備シ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ該「タービン」汽機ノ汽筒中其ノ一箇ニ對シ蒸汽ヲ遮斷スルモ推進器ヲ回轉シ得ル樣適當ニ裝置スベシ

前項ノ「タービン」汽機ニ在リテハ少クモ二箇ノ汽筒ニ後退翼車ヲ備フベシ

第四十一條　汽筒又ハ之ニ附屬スル弁匣等ハ之ヲ製造シ倘仕上ヲ爲シタルトキ夫々左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ但シ內外全面ヲ倘仕上ゲタル內筒ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

一　單式汽機ノ汽筒　汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎六瓩以上ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎六瓩ヲ加ヘタル壓力

汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎六瓩未滿ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力

二　二聯成汽機

高壓汽筒　單式汽機ノ汽筒ニ同ジ

低壓汽筒　汽罐ノ制限汽壓ニ〇・五〇ヲ乘ジタル壓力

三　三聯成汽機

高壓汽筒　汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎六瓩ヲ加ヘタル壓力

中壓汽筒　汽罐ノ制限汽壓ニ〇・七五ヲ乘ジタル壓力

低壓汽筒　汽罐ノ制限汽壓ニ〇・三〇ヲ乘ジタル壓力

四　四聯成汽機

高壓汽筒　汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎六瓩ヲ加ヘタル壓力

第一中壓汽筒　汽罐ノ制限汽壓

第二中壓汽筒　汽罐ノ制限汽壓ニ〇・五〇ヲ乘ジタル壓力

低壓汽筒　汽罐ノ制限汽壓ニ〇・二五ヲ乘ジタル壓力

五　「タービン」汽機ノ汽筒　各膨脹階段ノ初壓力ノ一・五〇倍及每平方糎二瓩ノ中大ナル壓力

六　高壓「タービン」汽機ノ配汽室　汽罐ノ制限汽壓ノ一・五〇倍ノ壓力但シ適當ナル逃出弁ヲ備フルモノハ配汽室內蒸汽壓力ノ一・五〇倍ノ壓力

七　中壓又ハ低壓「タービン」汽機ノ配汽室　該室內蒸汽壓力ノ一・五〇倍ノ壓力

八　收汽室、收汽管、汽包室、汽筒蓋、弁匣及弁匣蓋　其ノ附屬スル汽筒ニ對スル壓力ト同一ノ壓力

第四十二條　復水器管ノ管板間ノ長サガ管ノ外徑ノ一二〇倍以上ナルトキハ一二〇倍每ニ一箇ノ斜合ヲ以テ支板ヲ設クベシ

第四十三條　復水器ノ器胴、通水室又ハ蓋ハ之ヲ製造シタルトキ每平方糎一・五瓩ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

復水器管ヲ取附ケタルトキハ二米以上ノ水高壓力又ハ之ニ相當スル壓力ヲ以テ漏否試驗ヲ執行スベシ

第四十四條　主トシテ張力ヲ受クル部分ハ鍛合又ハ別ニ定ムル所ニ依ル

ノ外熔接スルコトヲ得ズ但シ鍛合部又ハ熔接部ニ覆板ヲ附シ適當ナル鋲接合ト爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

小ナル汽兜ノ胴板又ハ直立汽罐ノ叉管ノ縱接合ハ前項ノ規定ニ拘ラズ之ヲ鍛合又ハ熔接スルコトヲ得

第四十五條　工事ノ爲加熱シタル鋼板又ハ鋼製支柱ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

二枚以上ノ鋼板ヲ鋲接合スル場合ニ於テハ之ヲ鋲締スル以前ニ於テモ此等ノ鋼板カ充分密著スル狀態ト爲シ且鋲孔ハ成ルベク該鋼板ヲ假接合シタル後鑽孔スベシ

鋼板ノ鋲孔ハ鑽孔シタルモノト爲スベシ

第四十六條　胴板ニ設クル隋圓形ノ孔ハ短徑ヲ罐ノ長サニ平行セシムベシ

胴板ニ設クル人孔又ハ他ノ孔ノ徑カ胴板ノ厚サノ二・五倍ニ七〇粍ヲ加ヘタルモノヨリ大ナルトキハ適當ナル補强環ヲ附シ該部分ノ强率ヲ胴板ノ縱接合ニ於ケル强率ヨリ小ナラザルモノト爲スベシ

長徑一五〇粍ヲ超ユル人孔其ノ他ノ孔ヲ鏡板ニ設クルトキハ相當ノ强力ヲ有スル緣環又ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナラザル深サヲ有スル曲緣ニ依リテ鏡板ヲ補强スベシ

$$h = \frac{t \times W}{b - \frac{1}{2}d}$$

hハ孔ノ短徑部ニ於テ板ノ外面ヨリ測リタル曲緣ノ深サ（粍ニテ）

tハ板ノ厚サ（粍ニテ）

Wハ孔ノ短徑（粍ニテ）

第四十七條　人孔其ノ他ノ孔ニ用ウル押壓製ノ蓋ハ適當ナル熱處理ヲ爲シタルモノナルコトヲ要ス

孔蓋ト孔トノ間隙ハ孔ノ周ノ各點ニ於テ一・五粍ヲ超エルコトヲ得ズ

第四十八條　胴板ノ縱接合ニ用ウル覆板ハ胴板ト同質ノ板ヲ用キ其ノ厚サハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一　各列ノ鋲數ガ同一ナル場合

外覆板　$t_o = \frac{5}{8} \times T$

內覆板　$t = \frac{5}{8} \times T + 3$

二　各列ノ鋲數カ其ノ他ノ列ノ鋲數ノ半數ナル場合

外覆板　$t_o = \frac{5}{8} \times \frac{T(p-d)}{(p-2d)}$

內覆板　$t = \frac{5}{8} \times \frac{T(p-d)}{(P-2d)} + 3$

Tハ接合スベキ胴板ノ厚サ（粍ニテ）

t_oハ外覆板ノ厚サ（粍ニテ）

tハ內覆板ノ厚サ（粍ニテ）

pハ外列ニ於ケル鋲ノ心距（粍ニテ）

dハ鋲孔ノ徑（粍ニテ）

第四十九條　端列ニ於ケル鋲孔ノ中心ヨリ板端迄ノ距離ハ其ノ孔徑ノ一・五倍以上ナルコトヲ要ス

二列以上ノ鋲接合ニ於ケル鋲列間ノ距離ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一　各列ノ鋲數ガ同一ナル場合

千鳥形鋲接合ナルトキ　$V_1=0.33p+0.67d$

竝列鋲接合ナルトキ　$V_1=2d$

二　外列ノ鋲數ガ其ノ他ノ列ノ鋲數ノ半數ナル場合

千鳥形鋲接合ナルトキ　$\begin{cases} V=0.2p+1.15d \\ V_1=0.165p+0.67d \end{cases}$

竝列鋲接合ナルトキ　$\left.\begin{cases} V=0.33p+0.67d \\ V=2d \\ V_1=2d \end{cases}\right\}$ノ中其ノ大ナルモノ

V_1ハ鋲數同一ナル各鋲列ノ距離(粍ニテ)

Vハ外列其ノ次ノ列トノ距離(粍ニテ)

pハ外列ニ於ケル鋲ノ心距(粍ニテ)

dハ鋲孔ノ徑(粍ニテ)

第五十條　胴板ノ縱接合ニ於ケル鋲ノ心距ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ大ナルコトヲ得ズ

$$p=C\times T+40$$

pハ鋲ノ心距(粍ニテ)

Tハ胴板ノ厚サ(粍ニテ)

Cハ定數ニシテ左表ニ依ル

縱接合ガ兩覆板ヲ有シ胴板ノ厚サ四五粍未滿ナルトキ	五二・一
縱接合ガ兩覆板ヲ有シ胴板ノ厚サ四五粍以上ナルトキ	五〇・〇
縱接合ガ累接三列鋲ナルトキ	五〇・五
縱接合ガ累接二列鋲ナルトキ	四九・三
縱接合ガ累接一列鋲ナルトキ	四三・三

第五十一條　胴板ト鏡板トノ接合ハ接合強率ヲ〇・四二以上ト爲シ胴板ノ厚サ一六粍ヲ超ユルトキハ接合鋲列數ハ二以上ト爲スベシ

筒形汽罐ノ胴板相互ノ周圍接合ハ片面型汽罐ニ在リテハ接合强率ヲ〇・六〇以上ト爲シ接合鋲列數ヲ胴板ノ厚サ一六粍ヲ超ユルトキハ二以上、三五粍ヲ超ユルトキハ三以上ト爲シ兩面型汽罐ニ在リテハ接合强率ヲ〇・六二以上ト爲シ接合鋲列數ヲ胴板ノ厚サ一三粍ヲ超ユルトキハ二以上、三〇粍ヲ超ユルトキハ三以上ト爲スベシ

直立汽罐ノ胴板相互ノ周圍接合ハ接合强率ヲ〇・四二以上ト爲シ其ノ接合ガ全周ニ亙ラザルトキ又ハ胴板ノ厚サ一六粍ヲ超ユルトキハ接合鋲列數ヲ二以上ト爲スベシ

第五十二條　胴板ノ强力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{(T-a)\times S\times C\times J}{D}$$

Pハ制限汽壓(毎平方糎砥ニテ)

Tハ胴板ノ厚サ(粍ニテ)

Sハ胴板ノ最小抗張力(毎平方粍砥ニテ)

Dハ胴ノ最大内徑(粍ニテ)

Jハ縱接合ノ强率ニシテ第二項ニ依リ定メタルモノ

aハ胴板ノ厚サ四五粍未滿ナルトキハ一・五、四五粍以上ナルトキハ零

Cハ定數ニシテ左表ニ依ル

pナル心距ニ於ケル鋲數	累接合ナルトキ	兩覆板衝接合ナルトキ
一	一・三一	一・七五
二	二・六二	三・五〇
三	三・四七	四・六三
四	四・一四	五・五二
五	—	六・〇〇

Tハ胴板ノ厚サ(粍ニテ)

Sハ胴板ノ最小抗張力(毎平方粍砥ニテ)

Dハ胴ノ最大内徑(粍ニテ)

Jハ縱接合ノ强率ニシテ第二項ニ依リ定メタルモノ

aハ胴板ノ厚サ四五粍未滿ナルトキハ一・五、四五粍以上ナルトキハ零

Cハ定數ニシテ左表ニ依ル

縱接合ガ兩覆板ヲ有シ胴板ノ厚サ四五粍未滿ナルトキ	五二・一
縱接合ガ兩覆板ヲ有シ胴板ノ厚サ四五粍以上ナルトキ	五〇・〇
縱接合ガ累接三列鋲ナルトキ	五〇・五
縱接合ガ累接二列鋲ナルトキ	四九・三
縱接合ガ累接一列鋲ナルトキ	四三・三

縱接合ノ强率ハ左ノ各號ノ强率中最小ノモノトス

一　螺旋支柱又ハ其ノ他ノ支柱ヲ以テ支ヘラレタル部分

$$J_1=\frac{p-d}{p}$$

二　接合ニ於ケル鋲ノ强率

$$J_2=\frac{n\times d^2\times R}{p\times T}$$

三　外列ノ鋲ノ心距ガ其ノ他ノ列ノ鋲ノ心距ノ二倍ナルトキノ鋲及胴板ノ聯合强率

$$J_3=\frac{p-2d}{p}+\frac{J_2}{n}$$

Tハ胴板ノ厚サ(粍ニテ)

pハ外列ニ於ケル鋲ノ心距(粍ニテ)

dハ鋲孔ノ徑(粍ニテ)

nハpナル心距ニ於ケル鋲數

kハ兩覆板ヲ有スル場合ニ於テハ一・二一、其ノ他ノ場合ニ於テハ〇・六四

第四十四條第二項ニ依リ鍛合又ハ熔接シタル胴板ノ强力ニ對スル制限汽壓ハ管海官廳ノ定ムル所ニ依ル

四箇以上ノ螺旋支柱ノ取附孔ガ胴ノ中心線ニ平行又ハ略平行ニ配置セラルルトキハ孔ノ間隔ハ該支柱間ニ於ケル胴板ノ强率ガ縱接合ノ强率ヨリ小ナラザル樣之ヲ定ムベシ

第五十三條　平板ノ强力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中最小ノモノトス

一　螺旋支柱又ハ其ノ他ノ支柱ヲ以テ支ヘラレタル部分

$$P=C_1\times\frac{(T-1)^2\times KW^2}{a^2+t^2}$$

Pハ制限汽壓(毎平方糎砥ニテ)

Tハ板ノ厚サ(粍ニテ)

aハ支柱各列中心線ノ距離(粍ニテ)

bハ各列ニ於ケル支柱心距(粍ニテ)

Wハ座金、條板又ハ二重張板ノ厚サ(粍ニテ)

Kハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ座金、條板又ハ二重張板ヲ取附ケザルトキ又ハ板ニ固著セザル座金ヲ備フル場合ニ於テ其ノ厚サ又ハ徑ガ表ニ掲グル寸法ニ適合セザルトキハ零

厚サハ板ノ厚サノ一・〇〇乃至〇・六六倍徑ハ支柱ノ徑ノ三・五倍以上ノ座金ヲ外面ニ備フルトキ	〇・一五
厚サハ板ノ厚サノ一・〇〇乃至〇・六六倍徑ハ支柱ノ心距ノ〇・六六倍以上ノ座金ヲ鋲ニテ板ニ固著シタルトキ	〇・三五
厚サハ板ノ厚サノ一・〇〇乃至〇・六六倍幅ハ支柱ノ心距ノ〇・六六倍以上ノ條板ヲ鋲ニテ板ニ固著シタルトキ	〇・五五
厚サハ板ノ厚サノ一・〇〇乃至〇・六六倍ナル二重張板ヲ鋲ニテ板ニ固著シタルトキ	〇・八五

C_1ハ定數ニシテ左表ニ依ル

支點ノ種類		
支柱ヲ板ニ捩込ミ其ノ端ヲ鉸締シタルトキ	板ガ火焰ノ接觸ヲ受ケザルモノナルトキ	四二〇〇
	板ガ火焰ノ接觸ヲ受クルモノナルトキ	三七一〇
支柱ヲ板ニ捩込ミ外面ヨリ母螺締ト爲シタルトキ		六三一〇
支柱ヲ板ニ挿込ミ內外ヨリ母螺締ト爲シタルトキ		七〇〇〇
支柱ヲ板ニ挿込ミ外面ニハ座金、條板又ハ二重張板ヲ當テ內外ヨリ母螺締ト爲シタルトキ		六一五〇
管支柱ヲ管板ニ捩込ミ其ノ端ヲ擴張シ緊著シタルトキ		七三六〇
管支柱ヲ管板ニ捩込ミ其ノ端ヲ擴張シ且外面ヨリ母螺締ト爲シタルトキ		六四五〇
管支柱ヲ管板ニ捩込ミ其ノ端ヲ擴張シ緊著シタルトキ		二八〇〇
管支柱ヲ管板ニ捩込ミ其ノ端ヲ擴張シ且外面ヨリ母螺締ト爲シタルトキ		三六〇〇

二　管支柱ヲ以テ支ヘラレタル管板ノ焰管集相互間又ハ焰管集ト胴板トノ間ノ部分

$$P=C_2\times\frac{(T-1)^2+kw^2}{a^2+b^2}$$

Pハ管支柱ノ水平心距(粍ニテ)

Tハ前號ニ同ジ

aハ管支柱ノ水平心距(粍ニテ)

bハ管支柱ノ縱心距(粍ニテ)

wハ二重張板ヲ取附ケタルトキハ其ノ厚サ(粍ニテ)

kハ二重張板ヲ取附ケタルトキハ〇・五五、之ヲ取附ケザルトキハ零

C_2ハ定數ニシテ左表ニ依ル

端列ノ管支柱ノ外端ヲ母螺締ト爲サザルトキ		三八二〇
端列ノ管支柱ノ外端ヲ一箇置ニ母螺締ト爲シタルトキ		四六三〇
端列ノ管支柱ノ外端ヲ總テ母螺締ト爲シタルトキ		五二八〇

三　管支柱ヲ以テ支ヘラレタル管板ノ焰管集ニ於ケル部分

$$P=C_3\times\frac{(T-1)^2}{l^2}$$

Pハ當該部分ニ於ケル四箇ノ管支柱ノ中心點ノ構成スル四邊形ノ四邊ノ平均ノ長サ(粍ニテ)

Tハ第一號ニ同ジ

C_3ハ定數ニシテ左表ニ依ル

管支柱ヲ管板ニ捩込ミ其ノ端ヲ擴張シ緊著シタルトキ	二八〇〇
管支柱ヲ管板ニ捩込ミ其ノ端ヲ擴張シ且外面ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	三六〇〇

前項ノ算式ヲ適用スルニ當リ當該部分ニ於ケル支點ノ種類ガ同一ナラザルトキハ定數C_1、C_2、C_3及Kハ各種類ノ支點ノ數ニ之ニ對スル定數ヲ乘ジタルモノノ和ヲ支點ノ總數ニテ除シタルモノトス

前二項ノ規定ヲ支點ノ配置不規則ナル部分又ハ曲線シタル板ノ曲線ニ近キ部分ニ適用スルニ當リテハ左ノ規定ニ依ル

一　曲線ノ彎曲起點ハ之ヲ支點ト看做シ其ノ彎曲內半徑ガ板ノ厚サノ二・五倍ヨリ大ナルトキハ曲線ノ外面ヨリ板ノ厚サノ三・五倍ノ距離ノ點ヲ彎曲起點ト看做ス

二　步ク毎ニ三支點ヲ通リ內部ニ支點ヲ有セザル最大圓ノ徑ヲdトシ第一項ノ算式中$\frac{2}{d^2}+\frac{2}{D^2}$ノ代リニ$\frac{4}{d^2}$ヲ用ウ

三　曲線ノ彎曲起點ガ支點ナル場合ノ定數C_1ハ板ガ火焰ノ接觸ヲ受ケザルモノナルトキハ八〇六〇、板ガ火焰ノ接觸ヲ受クルモノナルトキハ七〇四〇トス

第五十四條　支柱ヲ板ニ捩込ミ其ノ端ヲ鉸締スル場合ニ於ケル板ノ厚サハ支柱ノ螺糸底ニ於ケル徑ノ二分ノ一ヨリ小ナルコトヲ得ズ

燃燒室ノ頂板及側板ニ於テ後管板又ハ背板ニ最モ近キ支柱列ト後管板又ハ背板ノ曲線ノ彎曲部起點トノ距離ハ第三條本文ノ規定ニ依リ定メタル汽罐ノ制限汽壓ヲ前條第一項第一號ノ算式ニ用ヰ算定シタルaヨリ大ナルコトヲ得ズ

燃燒室ノ頂板ヲ側板ト接合スル爲ノ彎曲部ノ彎曲外半徑ガ第三條本文ノ規定ニ依リ定メタル汽罐ノ制限汽壓ヲ第五十七條ノ算式ニ用ヰ算定シタル支梁ノ心距Dノ二分ノ一ヨリ小ナルトキハ側板ノ內面トノ間ニ最モ近キ支梁ノ中心トノ距離ハDヨリ大ナルコトヲ得ズ又右ノ彎曲外半徑ガD/二分ノ一ヨリ大ナルトキハ支梁ノ中心ヨリ彎曲起點迄測リタル平坦部ノ幅ハD/二分ノ一ヨリ大ナルコトヲ得ズ

第五十五條　焰管集ヲ形成スル焰管ガ水平ナル直立汽罐ノ管板ノ張力ニ對スル制限汽壓ハ第五十三條ノ規定ニ拘ラズ同條ノ算式及左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中最小ノモノトス

$$P=\frac{49.2\times(T-1.5)\times S\times(p-d)}{D\times p}$$

Pハ制限汽壓(每平方糎瓩ニテ)

Tハ管板ノ厚サ(粍ニテ)

Sハ管板ノ抗張力(每平方粍瓩ニテ)

Dハ胴ノ中心線ヨリ管板ノ縱端列ノ管嵌孔ノ中心迄ノ距離ノ二倍(粍ニテ)

pハ管ノ縱心距(粍ニテ)

d ハ管板ニ於ケル管孔ノ徑(粍ニテ)

前項ノ管板ノ縱端列ニ於ケル管ハ少クトモ一箇置ニ管支柱ト爲スベシ

第五十六條　筒形汽罐ノ後管板ノ張力ニ對スル制限汽壓ハ第五十三條ノ規定ニ拘ラズ同條ノ算式及左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中最小ノモノトス

$$P=\frac{2,400(D-d)T}{W\times D}$$

P ハ制限汽壓(毎平方糎瓩ニテ)

T ハ管板ノ厚サ(粍ニテ)

D ハ煙管ノ水平心距(粍ニテ)

d ハ普通煙管ニ對スル管孔ノ徑(粍ニテ)

W ハ燃燒室上部ノ奥行(粍ニテ)

第五十七條　燃燒室ノ頂板ヲ支フル鋼製支梁ノ張力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{C\times d^2\times T\times S}{(L-p)\times D\times L}$$

P ハ制限汽壓(毎平方糎瓩ニテ)

d ハ支梁中央部ノ深サ(粍ニテ)

T ハ支梁ノ厚サ但シ二板合セ支梁ナルトキハ各板ノ厚サノ和(粍ニテ)

L ハ燃燒室上部ノ內側ニ於テ測リタル奥行(粍ニテ)

p ハ支梁ノ支フル支柱ノ心距(粍ニテ)

D ハ支梁ノ心距(粍ニテ)

S ハ支梁ニ用ヰル鋼材ノ最小抗張力(毎平方粍瓩ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

各支梁ノ支フル支柱ノ數 n ガ奇數ナルトキ	$\frac{n}{n+1}\times 25.3$
各支梁ノ支フル支柱ノ數 n ガ偶數ナルトキ	$\frac{n+1}{n+2}\times 25.3$

第五十八條　燃燒室ノ筒形底部ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補强セラレザル部分ノ張力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中小ナルモノトス

$$P=\frac{C\times(T-1)^2}{(L+610)\times D}$$

$$P=\frac{C_1\times(325(T-1)-L)}{D}$$

P ハ制限汽壓(毎平方糎瓩ニテ)

T ハ燃燒室底部ノ鋼板ノ厚サ(粍ニテ)

D ハ燃燒室底部ノ外徑(粍ニテ)

L ハ燃燒室底部ノ奥行ニシテ該部ヲ形成スル鋼板ヲ他ノ鋼板ト鉄接合スル鉄ノ中心線ヨリ測リタルモノ(粍ニテ)

C 及C_1 ハ定數ニシテ左表ニ依ル

縱接合ノ種類	C	C_1
鍛合	一〇七、〇〇〇	三・五二
鉄接合	九六、〇〇〇	三・一六

第五十九條　筒形火爐ノ强力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中小ナルモノトス

$$P=\frac{C\times(T-1)^2}{(L+610)\times D}$$

$$P=\frac{C_1\times(325(T-1)-L)}{D}$$

P、C 及C_1 ハ前條ニ同ジ

T ハ火爐鋼板ノ厚サ(粍ニテ)

D ハ火爐ノ外徑(粍ニテ)

L ハ火爐ノ長サニシテ火爐鋼板ヲ曲緣ト爲シ板、補强環等ト接合スル場合ニ於テハ曲緣ノ彎曲起點ヨリ又火爐鋼板ヲ他ノ鋼板ノ曲緣ト鉄接合スル場合ニ於テハ鉄ノ中心線ヨリ測リタルモノ(粍ニテ)

第六十條　鏃形火爐ノ强力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{C(T-1)}{D}$$

P ハ制限汽壓(毎平方糎瓩ニテ)

T ハ火爐ノ鏃形部ニ於ケル鋼板ノ最小厚サ(粍ニテ)

D ハ火爐ノ鏃形部ニ於ケル最小外徑(粍ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

火爐ノ種類	C
「モリソン」式、「デイトン」式又ハ之ニ類スルモノ	一〇九〇
「リーズ」、「フオージ」、「バルブ」式又ハ之ニ類スルモノ	一一六〇

第六十一條　支柱又ハ其ノ他ニ依リ補强セラレザル半球狀火爐ノ强力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{627(T-1)}{R}$$

P ハ制限汽壓(毎平方糎瓩ニテ)

T ハ火爐鋼板ノ厚サ(粍ニテ)

R ハ火爐ノ球面外半徑(粍ニテ)

第六十二條　截頭圓錐形直立火爐ノ强力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ記號ヲ用ヰ第五十九條ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中小ナルモノトス

D ハ火爐板ト頂板トノ接合鉄ノ中心線ニ於テ測リタル外徑ト火爐底部ノ補强部ニ接合スル箇所ニ於テ測リタル外徑トノ平均(粍ニテ)

L ハ火爐板ト頂板トノ接合鉄ノ中心線ヨリ火爐底部ノ補强部ニ接合スル箇所迄ノ距離(粍ニテ)

火爐底部ト胴板トヲ螺旋支柱列ニ依リ連結シタル場合ニ於テ螺旋支柱ノ心距ガ其ノ端ヲ鉄締シタルモノニ在リテハ火爐板ノ厚サノ一四倍ヲ、母螺締ト爲シタルモノニ在リテハ一六倍ヲ超ユルコトナク且螺旋支柱ノ螺糸上ノ徑ガ火爐板ノ厚サノ二・二五倍以上ナルトキハ前項ノL ハ螺旋支柱列ノ中心迄測ルコトヲ得

第六十三條　直立汽罐ノ火爐底部ト胴板トヲ接合スル「オジー」環ノ强力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{10,300(T-1)^2}{D\times(D-d)}$$

P　ハ制限汽壓(毎平方糎瓩ニテ)
T　ハ「オジー」環ノ厚サ(粍ニテ)
D　ハ胴ノ内徑(粍ニテ)
d　ハ火爐底部ノ外徑ニシテ「オジー」環トノ接合部ニ於テ測リタルモノ(粍ニテ)

第六十四條　火爐板ノ厚サハ二一粍ヲ超ユルコトヲ得ズ

第六十五條　胴ノ内徑ヨリ大ナラザル内半徑ヲ有シ外方ニ突出スル球面狀鏡板ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補强セラレザルモノノ强力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{21.6\times S\times(T-1)}{R}$$

P　ハ制限汽壓(毎平方糎瓩ニテ)
T　ハ鏡板ノ厚サ(粍ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ厚サヨリ三粍ヲ減ジタルモノ
R　ハ鏡板ノ球面内半徑(粍ニテ)
S　ハ鏡板ノ抗張力(毎平方粍瓩ニテ)

前項ノ鏡板ニ在リテハ其ノ周圍ノ曲緣部ニ於ケル曲緣ノ彎曲内半徑ハ鏡板ノ厚サノ四倍未滿ナルコトヲ得ズ

第六十六條　二枚以上ノ板ヨリ成リ外方ニ突出スル半球狀鏡板ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補强セラレザルモノノ强力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{C\times(T-1.5)\times S\times J}{R}$$

P　ハ制限汽壓(毎平方糎瓩ニテ)
T　ハ鏡板ノ厚サ(粍ニテ)
S　ハ鏡板ノ最小抗張力(毎平方粍瓩ニテ)
J　ハ第五十二條第二項ノ規定ヲ準用シ算定シタル鏡板相互ノ接合强率
R　ハ鏡板ノ球面内半徑(粍ニテ)
C　ハ定數ニシテ左表ニ依ル

鏡板相互ノ接合ガ	
一列鋲ナルトキ	四三・三
鏡板相互ノ接合ガ二列鋲ナルトキ	四九・三
鏡板相互ノ接合ガ三列鋲ナルトキ	五〇・三

第六十七條　螺旋支柱又ハ縱支柱ノ螺糸底又ハ其ノ他ノ部分ニ於ケル最小ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d=C\sqrt{PA}+3$$

d　ハ螺旋支柱又ハ縱支柱ノ最小ノ徑(粍ニテ)
P　ハ制限汽壓(毎平方糎瓩ニテ)
A　ハ平板中該支柱ノ支持スベキ部分ノ實面積(平方糎ニテ)

C　ハ定數ニシテ左表ニ依ル

螺旋支柱ナルトキ	○・四四
縱支柱ナルトキ	○・四○

前項ノ算式ヲ斜向支柱ニ適用スル場合ニ於テハ算式中ノCノ代リニ左ノC′ヲ用ウベシ

$$C'=C\times\sqrt{\frac{L}{H}}$$

C　ハ前項ニ同ジ
L　ハ斜向支柱ノ長サ(粍ニテ)
H　ハ斜向支柱ノ一端ニ於ケル平板ヨリ他端迄ノ距離(粍ニテ)

燃燒室ノ内側ニ於ケル螺旋支柱ノ母螺ノ高サハ該螺旋支柱ノ螺絲部ノ徑ノ二分ノ一ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第六十八條　管板ヲ支持スベキ管支柱ノ强力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{577.2a}{A}$$

P　ハ制限汽壓(毎平方糎瓩ニテ)
a　ハ管支柱ノ最小横截實面積(平方糎ニテ)
A　ハ管板中該管支柱ノ支持スベキ部分ノ實面積(平方糎ニテ)

管支柱ノ厚サハ管支柱ガ焰管巢ノ外周列ニ在ルモノナルトキハ六・○粍以上、其ノ他ノモノナルトキハ四・五粍以上ナルコトヲ要ス

第六十九條　前二條ノ支柱ノ螺糸ハ成ルベク左表ニ依ルベシ

支柱ノ種類	螺距(粍)
螺旋支柱	二・○以上　三・○以下
縱支柱	四・○以上　六・五以下
管支柱	二・五以上　三・五以下

第七十條　焰管ノ厚サハ成ルベク左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナラザルモノト爲スベシ

$$T=\frac{PD}{700}+2$$

T　ハ焰管ノ厚サ(粍ニテ)
D　ハ焰管ノ外徑(粍ニテ)
P　ハ制限汽壓(毎平方糎瓩ニテ)

第三節　水管汽罐及過熱器

第七十一條　水管汽罐ノ構造ハ本節ニ特ニ規定シタルモノノ外前節ノ規定ニ依ルベシ

第七十二條　水管汽罐ノ汽胴又ハ水胴ノ縱接合ハ胴ノ縱接合部ニ於ケル内徑ガ該接合部ニ於ケル胴板ノ厚サノ一〇〇倍未滿ナルトキハ累接ト爲スコトナク該部ノ横截内面ヲ圓形ナラシムベシ

第七十三條　水管汽罐ノ汽胴又ハ水胴ノ一部ヲ成ス管板ノ强力ニ對スル

制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{47.2\times S\times(T-3)}{D}\times\frac{p-d}{p}$$

Pハ制限汽壓(毎平方糎瓩ニテ)
Dハ胴ノ内徑(粍ニテ)
Tハ管板ノ厚サ(粍ニテ)
Sハ管板ノ抗張力(毎平方粍瓩ニテ)
pハ胴ノ中心線ニ平行ニ測リタル管孔ノ心距(粍ニテ)
dハ管孔ノ徑(粍ニテ)

管板ノ厚サハ胴板又ハ鏡板ト接合スル部分ニ於テハ第五十二條ノ規定ニ依ル胴板ノ强力ニ相當スル厚サ迄之ヲ減ズルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ厚サノ急激ナル變化ヲ避ケ且其ノ部分ヲ機械仕上ト爲スベシ

第七十四條　水管汽罐ノ胴、管寄等ニ設クル管孔ハ管ヲ緊密ニ取附ケ得ルモノト爲スベシ

管孔ヲ其ノ中心線カ管板ニ垂直ナル樣穿ツトキハ孔ノ管座ノ深サヲ一〇粍以上ト爲シ斜ニ穿ツトキハ孔ノ管座ノ直圓筒部ノ深サヲ一三粍以上ト爲スベシ

第七十五條　水管汽罐ノ水管ノ强力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{1{,}400(T-a)}{D}-28$$

Pハ制限汽壓(毎平方糎瓩ニテ)
Tハ水管ノ厚サ(粍ニテ)
Dハ水管ノ外徑(粍ニテ)
aハ定數ニシテ左表ニ依ル

火焰若ハ高熱瓦斯ノ通路ニ直面スル管	二・〇
巢端列又ハ其ノ次ノ列ノ管ナルトキ	一・五
其ノ他ノ管ナルトキ	一・〇

水管ノ厚サハ八粍ヲ超ユルコトヲ得ズ

水管ハ總テ擴脹其ノ他ノ適當ナル方法ニ依リ之ヲ管板ニ緊密ニ取附ケ管端ハ管座ヨリ六粍以上突出セシムベシ

水管ハ脫出セザル樣其ノ兩端ヲ固定スベシ單ニ其ノ端部ヲ喇叭形ニ擴張シテ固定シタル場合ニ於テハ端部ノ外徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$D=1.03d+1.5$$

Dハ水管端部ノ外徑(粍ニテ)
dハ水管ノ外徑(粍ニテ)

第七十六條　管寄其ノ他之ニ類似ノモノノ管ヲ取附ケザル平面部ノ强力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=C\times\left(\frac{T-2.5}{B}\right)^2$$

Pハ制限汽壓(毎平方糎瓩ニテ)
Tハ平面部ノ厚サ(粍ニテ)
Bハ内側支點間ニ於テ測リタル平面部ノ幅(粍ニテ)

Cハ定數ニシテ左表ニ依ル

鍛鋼ナルトキ	五八三〇
鑄鋼ナルトキ	四六〇〇

管寄ノ管ヲ取附クル平面部ノ厚サハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$T=0.47\sqrt{d}+6.5$$

Tハ平面部ノ厚サ(粍ニテ)
dハ管孔ノ徑(粍ニテ)

過熱器ノ管寄其ノ他火焰ノ放射熱ニ暴露シ又ハ高熱瓦斯ノ衝撃ヲ受ケ且使用中内部ニ蒸汽ノミヲ有スル管寄ノ厚サハ前二項ニ依リ算定シタルモノノ一・一二五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

管寄ノ覗孔部ハ蓋ヲ有效ニ取附ケ得ル樣機械仕上ト爲スベシ此ノ場合該部分ノ厚サハ第一項ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ二・五粍ヲ減ズルコトヲ得但シ八粍未滿ト爲スコトヲ得ズ

覗孔ノ蓋ハ堅牢ナル構造ト爲シ取外及取附作業ヲ繰返スモ安全ヲ害スル虞ナキコトヲ要シ蓋ヲ螺釘ニ依リ取附クル構造ト爲ストキハ該取附螺釘ノ折損シタル場合ニ於テモ危險ナキモノト爲スベシ

第四節　汽罐附屬品

第七十七條　汽罐ニ接續スル管ニハ罐板ト接合スル部分ニ於テ接近シ易キ個所ニ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

第七十八條　汽罐ニハ徑四〇粍以上ノ燒鈑式安全弁二箇以上ヲ備ヘ汽罐

ノ制限汽壓毎平方糎二〇瓩以下ナルトキハ其ノ合計面積ヲ左ノ算式ニ依リ算定シタル面積ヨリ小ナラザルモノト爲スベシ但シ安全弁ハ左ノ算式ニ依リ算定シタル面積ガ一九・五平方糎未滿ナルトキハ徑五〇粍以上ノモノ一箇、一二・五平方糎未滿ナルトキハ徑四〇粍以上ノモノ一箇ト爲スコトヲ得

$$A=K\times\frac{H}{P+1}$$

Aハ安全弁ノ合計面積(平方糎ニテ)
Hハ汽罐ノ受熱面積(平方米ニテ)ニシテ一面ガ火焰又ハ燃燒瓦斯ニ暴露シ反對ノ面ガ水ニ接觸スル部分ノ火焰又ハ燃燒瓦斯ニ暴露スル面ノ面積トス但シ筒形汽罐又ハ直立汽罐ニ在リテハ前管板ハ之ヲ除外シ且焰管ハ外徑ヲ基トシテ算定シ水管汽罐ニ在リテハ汽胴及水胴ハ之ヲ除外スルモノトス
Pハ汽罐ノ制限汽壓(毎平方糎瓩ニテ)
Kハ定數ニシテ左表ニ依ル

筒形汽罐又ハ直立汽罐	機關室密閉式强壓通風ヲ使用セズシテ石炭ノミヲ手焚スルモノ	六・一
	其ノ他ノモノ	七・三
水管汽罐	自然通風ニ依リ石炭ノミヲ手焚スルモノ	五・三
	其ノ他ノモノ	六・一

先臥弁ヲ有スル安全弁又ハ高揚程型安全弁ニシテ管海官廳適當ト認ム

ルモノニ付テハ其ノ合計面積ヲ前項ノ規定ニ依リ算定シタルモノノ二分ノ一迄減ズルコトヲ得

汽罐ノ制限汽壓ヲ低下シタル爲安全弁ノ面積ガ前二項ノ規定ニ適合セザルモノト爲リタル場合ニ於テ安全弁ガ第八十條第二項ノ規定ニ適合スルモノナルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ合格ト爲スコトヲ得

第七十九條　安全弁ノ弁匣ハ汽罐ニ直接取附ケ他ノ弁ニ共用スルコトヲ得ズ

安全弁ノ弁匣ノ蒸汽進入路ノ横截面積ハ安全弁ノ合計面積ノ二分ノ一以上ト爲シ廢汽路及廢汽管ノ横截面積ハ安全弁ノ合計面積ノ一・一倍以上ト爲スベシ

廢汽路ニハ適當ナル排水裝置ヲ設ケ之ヲ淦水溜其ノ他適當ナル箇所ニ導クベシ

安全弁ニハ弁ヲ同時ニ開キ得ル揚弁裝置ヲ設ケ其ノ把手ハ之ヲ近寄リ易キ安全ナル位置ニ導クベシ

安全弁發條ハ汽罐ノ制限汽壓ニ相當スル壓力ヲ加ヘタルトキ其ノ長サガ弁徑ノ四分ノ一以上短縮シ更ニ之ヲ弁徑ノ四分ノ一壓縮スルモ原形ニ復スルモノナルコトヲ要ス

第八十條　安全弁ハ汽罐ノ制限汽壓ノ一・〇三倍以下ノ壓力ニ於テ自然ニ噴汽スル樣調整スベシ

安全弁ハ塞汽弁ヲ閉ヂ充分ニ焚火シ水管汽罐ニ在リテハ數分間、其ノ他ノ汽罐ニ在リテハ一五分間以上噴汽セシムルモ汽壓ノ昇騰尙汽罐ノ制限汽壓ノ十分ノ一ヲ超エザルモノナルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ

汽罐ニ適當ナル水準ヲ維持セシムルニ必要ナル程度ヲ超エ給水ヲ爲スコトヲ得ズ

第八十一條　蒸汽過熱器ト汽罐トノ連絡ヲ遮斷シ得ル裝置アルトキハ蒸汽過熱器ニ適當ナル逃出弁ヲ備ヘ之ヲ容易ニ操縱シ得ル揚弁裝置ヲ設クベシ

第八十二條　汽罐ニハ左表ニ依リ罐内ノ水準面ヲ容易ニ知リ得ベキ裝置ヲ互ニ近接セザル位置ニ備ヘ且筒形汽罐及直立汽罐ニハ燃燒室頂部ノ高サヲ適當ニ標示スベシ

汽罐ノ種類	裝置ノ種類及數	摘要
直立汽罐	硝子示面計一箇及驗面「コック」一組	
筒形片面汽罐	硝子示面計二箇	徑五米未滿ノ汽罐ニ在リテハ中一箇ヲ驗面「コック」一組ヲ以テ代用スルコトヲ得
筒形兩面汽罐	硝子示面計二箇及驗面「コック」二組	硝子示面計及驗面「コック」ハ夫々汽罐ノ各面ニ於テ他面ニ於ケルト反對ノ位置ニ取附クベシ
水管汽罐	硝子示面計二箇	長サ四米ヲ超ユル胴ヲ船體ニ對シ横ニ配置シタル場合ニ於テハ胴ノ兩端ニ近ク取附クベシ

前項ノ驗面「コック」ハ三箇ヲ以テ一組ト爲スベシ但シ徑二・五米未滿ノ筒形汽罐又ハ高サ二・五米未滿ノ直立汽罐ニ在リテハ二箇ヲ以テ一組ト爲スコトヲ得

硝子示面計及驗面「コック」ハ成ルベク之ヲ汽罐ニ直掛取附ケ已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ適當ナル　内徑及强力ヲ有スル筒ニ取附クベシ

前項ノ筒ハ成ルベク汽罐ニ近接シテ固定スルコトヲ要シ筒ヲ導管ニ依リ汽罐ニ連絡セシムル場合ニ於テハ筒ノ位置ガ不慮ニ變動セザル樣取附ケ汽側ノ導管ハ凝結水ノ滯溜セザルモノト爲スベシ

第八十三條　汽罐ニハ焚口面ノ見易キ位置ニ壓力計一箇ヲ備フベシ焚口カ汽罐ノ兩面ニ在ル場合ニ於テハ各焚口面ニ之ヲ備フベシ

第八十四條　汽罐ニハ正副二組ノ給水制限弁ヲ備フベシ

第八十五條　汽罐ニハ適當ノ位置ニ檢塩弁又ハ檢塩「コック」ヲ備フベシ但シ湖沼ノミヲ航行スル船舶ノ汽罐ニ在リテハ之ヲ備ヘザルコトヲ得

第八十六條　汽罐ノ放水弁又ハ放水「コック」ヨリ船外ニ通ズル放水管ハ内徑二〇耗以上ナルコトヲ要ス

二箇以上ノ汽罐ヲ備フル船舶ニ在リテ各汽罐ノ放水管ヲ一箇ノ共通管ニ接續セシムル場合ニ於テハ捩締不還弁ニ依リ各汽罐ノ連絡ヲ遮斷シ得ル裝置ト爲スベシ

第五節　汽罐ニ關スル雜則

第八十七條　汽罐ハ移動セザル樣之ヲ船體ニ揭附クベシ

第八十八條　汽罐ニ取附ケタル弁又ハ「コック」ノ周圍ニハ相當ノ空積ヲ存スベシ

第八十九條　汽罐ハ之ヲ製造シタルトキ左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

一　汽罐ノ制限汽壓ガ毎平方糎七瓲以下ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力

二　汽罐ノ制限汽壓ガ毎平方糎七瓲ヲ超ユルトキハ其ノ一・五倍ニ毎平方糎三・五瓲ヲ加ヘタル壓力

第九十條　蒸汽過熱器ハ之ヲ製造シタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第九十一條　汽罐ニ取附ケル弁、「コック」、第八十二條末項ノ導管又ハ筒ハ之ヲ製造シタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第六節　給水裝置

第九十二條　主汽罐ノ給水裝置ハ正給水裝置及副給水裝置ヨリ成リ各裝置ハ汽機ヲ全力ニ於テ運轉スル場合ニ必要ナル給水能力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第九十三條　正給水裝置ノ「ポンプ」ガ主機ニ依リ動作セラルルモノナルトキハ該「ポンプ」ハ發條逃出弁ヲ備ヘタルモノニシテ其ノ數ハ二箇トシ各「ポンプ」ハ必要ナル全給水ヲ爲シ得ルモノニシテ其ノ一箇ヲ使用中ト雖モ他ヲ解放シ得ルモノト爲スベシ但シ長サ五〇米未滿ノ船舶ノ機關ニ在リテハ正給水裝置ノ「ポンプ」ヲ一箇ト爲スコトヲ得

二箇ノ主機ヲ備フル船舶ニ於テ前項ノ給水「ポンプ」ヲ各主機ニ一箇宛配置シタルトキハ各「ポンプ」ガ雙方ノ温水溜ヨリ吸水シ得ル樣裝置スベシ

正給水裝置ノ「ポンプ」ガ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルルモノナルトキハ之ニ自働調整裝置ヲ備フベシ

長サ三〇米以上ノ船舶ニシテ前項ノ「ポンプ」一箇ノミヲ備フルモノニ在リテハ第九十四條ノ副給水裝置ノ「ポンプ」ニ自働調整裝置ヲ備フベシ

第九十四條　副給水裝置ノ「ポンプ」ハ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルルモノニシテ溫水溜及清水槽ヨリ吸水シ得ルモノナルコトヲ要ス但シ受熱面積二〇平方米未滿ノ汽罐ノ副給水裝置ハ之ヲ給水注射器ト爲スコトヲ得

給水「ポンプ」ノ吸水管中釀汽ノ際汽罐內ノ水ヲ循環セシムル爲汽罐ノ底部ヨリ吸水スル管ハ之ヲ他ノ吸水管ト別箇ノモノト爲スベシ

第九十五條　補汽罐ニハ適當ナル正副二重ノ給水裝置ヲ備フベシ但シ受熱面積二〇平方米未滿ノ補汽罐ノ副給水裝置ハ之ヲ給水注射器ト爲スコトヲ得

第七節　排水、吸水、循環水及潤滑油ニ關スル裝置

第九十六條　排水裝置ニ付テハ本節ニ於テ特ニ規定シタルモノノ外本船ニ在リテハ木船構造規程第二十二章、鋼船ニ在リテハ鋼船構造規程第二十三章、國際航海ニ從事スル旅客船ニ在リテハ船舶區畫規程第十二章ノ規定ニ依ル

第九十七條　溢水「ポンプ」ハ船ノ長サニ應ジ左表ニ依リ之ヲ備フベシ

船ノ長サ（米）	摘要
	主機ニ依リ動作セラルル獨立ノ動力ニヨリ動作セラルル「ポンプ」ノ數	手動「ポンプ」ノ數
二五未滿	一	—	管海官廳差支ナシト認ムルニ於テハ一箇ヲ以テ足ルモノトス
二五以上五〇未滿	一	—	管海官廳長サ三〇米未滿ノ船舶ニ付獨立動力「ポンプ」ノ備附ヲ實際上困難ナリト認ムルトキハ他ノ「ポンプ」ノ能力其ノ備附ヲ省略セシムルコトヲ得
五〇以上一〇〇未滿	二	一	旅客船ニ非ザル場合ニ限リ長サ二五米未滿ノ船舶ニ在リテハ「ポンプ」一箇ヲ以テ足ルモノトス
一〇〇以上	二	二	動作セラルル「ポンプ」一箇ノミヲ備フルモノニ在リテハ第九十四條ノ副給水裝置ノ「ポンプ」ニ自働調整裝置ヲ備フベシ

前項ノ溢水「ポンプ」ハ夫夫動力「ポンプ」ヲ以テ手動「ポンプ」ニ、獨立動力「ポンプ」一箇ヲ以テ主機ニ依リ動作セラルル「ポンプ」二箇ニ代フルコトヲ得

雜用「ポンプ」、脚荷水「ポンプ」、衞生「ポンプ」等ニシテ溢水排出ノ目的ニ對シ適當ニ裝置セラレタルモノナルトキハ之ヲ第一項ノ溢水「ポンプ」ト看做スコトヲ得

獨立動力溢水「ポンプ」中一箇ハ呼水ヲ要セズシテ卽時使用シ得ルモノ

ト爲スベシ

第九十八條　溢水吸引主管ノ內徑ハ船ノ長サニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノヲ標準トシテ之ヲ定ムベシ但シ第三號ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スルモノニ在リテハ六〇粍未滿ト爲スコトヲ得ズ

一　長サ二五米未滿ノ船舶

$d=1.22(L-10)+10$

二　長サ二五米以上三五米未滿ノ船舶

$d=2.67(L-20)+15$

三　長サ三五米以上ノ船舶

$d=1.67\sqrt{L(B+D)}+25$

d ハ溢水主管ノ內徑（粍ニテ）

L、B、D ハ夫夫船舶國籍證書ニ記載スベキ船ノ長サ、幅及深サ（米ニテ）

前項第三號ノ船舶ニ在リテハ各水密區畫ニ對スル溢水吸引支管ノ內徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヲ標準トシテ之ヲ定ムベシ但シ一〇〇粍ヲ超エルコトヲ要セズ又國際航海ニ從事スル船舶ニ在リテハ五〇粍未滿ト爲スコトヲ得ズ

$d'=2.15\sqrt{(B+D)}+25$

d' ハ溢水支管ノ內徑（粍ニテ）

1ハ當該支管ニ依リ排水スベキ區畫室ノ長サ（米ニテ）

B、D ハ夫夫船舶國籍證書ニ記載スベキ船ノ幅及深（米ニテ）

第二十類　通信、交通及電氣　第二編　交通

第九十九條　溢水排水裝置ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　各動力溢水「ポンプ」ハ實際上手動「ポンプ」ニテ差支ナキ箇所ヲ除クノ外各艙、機關室及軸路ヨリ吸水シ得ル配置ト爲スコト

二　第九十七條第一項ノ規定ニ依リ備フベキ各獨立動力溢水「ポンプ」ハ溢水主管內ノ水ノ流速カ通常ノ操作狀態ニ於テ每分一、二二米以上トナル吸水能力ヲ有スルモノナルコト但シ第九十七條第一項ノ規定ニ依ル「ポンプ」ノ外尙其ノ他ニ獨立動力溢水「ポンプ」ヲ備フルトキハ其ノ各箇ノ吸水能力ヲ同條同項ノ規定ニ依ル獨立動力溢水「ポンプ」一箇每ノ吸水能力ニ加算スルコトヲ得ルコト

三　獨立動力溢水「ポンプ」中少クトモ一箇ハ他ノ溢水「ポンプ」ガ船體ノ他ノ箇所ヨリ排水中ト雖モ直接機關室ヨリ排水シ得ル裝置ト爲スコト

四　機關室ニ於ケル溢水吸引管ハ之ヲ泥箱ニ接續シ泥箱ハ溢水溜ニ通ズル眞直ナル尾管及急速ニ開閉シ得ル構造ノ蓋ヲ有シ且成ルベク機關室床上ヨリ容易ニ掃除シ得ル場所ニ之ヲ設置スルコト但シ管海官廳ニ於テ船體ノ構造、吸引管ノ配置其ノ他ニ依リ差支ナシト認ムル箇所ニ限リ吸引管端ニ附シタル泥箱ヲ以テ泥箱ニ代フルコトヲ得ルコト

五　各艙、軸路及石炭庫ニ於ケル溢水吸引管端ニハ吸引管ノ接合部ヲ取外サザルモ容易ニ掃除シ得ル構造ノ泥箱ヲ備フルコト

前項第四號及第五號ノ泥箱ノ吸水孔巢ノ各孔ノ徑ハ一〇粍以下ニシテ孔ノ總面積ハ吸水管ノ橫截面積ノ三倍以上ト爲スベシ

第百條　循環水「ポンプ」ハ不還弁ヲ經テ機關室ノ成ルベク最低部ヨリ直接淦水ヲ吸引シ得ル裝置ト爲シ其ノ吸引管ノ内徑ハ該「ポンプ」ノ海水吸引管ノ内徑ノ三分ノ二以上ト爲スベシ

前項ノ不還弁ニハ成ルベク適當ナル揚弁裝置ヲ備フベシ

燃料ニ石炭ヲ使用シ又ハ使用スルコトアルベキ汽罐ト汽機トノ間ニ水密隔壁ナキ長サ一一〇米以上ノ船舶ニシテ沿海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船又ハ旅客船ニ非ザル近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ハ少クトモ一箇ノ循環水「ポンプ」ヨリ復水器管ヲ經ズシテ直接船外ニ排水シ得ル樣裝置スベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノ又ハ裝置スルコト甚シク困難ナリト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第百一條　長サ四〇米以上ノ船舶又ハ長サ三〇米以上ノ旅客船ニ在リテハ獨立動力「ポンプ」中一箇ハ海水ヲ吸引シテ甲板上ニ淦水シ且船體ノ前後部ニ同時ニ配水シ得ル裝置ト爲スベシ

第百二條　海水ヲ吸引シ得ル「ポンプ」ニ接續スル淦水管ニハ海水又ハ水槽ト淦水トニ同時ニ開通シ得ザル「コツク」又ハ不還弁ヲ備ヘ海水、脚荷水又ハ水槽ノ水カ貨物艙、機關室若ハ軸路ニ流入シ又ハ一區畫ヨリ他區畫ニ流入スルコトヲ防止スベシ

淦水配流箱ニ於ケル弁ハ不還弁ト爲スベシ

貨物艙、機關室又ハ軸路ヨリ排水スベキ「ポンプ」ノ吸引管ハ二重底又ハ水槽ノ充水管又ハ排水管トハ別箇ノモノト爲スベシ

淦水吸引管ヲ連絡スル弁又ハ「コツク」ハ機關室床板以上ノ近寄リ易キ場所ニ之ヲ備フベシ

淦水管カ鋼管ナルトキハ成ルベク亞鉛鍍ト爲スベシ

第百三條　二重底又ハ水槽ヲ有スル船舶ハ二重底又ハ水槽ノ水ヲ獨立ノ動力「ポンプ」ニ依リ排出シ得ル適當ナル裝置ヲ備フベシ

第百四條　長サ三五米以上ノ船舶ハ循環水「ポンプ」ニ依ラズシテ冷却水ヲ復水器ニ送リ得ル裝置ヲモ備フベシ但シ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルル循環水「ポンプ」二箇以上ヲ備ヘ其ノ吐出口ニ於テ互ニ連絡スル裝置アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百五條　船外ヨリ吸水スル管ハ海水弁又ハ海水「コツク」ニ連絡シ海水弁又ハ海水「コツク」ハ之ヲ直接外板ニ取附クルカ又ハ外板ニ取附ケタル堅牢ナル脚筒ニ取附ケ機關室床板上ニ於テ容易ニ操作シ得ルモノト爲スベシ

鋼船ノ外板ニ弁、「コツク」又ハ前項ノ脚筒ヲ取附クル螺釘ハ之ヲ外板ニ捩込ムカ又ハ埋頭ト爲スベシ

第百六條　第八十六條ノ放水管ハ近寄リ易キ場所ニ於テ外板ニ取附ケタル弁又ハ「コツク」ニ連結スベシ

前項ノ弁又ハ「コツク」ハ外板ヲ貫通スル突出口ヲ備ヘ鋼船ニ在リテハ其ノ取附部ニ於ケル外板ノ腐蝕ヲ防止スル爲外板ニ適當ナル裝置ヲ爲スベシ

第一項ノ「コツク」ハ之ヲ閉鎖スルニ非ザレバ其ノ開閉把手ヲ取放チ得ザル裝置ト爲スベシ

第一項ノ放水管ヲ艫水循環ノ爲使用スル船舶ニ在リテハ同項ノ弁又ハ「コツク」ト艫水循環路トヲ遮斷シ得ル樣適當ニ裝置スベシ

石炭庫其ノ他損傷ヲ受ケ易キ場所ニ於ケル淦水吸引管ハ之ニ適當ナル保護裝置ヲ備フベシ

第百七條　排水管ハ成ルベク近寄リ易キ場所ニ於テ外板ニ取附ケタル排水弁又ハ排水「コツク」ニ連結スベシ但シ長サ三〇米未滿ノ船舶ニ在リテハ最大吃水線以上ニ於テ船外ニ通ズル排水管ニ限リ管海官廳ノ見込ニ依リ弁又ハ「コツク」ヲ備ヘザルコトヲ得

第百八條　相當ノ壓力ヲ以テ潤滑油ヲ循環セシムルコトヲ要スル汽機ヲ備フル船舶ニ在リテハ常用動力潤滑油「ポンプ」ノ外該「ポンプ」中最大能力ノモノト同等ノ能力ヲ有シ且遲滯ナク使用シ得ル配置ト爲シタル豫備動力潤滑油「ポンプ」ヲ備ヘ且油冷却器ヲ備フルトキハ二樣ノ冷却水送水裝置ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ二樣ト爲サザルコトヲ得

前項ノ豫備潤滑油「ポンプ」ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ手動「ポンプ」ト爲スコトヲ得

第八節　管

第百九條　汽管又ハ給水管ノ强力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス但シ小徑ノ過熱汽管ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

$$P=\frac{(T-a)}{D}\times K$$

Pハ制限汽壓（毎平方糎瓩ニテ）

Dハ管ノ内徑（糎ニテ）

Tハ管ノ厚サ（糎ニテ）

第八十二條末項ノ導管中汽側ノモノノ强力ニ對スル制限汽壓ハ前項汽管ノ例ニ依リ水側ノモノ及第八十六條ノ放水管ノ强力ニ對スル制限汽壓ハ前項給水管ノ例ニ依ル

第百十條　銅管ハ之ヲ彎曲スル場合ニ於テハ前條ニ依リ算定シタル厚サヨリ大ナル厚サノモノヲ用ヰ且管ノ中心線ニ於テ測リタル彎曲半徑ヲ管ノ外徑ノ二倍以上ト爲スベシ

第百十一條　汽管、給水管、第八十二條末項ノ導管又ハ第八十六條ノ放水管ニ用ウル鋼管ハ之ヲ取附クル前適當ニ熱處理ヲ爲スベシ

a及Kハ定數ニシテ左表ニ依ル

管ノ種類		a	K
汽管	引抜銅管	一・〇	四四〇
	鐵附銅管	一・〇	三三〇
	常温引抜鋼管	二・五	八四四
	高温仕上無接合鋼管	三・〇	八四四
	鍛合鋼管	三・〇	六三三
給水管	引抜銅管	一・〇	三五五
	鐵附銅管	一・〇	二六六
	常温引抜鋼管	二・〇	七〇三

鋼管ニシテ工事ノ爲加熱シタルモノハ之ヲ取附クル前適當ニ熱處理ヲ爲スベシ

第百十二條　汽管ハ伸縮ノ影響ヲ緩和スル樣適當ニ裝置スベシ

汽管ニハ適當ナル排水裝置ヲ備フベシ

減壓弁ヲ備フル場合ニ於テハ減壓蒸汽ノ側ニ適當ナル逃出弁ヲ備フベシ

第百十三條　汽罐二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ少クトモ二箇ノ汽罐ヨリ汽管、操舵汽機及發電汽機ニ送汽シ得ル裝置ト爲スベシ

第百十四條　二二〇度以上ノ蒸汽ヲ通ズル弁匣、膨脹接手等ハ鑄鋼其ノ他ノ適當ナル材料ヲ以テ製造スルコトヲ要ス

第百十五條　管ハ振動ヲ防止スル爲帶金其ノ他ノ方法ニ依リ適當ニ之ヲ取附クベシ

第九節　給水、排水其ノ他ノ裝置ノ水壓試驗

第百十六條　給水「ポンプ」ノ水筒ハ之ヲ製造シ創仕上ヲ爲シタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第百十七條　主汽管ハ鍔ヲ附シ仕上ヲ爲シタルトキ左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

鋼管ナルトキ　汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力

鋼管ナルトキ　汽罐ノ制限汽壓ノ三倍ノ壓力

第百十八條　循環水「ポンプ」ノ水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ創仕上ヲ爲シタルトキ毎平方糎四瓲ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ但シ獨立ノ動力ニ依リテ動作セラルルモノナルトキハ毎平方糎二瓲ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スルコトヲ得

第百十九條　抽氣「ポンプ」ノ氣筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ創仕上ヲ爲シタルトキ毎平方糎二瓲ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第百二十條　潤滑油「ポンプ」ノ油筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ創仕上ヲ爲シタルトキ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ試驗スベシ

油冷却器ハ之ヲ製造シタルトキ附屬具ヲ取附ケタル儘常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ試驗スベシ

第百二十一條　淦水「ポンプ」ノ水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ創仕上ヲ爲シタルトキ毎平方糎二瓲ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第百二十二條　最大吃水線以下ノ外板ニ取附クル弁匣、「コック」、第百

五條ノ脚筒又ハ船尾管ハ之ヲ製造シタルトキ毎平方糎二瓲ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第十節　燃油裝置

第百二十三條　本節ノ規定ハ「エーベル」式密閉試驗ニ依ル引火點六五度以上ノ燃料油ヲ汽罐ニ於テ燃燒スル裝置ヲ有スル船舶ニ之ヲ適用ス

第百二十四條　汽罐ニハ適當ナル防熱裝置ヲ施シ且之ト油槽ノ側壁又ハ二重底頂板トハ適當ノ間隔ヲ保タシムベシ

第百二十五條　油ノミヲ燃燒スル汽罐ニ在リテハ煙突又ハ煙路內ニ堰板ヲ設クルコトヲ得ズ

隨時ニ石炭又ハ油ヲ燃燒シ得ル裝置ヲ備フル汽罐ニ在リテ煙突又ハ煙路內ニ堰板ヲ有スルトキハ該堰板ヲ全開シ得ル構造ト爲シ且全開シタルトキハ不慮ニ開度ヲ變更スル虞ナキモノト爲スベシ

第百二十六條　噴油「ポンプ」、油漉器及燃料油加熱器ハ充分ナル能力ヲ有シ且隨時使用シ得ルモノ二組以上ヲ備フベシ但シ補汽罐又ハ長サ三〇米未滿ノ船舶ノ汽罐ニ付テハ之ヲ一組ニ止ムルコトヲ得

噴油「ポンプ」ハ吸油側及送油側ニ弁又ハ「コツク」ヲ附シ且送油側ニ有效ナル逃出弁ヲ備ヘ之ヨリ逃出シタル油ヲ該「ポンプ」ノ吸油側ニ導入スル裝置ト爲スベシ

燃油裝置ヲ有スル汽罐二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ噴油「ポンプ」ノ送油管ヲ配油弁匣ニ接續スル力又ハ各汽罐ニ對スル送油管ニ弁又ハ「コツク」ヲ備フベシ

噴油器、噴油「ポンプ」、加熱器及油漉器等ヨリノ漏油ニ對シテハ適當ナル油受ヲ設クベシ

第百二十七條　噴油「ポンプ」及之ニ接續スル管系ハ給水「ポンプ」、淦水「ポンプ」又ハ脚荷水「ポンプ」及此等ニ接續スル管系ト兼用スルコトヲ得ズ

油管ハ總テ清水管ト兼用スルコトヲ得ズ

第百二十八條　噴油「ポンプ」ノ送油側ニ於ケル油管ハ無接合鋼管トシ其ノ管鍔ハ之ヲ機械仕上ト爲シ且成ルベク直接接合ト爲シ接合材ヲ用ウル場合ニ於テハ高溫ノ油ノ滲透セザル薄キモノヲ用ウベシ

前項以外ノ油管ハ鋼管又ハ鐵管ト爲スベシ

油管ハ機關室ニ於テハ檢査及修繕ニ便宜ナル位置ニ之ヲ取附クベシ

第百二十九條　噴油「ポンプ」ノ動力裝置ハ其ノ所在區畫室ニ於テ又該區畫室ノ失火ノ際ニハ接近シ得ベキ他ノ場所ニ於テ之ヲ操縱シ得ルモノナルコトヲ要ス

第百三十條　油槽ニハ硝子製示面計ヲ取附クルコトヲ得ズ但シ自動閉塞式ノ弁又ハ「コツク」及適當ノ保護裝置ヲ備フル厚硝子板製ノモノハ此ノ限ニ在ラズ

第百三十一條　燃料油槽ト脚荷水槽トニ兼用スル區畫室二箇以上ヲ有スル船舶ニ在リテハ移油「ポンプ」ニテ該區畫室中ノ一室ヨリ吸油中脚荷水「ポンプ」ニテ他室ノ排水ヲ爲シ得ル裝置ト爲スベシ但シ容積大ニシテ屢補充スルヲ要セザル燃油槽又ハ常用油槽ヲ備フルモノニ在リテハ

此ノ限ニ在ラズ

深水槽ヲ貨物艙、脚荷水槽又ハ燃料油槽ニ兼用スル船舶ニ在リテハ該槽ニ貨物ヲ積載スル場合脚荷水及燃料油ノ注入管竝ニ吸出管ニハ該槽ヲ燃料油槽又ハ脚荷水槽トシテ使用スル場合淦水吸出管ニ盲蓋ヲ取附ケ得ル裝置ト爲スベシ

第百三十二條　移油管ニハ機關室又ハ「ポシプ」室隔壁ノ內側ニ弁又ハ「コツク」ヲ備ヘ移油「ポンプ」ニハ之ヲ解放スル場合移油管ト遮斷シ得ル樣其ノ吸油側ニ弁又ハ「コツク」ヲ備フベシ

第百三十三條　二重底ヲ除クノ外燃料油槽ヨリ吸油スル管ニハ槽壁ニ於テ弁又ハ「コツク」ヲ備ヘ其ノ所在區畫ノ失火ノ際接近シ易キ他ノ場所ヨリ開閉シ得ル裝置ト爲スベシ

燃料油ヲ積載スル船首艙又ハ船尾艙ヨリ吸油スル管ニ在リテハ前項ノ裝置ヲ有スル弁又ハ「コツク」ハ之ヲ該艙ノ內壁ニ附スベシ但シ機關室ガ船尾艙ニ隣接スル船舶ニ在リテハ該弁又ハ「コツク」ハ之ヲ船尾隔壁ノ機關室側ニ附スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ小型油槽ニ付管海官廳差支ナシト認ムルトキハ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百三十四條　澄油槽及常用油槽ノ充油管ニハ前條第一項ノ裝置ヲ有スル弁若ハ「コツク」又ハ不還弁ヲ槽ニ接續スル筒所ニ備フベシ但シ充油管ガ槽ノ頂部ニ接續セラルルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百三十五條　機關室內ノ油管ニ附スル弁又ハ「コツク」ハ機關室床板以上ニ於テ開閉シ得ルモノト爲スベシ

第百三十六條　機關室內ノ油槽ニ附スル沈澱水ノ排出管ニハ自動閉塞式又ハ封鎖裝置附ノ弁若ハ「コツク」ヲ備フベシ

第百三十七條　蒸汽ニ依リ燃料油ヲ加熱スル場合ニ於テハ加熱用蒸汽管ノ末端ハ凝汽中ニ於ケル油ノ有無ヲ檢査シ得ル樣之ヲ驗水槽ニ導クベシ

燃料油ト接觸スル加熱用蒸汽管ハ之ヲ鋼管又ハ鐵管ト爲スベシ

第百三十八條　機關室又ハ燃料油槽、澄油槽若ハ燃料油「ポンプ」ヲ備フル室ニ於ケル淦水吸引管ハ鉛管ト爲スコトヲ得ズ

第百三十九條　油槽ハ檢査及掃除ヲ爲スニ適當ナル構造ノモノト爲スベシ

第百四十條　燃油裝置ノ各部分ハ左ノ壓力ヲ以テ之ヲ試驗スベシ

一　噴油「ポンプ」ノ油筒又ハ之ニ附屬スル弁ハ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力

二　噴油「ポンプ」ノ送油弁ヨリ噴油器ニ至ル管、燃料油加熱器及其ノ附屬具ハ常用最大壓力ノ二倍ト毎平方糎二八瓩トノ中大ナル壓力

三　前號以外ノ油管ニシテ機關室ニ在ルモノハ毎平方糎二瓩

四　燃料油ト接觸スル加熱用蒸汽管ハ常用最大汽壓ノ二倍ノ壓力

前項第一號ニ揭ゲルモノノ試驗ハ製造シ創仕上ヲ爲シタルトキ、第二號乃至第四號ニ揭ゲルモノノ試驗ハ船內取附後之ヲ執行スベシ

第四章　發動機ヲ備フル船舶ノ機關

第一節　發動機

第百四十一條　發動機ハ容易且確實ニ推進器ヲ反轉セシメ又船舶ニ充分ナル後退力ヲ有セシメ得ルモノナルコトヲ要ス

軸馬力三〇〇ヲ超ユル發動機ハ成ルベク自己反轉式ノモノト爲スベシ

軸馬力六〇ヲ超ユル發動機ニシテ「クラツチ」ヲ用ヰ推進器ヲ反轉スルモノニハ適當ナル整速裝置ヲ備フベシ

第百四十二條　徑二五〇粍以上ノ氣筒ニシテ最大壓力毎平方糎三五瓩以上ノモノニハ取扱者ニ危害ヲ及ボス虞ナキ位置ニ適當ナル安全弁又ハ逃出弁ヲ備ヘ最大壓力ノ一・四倍以下ノ壓力ニ於テ逃氣スル樣調整スベシ

第百四十三條　輕油、燈油、揮發油又ハ瓦斯ヲ燃料トスル單働發動機ニシテ氣筒內ノ最大壓力毎平方糎一八瓩以下ノモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = C\sqrt[3]{\frac{D^3 S}{N}}$$

d ハ軸ノ徑(粍ニテ)
D ハ氣筒ノ徑(粍ニテ)
S ハ行長(粍ニテ)
C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

發動機ノ種類			氣筒數	C
「クランク」軸			六	〇・三九九
推力軸	甲種機關又ハ乙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	五	〇・三九三
		丙種機關	五	〇・四〇五
	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	五	〇・四〇五
		丙種機關	五	〇・四一〇
中間軸	甲種機關又ハ乙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	五	〇・四一〇
		丙種機關	五	〇・四一五
	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	五	〇・四一五
		丙種機關	五	〇・四二〇
第一種螺旋軸	甲種機關又ハ乙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	五	〇・四二〇
		丙種機關	五	〇・四二五
	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	五	〇・四二五
		丙種機關	五	〇・四三〇
第二種螺旋軸	甲種機關又ハ乙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	五	〇・四三〇
		丙種機關	五	〇・四三五
	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	五	〇・四三五
		丙種機關	五	〇・四四〇
二衝程發動機	甲種機關又ハ乙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	一	〇・三七三
		丙種機關	一	〇・三七三
	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	一	〇・三七三
		丙種機關	一	〇・三七八
	甲種機關又ハ乙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	二	〇・三七八
		丙種機關	二	〇・三八四
	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	二	〇・三八四
		丙種機關	二	〇・三八九
	甲種機關又ハ乙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	三	〇・三八九
		丙種機關	三	〇・三九五
	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	三	〇・三九五
		丙種機關	三	〇・四〇〇
四衝程發動機	甲種機關又ハ乙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	二	〇・三九五
		丙種機關	二	〇・四〇〇
	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	二	〇・四〇〇
		丙種機關	二	〇・四〇五
	甲種機關又ハ乙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	三	〇・四〇五
		丙種機關	三	〇・四一〇
	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	三	〇・四一〇
		丙種機關	三	〇・四一五
	甲種機關又ハ乙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	四	〇・四一五
		丙種機關	四	〇・四二〇
	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	四	〇・四二〇
		丙種機關	四	〇・四二五
	甲種機關又ハ乙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	五	〇・四二五
		丙種機關	五	〇・四三〇
	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	五	〇・四三〇
		丙種機關	五	〇・四三五
	甲種機關又ハ乙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	六	〇・四三五
		丙種機關	六	〇・四四〇
	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	六	〇・四四〇
		丙種機關	六	〇・四四五

四衝程發動機								
一	○・三三一	○・三一五	○・一七五	○・一六七	○・一六七	○・一五九	○・一八四	○・一七五	○・一九五	○・一八五
二	○・三五三	○・三三五	○・一九七	○・一八八	○・一八八	○・一七九	○・二〇七	○・一九七	○・二二〇	○・二〇九
三	○・三六八	○・三五〇	○・二一六	○・二〇六	○・二一〇六	○・一九六	○・二一七	○・二一六	○・二二四一	○・二一二九
四	○・三八一	○・三六二	○・二三二	○・二一一	○・二一一	○・二一〇	○・二二四三	○・二二三一	○・二二五八	○・二二四五
五	○・三九〇	○・三七一	○・二四七	○・二二三五	○・二二三五	○・二一三三	○・二二五八	○・二二四五	○・二二七二	○・二二六〇
六	○・四〇一	○・三八二	○・二五九	○・二四七	○・二四七	○・二三五	○・二二七二	○・二二五八	○・二二八九	○・二二七五
七	○・四〇九	○・三九〇	○・二七一	○・二五八	○・二五八	○・二四五	○・二二八四	○・二二七〇	○・二三〇二	○・二二八七
八	○・四一三	○・四〇二	○・二八〇	○・二六七	○・二六七	○・二五四	○・二二九四	○・二二七九	○・二三一二	○・二二九六

「クランク」栓ノ徑ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第百四十四條　前條ノ發動機ニシテ氣筒内ノ最大壓力毎平方糎一八瓩ヲ超ユルモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ左ノ係數Kヲ乘ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$K=\sqrt[3]{\frac{P}{18}}$$

Pハ氣筒内ノ最大壓力（毎平方糎瓩ニテ）

第百四十五條　重油ヲ燃料トスル燒球式二衝程單働發動機ニシテ氣筒内ノ最大壓力毎平方糎二五瓩以下ノモノノ鍛鋼製ノ軸ノ寸法ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一　「クランク」軸ノ徑

$$dc=\sqrt[3]{\frac{D^2\times(AS+BL)}{100}}$$

dcハ「クランク」軸ノ徑（糎ニテ）

Dハ氣筒ノ徑（糎ニテ）

Sハ行長（糎ニテ）

Lハ「クランク」ノ兩側ニ於ケル軸受金内側間ノ距離（糎ニテ）

A及Bハ定數ニシテ左表ニ依ル

氣筒數	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關				丙種機關	
		A		B		A	B
一		二・七五		二・六九		二・三六	二・三一
二		二・七五		二・六九		二・三六	二・三一
二		三・四三		三・三四		二・九四	二・八九
三		三・四三		三・三四		二・九四	二・八九
三		三・四六		三・三四		二・九七	二・九二
三		三・四六		三・三四		二・九七	二・九二
四		三・八八		三・七五		三・三三	三・二六
四		三・八八		三・七五		三・三三	三・二六
四		四・二九		四・〇五		三・六八	三・六二
四		四・二九		四・〇五		三・六八	三・六二
五		五・〇八		四・八〇		四・三六	四・三〇
五		五・〇八		四・八〇		四・三六	四・三〇
六		六・八三		六・四五		五・八六	五・七九
六		六・八三		六・四五		五・八六	五・七九
六		六・八三		六・四五		五・八六	五・七九

二　一体型「クランク」軸ノ腕ノ幅又ハ厚サ

$b_0^2=0.417d_c^2$

dcハ前號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑（糎ニテ）

bハ腕ノ幅（糎ニテ）

tハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ（糎ニテ）ニシテdcノ〇・六〇倍以上ナルコト

三　推力軸、中間軸又ハ螺旋軸ノ徑

$d=C\sqrt[3]{D^2S}$

dハ軸ノ徑（糎ニテ）

Dハ氣筒ノ徑（糎ニテ）

Sハ行長（糎ニテ）

Cハ定數ニシテ左表ニ依ル

氣筒數	「クランク」ノ配置	推力軸 甲種機關又ハ乙種機關	推力軸 丙種機關	中間軸 甲種機關又ハ乙種機關	中間軸 丙種機關	第一種螺旋軸 甲種機關又ハ乙種機關	第一種螺旋軸 丙種機關	第二種螺旋軸 甲種機關又ハ乙種機關	第二種螺旋軸 丙種機關
一		○・二四二	○・二三〇	○・二三〇	○・二一八	○・二一五四	○・二一四一	○・二一六九	○・二一五五
二		○・二六六	○・二五三	○・二五三	○・二四〇	○・二二五四	○・二一六五	○・二一八六	○・二一八一
三		○・二七三	○・二五九	○・二五九	○・二四六	○・二二八六	○・二一七二	○・二三〇三	○・二二八八
四		○・二八六	○・二七二	○・二七二	○・二五八	○・二三〇〇	○・二二八五	○・二三一八	○・二三〇二
		○・三〇四	○・二八九	○・二八九	○・二七四	○・二三一九	○・二三〇三	○・二三三八	○・二三二一
五		○・三一九	○・三〇三	○・三〇三	○・二八八	○・二三四〇	○・二三一八	○・二三五四	○・二三三六
六		○・三三二	○・三一五	○・三一五	○・二九九	○・二三五五	○・二三四六	○・二三六九	○・二三五〇
		○・三四八	○・三三〇	○・三三〇	○・三一三	○・二三七二	○・二三五三	○・二三八六	○・二三六七
		○・三五五	○・三三七	○・三三七	○・三二〇	○・二三九四	○・二三七四	○・二三九九	○・二三八四

「クランク」栓ノ徑ハ前項第一號ノ算式ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第百四十六條　前條ノ發動機ニシテ氣筒內ノ最大壓力毎平方糎二五瓩ヲ超ユルモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ左ノ係數Kヲ乘ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$K=\sqrt[3]{0.02P+0.5}$$

Pハ氣筒內ノ最大壓力（毎平方糎瓩ニテ）

前項ノ發動機ノ鍛鋼製ノ一体型「クランク」軸ノ腕ノ幅又ハ厚サハ前項ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑（耗ニテ）ナdcニ充テ前條第二號ノ算式ヲ用ヰ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第百四十七條　「デイーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ「クランク」軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$dc=\sqrt[3]{\frac{D^2\times(AS_P+BL_P)}{1{,}900}}$$

一　二衝程單働式ナルトキ

氣筒數	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關 A	甲種機關又ハ乙種機關 B	丙種機關 A	丙種機關 B
一		一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
二		一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
三		一二・六〇	一・五二	一〇・八〇	一・三〇
四		一三・八三	一・四八	一一・八六	一・二七
		二三・三〇	一・二二	一九・九六	一・〇五
五		一四・五一	一・四五	一二・四五	一・二四
		一五・一二	一・四三	一二・九七	一・二三

dcハ「クランク」軸ノ徑（耗ニテ）
Dハ氣筒ノ徑（耗ニテ）
Sハ行長（耗ニテ）
Lハ「クランク」ノ兩側ニ於ケル軸受金內側間ノ距離（耗ニテ）
Pハ氣筒內ノ最大壓力（毎平方糎瓩ニテ）
pハ氣筒內平均有效圖示壓力（毎平方糎瓩ニテ）
A及Bハ定數ニシテ左表ニ依ル

二　四衝程單働式ナルトキ

氣筒數	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關 A	甲種機關又ハ乙種機關 B	丙種機關 A	丙種機關 B
二	一	一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
四	一	一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
六	一	一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
八	一	一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
六	六	二〇・〇〇	一・三一	一七・一五	一・一二
七	六	二四・一〇	一・二二	二〇・六七	一・〇四
八	六	一五・八〇	一・四一	一三・五五	一・二一
九	六	一六・六三	一・四〇	一四・二六	一・二〇
一〇	六	二七・四〇	一・一二	二三・五〇	一・〇四
一一	六	一七・六〇	一・三八	一五・一〇	一・一八
一二	六	一九・四二	一・三六	一六・六六	一・一七
一一	一	二八・四二	一・一〇	二四・三八	一・〇三
一二	一	二〇・〇八	一・三三	一七・二三	一・一四
一一	一	二一・一四	一・三三	一八・一四	一・一四
一二	一	二九・三七	一・一九	二五・二〇	一・〇二
一二	一	三六・四八	一・〇九	三一・三〇	〇・九四

三　二衝程複働式ナルトキ

氣筒數	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關 A	甲種機關又ハ乙種機關 B	丙種機關 A	丙種機關 B
一	一	一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
二	一	一二・八一	一・四三	一〇・九九	一・二三
三	一	一四・三三	一・三二	一二・三〇	一・一三
四	一	二二・二〇	一・一四	一九・〇四	〇・九八
三	三	一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
四	三	一二・六〇	一・五二	一〇・八〇	一・三〇
五	三	一二・六〇	一・五二	一〇・八〇	一・三〇
六	三	一二・六〇	一・五二	一〇・八〇	一・三〇
七	三	一三・八三	一・四八	一一・八六	一・二七
八	三	一三・八三	一・四八	一一・八六	一・二七
九	三	一四・五一	一・四五	一二・四五	一・二四
一〇	三	一四・五一	一・四五	一二・四五	一・二四
一一	三	一五・一二	一・四三	一二・九七	一・二三
一二	三	一五・一二	一・四三	一二・九七	一・二三
一一	一	一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
一二	一	一二・六〇	一・五二	一〇・八〇	一・三〇
一三	一	一二・六〇	一・五二	一〇・八〇	一・三〇
一四	一	一二・六〇	一・五二	一〇・八〇	一・三〇
一五	一	一三・八三	一・四八	一一・八六	一・二七
一六	一	一三・八三	一・四八	一一・八六	一・二七
一七	一	一四・五一	一・四五	一二・四五	一・二四
一八	一	一四・五一	一・四五	一二・四五	一・二四
一九	一	一五・一二	一・四三	一二・九七	一・二三
二〇	一	一五・一二	一・四三	一二・九七	一・二三

四　四衝程複働式ナルトキ

氣筒數	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
		A	B	A	B
一	—	一・〇八六	一・六〇	九・三二	一・三七
二	一二	一・〇八一	一・四三	一〇・八九	一・二三
三	㇀	一・〇八〇	一・四二	一〇・八八	一・二二
四	＋	一・〇七九	一・四一	一〇・八七	一・二一
五	✳	一・〇七八	一・四〇	一〇・八六	一・二〇
六	㇀	一・〇七七	一・三九	一〇・八五	一・一九
	✳	一・〇七六	一・三八	一〇・八四	一・一八
七	✳	一・〇七五	一・三七	一〇・八三	一・一七
八	✳	一・〇七四	一・三六	一〇・八二	一・一六
九	✳	一・〇七三	一・三五	一〇・八一	一・一五
一〇	✳	一・〇七二	一・三四	一〇・八〇	一・一四
	✳	一・〇七一	一・三三	一〇・七九	一・一三
一一	✳	一・〇七〇	一・三二	一〇・七八	一・一二
一二	✳	一・〇六九	一・三一	一〇・七七	一・一一
	✳	一・〇六八	一・三〇	一〇・七六	一・一〇

氣筒數	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
		A	B	A	B
一	—	一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
二	一二	一二・八一	一・四三	一〇・八九	一・二三
三	㇀	一四・四八	一・三〇	一二・四一	一・一二
四	＋	一三・四一	一・三九	一一・五〇	一・一九
五	✳	一五・六八	一・二六	一三・四五	一・〇八
六	㇀	一四・五〇	一・三〇	一二・四四	一・一二
	✳	一九・七〇	一・一九	一六・九〇	一・〇二
七	✳	一八・三九	一・二二	一五・七七	一・〇五
八	✳	二一・三一	一・一六	一八・二八	一・〇〇
	✳	一八・七〇	一・二一	一六・〇四	一・〇四
九	✳	二一・六〇	一・一五	一八・五三	〇・九九
一〇	✳	二〇・〇四	一・一八	一七・二〇	一・〇一
	✳	二八・四二	一・〇八	二四・三八	〇・九三
一一	✳	二一・七二	一・一六	一八・六三	一・〇〇
一二	✳	二二・一〇	一・一五	一八・九六	〇・九九
	✳	二六・五〇	一・〇九	二二・七三	〇・九四

備考　✳印ヲ附シタルモノハ二箇ノ氣筒カ同時ニ點火スルモノナルコトヲ示ス

「クランク」栓ノ徑ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

勢車又ハ「ポンプ」用偏心盤ヲ最後部「クランク」軸受ト推力軸トノ間ニ於テ「クランク」軸又ハ特設軸ニ取附グルトキハ該部又ハ特設軸ノ徑ハ第一項ノ算式ニ依リテ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第百四十八條　「ディーゼル」式發動機ノ「クランク」軸ノ鋼製ノ腕ノ幅又ハ厚サハ左ノ各號ノ算式ニ依リ定メタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一　組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ナルトキ

$$w=0.438\ dc$$

$$t=0.625\ dc$$

dc ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑（粍ニテ）

w ハ「クランク」軸ニ於ケル腕ノ孔ノ周圍ノ半徑方向ノ厚サ（粍ニテ）

t ハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ（粍ニテ）

二　一體型「クランク」軸ナルトキ

$$b^2=0.417dc^3$$

dc ハ前號ニ同ジ

t ハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ（粍ニテ）ニシテ dc ノ〇・五六倍以上ナルコト

b ハ「クランク」軸ノ腕ノ幅（粍ニテ）

前項ノ規定ハ高速機關又ハ管海官廳差支ナシト認ムル機關ニ付テハ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百四十九條　「ディーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ中間軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d=C\sqrt[3]{n(1+M)D^2p\times\frac{r}{R}\times e}$$

d ハ中間軸ノ徑（粍ニテ）

D ハ氣筒ノ徑（粍ニテ）

S ハ行長（粍ニテ）

p ハ氣筒內平均有效圖示壓力（毎平方糎瓩ニテ）

n ハ「クランク」軸系ヲ異ニシテ同一推進軸系ニ聯動スル發動機ノ數

r ハ「クランク」軸ノ毎分計畫回轉數

R ハ中間軸ノ毎分計畫回轉數

e ハ「クランク」軸ト中間軸トノ間ニ裝置セラレタル動力傳導裝置又ハ變速裝置ノ總傳導率

M ハ第二項ノ規定ニ依リ算定シタル數ト左表ニ揭グルZトノ中小ナルモノ

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

氣筒數	「クランク」ノ配置	K	Z	C
一	｜	二六・二		〇・一一〇
二	＝	一六・八		〇・一一六
三	⅄	八・四		〇・一三九
四	＋	四・五		〇・一六〇
五	✳	二・九	甲種機關又ハ乙種機關	〇・一七五
六	✳	二・〇		〇・一八八
六	⅄⅄	一八・二		〇・二一一
六	✳	一一・八		〇・二〇〇
七	✳	一・五	丙種機關	〇・二一一
八	✳	九・二		〇・二一〇
八	＋	一〇・六		〇・二一九
九	✳	〇・八		〇・二一三
一〇	✳	五・七		〇・二一四
一一	✳	〇・三		〇・二一四
一二	✳	〇・二		〇・二一四

二　四衝程單働式ナルトキ

氣筒數	「クランク」ノ配置	K	Z	C
				甲種機關又ハ乙種機關
一		三一・八	〇・六八〇	〇・〇九二
二	丨	四一・〇	〇・五二七	〇・一一八
三	人	二四・一	〇・四一〇	〇・一二八
四	‖	一六・八	〇・三二六	〇・一四九
五	大	一三・八	〇・二五三	〇・一六一
六	人	八・四	〇・二〇〇	〇・一七一
七	✳	六・三	〇・一四〇	〇・一八〇
八	✳	四・五	〇・一〇六	〇・一八八
九	✳	四・一	〇・〇八四	〇・一九六
一〇	✳	三・四	〇・〇六二	〇・二〇三
一一	✳	二・八	〇・〇四九	〇・一九三
一二	✳	二・〇	〇・〇四〇	〇・二〇四

氣筒數	「クランク」ノ配置	K	Z	C
				甲種機關又ハ乙種機關
一		二五・二	⑨・一三二	〇・二六六
二	✳	三・五	〇・〇四〇	〇・二五三

三　二衝程複働式ナルトキ

氣筒數	「クランク」ノ配置	K	Z	C
				甲種機關又ハ乙種機關
一		一六・八	〇・三三〇	〇・一三三
二	L	四・五	〇・一〇六	〇・一七六
三	人	二・〇	〇・〇四一	〇・一九一
四	十	九・二	〇・一〇六	〇・二一一
五	大	〇・四	〇・〇〇八	〇・二二七
六	✳	三・五	〇・〇四一	〇・二五四
六	人	〇・三	〇・〇〇四	
六	✳	三・五		
七	✳	〇・二	〇・〇〇四	〇・二六七
八	✳	一・七	〇・〇一九	〇・二六六
九	✳	〇・二	〇・〇〇三	〇・二七六
一〇	✳	一・〇	〇・〇〇八	〇・二八七
一〇	人	一・〇	〇・〇〇八	
一二	✳	〇・二	〇・〇〇二	〇・二九五

四　四衝程複働式ナルトキ

氣筒數	「クランク」ノ配置	K	Z	C 甲種機關又ハ乙種機關	C 丙種機關
一	✳	二六・二	○・五二七	○・一一三	○・一〇七
二	｜	一六・八	○・三二六	○・一四二	○・一三五
三	㇒	三一・三	○・三〇〇	○・一六三	○・一五五
四	＋	四・五	○・一〇六	○・一七九	○・一七〇
五	✳	一六・二	○・一八四	○・一九三	○・一八三
六	㇒ ㇒ ✳	二・〇	○・〇四一	○・二〇五	○・一九五
六	㇒ ㇒ ✳	六三・二	○・〇四一	○・二〇五	○・一九五
六	㇒ ㇒ ✳	二・〇	○・二九八	○・二〇五	○・一九五
七	✳	八・五	○・〇九九	○・二一六	○・二〇五
八	✳ ＋	〇・九	○・〇一九	○・二一六	○・二一五
八	✳ ＋	九・二	○・一〇六	○・二一六	○・二一五
九	✳	四・五	○・〇五三	○・二一三	○・二一三
一二	✳	〇・四	○・〇〇四	○・三二〇	○・三〇四
一二	✳	六・八	○・〇〇四〇	○・三二〇	○・三〇四

氣筒數	「クランク」ノ配置	K	Z	C 甲種機關又ハ乙種機關	C 丙種機關
一〇	✳	〇・四	○・〇〇八	○・二四三	○・二三一
一〇	✳	〇・四	○・〇〇八	○・一八〇	○・二三八
一一	✳	一・八	○・〇三二	○・二五一	○・二三八
一二	✳	〇・二	○・〇〇四	○・二五九	○・二四六
一二	✳	三・五	○・〇〇四〇	○・二五九	○・二四六

備考

米印ヲ附シタルモノハ二箇ノ氣筒ガ同時ニ點火スルモノナルコトヲ示ス

M ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定スベシ

$$M = K\frac{10,000D^3S}{(6.24w\beta^2 + WF^2)R^2}$$

D ハ氣筒ノ徑(粍ニテ)

S ハ行長(粍ニテ)

w ハ「クランク」腕ニ附シタル釣合錘ノ重量(瓩ニテ)

b ハ「クランク」腕ニ附シタル釣合錘ノ重心點ヨリ「クランク」軸ノ中心線ニ至ル距離(粍ニテ)

W ハ勢車ノ重量(瓩ニテ)

F ハ勢車ノ外徑(粍ニテ)

R ハ軸ノ毎分回轉數

K ハ定數ニシテ前項ノ表ニ依ル

第二十類　通信、交通及電氣　第二編　交通

回轉力ノ變動ヲ少カラシムル特殊ノ裝置ヲ備フル推進軸系ノ推力軸又ハ中間軸ノ場合ニ在リテハ第一項ノZ及前項ノMノ數値ハ之ヲ管海官廳ノ適當ト認ムルモノト爲スコトヲ得

第百五十條　「ディーセル」式發動機ノ鍛鋼製ノ推力軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ一・〇五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第百五十一條　「ディーセル」式發動機ノ鍛鋼製ノ螺旋軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$ds = d\sqrt[4]{\frac{P}{C}}$$

ds ハ螺旋軸ノ徑(粍ニテ)

d ハ第百四十九條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(粍ニテ)

P ハ螺旋推進器ノ徑(粍ニテ)

Cハ定數ニシテ左表ニ依ル

第一種螺旋軸ナルトキ	一四四
第二種螺旋軸ナルトキ	一〇〇

第百五十二條　船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル發電機又ハ空氣壓縮機ヲ動作スル發動機ノ鍛鋼製ノ「クランク」軸ノ寸法ハ發動機ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十八條ノ規定ニ依リ丙種機關トシテ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第百五十三條　鍛鋼製中空軸ノ外徑ハ發動機及軸ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十七條、第百四十九條乃至第百五十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ左ノ係數Kヲ乘ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ但シ內徑が外徑ノ三分ノ一未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

$$K=\sqrt[3]{\frac{1}{1-R^4}}$$

Rハ中空軸ノ內徑ヲ外徑ニテ除シタル商

第百五十四條　鍛鋼製推力軸ハ推力受臺ノ前部及後部ニ於テハ其ノ徑ハ發動機ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十六條、第百四十九條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

鍛鋼製螺旋軸ハ前部軸錐ノ附近ニ於テハ其ノ徑が發動機ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十六條、第百四十九條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ一・〇五倍トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

第百五十五條　抗張力が不明ナル壓延黃銅製螺旋軸ノ徑ハ發動機ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十六條又ハ第百五十一條ノ規定ニ依リ算定シタル鍛鋼製第一種螺旋ノ徑ノ一・〇五倍以上トスベシ

第百五十六條　軸錐ヲ連結スル螺釘ノ軸錐連結面ニ於ケル徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d=0.75\sqrt{\frac{D^3}{Nd_1}}$$

dハ螺釘ノ徑(耗ニテ)

Nハ螺釘ノ數

d_1ハ螺釘心圈ノ徑(耗ニテ)

Dハ發動機ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十六條又ハ第百四十九條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(耗ニテ)

前項ノ螺釘が中間軸ノ回轉數ト異ル回轉數ノ「クランク」軸ニ用ウルモノナルトキハ前項ノ算式中ノDハ第百四十三條乃至第百四十七條ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)ニ〇・九五ヲ乘ジタルモノトス

螺釘心圈ニ於ケル軸錐ノ厚サハ第一項又ハ前項ノ規定ニ依リ算定シタル螺釘ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

螺旋軸ノ螺釘心圈ニ於ケル軸錐ノ厚サハ前項ノ規定ニ依ルノ外發動機ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十六條又ハ第百四十九條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ〇・二五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

軸錐根元ニハ當該軸ノ徑ノ〇・一二五倍ヨリ小ナラザル半徑ノ丸味ヲ附スベシ

軸錐ガ組成型ナルトキハ軸竝ニ軸錐ヲ後退力ニ堪フル樣適當ナル構造トスベシ

第百五十七條　船尾管後端ノ軸受部ノ長サハ第百四十三條乃至第百四十六條、第百五十一條又ハ第百五十五條ノ規定ニ依リ算定シタル螺旋軸ノ徑ノ四倍未滿トスコトヲ得ズ

螺旋軸ハ成ルベク其ノ軸身ニ海水ノ接觸セザル樣之ヲ適當ニ包被スベシ

螺旋軸ノ被金ノ厚サハ船尾管又ハ軸支肘ノ「ブッシュ」ニ當ル部分ニ付テハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$T=0.03ds+7.5$

Tハ被金ノ厚サ(耗ニテ)

dsハ發動機ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十六條又ハ第百五十一條ノ規定ニ依リ算定シタル螺旋軸ノ徑(耗ニテ)

前項以外ノ部分ノ被金ノ厚サハ前項ニ依リ算定シタルモノノ四分ノ三ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第百五十八條　發動機ノ電氣點火裝置ノ導線ハ完全ニ絕緣シタルモノニシテ損傷ヲ受クル虞ナク且油管、油槽又ハ油ト接觸セザル樣之ヲ敷設スベシ

整流子ハ之ヲ蔽圍スベシ

點火裝置ノ「コイル」ハ爆發性瓦斯ニ暴露スル虞アル場所ニ之ヲ備フルコトヲ得ズ

燃料油ノ點火又ハ氣化ノ爲燈ヲ使用スルトキハ之ヲ適當ナル臺ニ取附ケ且其ノ火焰ヲ蔽圍スベシ

第百五十九條　發動機ノ氣化器ハ發動機ノ停止シタル場合自働的ニ燃料ノ供給ヲ遮斷スル裝置ト爲スベシ

氣化器ガ油ノ溢出スル虞アルモノナルトキハ金網蓋ヲ有スル油受ヲ設ケ之ヲ排油裝置ヲ備フベシ

氣筒ト氣化器トノ間又ハ氣化器ノ空氣吸入口ニハ成ルベク金網ノ隔膜ヲ備フベシ

第百六十條　第百四十二條及前二條ノ規定ハ補機動作用ノ發動機ニ之ヲ準用ス

第二節　油槽、油管、潤滑油裝置等

第百六十一條　油槽、油管及此等ニ附屬スル弁竝ニ「コック」ニ付テハ本節ニ於テ特ニ規定シタルモノノ外第三章第十節ノ規定ヲ準用ス

第百六十二條　發動機ニハ其ノ停止中ニ於テモ手動「ポンプ」其ノ他ノ適當ナル方法ニ依リ氣筒ノ噴油弁ニ燃料油ヲ供給シ得ル裝置ヲ設クベシ

長サ三〇米以上ノ船舶ノ「ディーゼル」式發動機ノ燃料油管ニハ燃料油漉器二組ヲ備ヘ發動機ノ運轉中ト雖モ其ノ一組ヲ解放掃除シ得ル裝置ト爲スベシ

第百六十三條　重油管ニ非ザル燃料油ノ管ニハ適當ニ熱處理ヲ爲シタル引拔銅管ヲ用キ其ノ配置ハ伸縮ノ自由ヲ妨ゲザルモノト爲シ其ノ連結ハ金屬製ノ圓錐形又ハ球面形接合ト爲スベシ

第百六十四條　燃料重油管ニハ成ルベク引拔鋼管ヲ用キ其ノ配置ハ伸縮ノ自由ヲ妨ゲザルモノト爲スベシ

噴油「ポンプ」ト氣筒トヲ連絡スル燃料重油管ノ連結ハ成ルベク金屬製ノ圓錐形又ハ球面形接合ト爲スベシ

第百六十五條　燃料油管ハ容易ニ檢査スルコトヲ得且外部ヨリ損傷ヲ受

グル虞ナキ様敷設スベシ

第百六十六條　燃料油槽ハ之ヲ汽罐、汽管、廢氣管、消音器其ノ他ノ高熱物ヨリ適當ニ隔離シ其ノ弁又ハ「コツク」等ハ外部ヨリ損傷ヲ受クル虞ナキ安全ナル場所ニ取附クベシ

第百六十七條　燃料油槽ノ注油管ハ專用ノモノトシ成ルベク甲板上ニ達セシメ其ノ開口部ハ堅牢ナル蓋ヲ以テ密閉シ得ル裝置ヲ備ヘ木船ニ在リテハ此ノ排油ガ木製部分ヲ浸潤セザル樣裝置スベシ

揮發油槽及壓力ヲ受クル油槽ニハ適當ナル逃出弁ヲ備ヘ之ニ排氣管ヲ設ケ其ノ他ノ燃料油槽ニハ適當ナル空氣管ヲ設クベシ

前項ノ排氣管及空氣管ハ其ノ端ヲ暴露甲板上排氣ニ因ル危險ナキ場所ニ導キ且排氣ノ流通ヲ阻害シ又ハ波浪ノ侵入スル虞ナキモノト爲スベシ

第百六十八條　油槽ノ開口部ニハ容易ニ取外シ得ル堅牢ナル金網膜ヲ裝置スベシ

第百六十九條　船體ノ一部ヲ成サザル燃料油槽ニハ排油裝置ヲ設ケ且內部ノ檢査及掃除ヲ爲スニ適當ナル構造ト爲スベシ

前項ノ油槽ニハ金屬製油受ヲ備ヘ之ニ排油裝置ヲ設クベシ

第百七十條　前三條ノ規定ハ小形油槽ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百七十一條　彈壓ヲ受クル燃料油槽ノ强力ハ氣槽ノ强力ニ準ジ之ヲ算定スベシ

第百七十二條　相當ノ壓力ヲ以テ潤滑油ヲ循環セシムルヿトヲ要スル發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ常用動力潤滑油「ポンプ」ノ外該「ポンプ」中最大能力ノモノト同等ノ能力ヲ有シ且連續ナク使用シ得ル配置ト爲シタル豫備動力潤滑油「ポンプ」ヲ備ヘ且油冷却器ヲ備フルトキハ二樣ノ冷却水送水裝置ヲ備フベシ

前項ノ豫備潤滑油「ポンプ」ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ手動「ポンプ」ト爲シ又ハ之ヲ備ヘザルコトヲ得

「クランク」室ヲ潤滑油溜トシテ使用スル「クランク」室密閉式發動機ニハ「クランク」室內ノ油ヲ隨時排出シ得ル裝置ヲ備ヘ木船ニ在リテハ此ノ排油ガ木製部分ヲ浸潤セザル樣裝置スベシ

前項ノ發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ潤滑油ノ清淨機又ハ漉器ヲ備フベシ

潤滑油管系ニハ適當ノ位置ニ潤滑油ノ流動狀況ヲ見易キ樣適當ノ裝置ヲ備フルカ又ハ壓力計ヲ備フベシ

第百七十三條　機關室及燃料油槽ヲ設置シタル區畫室ハ通風良好ナルモノト爲スベシ

第三節　廢氣裝置及空氣壓縮機

第百七十四條　廢氣管及消音器ハ循環水ニ依リ之ヲ冷却スルカ又ハ之ニ適當ナル防熱裝置ヲ施スベシ

消音器ハ容易ニ掃除シ得ルモノト爲スベシ

二箇以上ノ發動機ノ廢氣ヲ一箇ノ消音器ニ導クトキハ停止セル發動機ノ氣筒內ニ廢氣ノ侵入セザル樣裝置スベシ

廢氣管ノ端ヲ船外ノ水線附近ニ開放スルトキハ氣筒ニ水ノ侵入セザル樣裝置スベシ

前四項ノ規定ハ補機動作用發動機ニ之ヲ準用ス

第百七十五條　長サ三〇米以上ノ船舶ニシテ單個掃除空氣「ポンプ」、獨立掃除送風機又ハ獨立複働掃除空氣「ポンプ」一箇ノミヲ備フルモノニ在リテハ其ノ二分ノ一以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル副掃除裝置ヲ備フベシ但シ獨立掃除送風機又ハ獨立複働掃除空氣「ポンプ」ヲ備フル場合ニ於テ該送風機又ハ「ポンプ」ガ其ノ動源ノ二分ノ一以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル他ノ動源ニ依リ容易ニ動作セラルルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百七十六條　空氣噴油式發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ全力運轉ニ必要ナル壓縮空氣ヲ供給シ得ル噴油用空氣壓縮機ノ外該壓縮機中最大能力ノモノノ二分ノ一以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル噴油用副空氣壓縮機ヲ備フベシ

始動ニ壓縮空氣ヲ要スル發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ始動用氣槽ニ壓縮空氣ヲ充塡スル正副二樣ノ裝置ヲ備ヘ少クトモ其ノ一ハ主機ト獨立ノ動力ニ依リ動作セラルルモノト爲スベシ但シ副裝置ハ發動機ガ壓縮空氣ニ依ラズシテ推進器ヲ反轉セシメ得ルモノナルカ又ハ小形ノモノナルトキハ管海官廳差支ナシト認ムル場合ニ限リ之ヲ手動空氣壓縮機ト爲シ又ハ之ヲ備ヘザルコトヲ得

前項ノ獨立動力空氣壓縮機ノ原動機ガ其ノ始動ニ壓縮空氣ヲ要スルモノナルトキハ應急用空氣壓縮機ヲ備フベシ

應急用空氣壓縮機ガ動力ニ依リ動作セラルルモノナルトキハ其ノ原動機ハ他ノ機關ノ停止中ト雖モ始動シ得ルモノナルコトヲ要ス

應急用空氣壓縮機ガ動力ニ依リ動作セラレ其ノ原動機ノ始動ニ壓縮空氣ヲ要スルモノナルトキハ該原動機ノ始動ニ用フル小形氣槽及之ニ充氣スル適當ナル手動空氣壓縮機ヲ備フベシ

立掃除送風機又ハ獨立複働掃除空氣「ポンプ」一箇ノミヲ備フルモノニ在リテハ其ノ二分ノ一以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル副掃除裝置ヲ備フベシ但シ獨立掃除送風機又ハ獨立複働掃除空氣「ポンプ」ヲ備フル場合ニ於テ該送風機又ハ「ポンプ」ガ其ノ動源ノ二分ノ一以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル他ノ動源ニ依リ容易ニ動作セラルルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百七十六條　空氣噴油式發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ全力運轉ニ必要ナル壓縮空氣ヲ供給シ得ル噴油用空氣壓縮機ノ外該壓縮機中最大能力ノモノノ二分ノ一以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル噴油用副空氣壓縮機ヲ備フベシ

始動ニ壓縮空氣ヲ要スル發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ始動用氣槽ニ壓縮空氣ヲ充塡スル正副二樣ノ裝置ヲ備ヘ少クトモ其ノ一ハ主機ト獨立ノ動力ニ依リ動作セラルルモノト爲スベシ但シ副裝置ハ發動機ガ壓縮空氣ニ依ラズシテ推進器ヲ反轉セシメ得ルモノナルカ又ハ小形ノモノナルトキハ管海官廳差支ナシト認ムル場合ニ限リ之ヲ手動空氣壓縮機ト爲シ又ハ之ヲ備ヘザルコトヲ得

前項ノ獨立動力空氣壓縮機ノ原動機ガ其ノ始動ニ壓縮空氣ヲ要スルモノナルトキハ應急用空氣壓縮機ヲ備フベシ

應急用空氣壓縮機ガ動力ニ依リ動作セラルルモノナルトキハ其ノ原動機ハ他ノ機關ノ停止中ト雖モ始動シ得ルモノナルコトヲ要ス

應急用空氣壓縮機ガ動力ニ依リ動作セラレ其ノ原動機ノ始動ニ壓縮空氣ヲ要スルモノナルトキハ該原動機ノ始動ニ用フル小形氣槽及之ニ充氣スル適當ナル手動空氣壓縮機ヲ備フベシ

手動空氣壓縮機ハ構造堅牢且容量充分ナルモノトシ使用上便宜ナル適當ノ場所ニ之ヲ備フベシ

第百七十七條　空氣壓縮機ノ壓縮筒ニハ安全弁又ハ逃出弁ヲ備ヘ各壓縮筒內ノ最大壓力ノ一・一倍以下ノ壓力ニ於テ逃氣スル樣之ヲ調整スベシ

壓縮空氣ノ冷却器ハ容易ニ解放シテ檢査及掃除ヲ爲シ得ル構造ト爲スベシ

第四節　氣槽

第百七十八條　發動機ノ始動用氣槽ノ容量ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$V=C\frac{nD^2S}{P-p}$$

Vハ始動用氣槽ノ容量(立方米ニテ)

nハ始動ノ際必要ナル始動弁ヲ備フル氣筒ノ數

Dハ氣筒ノ徑(米ニテ)

Sハ行長(米ニテ)

Pハ始動用氣槽內ノ壓縮瓦斯ノ最大使用壓力(毎平方糎瓩ニテ)

pハ定數ニシテ「ディーセル」式發動機ニ對シテハ一〇、燒球式發動機ニ對シテハ四

Cハ定數ニシテ「ディーセル」式發動機ニ對シテハ六〇、燒球式發動機ニ對シテハ一二但シ壓縮空氣ニ依ラズシテ推進器ヲ反轉セシメ得ル發動機ニ付テハ之ヲ夫々其ノ二分ノ一ト爲スコトヲ得

發動機二箇以上ヲ備フル船舶ノ發動機ノ始動用氣槽ノ容量ハ前項ノ算

式ニ依リ算定シタルモノノ一・五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第百七十九條　空氣噴油式發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ噴油用氣槽ハ二箇以上トシ其ノ一箇ヲ使用セザルモ發動機ノ運轉ニ支障ナキ裝置トヲスベシ但シ始動用氣槽ノ强力ガ噴油用空氣壓力ニ對シ充分ナルモノナルトキハ始動用氣槽ヲ以テ噴油用氣槽ノ全部又ハ一部トヲスコトヲ得

第百八十條　氣槽ノ構造ニ關シテハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第三章第二節ノ規定ヲ準用ス

第百八十一條　氣槽ノ制限壓力ハ前條ノ規定並ニ第百八十五條乃至第百八十八條ノ規定ニ依リ算定シタル氣槽各部ノ强力ニ對スル制限壓力中最小ノモノトス

第百八十二條　無接合筒形氣槽ノ胴板ノ第一號試驗片ニ依ル抗張試驗ニ於ケル標點間伸長百分率ハ第十六條第一號ノ表中其ノ他ノ鋼板ニ對スルモノヨリ二ヲ減ジタルモノトヲスコトヲ得

第百八十三條　氣槽ハ內部ノ檢查及掃除ヲ爲スニ適當ナル構造トヲスベシ

氣槽ニハ制限壓力及水壓試驗壓力ヲ適當ニ表示スベシ

氣槽ノ制限壓力ガ之ニ連絡スル空氣壓縮機ノ最大壓力ヨリ小ナルトキハ氣槽ニ適當ナル安全弁又ハ逃出弁ヲ備ヘ制限壓力ノ一・一倍以下ノ壓力ニ於テ逃氣スル樣之ヲ調整スベシ

氣槽ニハ取扱者ノ見易キ位置ニ壓力計ヲ備フベシ

氣槽ニハ其ノ下部ニ排水弁又ハ排水「コツク」ヲ備ヘ且成ルベク之ヲ二重ニ設クベシ

氣槽ニ接續スル管ニハ槽ニ接續スル部分ニ於テ弁又ハ「コツク」ヲ備フベシ

第百八十四條　氣槽ハ別ニ定ムル所ニ依ルノ外其ノ各部ヲ瓦斯熔接又ハ電氣熔接ニ依リ接合スルコトヲ得ズ但シ制限壓力毎平方糎一四瓲以下ニシテ鋼板ノ厚サ六粍以上ノモノニ付管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依リ熔接スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ氣槽ノ縱接合ヲ熔接シタルトキハ鏡板取附前檢查ヲ受クベシ

無接合氣槽又ハ鍛合若ハ瓦斯熔接シタル氣槽ハ附屬具取附ノ爲ノ機械工事ヲ行フ前之ニ適當ナル熱處理ヲ爲スコトヲ要ス電氣熔接シタル氣槽ニ付管海官廳ニ於テ必要ト認メタル場合亦同ジ

第百八十五條　無接合筒形氣槽又ハ鍛合若ハ熔接シタル筒形氣槽ノ胴ノ强力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトヲス

$$P=\frac{\frac{1}{6}(C\times S\times(T-1.5)}{D}$$

P　ハ制限壓力(毎平方糎瓲ニテ)

S　ハ胴板ノ抗張力(毎平方粍瓲ニテ)

D　ハ胴ノ內徑(粍ニテ)

T　ハ胴板ノ厚サ(粍ニテ)

C　ハ無接合氣槽ニ在リテハ五二、鍛合又ハ熔接シタル氣槽ニ在リテハ三六

第百八十六條　筒形氣槽ノ支柱ヲ有セザル扁平鏡板ノ强力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{2675(T-1.5)^2}{D^2}$$

P　ハ制限壓力(毎平方糎瓲ニテ)

D　ハ鉄又ハ螺釘ヲ以テ鏡板ヲ胴ニ固著シタル場合ニハ鉄又ハ螺釘心圓ノ徑(粍ニテ)、平板ヲ胴ニ熔接シタル場合ニハ胴ノ內徑(粍ニテ)

T　ハ鏡板ノ厚サ(粍ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタルトキハ其ノ厚サヨリ三粍ヲ減ジタルモノ

S　ハ鏡板ノ抗張力(毎平方粍瓲ニテ)

$$P=\frac{2332(T-1.5)^2}{d^2}$$

P　ハ制限壓力(毎平方糎瓲ニテ)

S　ハ鏡板ノ抗張力(毎平方粍瓲ニテ)

T　ハ鏡板ノ厚サ(粍ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタルトキハ其ノ厚サヨリ三粍ヲ減ジタルモノ

d　ハ鏡板ノ曲緣ノ彎曲起點ヲ連ヌル圓ノ徑但シ曲緣ノ彎曲ノ內半徑カ鏡板ノ曲緣部ノ厚サノ二・五倍ヨリ大ナルトキハ胴ノ內徑ヨリ鏡板ノ曲緣部ノ厚サノ七倍ヲ控除シタルモノ(粍ニテ)

第百八十八條　筒形氣槽ノ內徑ヨリ大ナラザル內半徑ヲ有スル球面狀ノ鏡板ニシテ支柱ヲ備ヘザルモノノ强力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{C\times S\times(T-1.5)}{R}$$

P　ハ制限壓力(毎平方糎瓲ニテ)

S　ハ鏡板ノ抗張力(毎平方粍瓲ニテ)

T　ハ鏡板ノ厚サ(粍ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタルトキハ其ノ厚サヨリ三粍ヲ減ジタルモノ

R　ハ鏡板球面ノ內半徑(粍ニテ)

C　ハ鏡板ガ氣槽ノ外方ニ突出スルモノナルトキハ二五・七、內方ニ突入スルモノナルトキハ二〇・五

前項ノ鏡板ト胴トヲ接合スル爲曲緣シタル部分ノ彎曲內半徑ハ鏡板ノ厚サノ四倍未滿ナルコトヲ得ズ

第五節　排水、吸水及冷却水ニ關スル裝置

第百八十九條　排水、吸水及冷却水ニ關スル裝置ニ付テハ第百條、第百四條及第百八條ノ規定並ニ本節ニ於テ特ニ規定スル場合ヲ除クノ外第三章第七節及第百三十八條ノ規定ヲ準用ス

第百九十條　發動機ノ冷却水ヲ船外ヨリ吸引スル管ニハ適當ナル弁除ヲ備ヘ且之ヲ解放又ハ掃除ヲ爲ス場合ニ於テモ當該發動機ヲ停止スルコトヲ要セザル裝置ト爲スベシ

冷却水又ハ冷却油ノ排出管ニハ溫度計ヲ備ヘ且成ルベク管內ノ流動狀況ヲ見得ル裝置ヲ設クベシ

冷却「ポンプ」ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テモ他ノ動力「ポンプ」ニ依リ遲滯ナク充分冷却水又ハ冷却油ヲ供給セシメ得ル樣裝置スベシ

氣筒二箇以上ヲ備フル發動機ニ在リテハ各氣筒ニ供給スル冷却水又ハ冷却油ノ量ヲ加減シ得ル裝置ヲ設クベシ

氣筒ノ水包室及冷却水管ノ最低部ニハ排水裝置ヲ備フベシ

前五項ノ規定ハ小形船ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

冷却水又ハ冷却油ハ冷却スベキ部分ノ成ルベク高キ箇所ヨリ之ヲ排出セシムベシ

第百九十一條　脚荷水「ポンプ」ハ機關室ノ淦水ヲ直接吸引シ得ル樣裝置スベシ

第六節　水壓試驗

第百九十二條　「ディーゼル」式發動機ノ氣筒、內筒、氣筒蓋、鑄造「ピストン」、氣筒高壓部ニ附屬スル諸弁匣又ハ鑄造噴油「ポンプ」ハ之ヲ製造シ創仕上ヲ爲シタルトキ左表ニ依リ水壓試驗ヲ執行スベシ但シ管海官廳ノ見込ニ依リ內面ヲ仕上ゲ且外面ヲ適當ニ旋削シテ十分ニ檢査ヲ爲シ重大ナル缺點ナキモノト認メタル內筒ノ水壓試驗及內外兩面ヲ適當ニ創仕上ゲタル「ピストン」ノ高溫高壓ノ氣體ニ接觸スル部分ノ水壓試驗ハ之ヲ省略シ又內筒ヲ有セザル氣筒若ハ氣筒蓋等ノ高溫高壓ノ氣體ニ接觸スル部分ノ水壓試驗ハ其ノ冷却部ヲ每平方糎一〇瓩以上ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

水壓試驗執行部分	試驗壓力
氣筒又ハ內筒ノ高溫高壓部ニシテ行長ノ三分ノ一ニ相當スル間	氣筒內ノ最大壓力ノ一・五倍ノ壓力
氣筒蓋ノ高溫高壓ノ氣体ニ接觸スル部分	同右
「ピストン」ノ高溫高壓ノ氣体ニ接觸スル部分	同右
氣筒高壓部附屬諸弁匣	同右
「ピストン」ノ冷却部	每平方糎四瓩
氣筒水包室、氣筒蓋ノ冷却部	每平方糎四瓩
噴油「ポンプ」	常用最大壓力ガ每平方糎四〇〇瓩未滿ナルトキハ其ノ一・五倍ノ壓力、每平方糎四〇〇瓩以上ナルトキハ常用最大壓力ニ每平方糎二〇〇瓩ヲ加ヘタルモノ

前項ノ規定ハ船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル發電機又ハ空氣壓縮機ヲ動作スル「ディーゼル」式發動機ニ之ヲ準用ス但シ小形「ディーゼル」式發動機ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百九十三條　「ディーゼル」式發動機ノ噴油用又ハ始動用ノ空氣壓縮機ノ壓縮筒、壓縮筒蓋若ハ壓縮空氣弁匣ハ之ヲ製造シ創仕上ヲ爲シタルトキ空氣部ハ最大壓力ノ一・五倍、水部ハ每平方糎二瓩ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

壓縮空氣冷却器ハ之ヲ製造シタルトキ空氣部ハ該部ニ於ケル空氣ノ最大壓力ノ一・五倍、水部ハ該部ニ於ケル冷却水ノ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第百九十四條　潤滑油「ポンプ」、燃料油「ポンプ」又ハ冷却「ポンプ」ノ油筒、水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ創仕上ヲ爲シタルトキ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

油冷却器又ハ清水冷却器ハ之ヲ製造シタルトキ附屬具ヲ取附ケタル儘常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ試驗スベシ

前二項ノ規定ハ小形發動機ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百九十五條　氣槽ハ左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

一　鉄接合又ハ無接合ノモノナルトキ　制限壓力ノ一・五倍ノ壓力

二　鍛合又ハ熔接合ノモノナルトキ　制限壓力ノ二・〇倍ノ壓力

氣槽ニ附屬スル弁若ハ「コツグ」ハ之ヲ製造シ仕上ゲタルトキ制限壓力ノ一・五倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ但シ空氣管ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百九十六條　燃料油槽ハ之ヲ製造シタルトキ附屬具ヲ取附ケタル儘頂板上二・五米以上ノ水高壓力又ハ之ニ相當スル壓力ヲ以テ試驗スベシ但シ强壓油槽ノ試驗壓力ハ油槽ノ常用壓力ノ二倍トス

第百九十七條　機關室內ニ在ル燃料油管系ハ噴油管系ヲ除クノ外船內取附後每平方糎二瓩ノ壓力ヲ以テ試驗スベシ但シ短小ナル燃料油管系ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

第百九十八條　燃料油加熱用蒸汽管ハ船內取附後常用最大汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第百九十九條　第百二十一條及第百二十二條ノ規定ハ發動機ヲ備フル船舶ニ付之ヲ適用ス但シ小形船ノ發動機ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第七節　補汽罐

第二百條　補汽罐ノ構造、附屬品、給水裝置其ノ他ニ付テハ蒸汽機關ヲ備フル船舶ノ補汽罐ニ關スル規定ヲ適用ス但シ發動機ノ廢氣ニ依リ加熱スル補汽罐ノ安全弁ノ面積ノ算定ニ當リテハ第七十八條第一項ノ算式中定數Kハ三・三ト爲スベシ

第五章　特殊施設

第二百一條　寒冷ノ地域ニ碇泊スルコトアルベキ船舶ノ發動機ハ碇泊中其ノ冷却水ヲ排出スル裝置及出火ノ虞ナキ適當ナル始動促進裝置ヲ備ヘ且潤滑油ノ凝固ヲ防止スル樣之ヲ適當ニ裝置スベシ

結氷セル水域又ハ浮氷多キ水域ヲ主トシテ航行スル船舶ノ螺旋軸ノ徑ハ成ルベク第三十五條、第百四十三條乃至第百四十六條、第百五十一條、第百五十三條又ハ第百五十五條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ一・〇五ヲ乘ジタルモノト爲スベシ

前項ノ船舶ノ螺旋推進器ノ翼ノ材料ハ成ルベク通常ノ鑄鐵ニ非ザル他ノ强靱ナルモノト爲スベシ

第一項ノ船舶ノ外板ニ取附クル弁、「コツク」又ハ脚筒等ハ氷又ハ寒氣ノ爲損傷セザル樣之ヲ適當ニ裝置スベシ

第一項ノ船舶ノ外板ニ於ケル循環水又ハ冷却水ノ吸入口ハ氷ノ爲閉塞セラルルコトヲ防止スル樣之ヲ適當ニ裝置スベシ

第二百二條　汽機、發動機若ハ他ノ機械ノ回轉部若ハ往復動部、機關ノ高熱部又ハ强電氣ノ帶電部ハ之ヲ監視シ若ハ操作スル者又ハ之ニ近接スル者適當ナル注意ヲ怠リタル場合ノ外傷害ヲ受ケザル樣適當ニ施設スベシ

第二百三條　機關室其ノ他通風良好ナラザル場所ハ油瓦斯、「アンモニ

ア」瓦斯其ノ他取扱者ノ健康ニ障害ヲ及ボシ易キ瓦斯ノ漏洩停滯ヲ防止スル樣適當ニ施設スベシ

第六章　纜裝品及備品

第二百四條　蒸汽溜其ノ他ノ高溫ノ受壓容器ノ材料、構造、强力及試驗ニ付テハ第三章第二節乃至第五節ノ規定ヲ準用ス

前項以外ノ受壓容器ノ材料、構造、强力及試驗ニ付テハ第四章第四節及同章第六節ノ規定ヲ準用ス

第二百五條　纜裝品ハ前條ニ規定セザルモノト雖モ其ノ用途ニ應ジ適當ニ之ヲ構造スルコトヲ要ス

管海官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ纜裝品ニ付適當ノ試驗ヲ執行スルコトアルベシ

別表甲

名稱 ＼ 航行區域	遠洋區域	近海區域	沿海區域	平水區域	摘要
「ビストン」環	各一組	同	上	同	
「ビストン」發條	各一組	同	上	同	
「ビストン」抑環螺釘及母螺	六箇	同	上	三箇	
滑弁桿	各形一箇			上	
偏心器桿	各形一箇				
連接桿上下ノ栓受金	一桿分	同	上	同	
連接桿上下ノ螺釘及母螺	一桿分	同	上	同	
「グランド」軸受螺釘及母螺	各種一組	同	上	同	
「ローター」軸受金	各形一組	同	上	同	
「ローター」軸受螺釘及母螺	各種一組	同	上	同	
減速裝置軸受金	各形一組	同	上	同	
減速裝置ノ軸受螺釘及母螺	各種一組	同	上	同	
「ローター」推力受及調整片	各「タービン」ニ付片面一組	同	上	同	
「ローター」軸汽密裝置	各填座毎ニ半組	同	上	同	
接軸錫螺釘及母螺	各種一組	同	上	同	
單環式推力軸推力受及調整片	片面分	同	上	同	
復水器管	總數ノ四十分ノ一但シ最少十本	同	上	同	
復水器管壇筒	總數ノ三十分ノ一但シ最少三十箇	同	上	同	
抽氣「ポンプ」桿	一箇	同	上	同	
抽氣「ポンプ」弁	一臺分	同	上	同	
循環水「ポンプ」桿	一箇	同	上	同	
循環水「ポンプ」弁	一臺分	同	上	同	
給水「ポンプ」弁	一臺分	同	上	同	

第二百六條　機關備品ハ左ノ各號ニ應ジ之ヲ機關室及ハ船內適當ノ場所ニ備フベシ但シ管海官廳必要ナシト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　蒸汽機關ヨリ推進セラルル船舶　別表甲

二　發動機ニ依リ推進セラルル船舶　別表乙

三　前號ノ船舶ニシテ補汽纜ヲ備フルモノ　別表乙及別表甲中汽纜ニ關スルモノ

四　船舶推進ニ必要ナル主發電裝置又ハ正空氣壓縮裝置ノ原動機トシテ補發動機ヲ備フルモノ　前各號ニ依ルノ外別表乙中「ビストン」環乃至潤滑油「ポンプ」弁及發條ニ付近海區域以上ヲ航行スル船舶ハ沿海區域ニ對スル規定ニ依リ沿海區域ヲ航行スル船舶ハ平水區域ニ對スル規定ニ依ル

「グランド」軸受螺釘及母螺	各種一組	同	上			
「ローター」軸受金	各形一組	同	上			
「ローター」軸受螺釘及母螺	各種一組	同	上			
減速裝置軸受金	各形一組	同	上			
減速裝置ノ軸受螺釘及母螺	各種一組	同	上			
「ローター」推力受及調整片	各「タービン」ニ付片面一組	同	上			
「ローター」軸汽密裝置	各填座毎ニ半組	同	上			
接軸錫螺釘及母螺	各種一組	同	上			
單環式推力軸推力受及調整片	片面分	同	上			
復水器管	總數ノ四十分ノ一但シ最少十本	同	上			
復水器管壇筒	總數ノ三十分ノ一但シ最少三十箇	同	上			
抽氣「ポンプ」桿	一箇	同	上			
抽氣「ポンプ」弁	一臺分	同	上			
循環水「ポンプ」桿	一箇	同	上			
循環水「ポンプ」弁	一臺分	同	上			
給水「ポンプ」弁	一臺分	同	上			

「ビストン」環	各一組	同	上			
「ビストン」發條	各一組	同	上			
「ビストン」抑環螺釘及母螺	六箇	同	上	三箇		
滑弁桿	各形一箇			上		
偏心器桿	各形一箇					
連接桿上下ノ栓受金	一桿分	同	上	同		
連接桿上下ノ螺釘及母螺	一桿分	同	上	同		
「グランド」軸受螺釘及母螺	各種一組	同	上	同		
「ローター」軸受金	各形一組	同	上	同		
「ローター」軸受螺釘及母螺	各種一組	同	上	同		
減速裝置軸受金	各形一組	同	上	同		
減速裝置ノ軸受螺釘及母螺	各種一組	同	上	同		
「ローター」推力受及調整片	各「タービン」ニ付片面一組	同	上	同		
「ローター」軸汽密裝置	各填座毎ニ半組	同	上	同		
接軸錫螺釘及母螺	各種一組	同	上	同		
單環式推力軸推力受及調整片	片面分	同	上	同		
復水器管	總數ノ四十分ノ一但シ最少十本	同	上	同		
復水器管壇筒	總數ノ三十分ノ一但シ最少三十箇	同	上	同		
抽氣「ポンプ」桿	一箇	同	上	同		
抽氣「ポンプ」弁	一臺分	同	上	同		
循環水「ポンプ」桿	一箇	同	上	同		
循環水「ポンプ」弁	一臺分	同	上	同		
給水「ポンプ」弁	一臺分	同	上	同		

淦水「ポンプ」弁	一	臺	分	同	上
潤滑油「ポンプ」弁及發條	一	臺	分	同	上
逃出弁發條	各種一箇			同	上
噴油「ポンプ」弁及發條	一	臺	分	同	上
移油「ポンプ」弁及發條	一	臺	分	同	上
給水制限弁	一	罐	分	同	上
安全弁發條	各罐ニ付一箇			同	上
火床棧	總數ノ五分ノ一			同	上
燃油裝置用噴油器	各罐ニ付一箇			同	上
微粉炭燃燒裝置用碎炭具	各罐ニ付一箇			同	上
自動給炭機部分品	一	組		同	上
示面計硝子管	汽罐二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組			同	上
管擴器	各罐ニ付四箇但シ最少六箇			同	上
管塞器	各罐ニ付四箇但シ最少八箇			同	上

滑車及綱	二	組		一	組
螺旋切道具	一	組		同	上
鑽孔器	一	組		同	上
轆	一	箇		同	上
金敷	一	箇		同	上
据附萬力	一	箇		同	上
鋼板	各種若干			同	上
鋼棒	各種若干			同	上
螺釘及母螺	各種若干			同	上
機關室小道具	一	揃		同	上
驗鹽器	二	箇		同	上
温度計	二	箇		同	上

備考　汽機又ハ同一用途ノ「ポンプ」ニシテ同形ノモノ二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ「ピストン」環乃至逃出弁發條ハ之ヲ汽機又ハ該「ポンプ」一箇分ニ止ムルコトヲ得

別表乙

航行區域 / 名稱	遠洋區域	近海區域	沿海區域	平水區域	摘要
氣筒蓋弁其ノ他ノ附屬品ノ完備セルモノ	各形一組	同上	同上	同上	長サ五〇米以上ノ船舶ニ備フル「ディーゼル」式發動機ニ限ル
「ピストン」完備セルモノ	一組	同上	同上	同上	同右

汽罐ニ燃油裝置ヲ備フルモノニ限ル				同	上
同右				同	上
汽罐四箇以上ナルトキハ更ニ一罐分增備スベシ				同	上
同形ニシテ相轉用シ得ルモノナルトキハ三箇ニ止ムルコトヲ得	總數ノ十分ノ一			同	上
汽罐四箇分ニ止ムルコトヲ得	總數ノ十分ノ一但シ最少四箇			同	上
特殊ノ構造ノモノハ各罐ニ付一箇ナルモ差支ナシ	六	箇		同	上
中半數ハ汽罐前面ニ於テ直ニ使用シ得ルモノナルコトヲ要シ水管汽罐ニハ管寨栓ヲ上記ノ倍數備フベシ但シ汽罐四箇分ニ止ムルコトヲ得	三	箇		同	上
湖沼ノミヲ航行スル船舶ニハ之ヲ備フルヲ要セズ	一	箇		同	上

「ピストン」環	二	組	同	上	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	上	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一組ノ端數ニ超ユルコトヲ要セズ但シ二組
噴油弁	弁座、弁匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ		同	上	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	上	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一組
吸氣弁	弁座、弁匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ		同	上	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	上	一
廢氣弁	弁座、弁匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ		氣筒一箇毎ニ一組	同	上	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	上
始動弁	弁座、弁匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ		二	組	一	組	上
噴油管及接合金具			氣筒一箇毎ニ一氣筒分	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一氣筒分	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一氣筒分	一氣筒分	無空氣噴油「ディーセル」式發動機ニ限ルモノハ半數ニ止ムルコトヲ得
「ピストン」冷却用抜差管又ハ搖動管			一	組	同	上	中半數ハ弁、弁座及發條ノミニ止ムルコトヲ得
「クランク」軸受螺釘及母螺			一	軸受	分	同	上	複働式ナルトキハ上記ノ倍數トス
減速裝置軸受金			各	形	一組	同	上	燒球式發動機ナルトキハ噴油器口金ノミニ止ムルコトヲ得
減速裝置ノ軸受螺釘及母螺			各	種	一組	同	上	中半數ハ弁、弁座及發條ノミニ止ムルコトヲ得
單環式推力軸推力受及調整片			片	面	分	同	上	複働式ナルトキハ上記ノ倍數トス
連接桿上下ノ栓受金			一	桿	分	同	上	同右
連接桿上下ノ螺釘及母螺			一	桿	分	同	上	單働式發動機ニ在リテハ上部受金ノ上半及下部受金ノ下半ノミニ止ムルコトヲ得
接軸錐螺釘及母螺			各種	一組	同	上	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一氣筒分	同
正副空氣壓縮機ノ壓縮筒ノ「ピストン」環			各形	一組	同	上	同	同
正副空氣壓縮機ノ吸入弁及排出弁竝ニ發條			各形	半組	同	上	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一氣筒分	一
掃除空氣「ポンプ」弁及發條			一	組	同	上	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一氣筒分	同
燒球式發動機ノ掃除空氣弁			氣筒一箇毎ニ一氣筒分	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一氣筒分	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一氣筒分	一氣筒分	四氣筒分ニ止ムルコトヲ得燒球式發動機ニ在リテハ弁、弁座及發條ノミニ止ムルコトヲ得
噴油「ポンプ」ノ動作部			一	箇	同	上	同	同
氣筒、氣筒蓋、「ピストン」等ノ冷却「ポンプ」ノ扇車軸			各形	一臺	分	同	上	同
氣筒、氣筒蓋、「ピストン」等ノ冷却「ポンプ」ノ弁及發條			一	臺	分	同	上	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一箇	同
潤滑油「ポンプ」弁及發條			一	臺	分	同	上	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一箇	同
移油「ポンプ」弁及發條			一	臺	分	同	上	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一箇	同
冷水「ポンプ」弁			一	臺	分	同	上	氣筒一箇毎ニ一箇	同
燒球			點火栓					氣筒一箇毎ニ一箇	同
電池			常用ノ半數						

電線	若干	同上	｜	｜	
始動用燈	常用ノ外二箇	同上	常用ノ外一箇	｜	
滑車及綱	二組	一組	｜	｜	
螺旋切道具	一組	同上	｜	｜	近海區域ヲ航行スル小形帆船ニ在リテハ省略スルコトヲ得
鑽孔器	一組	同上	｜	｜	同右
鞴	一箇	同上	｜	｜	同右
金敷	一箇	同上	｜	｜	同右
据附萬力	一箇	同上	｜	｜	同右
鋼板	各種若干	同上	｜	｜	同右
鋼棒	各種若干	同上	｜	｜	同右
螺釘及母螺	各種若干	同上	同上	同上	
機關室小道具	一揃	同上	同上	同上	
温度計	二箇	同上	一箇	同上	

備考　發動機又ハ同一用途ノ「ポンプ」ニシテ同形ノモノ二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ氣筒蓋乃至點火栓ハ之ヲ該發動機又ハ該「ポンプ」一箇分ニ止ムルコトヲ得第二百六條ノ補發動機ニ付亦同ジ

附　則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル機關ノ構造若ハ寸法又ハ機關ニ關スル設備ニシテ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

附　則（昭和十五年八月遞信省令第四五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル機關ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

優秀船舶建造助成金交付申請方

（昭和十二年四月一日遞信省告示第八百二十六號）

【沿革】　昭和十三年十月告示第三一三一號改正

優秀船舶建造助成金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ左記ニ依リ遞信省ニ申請書ヲ差出スベシ

一　助成金ノ交付ヲ受クベキ者ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル會社ナルコト

二　助成金ノ交付ヲ受クベキ船舶（以下助成船ト稱ス）ヲ分チテ第一種船及第二種船ノ二種トスルコト

(イ)　第一種船ハ左ノ條件ニ適合スルモノナルコト但シ總噸數及速力ニ付テハ遞信大臣ニ於テ左ノ限度ニ達セザルモノヲ承認スルコトアルベキコト

總噸數　六、〇〇〇噸以上

速力（五分ノ一載荷狀態、正常最大馬力）　一九節以上

旅客定員　船ノ長サ（米）ノ自乘ヲ一〇〇ニテ除シタル數以上

(ロ)　第二種船ハ左ノ條件ニ適合スルモノナルコト但シ遞信大臣ニ於テ左ノ限度ニ達セザルモノヲ承認スルコトアルベキコト

總噸數　六、〇〇〇噸以上

速力（五分ノ一載荷狀態、正常最大馬力）　一九節以上

旅客定員　一二人以下

三　助成船ハ内地造船所ニ於テ建造シ内地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍ヲ定ムベキコト

四　助成船ノ建造ニ付テハ左ノ各號ニ依ルベキコト

(イ)　建造計畫及造船所ニ付遞信大臣ノ承認ヲ受クルコト

(ロ)　仕樣書及圖面ニ付遞信大臣ノ承認ヲ受クルコト

(ハ)　船型及推進器ニ付水槽試驗ヲ受ケ其ノ選定ニ付遞信大臣ノ承認ヲ受クルコト但シ遞信大臣ニ於テ特ニ認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラザルコト

(ニ)　材料、機關及艤裝品ニ付テハ本邦製品ヲ使用スルコト但シ本邦ニ於テ製作困難ナル場合、急速ノ需要ニ應ジ難キ場合其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ遞信大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラザルコト

(ホ)　遞信大臣ノ適當ト認ムル所ニ依リ速力試驗ヲ執行スルコト

五　第一種船ノ助成金ハ命令書ノ定ムル所ニ依リ總噸數一噸ニ付速力ニ應ジ左ノ算式ニ依リ算定シタル金額Y（圓）ノ年賦償還ニ對スル元利補給ノ方法ヲ以テ支給スルコト

$$Y=47V-738.5$$

Vハ速力（節）ニシテ計畫速力ヲ超過スルトキハ之ヲ計畫速力ニ止ム

六　第二種船ニ對スル助成金ハ總噸數一噸ニ付四〇圓トシ龍骨据附ノトキ其ノ四分ノ一以內ヲ、竣工ノトキ其ノ殘餘ヲ支給スルコト

七　前二項ノ助成金ハ竣工總噸數ガ計畫總噸數ヲ超過スルトキハ其ノ超過噸數ニ付テハ之ヲ支給セザルコト又一噸未滿ノ端數ニ付テハ之ヲ支給セザルコト

八　申請書ニハ助成船建造計畫書（附錄書式）ヲ添附スルコト

九　由請書ハ昭和十二年四月一日ヨリ昭和十五年三月末日迄ニ之ヲ提出スベキコト

十　第一種船ハ遞信大臣ノ命ズル條件ニ從ヒ其ノ指定スル航路ニ之ヲ就航セシムベキコト

十一　助成金ノ交付ヲ受ケテ建造シタル船舶ニ付テハ命令書ノ定ムル所ニ依リ必要事項ヲ遞信大臣ニ届出ヅルコト

十二　助成金ノ交付ヲ受ケテ建造シタル船舶ハ命令書ノ定ムル所ニ依リ遞信大臣ノ承認ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ讓渡シ、貸渡シ若ハ擔保ニ供シ又ハ之ニ著シキ改造若ハ變更ヲ加フルコトヲ得ザルコト

十三　助成金ノ交付ヲ受ケテ建造シタル船舶ハ遞信大臣ノ承認ヲ受クルニ非ザレバ之ニ外國人船員ヲ乘組マシムルコトヲ得ザルコト

十四　命令書ノ規定ニ違反シタルトキハ契約ヲ解除シ、助成金ノ支給ヲ廢止シ、既ニ支給シタル助成金ヲ還納セシメ又ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ相當ノ違約金ヲ徵收スルコトアルベキコト

十五　本告示ニ於テ速力トハ正常最大馬力ニ對スル速力ニシテ第四項(ホ)號ノ試驗ニ依リ測定シタルモノヲ謂ヒ船ノ長サトハ船舶滿載吃水線規程第四條ニ規定スルモノヲ謂フコト

附錄書式

助成船建造計畫書

一　第一種船又ハ第二種船ノ別及用途
二　計畫船體主要寸法及夏期滿載吃水
三　計畫總噸數
四　計畫重量噸數
五　計畫各等旅客定員
六　機關ノ種類、數及主要項目
七　計畫馬力
八　計畫速力
九　船級ノ登錄ヲ爲サントスル船級協會名
十　建造セントスル造船所名
十一　製造番號
十二　龍骨据附豫定年月日
十三　竣工豫定年月日
十四　製造價格
十五　就航豫定航路

年　月　日

住所
氏名　印

●船舶改善助成金ノ交付ヲ受ケントスル者申請書差出方

（昭和十一年五月二十九日遞信省告示第千二百一號）

【沿革】昭和十四年三月告示第五八六號改正

本邦老齡船ノ解體ヲ條件トシテ內地造船所ニ於テ船舶ヲ建造シ船舶改善助成金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ左記ニ依リ遞信省ニ申請書ヲ差出スベシ

一、解體セラルベキ船舶（以下解體船ト稱ス）ハ總噸數千噸以上ニシテ船齡二十五年以上且昭和十一年六月一日ニ於テ現ニ內地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍ヲ有スル鋼製又ハ鐵製汽船ナルベキコト但シ船齡ニ付テハ遞信大臣ニ於テ特ニ認ムル場合ニ限リ二十五年未滿ナルモ妨ナキコト

二、建造セラルベキ船舶（以下代船ト稱ス）ハ總噸數四千噸以上且速力（節ニテ）ガ其ノ長サ（米ニテ）ノ平方根ノ一、三倍以上ノ鋼製貨物汽船ナルベキコト但シ速力ニ付テハ遞信大臣ニ於テ特ニ認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラザルコト

三、解體船ノ總噸數ハ遞信大臣ノ認ムル場合ノ外代船ノ總噸數以上ナルベキコト

四、解體船ノ總噸數ガ代船ノ總噸數ヲ超エルトキハ遞信大臣ノ承認ヲ受ケ其ノ超エル噸數ヲ他ノ代船ニ對スル解體噸數ニ充當スルヲ得ルコト

五、代船ハ內地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍ヲ定ムベキコト

六、代船ノ建造ニ付テハ左ノ各號ニ依ルベキコト

(イ)　仕樣書及圖面ニ付遞信大臣ノ承認ヲ受クルコト

(ロ)　船型及推進器ニ付水槽試驗ヲ受ケ其ノ選定ニ付遞信大臣ノ承認ヲ受クルコト但シ遞信大臣ニ於テ特ニ認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラザルコト

(ハ)　材料、機關及艤裝品ニ付テハ本邦製品ヲ使用スルコト但シ本邦ニ於テ製作困難ナル場合、急速ノ需要ニ應ジ難キ場合其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ遞信大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラザルコト

(ニ)　遞信大臣ノ適當ト認ムル所ニ依リ速力試驗ヲ執行スルコト

(ホ)　船舶安全法ニ依ル製造檢査又ハ之ト同等程度ノ製造檢査ヲ受クルコト

七、解體船ハ代船竣工後解體ニ著手シ且命令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇年以內ニ解體スベキコト但シ戰時又ハ事變ニ際シ特ニ遞信大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラザルコト

八、助成金ハ別表ノ定ムル所ニ依リ支給スルコト

九、申請者ハ左ノ各號ノ書類（(イ)乃至(ハ)ハ各二通宛）ヲ具シ船舶改善協會ヲ經テ遞信大臣ニ申請スベキコト

(イ)　代船件名書（第一號書式）

(ロ)　解體船件名書（第二號書式）

(ハ)　代船ノ船體及機關ノ製造計畫書

(ニ)　解體船主代船船主間ニ於ケル解體船ノ解體ニ關スル契約書及其ノ寫

(ホ)　第四項ニ依リ承認ヲ受ケタル噸數ヲ解體噸數ニ充當セントスルトキハ其ノ承認書

十、申請書ハ昭和十一年六月一日ヨリ昭和十二年二月末日迄ニ之ヲ提出スベキコト但シ同一代船船主ハ昭和十一年八月末日迄及同年九月一日以降ノ各期間内ニ於テ各一隻ヲ超ユル代船ニ付申請書ヲ提出スルヲ得ザルコト

十一、助成金支給ノ方法ハ左ノ各號ニ依ルコト

(イ)　助成金ハ代船ノ龍骨据附ノ時ニ其ノ二分ノ一以内ヲ支給シ殘餘ハ其ノ竣工ノ時ニ支給スルコト

(ロ)　助成金ハ船舶改善協會ヲ經テ之ヲ支給スルコト

十二、解體船カ解體著手前ニ沈沒若ハ滅失シ又ハ重大ナル損傷ノ爲再用困難ト爲リタルトキハ當該解體船ニ相當スル他ノ船舶ヲ以テ之ニ代フベキコト

十三、助成金ノ交付ヲ受ケテ建造シタル船舶ハ命令書ノ定ムル所ニ依リ遞信大臣ノ承認ヲ受クルニアラザレバ之ヲ讓渡シ貸渡シ若ハ擔保ニ供シ又ハ之ニ著シキ改造若ハ變更ヲ加フルヲ得ザルコト

十四、助成金ノ交付ヲ受ケテ建造シタル船舶ハ遞信大臣ノ承認ヲ受クルニアラザレバ之ニ外國人船員ヲ乘組マシムルヲ得ザルコト

十五、命令書ノ交付ヲ受ケタル者ハ解體船ノ解體ノ時期迄通貨又ハ國債ヲ以テ遞信大臣ノ定ムル保證金ヲ遞信省ニ差出スベキコト

十六、命令書ノ規定ニ違背シタルトキハ契約ヲ解除シ、助成金ノ支給ヲ廢止シ、既ニ支給シタル助成金ヲ還納セシメ又ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ相當ノ違約金ヲ徵收スルコトアルベキコト

十七、本告示ニ於テ速力トハ正常最大馬力ニ對スル速力ニシテ第六項(ニ)號ノ試驗ニ依リ測定シタルモノヲ謂ヒ船ノ長サトハ船舶滿載吃水線規程第四條ニ規定スルモノヲ謂フコト

第一號書式

代船件名書

一、船種	
二、製造番號	
三、計畫總噸數	
四、機關ノ種類及數	
五、計畫馬力	
六、計畫速力	
七、製造セントスル工場ノ位置及名稱	
八、起工豫定年月日	
九、竣工豫定年月日	
十、製造價格	
十一、就航豫定航路	

年　月　日

住所
氏名　印

備考　二ハ未確定ノ場合ニハ其ノ旨ヲ記載シ七乃至十ハ未確定ノ場合ニハ其ノ見込ヲ記載スルコト

第二號書式

解體船件名書

一、船舶番號	
二、船種船名	
三、船舶ノ用途	
四、船籍港	
五、所有者	
六、總噸數	
七、航海速力	
八、進水年月	
九、解體セントスル場所	
十、解體セントスル者ノ住所氏名	
十一、解體著手豫定年月日	
十二、解體完了豫定年月日	

年　月　日

住所
氏名　印

備考　九乃至十二ハ未確定ノ場合ニハ其ノ見込ヲ記載スルコト

別表

速力(節ニテ)ト船ノ長サノ(米ニテ)平方根トノ比	代船ノ竣工總噸數一噸ニ對スル助成金額
一、三〇以上	二四・五
一、三五〃	二五・五
一、四〇〃	二六・五
一、四五〃	二七・五
一、五〇〃	二八・五
一、五五〃	二九・五
一、六〇〃	三〇・五
一、六五〃	三一・五
一、七〇〃	三二・五

備考

一、解體船ノ總噸數ガ代船ノ竣工總噸數、若シ竣工總噸數ガ計畫總噸數ヲ超エルトキハ計畫總噸數ヨリ小ナル場合ニ於テハ其ノ差額ニ對シ一噸ニ付金拾圓ノ割合ヲ以テ算定シタル金額ヲ助成金總額ヨリ減額ス

二、助成金ハ代船ノ竣工總噸數ガ計畫總噸數ヲ超過スルトキ又ハ其ノ速力ガ計畫速力ヲ超過スルトキハ其ノ超過噸數又ハ速力ニ付テハ之ヲ支給セズ

三、助成金ハ一噸未滿ノ端數ニ付テハ之ヲ支給セズ

●船舶建造及修繕用物品承認規則

（大正十五年四月十五日遞信省令第十五號）

【沿革】　昭和十二年十月省令第八四號改正

船舶建造及修繕用物品承認規則左ノ通改正ス

船舶ノ建造及修繕用物品承認規則

第一條　船舶ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス者大正十年勅令第二百三十九號及製鐵事業法施行令ニ依リ定ムル管海官廳ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ承認申請書ヲ船舶ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス工場ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ提出スヘシ

前項ノ承認申請ニ基キ承認ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ承認更正申請書ヲ、承認ヲ受ケタル物品ヲ使用スル船舶ノ建造又ハ修繕ヲ竣リタルトキハ遲滯ナク竣工承認申請書ヲ當該管海官廳ニ提出スヘシ

一定期間内ニ船舶修繕ノ爲使用スヘキ物品ニ關スル承認申請書又ハ承認更正申請書ハ工場毎ニ、其ノ他ノ承認申請書若ハ承認更正申請書又ハ竣工承認申請書ハ船舶毎ニ之ヲ提出スヘシ

第二條　船舶建造用物品承認申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地

二　工場ノ名稱及位置

三　船舶ノ製造番號、種類、資格、總噸數及速力竝機關ノ種類、箇數及實馬力

四　船舶ノ建造ノ爲使用スヘキ物品ニシテ輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスルモノ及奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノノ種類竝數量

五　竣工期日及竣工期日

前項第四號ノ物品中ニ鐵鋼材アル場合ニ於テ之ヲ船體ニ使用セムトスルトキハ船體用鐵鋼材全部ノ各種類別ノ合計重量ヲ記載シタル書類及船體部仕樣書、汽機又ハ汽鑵ニ使用セムトスルトキハ汽機用又ハ汽鑵用鐵鋼材全部ノ各種類別ノ合計重量ヲ記載シタル書類及機關部仕樣書、艤裝品ニ使用セムトスルトキハ當該艤裝品用鐵鋼材ノ各種類別ノ合計重量ヲ記載シタル書類各二通ヲ申請書ニ添附スヘシ但シ形狀及寸法ヲ同クスル船舶ニ付同一管海官廳ニ承認申請ヲ爲シタルモノアルトキハ之ヲ添附セサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨申請書ニ附記スヘシ

前項ノ各種類別ノ合計重量ハ第六條第一項ノ種類別ニ依リ之ヲ記載スヘシ

第三條　船舶修繕用物品承認申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地

二　工場ノ名稱及位置

三　一年ヲ超エサル一定期間又ハ船舶ノ位置、名稱、種類、所有者及總噸數竝修繕ノ箇所、著手期日及竣工期日

四　前號ノ期間内ニ船舶ノ修繕ノ爲使用スヘキ物品又ハ前號ノ船舶ノ修繕ノ爲使用スヘキ物品ニシテ輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスルモノ及奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノノ種類竝數量

五　竣工ノ年月日

船舶ノ修繕ニ該船舶ノ修繕用物品ト一定期間内ニ使用スヘキ船舶修繕用物品トヲ併セ使用シタルトキハ之ニ關スル各竣工承認申請書ハ同時ニ之ヲ提出スヘシ

第六條　承認申請書及承認更正申請書ニ物品ノ種類及數量ヲ記載スルニ當リテハ㈠船體用鐵鋼材㈡艤裝品用鐵鋼材㈢機關、機關部分品、艤裝品及艤裝品部分品ニ付テハ更ニ㈠塊㈡片㈢條及竿㈣板㈤筒及管ノ五種類ニ分チ各合計重量ヲ明ニスヘシ

但シ奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル塊又ハ片ニ在リテハ其ノ製造者ヨリ引取ラムトスルモノカ素材ナルトキハ其ノ素材ノ合計重量ヲ、鍛造品若ハ成品ナルトキハ其ノ鍛造品又ハ成品ノ合計重量ノ各別ニ明ニスヘシ

竣工承認申請書ニ鐵鋼材ノ種類及數量ヲ記載スルニ當リテハ前項ノ類別及種類ニ依ルノ外塊、片ニ付テハ各品名、箇數、使用重量、奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノニ在リテハ其ノ製造者ヨリ引取リタルモノカ素材ナルトキハ其ノ素材ノ引取重量及使用重量竝其ノ鍛造後ノ鍛造品ノ重量、鍛造品若ハ成品ナルトキハ之ヲ明ニシタル上其ノ鍛造品又ハ完成品ノ重量)及用途ヲ條及竿、板、筒及管ニ付テハ各品名、形狀、寸法、箇數、使用重量及用途ヲ明ニスヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル鋼材ニ付テハ其ノ鋼質及製造者ヲモ明ニスヘシ

第七條　管海官廳ハ何時ニテモ承認申請書、承認更正申請書、竣工承認申請書又ハ屆書ニ記載シタル事項若ハ添附シタル書類及圖面ノ補正ヲ命シ又ハ其ノ副本若ハ其ノ他ノ書類及圖面ノ提出ヲ命スルコトヲ得

管海官廳ハ調査上差支ナキトキハ申請書ニ添附スヘキ書類及圖面ノ添附ヲ省略セシメ又ハ其ノ記載ヲ簡約セシムルコトヲ得

第八條　管海官廳ハ必要アリト認ムルトキハ承認申請、承認更正申請又ハ竣工承認申請ニ付其ノ調査及工事施行ノ監督ヲ他ノ管海官廳ニ囑託スルコトヲ得

前項ノ囑託ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ其ノ旨申請者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル後申請者カ囑託事項ニ關シ提出スル承認更正申請書又ハ第十條ノ屆書ハ受託管海官廳ノ經由スヘシ

第九條　管海官廳ハ承認申請、承認更正申請又ハ竣工承認申請ヲ正當ト認ムルトキハ申請者ニ承認書、承認更正書又ハ竣工承認書ヲ交付スヘシ

管海官廳ハ申請者ノ請求ニ因リ必要アリト認ムルトキハ承認書、承認更正書又ハ竣工承認書ノ數通又ハ副本ノ交付ヲ爲スコトヲ得

承認書、承認更正書及竣工承認書ハ輸入稅ノ免除ヲ受ケムトシ又ハ受ケタル物品ニ關スルモノ及奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル鋼材ニ關スルモノニ分チ第一號乃至第三號ノ書式ニ依リ之ヲ作成スヘシ

第十條　船舶建造又ハ修繕用物品ノ承認ヲ受ケタル者カ當該鐵鋼材ヲ輸入シタルトキ又ハ引渡ヲ受ケタルトキハ其ノ都度第六條第二項及第三項ノ規定ニ準シ其ノ種類及數量ヲ記載シタル屆書ヲ遲滯ナク當該管海官廳ニ提出スヘシ其ノ記載シタル事項ニ付變更アリタルトキ亦同シ

第十一條　一定期間内ニ使用スヘキ船舶修繕用物品ノ承認ヲ受ケタル者カ其ノ物品ノ船舶ノ修繕ノ爲使用セムトスルトキハ工場ノ名稱及位置、船舶ノ位置、名稱、種類、所有者及總噸數竝修繕ノ箇所、著手期日及竣工期日ヲ記載シタル屆書ヲ當該管海官廳ニ提出スヘシ其ノ屆出テタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第十二條　承認書、承認更正書又ハ竣工承認書カ毀損又ハ滅失シタルトキハ管海官廳ハ申請者ノ請求ニ因リ其ノ書換又ハ再交付ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ大正十五年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ爲サレタル船舶建造用物品承認申請ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前ニ爲サレタル船舶修繕用物品承認申請ハ之ヲ本令ニ依リタルモノト看做ス

附　則（昭和十二年十月遞信省令第八四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ爲サレタル船舶建造又ハ修繕用物品承認申請ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

（第一號書式）

年　甲（又ハ乙若ハ乙特）第　號

船舶建造（又ハ修繕）用物品承認書

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地

二　工場ノ名稱及位置

三　船舶ノ製造番號及種類（又ハ一年ヲ超エサル一定期間若ハ船舶ノ位置、名稱及種類）

四　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル物品又ハ奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル鋼材ノ種類及數量

五　起工期日（又ハ著手期日）及竣工期日

右申請者ノ申請ニ係ル物品ノ種類及數量ニ相當スル物品ハ前記工場及期日（又ハ期間）ニ於テ建造（又ハ修繕）スル船舶ニ使用スルニ必要ナルコトヲ承認ス

年　月　日　　管海官廳名印

備考

一　番號中ノ甲ハ船舶建造用物品承認書、乙ハ船舶修繕用物品承認書ニシテ一定期間内ニ於ケル船舶修繕用物品ニ關スルモノ乙特ハ船舶修繕用物品承認書ニシテ特定船舶ノ修繕用物品ニ關スルモノニ附スヘキモノトス

二　第四號中鐵鋼材ノ種類及數量ハ第六條第一項ニ依リ記載シ倘奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノニハ鋼質及製造者名ヲモ參考ノ爲附記スヘキモノトス

三　第五號ハ船舶修繕用物品承認書ニシテ一定期間内ニ於ケル船舶修繕用物品ニ關スルモノニハ記載セサルモノトス

（第二號書式）

年　甲（又ハ乙若ハ乙特）第　號

船舶建造（又ハ修繕）用物品承認更正書

申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地

右申請者ニ　年　月　日交付シタル　年甲（又ハ乙若ハ乙特）第　號船舶建造（又ハ修繕）用物品承認書中左ノ如ク更正ス

年　月　日　　管海官廳名印

備考

番號ハ當該承認書ト同一ノモノヲ付スヘキモノトス

（第三號書式）

年　甲（又ハ乙若ハ乙特）第　號

船舶建造（又ハ修繕）竣工承認書

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地

二　工場ノ名稱及位置

三　船舶ノ製造番號及種類（又ハ位置、名稱及種類）

四　船舶ノ建造（又ハ修繕）ノ爲使用シタル物品ニシテ輸入稅ノ免除ヲ受ケタルモノ又ハ奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノ種類及數量

五　竣工ノ年月日

右申請者ノ申請ニ係ル物品ノ種類及數量ニ相當スル物品ハ前記工場及

年月日ニ於テ竣工シタル船舶ノ建造（又ハ修繕）ニ使用セラレタルコトヲ承認ス

年　月　日　　管海官廳名印

備考

一　番號ハ當該承認書ト同一ノモノヲ付スヘキモノトス

二　第四號中鐵鋼材ノ種類及數量ハ第六條第二項ニ依リ記載シ倘奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノニハ鋼質及製造者名ヲモ參考ノ爲附記スヘキモノトス

●日本形五百石以上ノ船舶製造禁止ノ件（明治十八年七月八日太政官布告第十六號）

日本形五百石以上ノ船舶ハ明治二十年一月ヨリ其製造ヲ禁止ス

右奉勅旨布告候事

●漁船登錄規則（昭和二十二年十二月二日總理廳令第五號農林省令）

沿革　昭和二三年五月一九日第三号改正

昭和二十年勅令第五百四十二号（ポツダム）宣言の受諾に伴い発する命令に関する件）に基いて、漁船登錄規則を次のように定める。

第一條　漁船登錄規則　この命令において漁船とは、漁業のために使用する船舶及び漁獲物を專門に運搬する船舶並びに漁撈設備を有する船舶で專ら漁業に関する試驗、調査、指導又は取締のために使用するものをいう。

第二條　漁船の所有者は、この命令に基いて登錄を受けなければ、これを貸與し、又は使用してはならない。

漁船を取得した者は、前項の登錄を受けるには、左の事項を記載した申請書を、その取得の日から二週間以内に当該漁船の主たる根拠地を管轄する都道府縣知事に提出しなければならない。

一　申請者の氏名又は名称及び住所

二　船名

三　總噸数

四　船の長さ、幅及び深さ

五　魚艙の容積

六　船質（木船、鋼船又は木鉄交造船の別）

七　進水年月日

八　造船所の名称及び所在地

九　機関の種類、馬力数、シリンダの数及び直径並びに燃料の種類

十　無線の型及び出力

十一　漁船の使用者の氏名又は名称及び住所

十二　主たる根拠地

十三　漁業種類

前項の書類の外、都道府縣知事は、必要と認める書類の提出を命ずることができる。

第三條　都道府縣知事は、前條の申請書を受理したときは、これを審査して登錄し、別表第一号に定める様式による登錄票を交付しなければならない。

第四條　漁船の所有者は、前條の規定による交付を受けたときは、その者が当該漁船の使用者である場合にあつては当該漁船内にその登錄票を保持し、その者が当該漁船の使用者でない場合にあつては当該漁船の使用者にその登錄票を交付しなければならない。

漁船の使用者は、前項の規定による交付を受けたときは、当該漁船内にその登錄票を保持しなければならない。

第五條　漁船の使用者は、第三條の規定による交付（前條第一項後段の場合にあつては同條第二項の規定による交付）を受けた日から二週間以内に、別表第二号に定める様式により、その漁船の操舵室又は船橋（操舵室及び船橋に表示できないときは船首）の両側にその最も見易い位置に登錄票に記載された登錄番号を表示しなければならない。

第六條　改造、修理又は休業のため引き続き三箇月以上登錄を受けた漁船を運航しないときは、当該漁船の登錄を受けた者（漁船の使用者が改造し、修理し、又は休業する場合は漁船の使用者）は、改造若しくは修理に着工の日又は休業した日から一週間以内に、都道府縣知事に

その旨を申し出てその登錄票の保管を委託しなければならない。

この場合には、都道府縣知事は、その保管証を交付するものとする。

前項に規定する漁船を新航しようとするときは、その改造又は修理が完了し、且つその改造又は修理によつて第二條第三項第三号から第五号までの事項に変更が生じた場合においては、都道府縣知事は、委託者の申請によつて、その登錄票を返還しなければならない。

第七條　漁船に関し第九條各号の場合を除くの外登錄票に記載した事項について変更が生じたときは、漁船の所有者は、その変更の生じた日（第二項の場合においては同項の通知を受けた日）から一週間以内にその事由を具して登錄票の書換を申請しなければならない。

漁船の所有者と使用者とが異なる場合において、漁船の使用者が当該漁船について第二條第二項第三号及び第四号乃至第五号及び第十三号の事項を変更したときは、当該使用者は、その旨を遅滞なく当該漁船の所有者に通知しなければならない。

第八條　登錄票の亡失又は毀損があつたときは、その交付を受けた者は、その事由を具して登錄票の再交付を申請しなければならない。

第九條　左の場合には、漁船の登錄は、その効力を失う。

一　登錄票の交付を受けた者が死亡し、又は解散したとき。

二　登錄を受けた漁船が漁船でなくなつたとき。

三　登錄を受けた漁船が滅失し、沈没し、解撤し、又は國籍を失つたとき。

四　登錄を受けた漁船が六十日その存在が知れないとき。

五　登錄を受けた漁船が農商務大臣が定めた漁船登錄簿の登錄を抹消したとき。

六　主たる根據地の変更により登錄を管轄する都道府縣が変したとき。

第十條　登錄がその効力を失つたときは、登錄票の交付を受けていた者は、直ちにその登錄票を返納し、且つ第五條の規定により表記した登錄番号を抹消しなければならない。

前項の規定により登錄票を返納することができない場合には、その事由を具してその旨を届け出でなければならない。

前條第一号の場合においては、その相續人又は法人の解散の場合においては清算人又は合併による存続法人又は合併後設立された法人の代表者において前二項の手續をしなければならない。

第十一條　第二條第一項の規定による登錄、第七條第一項の規定による申請書類又は前條第二項の規定による登錄番号の抹消の申請をしようとするときは、申請者は、別に定める手數料を納めなければならない。

手數料は、收入印紙をもつて納めるものとする。

都道府縣知事は、前項の貼付收入印紙が手數料令額に相当することを確認してこれに消印を押さなければならない。

第十二條　第二條第一項の規定に違反した者は、これを三年以下の懲役又は五千円以下の罰金に処する。

第十三條　第二條第四項、第五條、第六條第一項、第七條、第十條第二項の規定に違反した者は、これを一年以下の懲役又は三千円以下の罰金に処する。

第十四條　法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の從業者が、その法人又は人の業務に関して前二條の違反行爲をしたときは、行爲者を罰する外、その法人又は人に対し、各本條の罰金刑を科する。

附　則

この命令は、公布の日から、これを施行する。

この命令施行の際、現に漁船を所有する者は、第二條第二項の規定にかかわらず、動力漁船については昭和二十二年十二月十日まで、無動力漁船については昭和二十三年十二月十日までに、第一條第一項の規定による登錄の申請をしなければならない。

漁　船　登　錄　票
FISHING VESSEL REGISTRATION CARD

登錄番号 REGISTRATION NUMBER	

船名 NAME OF VESSEL	丸 MARU	総屯数及び船体寸法 GROSS TONNAGE & PRINCIPAL DIMENSION	屯 G.T.
			長さ(米) LENGTH(m) × 幅(米) BREADTH(m) × 深さ(米) DEPTH(m)
所有者の氏名又は名称及び住所 NAME & ADDRESS OF OWNER	(氏名又は名称)	(住所)	都道府縣 TO, DO FU, KEN　市郡 SHI GUN　町村 MACHI MURA
	(NAME)	(ADDRESS)	
使用者の氏名又は名称及び住所 NAME & ADDRESS OF OPERATOR	(氏名又は名称)	(住所)	都道府縣 TO, DO FU, KEN　市郡 SHI GUN　町村 MACHI MURA
	(NAME)	(ADDRESS)	
船質 TYPE OF CONSTRUCTION	木 WOOD　鋼 STEEL　木鉄交造 COMPOSITE	機関の種類 TYPE OF ENGINE	蒸汽 STEAM　ディーゼル DIESEL 熱玉 HOT-BULB　電氣点火 ELECTRIC IGNITION
馬力 HORSE POWER	馬力 NORIN H.P.	シリンダの数 NO. OF CYL. × シリンダ内径(粍) DIA OF CYL(mm)	
燃料の種類 KIND OF FUEL	石炭 COAL　重油 HEAVY-OIL 軽油 KEROSENE　木炭 CHARCOAL		
主たる根據地 MAIN HOME PORT	都道府縣 TO. DO FU. KEN　港 PORT	漁業種類 TYPE OF FISHERY	
無線設備 TYPE & OUT-PUT OF WIRELESS EQUIPMENT	出力 OUT-PUT 電信 TELEGRAPH W　電話 TELEPHONE W	電波 WAVE 長中短 LONG MED SHORT	魚船の容積 HOLDCAPACRRY　立方米 cub metre

進水年月日 DATE LAUNCHED			造船所の名称及び地 NAME & LOCATION OF SHIP-YARD		市町村 (ADDRESS)	登録番号 (NAME)
年	月	日				

備考

登録番号は、管轄都道府縣の識別標、漁船等級標及び番号の三種を組合せる。

一　都道府縣識別標は、次の標識文字による。

府名 道縣 都縣	識字 標文	府名 道縣 都縣	識字 標文	府名 道縣 都縣	識字 標文
北海道	H	岩手	M	宮城	G
青森	A	秋田	T	山形	M
岩手	I	福島	G	茨城	S
宮城	M	茨城	S	栃木	C
秋田	A	栃木	C	群馬	T
山形	Y	群馬	T	埼玉	B
福島	F	埼玉	B	千葉	K
茨城	I	千葉	K	東京	T
栃木	T	東京	T	神奈川	K
群馬	G	神奈川	K	新潟	N
埼玉	S	新潟	N	富山	T
千葉	C	富山	T	石川	I
東京	T	石川	I	福井	F
神奈川	K	福井	F	山梨	Y
新潟	N	山梨	Y	長野	N
富山	T	長野	N	岐阜	G
石川	I	岐阜	G	静岡	S
福井	F	静岡	S	愛知	A
山梨	Y	愛知	A	三重	M
長野	N	三重	M	滋賀	K
岐阜	G	滋賀	K	京都	T
静岡	S	京都	T	大阪	O
愛知	A	大阪	O	兵庫	H
三重	M	兵庫	H	奈良	N
滋賀	K	奈良	N	和歌山	W
京都	T	和歌山	W	鳥取	T
大阪	O	鳥取	T	島根	S
兵庫	H	島根	S	岡山	O
奈良	N	岡山	O	広島	H
和歌山	W	広島	H	山口	Y
鳥取	T	山口	Y	徳島	T
島根	S	徳島	T	香川	K
岡山	O	香川	K	愛媛	E
広島	H	愛媛	E	高知	K
山口	Y	高知	K		
徳島	T				
香川	K				
愛媛	E				
高知	K				

府名 道縣 都縣	識字 標文	府名 道縣 都縣	識字 標文	府名 道縣 都縣	識字 標文
福岡	O	宮崎	M	沖縄	G
佐賀	A	鹿児島	T		
長崎	S				
熊本	M				
大分	T				

二　漁船等級標は、屯数の別により左の數字を以て表わす。

(一)　海水面において使用せられる漁船

總屯數百屯以上の動力漁船　1

總屯數百屯未満五屯以上の動力漁船　2

總屯數五屯未満の動力漁船　3

總屯數五屯以上の無動力漁船　4

總屯數五屯未満の無動力漁船　5

(二)　淡水面において使用せられる漁船

動力漁船　6

無動力漁船　7

三　番号は、都道府縣ごと及び漁船等級ごとに一から始め一貫番号とする。

別表第二号

識字 標文	
0	S
H	G
N	R
W	K
T	T
S	N
O	Y
H	S
Y	G
T	O
K	A
E	H
K	O

各文字の高さは三十糎、文字の太さは六糎、一の長さは十八糎、各文字の間隔は十糎を原則とする。但し五屯未満の漁船については適当の大いさ、太さ及び間隔を採り明瞭に表示する。

TK1—1234

別表第三号

一　登錄手數料

(一)　海水面において使用せられる漁船

イ　無動力漁船一隻につき　弐百円

ロ　總屯數二十屯未満の動力漁船一隻につき　六百円

ハ　總屯數二十屯以上百屯未満の動力漁船一隻につき　千円

ニ　總屯數百屯以上の動力漁船一隻につき　弐千円

(二)　淡水面において使用せられる漁船一隻につき　百円

二　再交付手數料

(一)　海水面において使用せられる漁船

イ　無動力漁船一隻につき　弐百円

ロ　總屯數二十屯未満の動力漁船一隻につき　六百円

ハ　總屯數二十屯以上百屯未満の動力漁船一隻につき　千円

ニ　總屯數百屯以上の動力漁船一隻につき　弐千円

(二)　淡水面において使用せられる漁船一隻につき　百円

三　書換手數料

(一)　當該漁船につき書き換えらるべき登錄事項に基いて新たに登錄したとすれば當然に納付しなければならない登錄手數料の額が既に納付した登錄手數料の額を超える場合一隻につきその超えた額

(二)　(一)以外の書換の場合　一隻につき　三十円

第四一六号

●漁船特殊規則

（昭和九年二月五日　逓信・農林省令）

漁船特殊規則左ノ通定ム

漁船特殊規則

第一條　左ノ各号ノ一ニ該当スル漁船ハ無線電信ヲ施設セザルコトヲ得

一　總噸数二百噸未満ノ捕鯨船

二　專ラ漁猟場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル總噸数二百噸未満ノ漁船

三　總屯数千六百屯未満ノ推進機関ヲ有セザル漁船

第二條　漁船ノ從業制限ハ第一種、第二種及第三種ノ三種トス

第三條　第四條各号ニ掲グル業務ヲ除クノ外左ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ノ從業制限ハ之ヲ第一種トス

一　延縄漁業

二　流網漁業

三　刺網漁業

四　旋網漁業

五　棒受網漁業

六　投餌漁業

七　曳縄漁業

八　機船底曳網漁業及其ノ他ノ底曳網漁業（汽船「トロール」漁業ヲ除ク）

九　前各号ニ掲グルモノノ外主務大臣ニ於テ前各号ノ業務ニ準ズルモノト認メタル業務

十　前各号ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ノ從業制限ハ之ヲ第二種トス

第四條　左ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ノ從業制限ハ之ヲ第二種トス

一　鰹竿釣漁業

二　鮪竿釣漁業

三　鱈一本釣漁業
四　鮪延繩漁業
五　旗魚延繩漁業
六　鮫延繩漁業
七　鰐延繩漁業
八　大鮃延繩漁業
九　機船底曳網漁業（手繰網又ハ打瀬網ヲ使用スルモノ）
十　前各号ニ掲グルモノノ外主務大臣ニ於テ前各号ノ業務ニ準ズルモノト認メタル業務

第五條　母船式漁業ニ従事スル母船及左ニ掲グル業務ニ従事スル漁船ノ従業制限ハ之ヲ第三種トス

一　汽船「トロール」漁業
二　汽船捕鯨業
三　專ラ漁猟場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル業務
四　漁業ニ関スル試驗、調査、指導、練習又ハ取締業務

第六條　第二種ノ従業制限ヲ有スル漁船ハ第三條各号ニ掲グル業務ニ従事スルコトヲ得

第七條　管海官廳漁船ノ従業制限ヲ定ムルニ当リ必要アリト認ムルトキハ漁船ノ種類、大小、構造又ハ設備ニ應ジ業務ノ種類ヲ限定スルコトヲ得

第八條　漁船檢査証書ノ有效期間内ニ於テ左ノ各号ノ一ニ該当スルトキハ船舶所有者又ハ船長ハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

一　已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ臨時ニ漁船ヲ其ノ従業制限以外ノ従事制限ニ該当スル業務ニ従事セシムルトキ（第六條ニ該当スル場合ヲ除ク）
二　第一種ノ従業制限ヲ有スル漁船又ハ第二種若ハ第三種ノ従業制限ヲ有スル長サ二十五メートル未満ノ漁船ヲ漁業ニ使用セズシテ船舶安全法施行地、朝鮮又ハ樺太ト其ノ他ノ地トノ間ノ航行ヲ爲サシムルトキ

第九條　漁船檢査証書ノ有效期間内ニ於テ漁船ノ従業制限ヲ変更セントスルトキハ申請書ニ新旧従業制限ヲ列記シ船舶檢査手帖ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

第十條　漁船ニ在リテハ船舶安全法施行規則第四十七條ノ規定ニ拘ラズ長サ七十メートヲ以上ノモノニ限リ專ラ漁猟又ハ漁獲物ノ保藏若ハ製造ニ従事スル者ノ室ト其ノ他ノ者ノ室トハ常ニ区別シ置クベシ

第十一條　汽罐ヲ有セザル長サ二十五メートル未満ノ漁船ニ付テハ漁船檢査證書ノ有效期間ハ三年以内トス

前項ノ漁船ハ中間檢査ヲ受クルコトヲ要セズ

第十二條　長サ七十メートル以上ノ漁船ニシテ漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有スル母船（特殊漁船）カ母船式漁業ニ従事スル爲其ノ仕立港ヲ發本航セントスルトキハ特殊船檢査ヲ行フ但シ特殊船檢査證書ノ有效期間内ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

●漁船特殊規程

（昭和九年二月五日　逓信省令）

漁船特殊規程左ノ通定ム

漁船特殊規程

目　次

第一章　總則
第二章　船體
第一節　通則
第二節　木製漁船
第三節　鋼製漁船
第三章　設備
第四章　機關
附　則

漁船特殊規程

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ動力漁船トハ推進機關ヲ有スル漁船ヲ謂ヒ第一種漁船、第二種漁船又ハ第三種漁船トハ各従業制限第一種、第二種又ハ第三種ヲ従業制限トスル漁船ヲ謂ヒ運搬漁船トハ漁船特殊規則第五條第三號ニ掲グル業務ニ従事スル漁船ヲ謂フ

第二條　本令ニ該當セザル漁船ノ構造、材料及其ノ寸法竝ニ設備ト雖モ管海官廳ニ於テ本令ニ定ムルモノト同一效力ヲ有スト認ムル場合ニ於テハ之ヲ合格ト爲スベシ

第三條　漁船ノ構造、材料及其ノ寸法竝ニ設備ニ付テハ管海官廳當該漁船ノ種類、大小、従業ノ期間等ヲ考慮シ適當ニ斟酌シテ之ヲ合格ト爲スコトヲ得

第四條　發動機ニ依リ推進スル長サ二一メートル以上ノ漁船ニシテ鰹若ハ鮪ノ竿釣漁業又ハ鮪、旗魚、鮫若ハ大鮃ノ延繩漁業ニ従事スルモノニハ左ノ算式ニ依リ算定シタル分量ノ主機關用燃油ヲ容ルル爲メ油庫ヲ設備スベシ

$$\frac{D^2 N C}{1000}$$

D　ハ發動機ノ氣筒ノ徑（糎ニテ）
N　ハ發動機ノ氣筒ノ數
C　ハ常數ニシテ左表ニ依ル

船舶ノ長サ（米）	「ディーゼル」式單動發動機ナルトキ		「ディーゼル」式以外ノ單動二衝程式發動機ナルトキ
	二衝程式	四衝程式	

二一以上二三未滿	七・五二	四・九九
二三〃　二五〃	九・四〇	六・二四
二五〃　三〇〃	一〇・八一	七・一八
三〇〃　三三〃	一一・七五	七・八〇
三三〃　三六〃	一二・六九	八・四二
三六〃　四〇〃	一四・一〇	八・八八
四〇〃　四五〃	一六・四五	九・八七
四五〃　五〇〃	一八・八〇	九・三六
五〇〃　五五〃	二一・一五	一〇・九二
五五〃	二三・五〇	一二・四八

第二章　船體

第一節　通則

第五條　主機關用燃油槽ヲ上甲板以上ノ場所ニ設クルトキハ其ノ容量ハ全燃油庫ノ容量ノ百分ノ十五ヲ超ユルコトヲ得ズ

第六條　甲板上ニ設クル燃油槽又ハ活魚槽ハ甲板ニ特ニ堅固ニ取附クベシ

第七條　運搬漁船及特殊漁船ヲ除クノ外漁船ノ舷側ニハ載貨門ヲ設クルコトヲ得ズ

第八條　動力漁船ニ非ザル漁船ニハ起倒シ得ベキ檣ヲ用ウルコトヲ得ズ

第九條　舷檣ノ高サハ一一〇センチメートルヲ超ユルコトヲ得ズ但シ各舷檣柱又ハ防捲材ノ間ニ於テ舷墻上部ニ十分ナル面積ノ無蓋開口ヲ設クルトキハ適當ニ舷墻ノ高サヲ增加スルコトヲ得

第十條　漁船ノ舷側ニ設クル釣臺又ハ張出甲板ハ十分ニ排水シ得ル構造ト爲スベシ

第十一條　石油發動機ヲ備フル漁船ノ機關室ニ於ケル隔壁其ノ他船體ノ部分木製ナルトキハ之ニ金屬板ヲ張リ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃燒ノ豫防ヲ爲スベシ

第十二條　暴露セル上甲板又ハ船樓甲板ニ設クル舷口、機關室口、載炭口、出入口、天窓、通風器等ノ諸口及甲板口ヲ蔽圍スル甲板室ニ付テハ緣材ノ甲板上ノ高サヲ左表ニ掲ゲルモノ以上ト爲スベシ但シ直接波浪ヲ受ケザル場所ニ於ケルモノ又ハ特殊ノ水密裝置ヲ備フルモノハ緣材ノ高サヲ減ジ又ハ甲板上面ト平直ト爲スコトヲ得

漁船ノ種別	緣材ノ甲板上ノ高サ（糎）
第一種漁船又ハ捕鯨船	一五
第二種漁船又ハ第三種漁船（捕鯨船ヲ除ク） 長サ二五米未滿ノモノ	二三
第二種漁船又ハ第三種漁船（捕鯨船ヲ除ク） 長サ二五米以上ノモノ	三〇

第十三條　艙口ニハ堅牢ナル蓋板又ハ覆蓋ヲ備ヘ且之ヲ堅固ニ密閉シ得ベキ樣覆布及適當ノ締具ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ覆布ト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノヲ備フルトキハ覆布ハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

第十四條　暴露セル上甲板又ハ船樓甲板ニ設クル機關室口ニ付テハ隔壁ノ甲板上面ヨリノ高サヲ左表ニ掲ゲルモノ以上ト爲スベシ

漁船ノ種別	圍壁ノ甲板上ノ高サ（糎）
第一種漁船又ハ捕鯨船	四五
第二種漁船又ハ第三種漁船（捕鯨船ヲ除ク） 長サ二五米未滿ノモノ	六〇
第二種漁船又ハ第三種漁船（捕鯨船ヲ除ク） 長サ二五米以上ノモノ	九〇

第十五條　暴露甲板ノ機關室口圍壁ノ天窓、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋又ハ蓋板及覆布竝ニ適當ノ締具ヲ備フルカ其ノ他水密トナルベキ裝置ヲ爲スベシ但シ管海官廳ニ於テ水密ト爲スベキ必要ナシト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　前四條ノ規定ハ特殊漁船及總噸數百五十噸以上ノ運搬漁船ニハ之ヲ適用セズ

前項ニ揭グル漁船ノ甲板口及甲板口ヲ蔽圍スル甲板室ノ緣材ノ高サ竝ニ機關室口圍壁ノ高サニ付テハ當該船舶ヲ第二級船ト看做シ木船構造規程又ハ造船規程及船舶滿載吃水線規程ノ規定ヲ適用ス

第二節　木製漁船

第十七條　第一種漁船又ハ長サ二五メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ內龍骨ノ寸法ハ龍骨ノ規定ノ寸法ト等シク爲スコトヲ得

第十八條　龍骨ノ載面積ガ船ノ首尾兩端ニ於ケルモノヲ除クノ外龍骨及內龍骨ノ規定ノ載面積ノ合計以上ナルトキハ內龍骨ヲ省略スルコトヲ得

第十九條　船首材ト龍骨トノ嵌接ノ長サハ用材ノ深サノ三倍迄減ズルコトヲ得

第二十條　舵心材頂部ノ舵柄取附部ヲ角形ト爲ス場合ニ於テモ其ノ載面積ハ特ニ之ヲ增加セザルモ妨ナシ

第二十一條　二材合セ肋骨ノ肋材衝接ノ避距ハ船ノ幅ノ九分ノ一迄減ズルコトヲ得

第二十二條　船ノ中央部ニ於ケル單材肋骨ノ肋根材ノ長サハ船ノ幅ノ二分ノ一迄、其ノ他ノ肋材ノ長サハ船ノ幅ノ四分ノ一迄減ズルコトヲ得但シ衝接又ハ鋏接ノ數ハ五箇以上ト爲スコトヲ得ズ

相隣接スル單材肋骨ノ衝接又ハ鋏接ノ避距ハ船ノ幅ノ九分ノ一迄減ズルコトヲ得

第二十三條　船底ノ形狀銳尖ナル漁船ニ在リテ肋根材ヲ中心線ノ兩側ニ止ムル場合ニ於テハ適當ナル副龍骨ヲ龍骨ノ上面ニ取附ケ其ノ上面ニ鐵製又ハ木製ノ根曲材ヲ附シ兩舷ノ肋根材ヲ連結スベシ此ノ場合ニ於テハ內龍骨及側內厚板ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十四條　活魚艙ニ縱通隔壁ヲ設ケ該隔壁ノ下部ニ縱通材ヲ取附ケ之ヲ活魚艙ノ前後ニ二肋骨間延長シ活魚艙兩端ノ肋骨ノ寸法ヲ增シ且該部外板ノ厚サヲ增ストキハ其ノ部分ニ於テ肋骨ノ心距及外板ノ幅ヲ增加シ梁ノ寸法ヲ輕減シ且內龍骨、側內厚板及內張板ヲ省略スルコトヲ得

第二十五條　彎曲部縱通材ノ船ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ九分ノ一迄減ズルコトヲ得

第二十六條　彎曲部角形ナル漁船ニ在リテハ其ノ部ニ外部彎曲部縱通材ヲ設ケ其ノ載面積ヲ六五平方センチメートル以上ト爲スベシ

第二十七條　梁肱材ノ載面積ハ木船構造規程ニ定ムルモノノ五分ノ四迄

減ズルコトヲ得

第二十八條　甲板梁ノ心距カ規定ノ心距ヨリ小ナルトキハ其ノ割合ニ應ジ梁ノ寸法ヲ減ズルコトヲ得

梁柱ノ數ヲ增ストキハ適當ニ梁ノ寸法ヲ減ズルコトヲ得

縱通隔壁アル場合ニ於テハ梁柱ハ其ノ取附ヲ適當ニ省略スルコトヲ得

第二十九條　幅五メートル未滿ノ漁船ニ於テハ甲板口ノ兩側ニ設クル半梁ハ木船構造規程第七十八條ノ規定ニ拘ラズ半梁一本置ニ梁曲材ノ取附ヲ省略シ其ノ他ノ半梁ハ堅梁曲材ヲ以テ船側ニ固著シ其ノ他端ハ橫梁曲材ヲ以テ縱梁ニ固著セシムルコトヲ得

第三十條　幅五メートル未滿ノ漁船ニ於テ梁下縱通材ヲ設クルトキハ梁柱ハ甲板梁二本置ニ設クルニ止ムルコトヲ得但シ甲板室、斜檣、揚錨機、揚貨機其ノ他ノ重量物ヲ支フル梁ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條　第二數七〇〇未滿ノ漁船ニ於テハ外部腰板ヲ設クルコトヲ要セズ

第三十二條　第二數二五〇未滿ノ漁船ニ於テハ外板ノ厚サヲ增シ且彎曲部縱通材ノ幅ヲ增ストキハ內張板ヲ設クルコトヲ要セズ

第三十三條　木船構造規程第百十三條第一項ノ規定ハ長サ四メートル未滿ノ機關室口ニハ之ヲ適用セズ

第三十四條　第二數三〇〇未滿ノ漁船ノ側內厚板ハ木船構造規程第百二十八條ノ規定ニ拘ラズ肋骨一本置ニ敲釘及打込釘二箇ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘二箇ヲ以テ固著セシムルコトヲ得

第三十五條　彎曲部縱通材ノ各材ノ幅一三センチメートル未滿ナルトキハ木船構造規程第百三十條ノ規定ニ拘ラズ肋骨一本置ニ敲釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘ヲ以テ固著セシムルコトヲ得

第三十六條　梁曲材ノ兩腕ニ於ケル固著釘ノ總數ハ之ヲ五箇迄減ズルコトヲ得

第三十七條　第二數三五〇未滿ノ漁船ニ於テハ柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル場合ト雖モ梁曲材ノ側腕ニ用ウル敲釘ハ之ヲ外板迄貫通セシムルコトヲ要セズ

第三十八條　外板ノ固著釘ノ數ハ外板ノ幅二二センチメートル未滿ナルトキハ肋骨毎ニ二箇迄ニ、幅二七センチメートル未滿ナルトキハ肋骨毎ニ三箇迄ニ減ズルコトヲ得

第三十九條　外部彎曲部縱通材ハ肋骨毎ニ一箇以上ノ敲釘ヲ以テ固著セシムベシ

第四十條　動力漁船ニ在リテハ「ジブブーム」、「フライングジブブーム」及「ブーム」ノ徑ハ長サ一メートルニ付一八ミリメートル迄ニ、「スクーナー」ノ「ガフ」ノ徑ハ長サ一メートルニ付一六ミリメートル迄ニ減ズルコトヲ得

第三節　鋼製漁船

第四十一條　鋼製漁船ノ構造及材料ノ寸法ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外造船規程中重構船ノ規定ニ依ル

第四十二條　第一種漁船及長サ二五メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ管海官廳ニ於テ特ニ必要ト認ムルモノヲ除クノ外材料試驗ヲ省略スルコトヲ得

第四十三條　第一種漁船、捕鯨船又ハ長サ二五メートル未滿ノ漁船ノ構造及材料ノ寸法ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ左ノ各號ノ限度迄之ヲ輕減スルコトヲ得

一　正肋材ノ橫邊、副肋材ノ兩邊及肋骨ノ深サヲ規定ノ寸法ヨリ一三ミリメートル減少スルコト

二　船底ノ傾斜急ナル漁船ニ在リテハ肋板ノ高サヲ增加スルトキハ造船規程別表ニ揭グル龍骨用山形材二箇ヲ以テ中心線內龍骨ヲ構成シ且副肋材ヲ彎曲部ニ達セシムルニ止ムルコト又船側縱通材ニ斷切板ヲ附スルカ又ハ船側縱通材ヲ二重山形材ト爲ストキハ龍內龍骨ニ斷切板ヲ附セザルコト

三　梁ヲ肋骨毎ニ取附クルトキハ其ノ寸法ハ正肋材ノ寸法ト等シクシ梁ヲ肋骨一本置ニ取附クルトキハ其ノ寸法ハ右ニ準ジ相當ニ輕減スルコト又梁ノ肘板ノ幅及深サハ梁ノ深サノ三倍トシ厚サハ梁ノ厚サニ等シクスルコト

四　梁上側板、梁上帶板及龍內龍骨用山形材ノ截面積ヲ各四分ノ一減少スルコト

五　外板ノ厚サヲ造船規程別表ニ揭グルモノヨリ〇・五ミリメートル減少スルコト

第四十四條　第二種漁船又ハ第三種漁船ノ活魚艙ハ其ノ周壁ヲ銅製ト爲スコトヲ要シ其ノ構造及材料ノ寸法ニ付テハ造船規程第一編第百四十二條乃至第百四十四條、第百四十八條、第百四十九條及第百六十一條ヲ準用ス

第四十五條　第一種漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ノ活魚艙、冷藏艙及氷艙ノ頂部ノ甲板ハ水密構造ノ鋼甲板ト爲スベシ

第四十六條　第一種漁船、捕鯨船及運搬漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ニ付テハ造船規程第一編第百二十九條但書ノ規定ヲ適用セズ

第三章　設備

第四十七條　特殊漁船ニハ最大搭載人員ヲ收容スルニ要スル端艇及之ニ對スル端艇鉤ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ他ノ揚卸裝置ヲ以テ端艇鉤ニ代フルコトヲ得

第四十八條　前條ノ漁船ヲ除クノ外長サ二〇メートル以上二五メートル未滿ノ漁船ニハ容積二立方メートル以上ノ端艇ヲ、長サ二五メートル以上ノ漁船ニハ容積二・八三立方メートル以上ノ端艇ヲ備フベシ但シ端艇ノ容積ハ船舶ノ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル程度ニ止ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ備フベキ容積二・八三立方メートル以上ノ端艇ニ付テハ適當ノ揚卸裝置ヲ備フルコトヲ要ス

長サ二五メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ救命筏、救命浮器又ハ救命浮環ヲ以テ端艇ニ代用スルコトヲ得

長サ二五メートル以上三〇メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ端艇ノ容積ノ一部ヲ救命筏、救命浮器又ハ救命浮環ヲ以テ代用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ救命筏又ハ救命浮器ハ其ノ定員一人ヲ以テ、救命浮環ハ一箇ヲ以テ端艇ノ容積〇・二八三立方メートルニ相當スルモノトス

第四十九條　第二種漁船又ハ第三種漁船ニハ最大搭載人員ト同數ノ救命胴衣ヲ備フベシ但シ管海官廳ノ見込ニ依リ鰹竿釣又ハ鮪竿釣漁船ニ在リテハ最大搭載人員ノ四分ノ一迄、第五十五條第三項ニ揭グル漁船ニ

在リテハ最大搭載人員ノ二分ノ一迄救命胴衣ノ數ヲ減ズルコトヲ得

第五十條　漁船ニハ左表ニ依リ救命浮環及救命炬ヲ備フベシ

漁船ノ種類	救命浮環	救命炬
第一種漁船	二	一
第二種及第三種漁船	四	二

第五十一條　第一種漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ノ普通艇ノ附屬具ニ付テハ船舶設備規程第三十三條ノ規定ヲ準用ス

前項以外ノ漁船ノ普通艇ニハ船舶設備規程第三十七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五十二條　「アムモニア」式冷却機ノ設備アル漁船ニハ「アムモニア」防毒「マスク」二箇以上ヲ備フベシ

第五十三條　漁船ノ居室ニハ船舶設備規程第八十條乃至第八十五條及第八十七條第二項ハ之ヲ準用セズ

第五十四條　居室ノ高サ一・六メートル以上アル場合ヲ除クノ外居席ヲ二層ト爲スコトヲ得ズ

第五十五條　漁船ノ最大搭載人員ハ各居室ノ定員ノ和トス

各居室ノ定員ハ左ノ各號ノ計算法ニ依リ算出シタル員數ノ中小ナルモノトス

一　居室ノ容積ヲ左表ニ揭グル單位容積ニテ除シタル員數

二　寢臺ヲ備フル室ニ付テハ寢臺ノ數ト寢臺外ノ場所ノ面積ヲ左表ニ揭グル單位面積ニテ除シタル員數トノ和

三　寢臺ヲ備ヘザル室ニ付テハ居室ノ面積ヲ左表ニ揭グル單位面積ニ

テ除シタル員數

漁船ノ種類		單位面積（平方米）	單位容積（立方米）
第一種漁船		○・四五	
第二種漁船	鰹竿釣又ハ鮪竿釣漁船	○・三〇	○・六〇
	前欄ニ揭グルモノ以外ノ漁船	○・六〇	一・〇〇
第三種漁船		○・八五	一・五五

長サ二五メートル未滿ノ漁船又ハ長サ五〇メートル未滿ノ母船ニ付テハ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ前項ノ單位面積又ハ單位容積ヲ適當ニ輕減スルコトヲ得

漁業ニ關スル試驗、調査、指導又ハ練習ニ從事スル漁船ノ鰹竿釣又ハ鮪竿釣ヲ行フ場合ニ於ケル最大搭載人員ノ算定ニ付テハ第一項ノ表中鰹竿釣又ハ鮪竿釣漁船ノ率ニ依ルコトヲ得

第五十六條　特殊漁船ニハ上甲板以上ノ場所又ハ上甲板直下ノ甲板間ノ場所ニ於テ成ルベク船員室ヨリ隔離シタル適所ニ適當ナル病室ヲ設クベシ

第五十七條　特殊漁船ニハ第一號表ニ定ムル醫藥其ノ他ノ衞生用品ヲ備フベシ

第五十八條　特殊漁船ニハ其ノ搭載セル人員ニ對シ出漁期間ニ應ジ第二號表ニ定ムル食料及飲用水ヲ備フベシ但シ仲積船ニ依リ操業ノ場所ニ於テ食料又ハ飲用水ノ補給ヲ受クルコトヲ得ル船舶ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ其ノ備フベキ食料又ハ飲用水ノ量ヲ適當ニ斟酌スルコ

トヲ得

第五十九條　艤裝數ノ算定ニ付テハ鋼製動力漁船ハ之ヲ鋼製汽船ト看做ス

第六十條　漁船ニハ其ノ艤裝數ニ應ジ動力漁船ハ船舶設備規程第四號表ニ、動力漁船ニ非ザル漁船ハ同規程第五號表ニ定ムル錨、錨鎖及索ヲ備フベシ

第六十一條　第一種漁船ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ大錨三箇ヲ備フベキ場合ト雖モ其ノ數ヲ二箇ト爲スコトヲ得但シ中一箇ノ大錨ノ錨量ハ表ニ揭グル單量以上、他ノ一箇ハ該單量ノ百分ノ八十五以上ト爲スベシ

第六十二條　長サ二五メートル未滿ノ漁船ハ大錨ノ總錨量ガ規定ニ依ル量ヲ下ラザルトキハ其ノ錨數ヲ增シ單量ヲ減ズルコトヲ得但シ一箇ノ錨量ハ表ニ揭グル大錨ノ單量ノ二分ノ一ヲ下ルベカラズ

第六十三條　第一種漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ニ備フル錨（錨鉤ヲ含ミタル重量七六・二キログラム以下ノモノヲ除ク）、錨鎖及鋼索ハ船舶設備規程第百二十八條ニ依ル試驗規程ニ適合シタルモノナルコトヲ要ス

第六十四條　長サ二五メートル未滿ノ漁船ニハ日本形錨ヲ代用スルモ妨ナシ

前項ノ規定ニ依リ代用シタル日本形錨ニ對シテハ相當ノ錨索ヲ以テ錨鎖ニ代用スルモ妨ナシ

日本形錨ノミヲ備フル漁船ニ在リテハ錨量ハ船舶設備規程第六號表ニ定ムルモノノ十分ノ九以上ト爲シ錨索ハ同表ニ定ムルモノヲ備フベシ

大錨ヲ除キ其ノ他ノ日本形錨ニ對スル錨索ノ長サハ船舶設備規程第六號表ニ定ムル大錨索ノ長サニ等シクシ其ノ徑ハ錨量ニ應ジ船舶設備規程第七號表ニ定ムル所ニ依ルベシ

第六十五條　長サ六〇メートルヲ超ユル動力漁船ニハ動力ニ依ル操舵裝置ヲ備フベシ

第六十六條　漁船ニ備フベキ航海用具其ノ他ノ屬具ハ第三號表ニ定ムル所ニ依ル

電氣船燈ヲ常用スル漁船ニ在リテハ第三號表ニ定ムル所ニ依リ豫備燈ヲ要セザル場合ト雖モ各電氣船燈ニ對シテ豫備ノ油船燈ヲ備フベシ

第六十七條　油船燈ヲ備フル漁船ニ於テハ船燈一種ニ付第一種漁船又ハ長サ二一メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ三箇以上、其ノ他ノ漁船ニ在リテハ五箇以上ノ豫備燈筒ヲ備フベシ

第一種漁船ヲ除クノ外長サ二一メートル以上ノ漁船ニ在リテハ綠及紅ノ挿入硝子ヲ使用スル艤燈ヲ備フルトキハ綠、紅各二箇ノ豫備挿入硝子ヲ備フベシ

第六十八條　第二種漁船又ハ第三種漁船ニハ其ノ從業場所ノ海圖ヲ備フベシ

海圖ハ水路部ノ最近刊行ニ係ルモノ又ハ管海官廳ニ於テ適當ト認メタルモノヲ使用スベシ

第六十九條　帆檣ヲ有スル漁船ニハ檣ニ相當スル帆一揃及左ノ豫備帆ヲ備フベシ

艤備帆ノ種類	數	備考
「フォール、ステースル」「フォースル」	一	「カッター」、「ケッチ」又ハ「スループ」ノ帆裝ヲ有スルモノハ「フォール、ステースル」一枚ノミ又ハ「ラッカー」ノ帆裝ヲ有スルモノハ「フォースル」一枚ノミト爲スコトヲ得
	一	

第四章　機關

第七十條　船舶機關規程ニ定ムル乙種機關ハ左ノ各號ニ揭グル漁船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

一　「トロール」汽船

二　捕鯨船

三　母船ニシテ動力ニ依ル漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有スルモノ

四　長サ三〇メートル以上ノ母船ニシテ動力ニ依ル漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有セザルモノ

五　長サ三〇メートル以上ノ第二種漁船

六　長サ三〇メートル以上ノ運搬漁船

七　漁船特殊規則第五條第四號ニ揭グル業務ニ從事スル漁船ニシテ長サ三〇メートル以上ノモノ

第七十一條　船舶機關規程ニ定ムル丙種機關ハ長サ三〇メートル未滿ノ第一種漁船ノ外漁船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第七十二條　發動機ヲ備フル木製漁船ノ推力軸、中間軸又ハ螺旋軸ノ徑ハ船舶機關規程ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ同規程第百四十三條乃至第百四十六條ノ發動機ニ付テハ一・〇七ヲ、「ディーゼル」式發動機ニ付テハ一・〇五ヲ乘ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第七十三條　備品ハ機關ノ種類ニ應ジ第四號表又ハ第五號表ニ定ムル所ニ依リ之ヲ機關室又ハ船內適當ノ場所ニ備フベシ

附　則

第七十四條　本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十五條　本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ノ船體又ハ機關ニ付テハ本令ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ漁船ノ大小、業務ノ種類等ヲ考慮シ差支ナシト認ムルトキハ特ニ之ヲ合格ト爲スコトヲ得但シ本令施行ノ日ヨリ三年以後ニ於テ漁船ニ新ニ備附クル機關ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七十六條　本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ第四條、第五條、第七條、第九條、第十二條、第十四條、第四十四條乃至第四十六條及第五十六條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第七十七條　本令施行前製造シタル漁船ニシテ引續キ從前ノ業務ニ從事スルモノニ付管海官廳本令ニ依リ救命設備、航海用具其ノ他ノ屬具又ハ機關備品ヲ備フルコト困難ナリト認メタルトキハ本令施行後二年以內ニ於テ行フ最後ノ中間檢査又ハ定期檢査ノ時期迄其ノ設備ニ付仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第七十八條　本令施行ノ際現ニ存スル居室ニ付テハ第五十四條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第七十九條　本令施行ノ際現ニ漁船ニ備フル錨、錨鎖又ハ鋼索ニ付テハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ第六十三條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

(一)　內用藥

藥名	數量	藥名	數量	藥名	數量
アスピリン錠	五〇〇箇	阿片吐根錠（ドーフル散）	二〇〇箇		
塩酸キニーネ丸	五〇〇〃	カルモチン錠（プロムワレリツル尿素錠）	三〇〇〃		
重曹	五〇〇グラム	硫酸マグネシヤ	二五〇グラム		
複方健胃錠（B）	五〇〇箇	サンタル油	一〇〇〃		
ザアスターゼ錠	三〇〇〃	サンタル球	五〇〇箇		
パルピタール錠	一〇〇〃	オリザニン錠	一、五〇〇〃		
ミグレニン錠	二〇〇〃	サシトニン錠	二五〇〃		
ラキサトール錠	一五〇〃	燐酸コデイン錠	五〇〃		
ヒマシ油	五〇〇グラム				
タンナルビン錠	二〇〇箇				

(二)　外用藥

藥名	數量	藥名	數量
硼酸錠	一〇〇箇	アンモニア水	一〇〇グラム
ヨードホルム散	二〇〇グラム	ロート眼藥	一〇立方糎入五〇箇
稀ヨードチンキ	一〇〇〃	クレオソード丸	五〇〇〃

品名	數量
過酸化水素水	五〇〇グラム
オレフ油	一〇〇〃
グリセリン	一〇〇〃
アルコール	一、〇〇〇〃
流動石炭酸	五〇〇〃
晒粉	五〇〇〃
硼酸軟膏	五〇〇〃
水銀軟膏	一〇〇〃
石炭酸軟膏	一〇〇グラム
タールバスタ	五〇〇〃
ヒツク軟膏	一本
亞鉛華絆創膏	一〃
亞鉛華オレフ油	一〇〇グラム
サルチル酸	二〇〇〃
エリナコール	五〇〃

(三)　醫療器械類

品名	數量
小外科器械	一函
消毒盤	一箇
スポイト	一〃
檢溫器	三〃
浣腸器	一〃
洗眼コップ	一〇〃
挿込便器	一〃
挿込尿器	一〃
氷嚢	一〇箇
氷枕	五〃
懐炉	一〇〃
指サック	三六〃
ガーゼ	九米
昇汞ガーゼ	二〃
脱脂綿	四〇〇グラム
巻軸帯	四裂
三角巾	二〇枚
吸入器	大型　一箇
リント	一本
亞麻仁油	一〇〇枚
片眼帯	一〇〇箇
副木	一二本
カプセル	○・三グラム入　一〇〇箇
副木	内用外用　三〇〇枚
藥袋	一〃
藥包紙	一、〇〇〇枚
藥壺	眞鍮製　各一組
水牛角製	小二箇
藥斗	二〇〇立方糎　一〃
藥瓶	二〇〇〃　五〇〃
眼藥用	金屬製　各一〃
筆	水牛角製　一〃

備考

一　管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ本表ニ揭グル錠劑ハ同一效力ノ粉末劑又ハ液体劑ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

二　最大搭載人員四百人未滿又ハ出漁期間百五十日未滿ノ場合ニ於テハ本表ニ揭グル藥品ノ量ハ管海官廳ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ輕減セシムルコトヲ得

第二號表　特殊漁船ニ對スル食料及飲用水表

品名	量額
七分搗米	八〇〇グラム
骨附獸肉	一六〇〃
骨附魚肉	一六〇〃
生野菜	五〇〇〃
漬物梅干類	一一二〃
味噌	一二〇〃
調味料　砂糖	二五〃
調味料　油脂類	五〃
醬油、鹽、酢ノ類	適宜
飲用水	三・六リツトル

備考

一　本表ノ量額ハ一人一日ニ對シ支給スベキ最小額トス

二　七分搗米ハ半搗米又ハ白米ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但シ白米ヲ用ウルトキハ必ズ適量ノ大麥ヲ混用スベシ

三　骨附獸肉ノ可食分ハ六六%、骨附魚肉ノ可食分ハ五四%トス　獸肉ニ代ウルニ魚肉ノミヲ以テスルトキハ其ノ用量ヲ倍額トスベシ

四　肉類ハ同量ノ塩乾肉又ハ燻肉ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

五　生野菜ハ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ限リ本表ノ量額ノ半量ヲ超エザル範圍内ニ於テ乾野菜ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ乾野菜二五グラムハ生野菜一〇〇グラムニ相當スルモノトス

六　北洋方面以外ニ出漁スル母船ニ付テハ管海官廳ニ於テ調味料ノ量額ヲ適當ニ增酌スルコトヲ得

第三號表　屬具表

屬具名稱 ＼ 漁船ノ種類	第一種漁船		第二種漁船	第三種漁船	摘要
	動力ヲ有セザル漁船	動力漁船			
手用測鉛	二	一	一	二	
測程機械	一	一	一	二	
砂漏計	一	一	一	一	
手用測程具	一	一	一	一	
海水用寒暖計	一	一	一	一	
晴雨計	一	一	一	一	
雙眼鏡	一	一	一	一	
時計	二	一	一	一	
鐘號	一	一	一	一	
錨	一	一	一	一	
深海測鉛	一	一	一	一	
時辰儀	一	一	一	一	
六分儀	一	一	一	一	
航海曆	一	一	一	一	
羅針儀	二	一	一	一	
檣燈 常用	二	一	一	一	
檣燈 豫備	二	一	一	一	
舷燈 常用	一對	一對	一對	一對	
舷燈 豫備	一對	一對	一對	一對	
船尾燈	一	一	一	一	

測鉛ニ附スル線ノ長サハ手用測鉛ニ在リテハ四六メートル以上、深海測鉛ニ在リテハ二三〇メートル以上ナルコトヲ要ス

總噸數千噸未滿ノ母船及運搬漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

總噸數二百噸未滿ノ母船及運搬漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

總噸數二百噸未滿ノ母船及運搬漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ　總噸數二百噸未滿ノ母船及運搬漁船ニハ二箇ヲ有スルモノニ在リテハ一箇ハ天象ノ動力ヲ有セザル漁船及總噸數百噸未滿ノ運搬漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ　總噸數二百噸未滿ノ母船及運搬漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ　總噸數四十噸以上ノ動力漁船ニハ甲種檣燈ヲ備ヘ總噸數四十噸未滿ノ動力漁船ニハ甲種又ハ乙種檣燈ヲ備フベシ　長サ四五・七メートル以上ナルトキハ常用燈二箇ヲ備フベシ　動力漁船ハ常用燈トシテ從事スル動力漁船ニハ甲種檣燈以上ノ燈二箇以上ヲ增備スベシ　曳船ニハ甲種檣燈ヲ備フベシ　總噸數四十噸以上ノ動力漁船ニハ甲種檣燈ヲ備ヘ總噸數四十噸未滿ノ動力漁船ニハ甲種又ハ乙種檣燈ヲ備フベシ　但シ甲種兩色燈一箇ヲ以テ代用スルコトヲ得　豫備舷燈ハ油船燈ヲ爲スコトヲ要ス　總噸數四十噸未滿ノ漁船ニ於テハ甲種、乙種又ハ丙種白燈ヲ以テ代用スルコトヲ得

碇泊燈	二	一	一	碇泊燈ハ甲種、乙種又ハ丙種白燈ナルコトヲ要ス長サ四五・七メートル以上ナルトキハ碇泊燈二箇ヲ備フベシ						
漁業燈	一揃	一揃	一揃	本表備考表ニ依ルベシ						
黒球	二	二	二	總噸數四十噸未滿ノ動力漁船ニハ黒球ヲ備フルコトヲ要セズ黒球ハ直徑六一〇ミリメートルニシテ布其ノ他ノ保存ニ耐フベキ材料ヲ用ヰタルモノナルコトヲ要ス						
霧中號角	一	一	一							
火箭又ハ榴彈	六	二	二	榴彈ヲ備フルトキハ打上臺一箇ヲ備ヘ適當ノ場所ニ据附クベシ						
		二	二	口徑八九ミリメートル以上ノ信號砲又ハ口徑一四〇ミリメートル以上ノ臼砲、附屬具及十二發以上ノ發射設備ヲ備フル漁船ニハ火箭又ハ榴彈ヲ備ヘザルモ妨ナシ						
			一	總噸數千噸未滿ノ運搬漁船ハ二箇ト爲スモ妨ナシ						
國旗	二	一	一	總噸數百噸未滿ノ漁船ニハNC二旗ノミヲ備フルモ妨ナシ但シNC旗ノミヲ備フル漁船ト雖モ信號符字ノ點符アルモノハ其ノ符字ニ對スル信號旗ヲ備フベシ						
國際信號旗	一組	一組	一組	NC二旗	NC二旗					
國通信書	一	一	一							
船名錄	一	一	一							
海錨	一	一	一							

碇泊燈	二	一	一							
漁業燈	一揃	一揃	一揃							
黒球	二	二	二							
霧中號角	一	一	一							
火箭又ハ榴彈	六	二	二							
		二	二							
			一							
國旗	二	一	一							
國際信號旗	一組	一組	一組	NC二旗	NC二旗					
國通信書	一	一	一							
船名錄	一	一	一							
海錨	一	一	一							

備考

漁業燈ヲ備フベキ漁船ノ種別及備フベキ漁業燈ノ種類竝ニ數ハ左ノ各號ニ依ル但シ各號ノ白燈ハ之ト同種以上ノ白燈ヲ碇泊燈トシテ備フルトキハ碇泊燈ヲ以テ兼用スルコトヲ得

(一)　甲板ヲ張詰メザル漁船ニシテ夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出セル漁具ノ端ト本船トノ水平距離ガ四五・七メートル以內ナルモノ

甲種、乙種、丙種又ハ丁種白燈一箇

(二)　甲板ヲ張詰メザル漁船ニシテ夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出セル漁具ノ端ト本船トノ水平距離ガ四五・七メートルヲ超ユルモノ

甲種、乙種、丙種又ハ丁種白燈二箇

(三)　甲板ヲ張詰メタル漁船ニシテ夜間流網又ハ延繩ヲ用ヰテ漁業ニ從事スルモノ

甲種白燈二箇

(四)　夜間打瀨網、桁網其ノ他海底ニ曳ク漁具ヲ用ヰテ漁業ニ從事スルモノ

甲種又ハ乙種白燈一箇

(五)　前號ノ漁船中夜間機關ヲ以テ推進シ漁具ヲ海底ニ曳クモノ

前號ノ白燈ノ外三色燈一箇

信號燈	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

總噸數百五十噸以上ニシテ國際航海ヲ爲ス漁船ニ限リ之ヲ備フベシ

第四號表

蒸汽機關ヲ備フル漁船ノ機關備品表

漁船ノ種別 / 名稱	第二種漁船、「トロール」汽船又ハ漁船特殊規則第五條第四號ニ揭グル業務ニ從事スル漁船	其ノ他ノ漁船
「ピストン」環	各一組	

「ピストン」發條	各一組		
「ピストン」抑環螺釘及母螺	六箇	三箇	同上
連接桿上下ノ栓受金	一桿分	同上	
連接桿上下ノ螺釘及母螺	一桿分	同上	
「クランク」軸受螺釘及母螺	各種一組		
「ローター」軸受金	各形一組		
「ローター」軸受螺釘及母螺	各種一組		
減速裝置軸受金	各形一組		
減速裝置ノ軸受螺釘及母螺	各種一組		
「ローター」推力受	一組		
「ローター」軸ノ汽密環及發條	各「タービン」ニ付一組		
接軸錫螺釘及母螺	各填座毎ニ半組		
單環式推力軸推力受	各種一組		
復水器管	片面分		
復水器管填筒	總數ノ四十分ノ一但シ最少十本		
抽氣「ポンプ」桿	總數ノ三十分ノ一但シ最少三十箇		
抽氣「ポンプ」弁	一箇	同上	
循環水「ポンプ」桿	一組	同上	
循環水「ポンプ」弁	一箇	同上	
給水「ポンプ」弁	一組	同上	
溢水「ポンプ」弁	一組	同上	
潤滑油「ポンプ」弁及發條	一組	同上	
逃出弁發條	各種一箇		
給水制限弁	一組	同上	
安全弁發條	各罐ニ付一箇	一	總數ノ十分ノ一但シ最少四箇
火床	總數ノ五分ノ一		
燃油裝置用噴油器	各罐ニ付一箇	同上	
微粉炭燃燒裝置用噴炭器	各罐ニ付一箇	同上	
微粉炭燃燒裝置用碎炭具	一組	同上	
示面計硝子管	各罐ニ付四箇	六箇	汽罐四箇以上ナルトキハ更ニ一組增備スベシ
管擴器	但シ最少六箇	同上	同形ニシテ相轉用シ得ルモノナルトキハ三箇ニ止ムルコトヲ得
管塞器	各罐ニ付二箇	四箇	汽罐四箇分ニ止ムルコトヲ得
	但シ最少四箇		
滑車及綱	一組	同上	
螺旋切道具	一組	同上	
鑽孔器	一箇	上	
軸受金	一箇	上	
數	一箇	上	
据附萬力	一箇	上	

同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ之ヲ一組ニ止ムルコトヲ得			
慶汽「タービン」用ナルトキハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ			
扇車「ポンプ」ナルトキハ桿ノ代リニ扇車軸ヲ備フベシ			
扇車「ポンプ」ナルトキハ桿ノ代リニ扇車軸ヲ備フベシ			
中牛數ハ汽罐前面ニ於テ直ニ使用シ得ルモノナルコトヲ要シ水管汽罐ニハ管寒栓ヲ上記ノ倍數備フベシ汽罐四箇分ニ止ムルコトヲ得			

鋼板	各種若干	同	上
鋼棒	各種若干	同	上
螺釘及母螺	各種若干	同	上
機關室小道具	一揃	同	上
驗鹽器	二箇	二箇	箇
驗溫度計	二箇	一箇	箇

備考

汽機又ハ「ポンプ」ニシテ同形ノモノ二箇以上ナル船舶ニ在リテハ「ピストン」環乃至逃出弁發條ハ之ヲ汽機又ハ「ポンプ」一箇分ニ止ムルコトヲ得

第五號表

發動機ヲ備フル漁船ノ機關備品表

名稱 ＼ 漁船ノ種別 ＼ 船體ノ長サ	第二種漁船、「トロール」汽船又ハ漁船特殊規則第五條第四號ニ掲グル業務ニ從事スル漁船 三〇米以上	同 三〇米未滿	其ノ他ノ漁船 三〇米以上	同 三〇米未滿	摘要
氣筒蓋（弁其ノ他附屬品ノ完備セルモノ）	各形　一組	同	同	同	長サ五〇メートル以上ノ船ニ備フル「ディーゼル」式發動機ニ限ル
「ピストン」完備セルモノ	一　箇	同	同	同	右
「ピストン」環	一　組	同	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	同	中牛數ハ弁、弁座及發條ノミニ止ムルコトヲ得複働式ナルトキハ上記ノ倍數トス
噴油弁（弁座、弁匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ）	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	同	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	同	

吸氣弁	〔弁座、弁匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ〕	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	同	上	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	同	上
廢氣弁	〔弁座、弁匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ〕	氣筒一箇毎ニ一組	同	同	同	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	同
噴油管及接合金具		一揃	同	同	同	同	同
「ピストン」冷却用伸縮嵌合管又ハ搖動管		一組	同	同	同	同	同
主軸受螺釘及母螺		一氣筒分	同	同	同	同	同
連接桿上下ノ栓受金		二桿分	同	同	一桿分	同	同
連接桿上下ノ螺釘及母螺		一桿分	同	同	同	同	同
接軸鍔螺釘及母螺		各種一組	同	同	同	同	同
始動弁及發條		一組	同	同	同	同	同
正副空氣壓縮機ノ壓縮筒ノ「ピストン」環		各形一組	同	同	同	同	同
正副空氣壓縮機ノ吸入弁及排出弁竝ニ發條		各形半組	同	同	同	同	同
掃除空氣「ポンプ」弁及發條		一組	同	同	同	同	同
燒球式發機動ノ掃除空氣弁噴油「ポンプ」ノ弁、弁座及發條		氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一氣筒分	同	同	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一氣筒分	同	同
氣筒、氣筒蓋、「ピストン」等ノ冷却「ポンプ」ノ扇車軸		一箇	同	同	同	同	同
氣筒、氣筒蓋、「ピストン」等ノ冷却「ポンプ」ノ弁及發條		一組	同	同	同	同	同
潤滑油「ポンプ」ノ弁及發條		一組	同	同	同	同	同
移油「ポンプ」ノ弁及發條		一組	同	同	同	同	同

| | | |

第三條　遠洋漁船ノ上甲板ニハ海圖室、操舵室、航海用具室、無線電信室、無線電話室、賄室、燈具室、副漁具室、漁獲物處理用機械室、漁獲物處理室及便所ヲ除クノ外甲板室ヲ設クルコトヲ得ス但シ農林大臣ノ認可ヲ受ケタルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第四條　遠洋漁船ノ舷側ニハ載貨門ヲ設クルコトヲ得ス

第五條　機關ヲ有スル船舶ニシテ船體ノ大サニ對シ帆面積ノ大ナル帆裝ヲ有スルモノ又ハ機關ヲ有セサル船舶ニシテ帆裝ヲ有スルモノハ長ハ深ノ十倍、幅ノ四・五倍ヲ、幅ハ深ノ二・八倍ヲ超エルコトヲ得ス但シ打瀨網漁業ニ使用スル機關ヲ有セサルモノニ在リテハ長ハ深ノ十三倍迄ト爲スコトヲ得

機關ヲ有スル船舶ニシテ船體ノ大サニ對シ帆面積ノ小ナル帆裝ヲ有スルモノ又ハ帆裝ヲ有セサルモノハ長ハ深ノ十一倍、幅ハ深ノ二・八倍ヲ超エルコトヲ得ス但シ專ラ漁獲物ノ運搬ニ從事スルモノニ在リテハ長ハ深ノ十三倍迄、幅ハ深ヲ相乘シタル數八十五未滿ノ船舶ハ前二項ノ規定ニ拘ラス長、幅、深ヲ相乘シタル數八十五未滿ノ船舶ハ前二項ノ規定ニ拘ラス長ハ深ノ十三倍迄、幅ノ五倍迄ト爲スコトヲ得

檢査官吏ニ於テ船體ト壓艙物、帆面積又ハ乾舷高トノ關係ニ依リ復元力充分ナリト認メ且特別ノ補强構造ニ依リ强力充分ナリト認メタルモノハ前三項ノ規程ニ依ラサルコトヲ得

第六條　遠洋漁船ニ搭載スル壓艙物カ移動シ易キ物質ナルトキハ隔板其ノ他ノ防移裝置ヲ爲スヘシ

第七條　第一級漁船以外ノモノニシテ長、幅、深ヲ相乘シタル數百十三未滿ノモノニ在リテハ甲板上ヨリ舵ヲ引揚ケ得ル構造ト爲スコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ舵架ノ構造ヲ特ニ堅牢ト爲スヘシ

第八條　機關ヲ有スル船舶ニシテ船體ノ大サニ對シ帆面積ノ小ナル帆裝ヲ有スルモノ及長、幅、深ヲ相乘シタル數百十三未滿ノ船舶竝打瀨網漁業ニ使用スル船舶ニ在リテハ適當ノ構造ヲ爲ストキハ起倒シ得ヘキ檣ヲ用ウルコトヲ得

第九條　操舵裝置ハ船ヲ最强速力ニ於テ航走セシメ舵ヲ最大角度ニ取リテ之ヲ試驗シ故障ナキモノナルコトヲ要ス

第十條　長、幅、深ヲ相乘シタル數三百四十未滿ノ遠洋漁船ニ在リテハ海錨一箇以上ヲ備ヘ且「ケッチ」、「ヨール」及「スクーナー」以外ノモノナルトキハ船尾ニ隨時ニ小檣ヲ立テ三角帆ヲ使用シ得ル裝置ヲ爲スヘシ

第十一條　遠洋漁船ノ舷側ニ棚ヲ設クルモノニ在リテハ充分ニ排水シ得ル構造ト爲スヘシ

第十二條　遠洋漁船ノ外板ハ肋骨ヲ建テタル後之ヲ張ルヘシ但シ主トシテ蒸曲肋骨ヲ使用スル場合ニ於テハ此ノ限リニ在ラス

第十二條ノ二　機關ヲ有スル遠洋漁船ニ在リテハ隨時ニ後進ヲ爲シ得ル裝置ヲ爲スヘシ

第十二條ノ三　機關ヲ有スル遠洋漁船ニ在リテハ機力ニ依ル唧筒ヲ設ケ機關室及魚艙ニ其ノ吸水管ヲ導入スヘシ

第十二條ノ四　鋼製遠洋漁船ノ船首材、船尾材、龍骨、外板、甲板、肋骨、梁、舵及舵柄ハ材料試驗ニ合格シタルモノ又ハ檢査官吏ノ適當ト認メタル證明書アルモノナルコトヲ要ス

前項ノ試驗ハ造船規程第一編第二章ノ規定ニ依ル但シ鑄鋼製ノモノニ

在リテハ抗張試驗及屈曲試驗ハ檢査官吏必要ナシト認メタルトキ之ヲ省略スルコトヲ得

第十二條ノ五　鋼製遠洋漁船ハ船首材ノ前面ヲ距ルコト船ノ長ノ二十分ノ一ヨリ少カラサル箇所及少クモ機關室ノ前後各一箇所ニ支水隔壁ヲ設クヘシ但シ長、幅、深ヲ相乘シタル數百七十未滿ノ船舶ニシテ機關室ヲ船尾ニ設クルモノノ機關室後部ノ支水隔壁ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條ノ六　鋼製遠洋漁船ノ彎曲部角型ナルモノニ在リテハ肘板ヲ以テ其ノ部ノ肋骨ヲ接續セシムヘシ

第十二條ノ七　活魚艙ヲ有スル鋼製遠洋漁船ニシテ其ノ部ニ縱通隔壁ヲ有スルモノニ在リテハ其ノ部ノ肋骨ノ寸法及外板ノ厚ヲ增ストキハ肋板ヲ省略スルコトヲ得

第十二條ノ八　木製遠洋漁船ノ上甲板ノ甲板室ハ其ノ周圍四箇所以上ニ於テ甲板室上部ニ通スル鐵釘ヲ以テ甲板梁ニ固著スヘシ

第十二條ノ九　燃油槽ヲ甲板上ニ設クルトキハ特ニ堅固ニ之ヲ取附クヘシ

第十三條　漁獲物處理運搬船ニハ處理設備若ハ活魚設備又ハ保藏設備ヲ爲スヘシ

第十四條　船體又ハ機關ノ構造寸法カ本規程ニ該當セサル場合ニ於テモ主務大臣ニ於テ本規程ノ定ムル所ト同一ノ效力ヲ有スト認メタルモノハ本規程ニ適合スルモノト看做ス

第十四條ノ二　船ノ長、幅、深ハメートルヲ單位トシ呎以下ハ木船ニ在リテハ一位、鋼船ニ在リテハ二位ニ止メ其ノ以下ハ四捨五入スルモノトス

第二章　長、幅、深ヲ相乘シタル數百十三未滿ノ木製帆船ノ船體

第十五條　本章ニ於テ第一數ト稱スルハ船ノ深ト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂フ

第二數ト稱スルハ船ノ長、幅、深ヲ相乘シタル數ヲ謂フ

第十六條　前條ニ於テ船ノ長ト稱スルハ甲板梁上ニ於テ船首材ノ後面ヨリ單螺旋推進器ヲ有スル船舶ナルトキハ舵柱ノ前面迄、其ノ他ノ船舶ナルトキハ漁尾材ノ前面迄、舵柱又ハ船尾材ヲ有セサルモノニ在リテハ船尾板ノ前面迄ノ水平距離ヲ謂フ但シ上部彎曲ノ船首材ヲ備フル船舶ニ在リテハ該材下部ノ後面ニ沿ヒテ眞直ニ延長シタル線ト甲板梁ノ上面線トノ交叉點ヨリ之ヲ測ルモノトス

幅ト稱スルハ船體ノ最廣部ニ於ケル肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ距離ヲ謂フ

深ト稱スルハ船體ノ中央ニ於テ龍骨又ハ數ノ上面ヨリ甲板梁ノ上面迄ノ距離ヲ謂フ

第十七條　本章ニ於テ規定シタル寸法及員數ハ最小ノ限度ヲ示シ距離ハ最大ノ限度ヲ示シタルモノトス

第十八條　石油發動機ヲ備フル漁船ノ機關室ハ鐵板若ハ亞鉛板ヲ張リ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃燒豫防ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十九條　吸入瓦斯發動機ヲ據附クルモノニ在リテハ機關室ニ徑二十センチメートル以上ノ通風器ヲ一箇以上設クヘシ但シ檢査員ニ於テ之レト同等以上ノ效力アリト認ムル設備ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラ

ス

第二十條　甲板ニ設クル機關室口、艙口、載炭口、出入口及其ノ他ノ踏口ノ緣材ハ其ノ高甲板上面ヨリ十五センチメートル以上ト爲シ蔽釘ヲ以テ梁及縱梁ニ固著スヘシ但シ直接波浪ヲ受ケサル場所ニ於ケルモノ若ハ特殊ノ水密裝置ヲ備フルモノ又ハ第二數五十七以下ノ漁船ニ在リテハ緣材ノ高ヲ減シ又ハ甲板上面ト平直ト爲スコトヲ得

第二十一條　甲板ニ設クル機關室口ニハ甲板上面ヨリ四十六センチメートル以上ノ高ヲ有スル圍壁ヲ取附クヘシ

第二十二條　艙口ニハ堅牢ナル蓋板ヲ備ヘ且之ヲ堅固ニ密閉シ得ヘキ樣覆布及適當ノ締具ヲ備フヘシ但シ檢査員カ覆布ト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノヲ備フルトキハ覆布ハ之ヲ備ヘサルコトヲ得

甲板上ノ機關室口、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋又ハ蓋板及覆布竝適當ノ締具ヲ備フルカ其ノ他水密トナルヘキ裝置ヲ爲スヘシ但シ檢査員ニ於テ水密ト爲ス必要ナシト認ムル甲板口ハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ諸口ニシテ被蓋ヲ備フルモノニ在リテハ各側ノ緣材ニ徑一センチメートル以上ノ金屬製環一箇以上ヲ蔽著又ハ螺著シ綱ニテ締附クルノ裝置ヲ爲スヘシ

第二十三條　曲材ハ總テ木目ノ貫通シタルモノナルコトヲ要ス

第二十四條　船體ヲ構成スル木材ハ有害ナル節瘤其ノ他ノ缺點ヲ有セス且充分乾燥シタルモノナルコトヲ要ス

第二十五條　遠洋漁船ニハ船ノ全長ヲ通シテ水密構造ノ甲板ヲ設クヘシ但シ漁業上差支アルトキハ機關室以外ノ部分ニ於テ船ノ全長ノ三分ノ一未滿ハ甲板ヲ設ケサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ支水隔壁ヲ設クヘシ

第二十六條　肋骨ノ截面及心距ハ第一號表ニ依ルヘシ但シ外板ノ厚ヲ增スコトヲ得

前條但書ノ場合ニ於テ肋骨ノ心距ハ機關室ニ於テハ四十三センチメートル、其ノ他ノ箇所ニ於テハ五十一センチメートルヲ超ユルコトヲ得ス但シ機關室以外ノ場所ニ於ケル超離百五十二センチメートル以內ノ隔壁間ニ設クル肋骨ニ在リテハ倘其ノ心距ヲ適當ニ增加スルコトヲ得

第二十七條　前條但書ノ場合ニ於テ肋骨ノ心距ハ機關室ニ於テハ四十三センチメートル、其ノ他ノ箇所ニ於テハ五十一センチメートルヲ超ユルコトヲ得ス但シ機關室以外ノ場所ニ於ケル超離百五十二センチメートル以內ノ隔壁間ニ設クル肋骨ニ在リテハ倘其ノ心距ヲ適當ニ增加スルコトヲ得

第二十八條　單材肋骨ノ嵌接又ハ累接ノ長ハ用材ノ深ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ蔽釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

單材肋骨ノ衝接ニハ肋材ト同截面ヲ有スル添材ヲ附シ衝接ノ兩側ニ二箇以上ノ蔽釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第二十九條　肋骨ハ龍骨及內龍骨ヲ貫通シ蔽釘ヲ以テ緊著スヘシ但シ艙ヲ用ウルモノニ在リテハ十五センチメートル以內ノ心距ニ於テ蔽釘ト打込釘トヲ交互ニ用キ肋骨ト艙トヲ緊著スヘシ

第三十條　肋骨ハ蒸曲材ヲ用ウルトキハ適當ニ截面ヲ減スルコトヲ得

第三十一條　活魚艙ニ縱通隔壁ヲ設クルトキハ其ノ部分ノ肋骨ノ數ヲ減スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ活魚艙兩端ノ肋骨ノ截面ヲ增加シ縱通隔壁下部ニ縱通材ヲ取附ケ且其ノ部分ノ外板ノ厚ヲ增スカ其ノ他適當ナル補强構造ヲ爲スヘシ

活魚艙內ノ肋骨ハ縱通隔壁ニテ止ムルコトヲ得但シ肋骨ヲ止メタル所ニ於テ百二十九平方センチメートル以上ノ截面ヲ有スル縱通材ヲ附シ艙ノ前後ニ肋骨以上延長セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ隔壁部ニ於ケル肋骨ハ之ヲ左右ニ通セシムヘシ

第三十二條　梁ノ截面ハ第一號表ニ依ルヘシ

第三十三條　梁ノ心距ハ百二十二センチメートルヲ超エサル範圍ニ於テ第一號表ニ依ル肋骨心距ノ三倍以內ト爲スコトヲ得但シ心距百二十二センチメートル以內ニ梁ヲ設クルコト能ハサルトキハ肋骨ノ截面又ハ外板ノ厚ヲ增スカ其ノ他適當ナル補强構造ヲ爲スヘシ

第三十四條　梁ハ成ルヘク肋骨ノ上ニ設ケ梁曲材ヲ以テ肋骨ニ緊著スヘシ但シ梁受材ヲ設クルトキハ適當ニ梁曲材ノ數ヲ減スルコトヲ得

前項ノ梁受材ノ截面ハ七十五平方センチメートル以上ト爲スヘシ

第三十五條　甲板ノ厚ハ第二號表ニ依ルヘシ

第三十六條　甲板ノ幅ハ二十五センチメートルヲ超ユヘカラス但シ適當ナル補强構造ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條　甲板ハ幅十五センチメートル以上ナルトキハ一箇、十五センチメートルヲ超ユルトキハ二箇以上ノ打込釘ヲ以テ梁毎ニ固著スヘシ

第三十八條　甲板ノ側緣ニハ梁壓材ヲ設クヘシ但シ其ノ厚ハ甲板ノ厚ヨリ一・三センチメートル以上大ナルコトヲ要ス

第三十九條　梁壓材ハ蔽釘ヲ以テ舷墻柱毎ニ緊著シ打込釘ヲ以テ梁及梁受材ニ固著シ且肋骨ノ間ニ於テ外板ニ固著スヘシ

第四十條　梁壓材ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅二倍以上ト爲シ三箇以上ノ釘ヲ以テ固著スヘシ

第四十一條　外板ノ厚ハ第二號表ニ依ルヘシ但シ肋骨ノ心距ヲ減スルトキハ適當ニ其ノ厚ヲ減スルコトヲ得

第四十二條　外板ノ厚ハ第二號表ニ依ル厚ヨリ百分ノ五十以上增加スルコトヲ得ス

第四十三條　外板ノ幅ハ三十センチメートルヲ超ユルコトヲ得ス

第四十四條　外板ハ其ノ幅二十二センチメートル未滿ナルトキハ肋骨每ニ二箇、幅二十二センチメートル以上二十七センチメートル未滿ナルトキハ肋骨每ニ三箇、幅二十七センチメートル以上ナルトキハ肋骨每ニ四箇ノ釘ヲ以テ之ヲ固著スヘシ但シ外板ノ幅二十七センチメートル以上ナル場合ニ於テモ單材ヲ以テ肋骨ニ構成スルモノ又ハ肋骨每ニ本釘ヲ用ウルモノニ在リテハ肋骨每ニ三箇ヲ用ウルコトヲ得

外板ノ縱緣ニ縫釘ヲ使用スルトキハ前項ノ釘ノ數ヲ肋骨每ニ一箇宛減スルコトヲ得

前二項ノ固著釘ハ肋骨二本置ニ一箇以上ノ蔽釘又ハ木釘ヲ用ウルコトヲ要ス

第四十五條　厚三・二センチメートルヲ超エサル外板ハ其ノ縱緣ヲ累接ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ蔽釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第四十六條　彎曲部ノ角形ナルモノニ在リテハ船ノ首尾ヲ通シテ其ノ部ニ外部彎曲部縱通材ヲ設ケ其ノ截面ヲ六十五平方センチメートル以上ト爲スヘシ但シ首尾兩端ニ於テハ適當ニ其ノ截面ヲ減スルコトヲ得

第四十七條　外部彎曲部縱通材ハ肋骨毎ニ鍛釘ヲ以テ肋骨ニ緊著スヘシ

第四十八條　外部彎曲部縱通材ノ俠接ノ長ハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ鍛釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第四十九條　「スクーナー」、「ケツチ」、「ヨール」、「カツター」、「スループ」又ハ「ラツガー」ノ檣ノ徑ハ長一メートルニ付二・一センチメートル爲スヘシ

第四十九條ノ二　總噸數二十噸未滿ノ帆船ニハ左ノ屬具ヲ備フヘシ

漁業燈	一揃	
信號旗	NC	二旗
羅針盤	一箇	
海水寒暖計	一箇	
雨色燈	一箇	
霧中號角又ハ喇叭	一箇	（總噸數十噸未滿ノ漁船ハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ）
救命具	一箇	
時計	一箇（同上）	
手用測程具	一組（同上）	
測深具	一組（同上）	
晴雨計	一箇（同上）	

第三章　發動機

第五十條　發動機ノ純馬力ノ測定ニ付テハ發動機ヲ船舶ニ据附クル前檢査員ノ適當ト認メタル純馬力測定器ヲ用ヰ計畫回轉數又ハ之ニ近キ回轉數及適當ナル荷重ニ付二回以上毎回三十分間以上繼續シテ運轉シ毎回一分間ノ平均回轉數ヲ測定スヘシ

前項ニ依リ測定シタル毎回ノ平均回轉數ノ平均數ヲ以テ其ノ發動機ノ純馬力ヲ算出スヘシ

第五十一條　發動機ハ前條ニ依リ純馬力ヲ測定シタルトキノ回轉數ニ一割ヲ增加セル回轉數及前條ト同一ノ荷重ニ付三十分間以上之ヲ運轉シ支障ナキモノナルコトヲ要ス

第五十二條　農林大臣ニ於テ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第五十條ニ依ル純馬力測定ヲ爲スコト能ハサルモノト認メタルトキハ發動機ヲ船舶ニ据附ケタル後檢査員ノ適當ト認ムル狀態ニ於テ三十分間以上船舶ヲ航走セシメ二回以上各氣筒ヨリ取リタル示壓圖ニ依リ算出シタル實馬力ノ平均數ニ適當ナル係數ヲ乘シタルモノヲ以テ發動機ノ純馬力トス

發動機ハ前項ノ檢査終リタル後前項ニ依リ純馬力ヲ測定シタルトキノ回轉數ニ一割ヲ增加セル回轉數ニ於テ三十分間以上船舶ヲ航走セシメ支障ナキモノナルコトヲ要ス

第五十二條ノ二　前三條ノ規定ニ依リ發動機ノ純馬力ノ測定ヲ爲シタル後檢査員ノ適當ト認メタル狀態ニ於テ三十分間以上最高速力ヲ以テ船舶ヲ航走セシメ其ノ發動機ノ回轉數ヲ測定スヘシ

前項ノ回轉數ハ計畫回轉數ヨリ一割ヲ下ラサルコトヲ要ス

第五十三條　曲拐軸ハ鍛合シタルモノヲ用ウルコトヲ得ス

第五十四條　諸軸及諸鉚ハ檢査官吏ノ適當ト認ムル强力ヲ有スルモノヲ用ウヘシ

第五十四條ノ二　氣筒、吸鍔及架構其ノ他ノモノノ重要ナル部分ニ巢ノ類ト雖存セサルコトヲ要ス

第五十四條ノ三　發動機カ一氣筒ナルトキハ氣筒ノ直徑ハ三百十七ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ス

第五十四條ノ四　螺旋軸及中間軸ノ接手ニハ鍔接手ヲ用ウヘシ

第五十五條　進力受臺ニハ球軸受ヲ用ウルコトヲ得ス

第五十六條　發動機ノ屬具ハ第三號表ニ據リ之ヲ備フヘシ

第四章　遠洋漁業奬勵法施行細則第一條ノ二各號ニ揭クル設備及漁獵具其ノ他ノ特種業務設備ニシテ本規程ニ特別ノ規定ナキモノニ付テハ農林大臣ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要シ且船舶ニ之ヲ施設シタル後檢査員ノ適當ト認ムル方法ニ依リ之ヲ試驗シ成績良好ナルモノナルコトヲ要ス

第五十七條　遠洋漁業奬勵法施行細則第一條ノ二各號ニ揭クル設備及漁獵具其ノ他ノ特種業務設備ニシテ本規程ニ特別ノ規定ナキモノニ付テハ農林大臣ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要シ之ヲ施設シタル後檢査員ノ適當ト認ムル方法ニ依リ之ヲ試驗シ成績良好ナルモノナルコトヲ要ス

附　則

本令ハ大正七年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正七年四月一日ヨリ施行）

本令施行前遠洋漁業奬勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則

（昭和八年三月農林省令第四號）

本令ハ昭和七年法律第十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和八年三月十一日ヨリ施行）

本令施行前奬勵金下付ノ指定ヲ受ケタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第一號表

第一種材料 數	舉材肋骨 材頂	舉材肋骨 材根肋	舵 釘	肋骨心距	梁
	材方	材方	耗	粨	粨方
滿未——2.4以上	19	26	8	33	52
2.4——2.7	19	39	8	33	77
2.7——3.0	26	52	8	33	97
3.0——3.4	32	65	8	36	116
3.4——3.7	45	97	8	38	135
3.7——4.0	65	129	10	41	148
4.0——	84	168	10	43	187

第二號表

材料 ＼ 第二數	甲板ノ厚	外板ノ敲釘	外板ノ厚
滿未 28——以上	耗 25	耗 8	耗 19
28——40	32	8	22
40——51	38	8	25
51——71	44	8	32
71——99	51	10	38
99——	51	10	44

第三號表

發動機屬具表

名稱	員數	摘要
吸錏彈環	氣筒二箇又ハ其ノ未滿每ニ一組	
空氣壓搾機ノ壓搾筒吸錏彈環	壓搾筒一箇每ニ二組	「ザーセル」發動機ナルトキ
接續錏上下螺釘及母螺	一組	
接續錏上下ノ黃銅	氣筒二箇又ハ其ノ未滿每ニ一組	
空氣管	常用ノ外若干	
各種發條	常用ノ外若干	
螺釘及母螺	常用ノ外若干	
機關室用小道具	一揃	

備考

一　本表ニ揭ケタル屬具中發動機ノ構造上使用ノ迄ナキモノハ之ヲ備フルコトヲ要セス

二　發動機二臺以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ發動機一臺分ノ外之ヲ備ヘサルコトヲ得

名稱	員數	摘要
接軸錏螺釘及母螺	一組	
噴油瓣	氣筒二箇又ハ其ノ未滿每ニ一箇	
吸氣瓣及發條	氣筒二箇又ハ其ノ未滿每ニ一箇	
排出瓣及發條	氣筒一箇每ニ一箇	
起動用瓣	氣筒二箇又ハ其ノ未滿每ニ一箇	「ザーセル」發動機ナルトキ
掃除喞筒瓣又ハ空氣瓣	一組	
給油喞筒瓣	給油喞筒一箇每ニ一組	
冷筒喞筒瓣	一組	
空氣壓搾機ノ空氣瓣	一組	「ザーセル」發動機ナルトキ
淦水喞筒瓣	一組	
點火器	氣筒二箇又ハ其ノ未滿每ニ二箇	
電池	常用電池一箇每ニ一箇	
發電子	常用ノ外一箇	
起動用燈	常用ノ外一箇	
同火口	常用ノ外燈一箇每ニ一箇	
電線	常用ノ外若干	
油管	常用ノ外若干	

●遠洋漁船檢査規程中特例ニ關スル件（大正十三年三月三十一日農商務省令第四號）

遠洋漁船檢査規程中特例ニ關スル件左ノ通定ム

大正十二年九月ノ震災ニ因リ損害ヲ被リタル地方ニ住所又ハ營業所ヲ有スル者カ遠洋漁業奬勵法ニ依リ大正十三年三月三十一日以前ニ總噸數十噸未滿ノ船舶ニ付漁船奬勵金ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ船舶ニ遠洋漁船檢査規程ヲ適用スルニ付テハ同規程中第十二條、第二十六條、第七條、第三十二條、第三十三條、第四十三條、第四十六條及第五十條乃至第五十二條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

前項ノ船舶ニ據附クヘキ發動機ノ純馬力ハ農商務大臣ノ認定ニ依リ之ヲ決ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ檢査ニ關スル件（大正十四年十二月一日遞信省令第八十六號）

佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ檢査ニ關スル件左ノ通定ム

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條　佛蘭西國（其ノ殖民地及管治地域ヲ含ム）ニ航行セムトスル日本船舶カ別種檢査證書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ヨリ附錄書式甲ニ依リ管海官廳ニ別種定期檢査ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ船舶檢査手帖ヲ添附スヘシ

別種檢査證書ヲ受有スル船舶ハ其ノ證書ノ有效期間內ト雖繰上ケ別種定期檢査ヲ申請スルコトヲ得

第二條　前條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ檢査官吏ヲシテ當該船舶ヲ檢査セシメ第三條及第四條ノ規定ニ適合スト認メタルトキハ附錄書式乙ノ別種檢査證書ヲ交付ス

別種檢査證書ハ船舶ノ航行期間滿了ノ日ヲ以テ其ノ有效期限トス但シ當該船舶カ船舶檢査法施行細則ノ規定ニ依リ回航認可證書ヲ受有スル場合ニ於テハ該證書ノ有效期間內仍之ヲ有效トス

第三條　旅客船ノ端艇及救命設備ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルコトヲ要ス

一　船舶檢査規程第四號表中當該船舶ノ總噸數ニ對シ定ムル所ヨリ一

段下級ノ總噸數ニ對シ定ムル所ニ從ヒ端艇鉤ヲ有スル端艇ヲ備フルコトヲ要ス

二　端艇鉤ヲ有スル端艇ノ數及容積カ第一號ニ依リ備フヘキ端艇ノ數及容積ニ足ラサルモ現ニ之ヲ備フル船舶ノ旅客定員及船員ノ總員數ヲ一人ノ容積〇・二八三立方「メートル」(一〇立方呎)ノ割分ヲ以テ搭載シ得ルトキハ其ノ不足ハ之ヲ補充スルコトヲ要セス

三　第一號ニ依リ備フヘキ端艇鉤ヲ有スル端艇カ現ニ之ヲ備フル船舶ノ旅客定員及船員ノ總員數ヲ一人ノ容積〇・二八三立方「メートル」(一〇立方呎)ノ割合ヲ以テ搭載シ得サルトキハ其ノ不足ハ端艇鉤ヲ有スルト否トニ拘ラス檢査官吏ニ於テ適當ト認メタル端艇、疊込端艇又ハ救命筏ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ救命筏ノ空氣箱容積〇・〇八五立方「メートル」(〇・三立方呎)ハ端艇容積〇・二八三立方「メートル」(一〇立方呎)ニ相當スルモノトシテ其ノ容積ヲ計算ス

四　第三號ニ依リ補充スヘキ端艇又ハ救命筏ノ容積ハ第一號ニ依リ備フヘキ端艇鉤ヲ有スル端艇ノ容積ト通算シテ總噸數五千噸以上ノ船舶ニ在リテハ第一號ニ依リ備フヘキ端艇ノ容積ノ一倍四分ノ三以上、總噸數五千噸未滿ノ船舶ニ在リテハ其ノ一倍二分ノ一以上ナルコトヲ要ス但シ端艇及救命筏ノ容積ヲ通算シテ當該船舶ノ旅客定員及船員ノ總員數ヲ一人ノ容積〇・二三八立方「メートル」(一〇立方呎)ノ割合ヲ以テ搭載シ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス

五　第一號ニ依リ備フヘキ端艇鉤ヲ有スル端艇ノ數及容積ノ二分ノ一以上ハ船舶檢査規程第五十八條ニ定ムル救命艇ト爲スコトヲ要シ其ノ他ノ端艇ハ同條ノ規定ニ對シ二分ノ一ノ浮泛力ヲ有スル救命艇又ハ二艘以内ヲ限リ普通端艇ト爲スコトヲ得

第四條　大正十五年一月二十九日以後ニ龍骨ヲ据附クル船舶ノ旅客室、船員室、病室等ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルコトヲ要ス

一　一等及二等ノ旅客室ハ旅客一人ニ付三・五立方「メートル」(一二三・六立方呎)以上ノ容積ヲ要ス但シ此ノ容積ノ算定ニ付テハ寢臺其ノ他附屬品ノ占ムル容積ヲ控除スルコトヲ要セス

二　三等旅客室ハ滿載吃水線ノ直下ノ甲板ヨリ下方ニ設クルコトヲ得ス

三　二港間ノ直航時間カ通常四十八時間ヲ超ユル航海ヲ爲ス船舶ニ於テハ三等旅客室ハ旅客一人ニ付上甲板以上及上甲板直下ノ甲板間ニ在リテハ二・七五立方「メートル」(九七・一立方呎)以上、其ノ他ノ甲板間ニ在リテハ三立方「メートル」(一〇・六立方呎)以上ノ容積ヲ要ス

四　三等旅客室ニハ旅客一人ニ付長一・八三「メートル」(六呎)、幅五六「センチメートル」(一・八三呎)以上ノ寢臺一箇ヲ備フヘシ

五　船員常用室ハ便所ヲ除キ船員一人ニ付三・五立方「メートル」(一二三・六立方呎)以上ノ容積及一・五平方「メートル」(一六・一平方呎)以上ノ甲板面積ヲ要シ船員寢室ハ船員一人ニ付二・一五立方「メートル」(七五・九立方呎)以上ノ容積及一・一五平方「メートル」(一二・四平方呎)以上ノ甲板面積ヲ要シ船員寢室ニハ各人專用ノ寢室ヲ備フヘシ

六　第三號ニ揭クル船舶ニシテ船員ヲ含ミ百人ヲ超ユル人員ヲ搭載ス

ルモノニハ病室ヲ上甲板以上又ハ上甲板直下ノ甲板間ニ於テ成ヘク旅客室及船員室ヨリ隔離シタル箇所ニ設ケ搭載人員二百人迄ハ四十人毎ニ一箇ノ病室用寢臺ヲ備ヘ二百人ヲ超ユルトキハ超過人員六十人毎ニ病室用寢臺一箇ヲ增備スヘシ

七　病室附屬トシテ診療室ニ兼用シ得ヘキ藥局、浴室、便所及前號ノ病室用寢臺數ノ四分ノ一ヲ備フル隔離病室ヲ設クヘシ

八　病室ハ收容人員一人ニ付四立方「メートル」(一四一・三立方呎)以上ノ容積ヲ要ス

九　病室ニハ規定數ノ二分ノ一以上ノ寢臺ヲ常置スヘシ

十　病室用寢臺ハ金屬製ニシテ長一・八三「メートル」(六呎)以上、幅六〇「センチメートル」(二呎)以上ノモノトシ之ヲ据附クルニハ其ノ兩側ニ幅一「メートル」(三・二八呎)以上ノ通路ヲ存スヘシ又病室用寢臺ハ上下ニ重ネテ据附クルコトヲ得ス

十一　糧食庫及飲料水槽ハ內容物ノ腐敗、汚穢其ノ他使用上不都合ヲ生セサル樣適當ニ設備スヘシ

第五條　別種檢査證書ヲ受有スル船舶カ其ノ證書ノ有效期間內ニ於テ非旅客船ヨリ旅客船ニ變更シタルトキ又ハ旅客船ノ端艇及救命設備若ハ大正十五年一月二十九日以後龍骨ヲ据附ケタル船舶ノ旅客室、船員室、病室又ハ衞生設備ニ變更ヲ生シタルトキハ第一條ニ揭クル者ヨリ最寄管海官廳ニ別種檢査證書ノ交付ヲ受ケムトスル船舶ノ龍骨据附日ヲ認定スルニ當リ申請人ヲシテ必要ナル證憑ヲ提示セシムルコトアルヘシ

第十二條　本令ニ依ル檢査ノ申請人ハ申請ノ際別種定期檢査ニ在リテハ其ノ檢査ヲシテ本令ノ規定ニ適合セスト認ムルトキハ別種檢査證書ヲ無效トシ之ヲ廢棄ス又船舶カ非旅客船ヨリ旅客船ニ變更シタル場合ニ於テ本令ノ規定ニ適合スト認ムルトキハ別種檢査證書ヲ書換交付ス

第七條　第五條ニ揭クル場合ヲ除クノ外別種檢査證書ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ第一條ニ揭クル者ハ遲滯ナク新舊事項ヲ具シ最寄管海官廳ニ其ノ書換ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依ル申請書ニハ船舶檢査手帖ヲ添附スヘシ

第八條　第一條ニ揭クル者別種檢査證書ノ滅失又ハ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケムトスルトキハ事由ヲ具シ別種檢査證書ノ交付ヲ受ケタル管海官廳ニ之ヲ申請スヘシ

第一條ニ揭クル者別種檢査證書カ滅失シタル場合ニ於テ其ノ再交付ヲ申請セサルトキハ其ノ滅失ノ旨ヲ最寄管海官廳ニ屆出ツヘシ

第九條　別種檢査證書カ無效又ハ不用トナリタルトキハ遲滯ナク最寄管海官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第十條　大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタル船舶ニ在リテハ第一條ニ揭クル者ヨリ最寄管海官廳ニ申請シ其ノ事實ノ證明ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル申請書ニハ船舶檢査手帖ヲ添附スヘシ

第一項ノ規定ニ依ル證明書ハ附錄書式丁ニ依ル

第十一條　管海官廳ハ別種檢査證書又ハ前條ノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスル船舶ノ龍骨据附日ヲ認定スルニ當リ申請人ヲシテ必要ナル證憑ヲ提示セシムルコトアルヘシ

第十二條　本令ニ依ル檢査ノ申請人ハ申請ノ際別種定期檢査ニ在リテハ其ノ檢査ヲシテ本令ノ規定ニ適合セスト認ムルトキハ別種檢査證書ヲ無效トシ之ヲ廢棄ス又船舶カ非旅客船ヨリ旅客船ニ變更シタル場合ニ於テ本令ノ規定ニ適合スト認ムルトキハ別種檢査證書ヲ書換交付ス

二十圓、別種臨時檢査ニ在リテハ十圓ノ檢査手數料ヲ管海官廳ニ納付スヘシ

檢査手數料ハ申請人ノ都合ニ依リ申請ヲ取下ケタル場合ト雖之ヲ返還セス

第十三條　別種檢査證書又ハ第十條ノ證明書ノ交付、書換又ハ再交付ノ申請人ハ申請ノ際證書一通ニ付四圓ノ手數料ヲ納付スヘシ

第十四條　前二條ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スヘシ

手數料納付書ニ貼附シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但シ納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スヲ妨ケス

第十五條　本令ノ規定ニ依ル手數料ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ課セス

附錄

書式甲

別種定期檢査申請書

汽(帆)船何丸

右大正十四年十二月遞信省令第八十六號ニ依リ　年　月　日某所ニ於テ檢査ノ上別種檢査證書交付相成度此段申請候也

年　月　日　　住所

船舶所有者(船舶管理人、船舶借入人又ハ船長)　何　某　印

管海官廳宛

書式乙(竪二七(センチメートル)以上(裏面ニ佛譯)横二七(センチメートル)以上ヲ記載ス)

第　號

別種檢査證書

船舶番號		所有者	
船名		旅客船非旅客船ノ別	
證書有效期限	年　月　日	龍骨据附日	大正十五年一月二十九日(前又ハ以後)

右大正十四年十二月遞信省令第八十六號ニ依リ檢査ヲ遂ケ同令ノ規定ニ適合スルコトヲ證明ス

年　月　日　　管海官廳名印

備考　此ノ證書ハ旅客船ニ在リテハ其ノ端艇及救命設備カ大正十四年十二月遞信省令第八十六號第三條ノ規定ニ適合スルコト又大正十五年一月二十九日以後龍骨ノ据附ケタル船舶ニ在リテハ其ノ病室、旅客室及船員室竝此等ノ居住設備及衞生設備カ同令第四條ノ規定ニ適合スルコトヲ證明スルモノトス

書式内

別種臨時檢査申請書

備考　大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタル船舶ニ在リテハ船名ノ下ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

汽(帆)船何丸

右大正十四年十二月遞信省令第八十六號ニ依ル　年　月　日某所ニ於テ檢査相成度此段申請候也

年　月　日　　住所

船舶所有者(船舶管理人、船舶借入人又ハ船長)　何　某　印

管海官廳宛

書式丁(竪二七(センチメートル)以上(裏面ニ佛譯)横一八(センチメートル)以上ヲ記載ス)

第　號

龍骨据附日證明書

船舶番號		船名	

右大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタルモノナルコトヲ證明ス

年　月　日　　管海官廳名　印

佛蘭西國又ハ其ノ殖民地若ハ管治地域ニ航行スル日本船舶ノ所有者、船長及其ノ他關係者ノ注意スヘキ事項

(大正十四年十二月一日遞信省告示第千七百九十四號)

大正十五年一月二十九日以後佛蘭西國政府ニ於テハ帝國政府ノ發給スル船舶檢査證書及船舶滿載吃水線證書ヲ承認スルコトトナリタルニ付佛蘭西國又ハ其ノ殖民地若ハ管治地域ニ航行スル日本船舶ノ所有者、船長及其ノ他關係者ハ左ノ事項ニ注意スヘシ

一、佛蘭西國(其ノ殖民地及管治地域ヲ含ム以下同シ)ニ航行スル日本船舶ニシテ船舶檢査證書、船舶滿載吃水線證書及大正十四年十二遞信省令第八十六號ニ依ル別種檢査證書ヲ受有スルモノハ佛蘭西國ニ於テ出港檢査ヲ行ハルルコトアル場合ヲ除クノ外何等檢査ヲ行ハルルコトナク又佛蘭西國法規ノ定ムル航海許可書及船舶滿載吃水線證書ヲ受有スルコトヲ要セサルモノトス

大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタル非旅客船ハ船舶檢査證書及船舶滿載吃水線證書ヲ受有スルトキハ別種檢査證書ヲ要セスシテ前項ノ取扱ヲ受クルモノトス

前項ノ船舶ニシテ船舶國籍證書ニ記載シタル進水ノ年月ニ依リ當然大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタルモノナルコトヲ證明シ難キ虞アルモノハ大正十四年十二遞信省令第八十六號ニ依ル龍骨据附日證明書ヲ受有スルヲ可トス

二、前項ノ船舶ニ對シ佛蘭西國ニ於テ行ハルル出港檢査ニ於テハ單ニ船舶檢査證書、船舶滿載吃水線證書又ハ別種檢査證書ヲ受有スルコトヲ確メ船舶カ大體ニ於テ耐航性ヲ有シ船員及旅客ノ爲メ危險ナキ狀態ニ於テ出港シ得ルカ否ヲ設定セラルルニ止マリ船體、機關及屬具等ニ關スル照査ヲ行ハルルコトナク且如何ナル場合ニ於テモ本ノ法規ニ定ムル以外ノ條件ヲ課セラルルコトナシ

三、佛蘭西國ニ於テ行ハルル出港檢查ハ如何ナル場合ニ於テモ船舶ノ發航ヲ遲延セシムルコトナク又出港時間ヲ正式ニ通告シタル後ハ未タ出港檢查行ハレサルトキト雖佛蘭西國ノ港ニ於テ旅客ヲ搭載スルト否トニ拘ラス定刻ニ出港シ何等法規違反トナルコトナシ

四、日本船舶カ目的港ニ非サル佛蘭西國ノ港ニ入港スルモ商行爲ヲ爲サス又ハ單ニ炭水其ノ他航海必需品ノミヲ積入ルル場合ニ於テハ出港檢查ヲ行ハルルコトナシ

●佛蘭西國船舶ノ檢查ニ關スル件

（大正十四年十二月一日　遞信省令第八十七號）

佛蘭西國船舶ノ檢查ニ關スル件左ノ通定メ大正十五年一月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

第一條　佛蘭西國（其ノ殖民地及管治地域ヲ含ム以下同シ）ノ船舶ノ檢查ヲ行フ場合ニ於テ佛蘭西國政府ノ發給シタル航海許可書ヲ受有スル船舶ニ對シテハ大體ニ於テ耐航性ヲ有シ船員及旅客ニ危險ヲ及ホス虞ナシト認ムルトキハ該證書ノ目的トスル船體、機關及屬具ニ關スル照查ヲ行ハス且如何ナル場合ニ於テモ佛蘭西國ノ法規ニ定ムル以外ノ條件ヲ課セス

第二條　日本ノ港ニ於テ移住民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移住民及三等旅客五十人以上ヲ搭載シテ近海航路外ノ港又ハ遞信大臣ノ定ムル地方ニ運送セムトスル佛蘭西國船舶ニ對シテハ前條ノ規定ニ拘ラス糧食、飲料水及衞生狀態ニ關スル檢查ハ之ヲ行フ

●英國船舶ノ檢查ニ關スル件

（昭和十一年十二月一日　遞信省令第七十一號）

英國船舶ノ檢查ニ關スル件左ノ通定ム

英國船舶ノ檢查ニ關スル件

英國政府ニ於テ交付シタル旅客及安全証書ハ船舶安全法第十五條第一項ノ規定ニ依リ同法ニ依リ交付シタル船舶檢查証書ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス

英國船舶ニシテ前項ノ証書ヲ受有スル場合ト雖モ船舶安全法施行規則第四條ニ規定スル移民船ニ該當スル場合ニ於テハ同法ニ規定スル特殊船檢查ヲ行フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●船用品檢查試驗規則

（大正九年九月十一日　遞信省令第七十五號）

沿革　大正一一年四月遞信省令第三三号、昭和二年七月第二三号、四年六月第二二号、九年二月第一八号、第二九号、第三四号、一二年四月第三〇号、一三年九月第七〇号、一七年一月第八号、一二月第一二八号、二八年一一月運輸遞信省令第六号、二〇年五月一九日第一号、二三年一月一日第一号、一月二〇日總、運令第一号改正

船用品檢查試驗規則左ノ通定ム

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

船用品檢查試驗規則

第一條　本令ニ依リ檢查又ハ試驗ヲ爲スヘキ物品ノ種類及檢查又ハ試驗ノ種別ハ別表ノ定ムル所ニ依但シ別表所定以外ノ船用品ノ檢查又ハ試驗ニ在リテハ事務ノ都合ニ依リ之カ依頼ニ應スルコトアルヘシ

第二條　本令ニ依ル檢查又ハ試驗ハ別表ノ定ムル所ニ依リ船舶試驗所又ハ其ノ支所ニ於テ之ヲ行フ但シ船舶試驗所又ハ其ノ支所ハ事務ノ都合ニ依リ別表ニ拘ハラス檢查又ハ試驗ノ依頼ニ應スルコトアルヘシ

第三條　船用品ノ檢查又ハ試驗ヲ依頼セムトスル者ハ檢查品又ハ試驗品ト共ニ依頼書（第一号書式）ヲ其ノ檢查又ハ試驗ヲ受ケムトスル船舶試驗所又ハ其ノ支所ニ提出シ檢查試驗手數料及合格証明書又ハ成績書交付手數料ヲ納付スヘシ但シ檢查品又ハ試驗品ヲ提出シ難キトキハ船舶試驗所又ハ其ノ支所ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ該檢查品又ハ試驗品ノ所在地ニ於テ檢查又ハ試驗ヲ受クルコトヲ得

前項但書ニ依リ檢查又ハ試驗ヲ受クル者ハ船舶試驗所又ハ其ノ支所ノ指定スル所ニ從ヒ當該官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スヘシ

第一項但書ノ規定ニ依リ檢查又ハ試驗ノ依頼アリタル場合船舶試驗所又ハ其ノ支所ハ管海官廳ニ嘱託シテ檢查又ハ試驗ヲ行フコトアルヘシ

第四條　檢查又ハ試驗ヲ依頼セムトスル者ニ於テ必要ト認メタルトキハ檢查品又ハ試驗品ニ說明書、仕樣書又ハ図面ヲ添附スヘシ

船舶試驗所又ハ其ノ支所ニ於テ必要ト認メタルトキハ檢查品若ハ試驗品ヲ追加提出セシメ又ハ說明書、仕樣書若ハ図面ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第五條　特ニ急速ニ檢查又ハ試驗ノ施行ヲ必要トシ依頼書ニ其ノ旨ヲ記載シテ提出スル者アルトキハ事務ノ都合ニ依リ之ニ應スルコトアルヘシ

第六條　運輸大臣ノ定ムル檢查又ハ試驗ニ關スル規程ニ依ル檢查又ハ試驗ヲ依頼シタル船用品ニシテ該規程ニ適合スルモノト認ムルトキハ之ニ別記雛形ノ甲号檢印ヲ附シ檢查又ハ試驗依頼者ノ請求アリタルトキハ合格証明書（第二号書式）ヲ交付ス

運輸大臣ノ定ムル檢查又ハ試驗ニ關スル規程ニ依ラサル檢查又ハ試驗ノ依頼アリタル船用品ニハ別記雛形ノ乙号檢印ヲ附シ檢查又ハ試驗依頼者ノ請求アリタルトキハ成績書（第三号書式）ヲ交付ス

前二項ノ規定ニ依リ合格証明書又ハ成績書ヲ交付スル場合ニ在リテハ該船用品ニ証明書番号又ハ成績書番号ヲ附ス

第七條　檢査試驗手數料ハ別表ノ定ムル所ニ依ル特種ノ品質構造ヲ有スルモノ又ハ檢査試驗手數料ノ規定ナキモノノ檢査試驗手數料ハ別表ニ準シ其ノ都度之ヲ定ム其ノ予メ手數料ヲ定メ難キモノニ在リテハ檢査又ハ試驗結了後之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ檢査又ハ試驗結了後指定ノ手數料ヲ納付スヘキ旨ヲ依頼書ニ記入セシム

第五條ノ規定ニ依ル檢査又ハ試驗ニ付テハ其ノ檢査試驗手數料ハ前二項ノ規定ニ依ル手數料ノ倍額トス

第八條　船用品合格証明書又ハ船用品檢査試驗成績書ノ交付手數料ハ一通ニ付弐拾円トス

檢査又ハ試驗ヲ依頼シタル者合格証明書又ハ成績書ノ複本若ハ抄本ヲ受ケムトスルトキハ申請書(第四号書式)ヲ其ノ合格証明書又ハ成績書ノ交付ヲ受ケタル船舶試驗所又ハ其ノ支所ニ提出シ複本又ハ抄本ノ交付手數料ヲ納付スヘシ

船用品合格証明書又ハ船用品檢査試驗成績書ノ複本若ハ抄本ノ交付手數料ハ一通ニ付弐拾円トス

手數料ハ凡テ之ニ相当スル收入印紙ヲ手數料納付書(第五号書式)ニ貼附シテ納付スヘシ

檢査又ハ試驗ノ依頼ヲ取下クル場合ト雖既ニ檢査又ハ試驗ニ著手シタルトキハ檢査試驗手數料ハ之ヲ徵收ス

第九條　檢査又ハ試驗依頼者ハ檢査品又ハ試驗品ノ運搬其ノ他檢査又ハ試驗ヲ行フ爲特種ノ勞用ヲ要スルトキハ之ヲ負担スヘシ

第十條　檢査品又ハ試驗品ノ檢査又ハ試驗中ノ滅失若ハ毀損ニ因ル損害ニ対シテハ賠償ノ責ニ任セス

附　則　(昭和十二年四月逓信省令第三〇号)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ依頼ニ依ル檢査又ハ試驗ノ手數料ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則　(昭和十三年九月逓信省令第七〇号)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ依頼ニ依ル檢査又ハ試驗ノ手數料ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

(別記書式及別表略ス)

●船用品試驗機試驗規程

(昭和十二年四月七日逓信省令第三十一號)

船用品試驗機試驗規程左ノ通定ム

船用品試驗機試驗規程

目次

第一章　總則
第二章　引張試驗機及壓縮試驗機
第三章　硬試驗機
第四章　衝撃試驗機
附則

船用品試驗機試驗規程

第一章　總則

第一條　船用品試驗機(以下試驗機ト稱ス)ヲ分チテ左ノ四種トス

一　引張試驗機
二　壓縮試驗機
三　硬試驗機
四　衝撃試驗機

第二條　試驗機ハ左ニ揭ケル事項ヲ具備スルモノナルコトヲ要ス

一　据附正確ナルコト

二　構造堅牢ナルコト
三　動作圓滑ナルコト
四　精度十分ナルコト

第三條　試驗機ノ刃、刃承、軸、軸承、槓桿、荷重標示、荷重裝置其ノ他各部ハ秤量ニ等シキ指示荷重ヲ以テ全荷重試驗ヲ行ヒ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス

第四條　試驗機ノ精度ノ試驗ハ前條ノ試驗ヲ行ヒタル後之ヲ行フモノトス

第五條　精度ノ試驗ニ用フル檢定器、重錘、槓桿裝置、標準試驗片其ノ他ノ計測器具ハ當該官吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第六條　特殊ノ構造ヲ有スル試驗機ノ試驗方法ハ遞信大臣ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第七條　試驗機ニハ明瞭且耐久的ノ文字ヲ以テ左ノ各號ノ標示ヲ爲スベシ

一　種類及型式
二　製造番號
三　秤量
四　製造年月
五　製造者ノ氏名又ハ名稱

第八條　本令ノ規定ニ該當セザル試驗機ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第二章　引張試驗機及壓縮試驗機

第九條　引張試驗機及壓縮試驗機ハ指示荷重ヲ秤量ニ達セシメタル後放置シ六〇秒時經過スルモ其ノ減少ガ秤量ノ二〇%ヲ超エザルモノナルコトヲ要ス

第十條　引張試驗機及壓縮試驗機ノ精度ノ試驗ハ秤量ニ應ジ適當ニ定メタル五以上ノ試驗荷重(指示荷重ニ依ル以下同ジ)ニ付之ヲ行フモノトス但シ同一試驗機ニシテ秤量ヲ變更シ得ルモノニ在リテハ最大秤量ニ對スル試驗ノ場合ヲ除クノ外各秤量ニ對スル試驗荷重ハ之ヲ五未滿ト爲スコトヲ得

前項ノ試驗荷重中最大ノ荷重ハ秤量ノ八〇%以上ナルコトヲ要ス但シ秤量三〇〇瓲以上ノ試驗機ニ在リテハ當該官吏ノ見込ニ依リ八〇%未滿ト爲スコトヲ得

第十一條　前條ノ試驗ハ無荷重狀態ヨリ順次荷重ヲ增加シ最大試驗荷重ニ達セシメ更ニ順次荷重ヲ減少シテ其ノ都度各試驗荷重ニ付之ヲ行フモノトス

前項ノ試驗ハ五回之ヲ反覆スルモノトス

第十二條　本令ニ合格シタル引張試驗機及壓縮試驗機ノ第二回以後ノ試驗ニ於テハ當該官吏ノ見込ニ依リ精度ノ試驗ニ於ケル最大試驗荷重、試驗荷重ノ數及試驗反覆回數ヲ減ズルコトヲ得

第十三條　機差ハ荷重ヲ順次增加スル場合及順次減少スル場合夫々各試驗荷重ニ付之ニ對スル作用荷重ヲ測定シ其ノ平均ヲ求メ左ノ算式ニ依リ算定スルモノトス

$$機差\% = \frac{試驗荷重 - 平均作用荷重}{試驗荷重} \times 100$$

第十四條　引張試驗機及壓縮試驗機ノ精度ハ機差ガ正負一%ヲ超エズ且同一試驗荷重ニ對スル作用荷重ガ著シク不同ナラザルモノナルコトヲ要ス

第十五條　引張試驗機及壓縮試驗機ノ感量ハ無荷重狀態ニ於テ荷重指示裝置ノ平衡位置ヲ明瞭ニ變化セシムル爲當該試驗機ニ加フベキ荷重ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス但シ同一試驗機ニシテ秤量ヲ變更シ得ルモノニ在リテハ最大秤量ニ對シ之ヲ定ムルニ止ムルコトヲ得

前項ノ平衡位置ノ變化明瞭ナリト認ムベキ程度ハ試驗機ノ種類ニ應ジ當該官吏之ヲ定ム

第十六條　引張試驗機及壓縮試驗機ノ感量ハ最小目盛ノ表ハス荷重ヲ超エザルコトヲ要ス但シ當該官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三章　硬試驗機

第十七條　硬試驗機ヲ分チテ左ノ二種トス

一　押痕式硬試驗機
二　反撥式硬試驗機

第十八條　押痕式硬試驗機ニシテ油壓ニ依リ荷重ヲ加フルモノハ指示荷重ヲ秤量ニ達セシメタル後放置シ三〇秒時經過スルモ其ノ減少ヲ來サザルモノナルコトヲ要ス

第十九條　押痕式硬試驗機ノ壓子及反撥式硬試驗機ノ鎚ハ構造堅牢ニシテ形狀正確ナルモノナルコトヲ要ス

第二十條　押痕式硬試驗機ノ試驗ハ秤量ニ應ジ適當ニ定メタル五以上ノ試驗荷重(指示荷重ニ依ル以下同ジ)ニ付之ヲ行フモノトス

前項ノ試驗ハ五回之ヲ反覆スルモノトス

機ノ精度ノ試驗ハ秤量ニ應ジ適當ニ定メタル五以上ノ試驗硬度數ニ付之ヲ行フモノトス

前項ノ試驗ハ五回之ヲ反覆スルモノトス

第二十一條　押痕式硬試驗機ノ荷重裝置ノ機差ノ算定ハ第十三條ノ規定ニ依ル

第二十二條　押痕式硬試驗機ノ荷重裝置ノ各試驗荷重ニ對スル機差ハ正負一%ヲ超エズ且同一試驗荷重ニ對スル作用荷重ガ著シク不同ナラザルモノナルコトヲ要ス

第二十三條　硬試驗機ノ精度ハ試驗機ノ種類ニ應ジ其ノ全機差ガ左表ニ揭グルモノヲ超エザルコトヲ要ス

種類		全機差
押痕式硬試驗機	荷重ノミニ依ルモノ	正負一%
	其ノ他ノモノ	正負三%
反撥式硬試驗機		正負二硬度數

第四章　衝撃試驗機

第二十四條　衝撃試驗機ノ振子系ノ吊心及重心竝ニ衝撃刃緣ノ中點ハ一直線上ニ在ルコトヲ要ス

第二十五條　衝撃試驗機ノ衝撃刃緣ノ中點ト撃心トハ能フ限リ一致セシムルコトヲ要シ其ノ距離ハ一〇ミリメートルヲ超エザルヲ標準トス

第二十六條　衝撃試驗機ノ鎚ノ最大振上リ角度ハ持上ゲ角度ヨリ小ニシテ其ノ差ハ一度ヲ超エルコトヲ得ズ

以上ノ試驗荷重(指示荷重ニ依ル以下同ジ)ニ付之ヲ行ヒ反撥式硬試驗

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二年七月遞信省令第二十四號船用品試驗機試驗規程ハ之ヲ廢止ス

●船用品試驗機取締規則

（昭和十二年六月十二日）
（遞信省令第四十三號）

船用品試驗機取締規則左ノ通定ム

船用品試驗機取締規則

第一條　船用品試驗機ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ（以下試驗機ト稱ス）ハ船用品檢查試驗規則ニ依ル檢查及試驗ニ合格シ且本令ニ依リ定ムル使用期間内ニ非ラザレバ法令ニ依ル造船造機材料、船用品材料又ハ船用品ノ試驗ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

一　引張試驗機
二　壓縮試驗機
三　硬試驗機
四　衝撃試驗機

第二條　前條ノ使用期間ハ試驗機ノ現狀ニ應ジ船用品檢查試驗規則ニ依ル檢查及試驗ニ合格シタル日ヨリ三年ヲ超エザル期間内ニ於テ遞信大臣之ヲ指定ス

第三條　試驗機ノ所有者使用期間ノ指定ヲ受ケントスルトキハ船用品試驗機使用期間指定申請書（第一號書式）ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第四條　遞信大臣前條ノ申請ニ依リ使用期間ヲ定メタルトキハ船用品試驗機使用期間指定書（第二號書式）ヲ申請人ニ交付ス

第五條　船用品試驗機使用期間指定書ハ當該試驗機據附場所ノ見易キ箇所ニ之ヲ掲ゲ置クベシ

第六條　船用品試驗機使用期間指定書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ當該試驗機ノ所有者ハ再交付申請書（第三號書式）ヲ遞信大臣ニ提出シテ其ノ再交付ヲ受クベシ毀損ニ因ル場合ニ於テハ毀損シタル船用品試驗機使用期間指定書ハ申請書ニ之ヲ添附スベシ

第七條　試驗機左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當該試驗機ノ所有者ハ書換申請書（第四號書式）ニ船用品試驗機使用期間指定書ヲ添附シ之ヲ遞信大臣ニ提出シテ其ノ書換ヲ受クベシ

一　所有者ノ住所、氏名若ハ名稱ノ變更アリタルトキ
二　据附場所ニ付行政區畫若ハ土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキ

第八條　試驗機左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ使用期間内ト雖モ其ノ使用期間ノ指定ハ之ヲ取消サレタルモノト看做ス

一　要部ニ故障其ノ他ノ異狀ヲ生ジタルトキ
二　要部ニ修繕又ハ模樣換ヲ爲シタルトキ
三　据附換ヲ爲シタルトキ

第九條　遞信大臣必要アリト認メタルトキハ使用期間ノ指定ヲ取消スコトアルベシ

第十條　船用品試驗機使用期間指定書ハ使用期間滿了シタルトキ、使用期間ノ指定ヲ取消サレタルトキ又ハ使用期間ノ指定ヲ受クルコトヲ要セザルニ至リタルトキハ當該試驗機ノ所有者ハ其ノ旨ヲ具シ遲滯ナク之ヲ遞信大臣ニ返還スベシ使用期間滿了前更ニ使用期間ノ指定ヲ受ケタルトキ舊指定書ニ付亦同ジ

第十一條　船用品試驗機使用期間指定書ノ再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキハ手數料金一圓ヲ納付スベシ但シ書換ガ行政區畫若ハ土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更ニ基クモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ手數料ハ之ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書（第五號書式）ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

第十二條　遞信省管船局船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲシテ試驗機ニ付監查ヲ爲サシムルコトヲ得

附　則

本令ハ昭和十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前三年内ニ船用品檢查試驗規則ニ依リ船用品合格證明書（硬試驗機又ハ衝撃試驗機ニ在リテハ船用品合格證明書又ハ船用品檢查試驗成績書）ノ交付ヲ受ケタル船用品試驗機ハ本令施行後三月内ニ使用期間ノ指定ヲ申請シタルモノニ限リ其ノ申請ノ日ヨリ當該申請ニ對シ決定ヲ受クル迄本令ニ依ル使用期間ノ指定ヲ受ケタルモノト看做ス

第一號書式

船用品試驗機使用期間指定申請書

一　試驗機番號
二　種類、型式及秤量
三　据附場所
四　製造者ノ氏名又ハ名稱
五　製造年月
六　船用品檢查試驗規則ニ依ル合格證明書ノ證書番號及交付年月日

右船用品試驗機取締規則第三條ニ依リ申請候也

年　月　日

住所
申請人　氏　　名印

遞信大臣宛

備考　本申請書ハ第六號ノ合格證明書ノ交付ヲ受ケタル船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ船舶試驗所分室ニ差出スベシ

第二號書式

第　號

船用品試驗機使用期間指定書

一　試驗機番號
二　種類、型式及秤量
三　所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
四　据附場所
五　製造者ノ氏名又ハ名稱
六　製造年月
七　使用期間　自　年　月　日　至　年　月　日

船用品試驗機取締規則第四條ニ依リ本書ヲ交付ス

年　月　日

遞信大臣　氏　　名印

第三號書式

船用品試驗機使用期間指定書再交付申請書

一　試驗機番號
二　種類、型式及秤量
三　再交付申請事由

右船用品試驗機取締規則第六條ニ依リ再交付申請候也

年　月　日

住所
申請人　氏　　名印

遞信大臣宛

第四號書式

船用品試驗機使用期間指定書書換申請書

一　試驗機番號
二　種類、型式及秤量
三　書換事項

右船用品試驗機取締規則第七條ニ依リ書換申請候也

年　月　日

住所
申請人　氏　　名印

遞信大臣宛

第五號書式

手數料納付書

［　　］

手數料金額壹圓也

右船用品試驗機取締規則第十一條ニ依リ納付候也

年　月　日

住所
申請人　氏　　名印

遞信大臣宛

◉船型試驗規則（昭和二年十一月三十一日遞信省令第五十六號）

【沿革】昭和八年十一月省令第四六號、同十二年四月同第二九號改正

船型試驗規則左ノ通定ム

船型試驗規則

第一條　船型試驗ハ水槽試驗及實地試驗トス

第二條　水槽試驗ハ之ヲ分チテ左ノ三種トス

一　船體試驗　特定事項ニ適合スル船體ノ形狀ヲ選定スル目的又ハ特定船體ノ抵抗ヲ定ムル目的ヲ以テ船體ノミニ付行フモノ

二　船體推進器試驗　特定事項ニ適合スル推進器ヲ選定スル目的又ハ特定船體ノ抵抗及特定推進器ノ效力ヲ定ムル目的ヲ以テ船體ヲ推進器ニ依リ推進セシメテ行フモノ

三　特殊試驗　前二號ニ該當セザル水槽試驗ニシテ船舶ニ關スルモノ

第三條　實地試驗ハ船體、推進器其ノ他船舶ニ關スルモノニ付實地ニ行フ試驗ヲ謂フ

第四條　第二條ニ該當セザル水槽試驗又ハ第三條ニ該當セザル實地試驗ト雖モ事務ノ都合ニ依リ之カ依頼ニ應スルコトアルヘシ

第四條ノ二　船體、推進器其ノ他船舶ニ關スルモノノ設計及調査ハ事務ノ都合ニ依リ之カ依頼ニ應ズルコトアルベシ

第四條ノ三　第二條第一號及第二號ノ試驗ヲ依頼シタル者當該船舶ノ試運轉ヲ行ヒタルトキハ其ノ成績ヲ示ス資料ヲ遞信省管船局船舶試驗所（以下單ニ船舶試驗所ト稱ス）ニ提出スヘシ但シ實地試驗ノ依頼アリタル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　試驗ヲ依頼セントスル者ハ第二條第一號及第二號ノ試驗ニ在リテハ第一號書式、同條第三號ノ試驗及第四條中ノ水槽試驗ニ在リテハ第二號書式、第三條ノ試驗及第四條中ノ實地試驗ニ在リテハ第三號書式ニ依リ試驗依頼書ヲ、第四條ノ二ノ設計又ハ調査ヲ依頼セントスル者ハ第四號書式ニ依リ設計又ハ調査依頼書ヲ船舶試驗所ニ提出スベシ

前項ノ依頼書ニハ依頼者ニ於テ必要ト認メタル圖面及書類各二通ヲ添附スヘシ

船舶試驗所ニ於テ必要ト認メタルトキハ圖面若ハ書類ヲ追加提出セシメ又ハ依頼者ヲシテ出頭セシムルコトアルヘシ

試驗、設計又ハ調査ヲ依頼シタル者前二項ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ書類ニ記載シタル事項ヲ變更若ハ廢止シ又ハ之ニ追加セムトスルトキハ關係圖面及書類各二通ヲ船舶試驗所ニ提出スヘシ

第六條　第二條第一號ノ試驗ヲ依頼シタル者試驗ノ種類ヲ同條第二號ニ變更セムトスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル變更依頼書ヲ船舶試驗所ニ提出スヘシ

前條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條　船舶試驗所ハ試驗、設計又ハ調査ノ幇助ノ爲必要アルトキハ當該依頼者ヲシテ技術員又ハ職工ヲ派遣セシムルコトアルヘシ

第八條　實地試驗ヲ依頼シタル者ハ試驗前其ノ方法及期日ニ關シ船舶試驗所ノ承認ヲ受クヘシ

船舶試驗所ハ前項ノ依頼者ヲシテ試驗終了後其ノ試驗ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第九條　船舶試驗所ハ管海官廳ニ試驗事務ノ一部ヲ囑託スルコトヲ得

第十條　船舶試驗所試驗ヲ終了シタルトキハ試驗成績書ヲ、設計ヲ終了シタルトキハ設計書ヲ、調査ヲ終了シタルトキハ調査書ヲ當該依頼者ニ交付ス但シ依頼者ノ希望アルトキハ試驗、設計又ハ調査終了前ト雖モ既濟ノ分ノ試驗成績書、設計書又ハ調査書ヲ交付スルコトアルベシ

第十一條　船舶試驗所ハ依頼者ノ同意アルニ非サレハ試驗成績書、設計書及調査書ノ内容ヲ公表セス

第十二條　第二條第一號及第二號ノ試驗ノ手數料ハ左表ノ定ムル所ニ依ル

試驗ノ種類	船ノ垂線間ノ長サ			
	一〇〇米以下	一〇〇米ヲ超エ一二五米以下	一二五米ヲ超エ一五〇米以下	一五〇米ヲ超ユルモノ
一　船體試驗	七五〇圓	一、〇五〇圓	一、三五〇圓	一、六五〇圓
二　船體推進器試驗	一、〇五〇	一、五〇〇	一、九五〇	二、四〇〇

備考

一　第六條ノ規定ニ依リ水槽試驗ノ種類ヲ船體試驗ヨリ船體推進器試驗ニ變更シタルトキハ手數料ハ船體推進器試驗ノモノトス

二　依頼者ノ希望ニ依リ船體ノ副部ニ關シ一種ヲ超ユル特定狀態毎ニ其ノ十分ノ四ヲ加算スルモノトス

三　依頼者ノ希望ニ依リ船體ノ載貨及縱傾斜狀態等ニ關シ三種ヲ超ユル特定狀態毎ニ其ノ十分ノ二ヲ加算スルモノトス

四　依頼者ノ希望ニ依リ船體ノ特定排水量ニ對スル最適ノ縦傾斜狀態ノ選定ニ付水槽試驗ヲ併セ行フトキハ手數料ハ本表ニ掲グルモノニ一特定排水量毎ニ其ノ十分ノ三ヲ加算スルモノトス

五　依頼書ニ記載シタル船體又ハ推進器ノ選定ノ基礎トナルベキ特定事項ヲ變更若ハ廢止又ハ追加一回毎ニ其ノ試驗ニ及ボス手數ニ應ジ本表ニ掲グルモノニ其ノ十分ノ一乃至十分ノ八ノ範圍内ニ於テ船舶試驗所ノ指定スル金額ヲ加算スルモノトス

六　前各號ニ依リ手數料ヲ定メ難キ場合ニ於ケル手數料ハ其ノ都度之ヲ定ム

第十五條　試驗品ノ製作、試驗ノ裝置其ノ他試驗、設計又ハ調査ヲ行フニ付特殊ノ費用ヲ要スルトキハ船舶試驗所ノ指定スル所ニ從ヒ當該依頼者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ但シ依頼者ノ物品ヲ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

實地試驗及推進器ノ水槽試驗ニ關スル規定ハ當分ノ間之ヲ施行セス（昭和五年七月遞信省令第二八號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

附　則（昭和十二年四月遞信省令第二九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前依頼シタル試驗ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第一號書式

試驗依頼書

一　試驗ノ種類

二　本試驗ノ結果ヲ應用スル船舶ノ垂線間ノ長

三　本試驗ノ結果ヲ應用スル船舶又ハ推進器ノ製造注文者ノ住所及氏名又ハ名稱

四　本試驗ノ結果ヲ應用スル船舶又ハ推進器ノ製造者ノ住所及氏名又ハ名稱

五　本試驗ノ結果ヲ應用スル船舶ノ名稱又ハ製造番號

六　船舶又ハ推進器ノ竣工豫定期日

七　添附セル圖面及書類ノ名稱及部數

八　依頼者ニ於テ特ニ必要アリト認メタル事項

右船型試驗規則ニ依リ及依頼候也

年　月　日

依頼者ノ住所及氏名印

遞信大臣宛

第二號書式

試驗依頼書

一　試驗事項

二　添附セル圖面及書類ノ名稱及部數

三　依頼者ニ於テ特ニ必要アリト認メタル事項

右船型試驗規則ニ依リ及依頼候也

年　月　日

依頼者ノ住所及氏名印

遞信大臣宛

第三號書式

試驗依頼書

一　試驗事項

二　水槽試驗成績書ノ番號

三　試驗施行ノ場所

四　試驗ノ豫定期日及所要日數

五　添付セル圖面及書類ノ名稱及部數

六　依頼者ニ於テ特ニ必要アリト認メタル事項

右船型試驗規則ニ依リ及依頼候也

年　月　日

依頼者ノ住所及氏名印

遞信大臣宛

第四號書式

設計
調査依頼書

一　設計
調査事項

二　添附セル圖面及書類ノ名稱及部數

三　依頼者ニ於テ特ニ必要アリト認メタル事項

右船型試驗規則ニ依リ及依頼候也

年　月　日

依頼者ノ住所及氏名印

遞信大臣宛

第五號書式

複本下付申請書

手數料金額　圓

試驗成績書
設計書ノ番號及交付年月日
調査書

二　複本ノ數

右船型試驗規則ニ依リ複本下付相成度申請候也

年　月　日

申請者ノ住所及氏名印

逓信大臣宛

錨試驗規程

（昭和十三年七月十三日逓信省令第五十六號）

錨試驗規程左ノ通定ム

錨試驗規程

第一條　本令ニ於テ錨ト稱スルハ船舶ニ使用スル錨ヲ謂フ

第二條　本令ノ規定ニ該當セザル錨ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第三條　錨ハ鍊鐵、鍛鋼又ハ鑄鋼ヲ以テ製造スルコトヲ要ス但シ錨柄、錨腕及錨爪以外ノ部分ニハ鑄鋼ヲ使用スルコトヲ得ズ

第四條　錨ノ構造及形狀ハ船舶ノ繫止ニ適スルモノナルコトヲ要ス

第五條　有鉾錨ノ錨鉾ノ重量ハ錨ノ全重量ノ四分ノ一以上ナルコトヲ要ス

無鉾錨ノ錨柄ヲ除キタル重量ハ錨ノ全重量ノ五分ノ三以上ナルコトヲ要ス

第六條　錨ヲ組成スル鑄鋼材ハ其ノ大サニ應ジ適當ニ燒鈍スルコトヲ要ス

第七條　錨腕ノ長サトハ錨柄ト錨腕トヲ旋回軸ニテ連結スル錨ニ在リテハ該旋回軸ノ中心線ヨリ、其ノ他ノ錨ニ在リテハ冠頂ヨリ錨爪ノ先端ニ至ル距離ヲ謂フ

冠頂部四形ナル錨ニ在リテハ錨腕ノ頂點ニ接スル平面ト錨柄中心線トノ交點ヲ冠頂ト看做ス

第八條　錨ノ重量ハ牽引試驗ヲ行フ前ニ之ヲ測定ス

有鉾錨ニ在リテハ錨鉾ヲ除キタル重量ト錨鉾ノ重量トヲ各別ニ測定シ無鉾錨ニ在リテハ錨ノ全重量ト錨柄ノ重量トヲ測定ス

第九條　錨ハ其ノ構造ニ依リ錨腕毎ニ又ハ同時ニ二箇ノ錨腕毎ニ又表裏轉換セシメ得ル錨腕ニ在リテハ其ノ各位置ニ付錨ノ重量（有鉾錨ニ在リテハ錨鉾ヲ除キタル重量）ニ應ジ別表ニ揭グル牽引試驗荷重ヲ錨爪ノ先端ヨリ錨腕ノ長サノ三分ノ一ノ箇所ニ加ヘ裂疵、變形其ノ他ノ異狀ヲ生セザルコトヲ要ス但シ各試驗毎ニ錨爪及錨柄ノ端部ニ附シタル標點距離ノ變化ガ二〇ミリメートル以下ニシテ當該官吏ニ於テ差支ナシト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　錨ヲ組成スル鑄鋼材ハ前條ノ試驗ヲ行フニ先チ各材ニ付左ノ各號ニ依リ試驗ヲ行ヒ之ニ合格スルコトヲ要ス

一　屈曲試驗　幅二五ミリメートル厚サ一九ミリメートルノ斷面ヲ有シ角隅ニハ半徑一・五ミリメートルノ丸味ヲ附シタル試驗片ヲ用ヒ常溫ノ儘二五ミリメートルノ內側半徑ヲ以テ九〇度屈曲セシムルモ裂疵其ノ他ノ缺點ヲ生ゼザルコトヲ要ス

二　落下試驗　鑄鋼材ヲ其ノ重量ニ應ジ左表ニ揭グル高サヨリ硬質ノ地盤上ニ設置セラレタル鋼盤上ニ落下セシムルモ裂疵其ノ他ノ缺點ヲ生ゼザルコトヲ要ス

鑄鋼材ノ重量（瓲）	鑄鋼材ノ下端ヨリ鋼盤上面迄ノ高サ（米）
七五〇未滿	四・五
七五〇以上一、五〇〇未滿	四・〇
一、五〇〇以上五、〇〇〇未滿	三・五
五、〇〇〇以上	三・〇

三　鎚打試驗　前號ノ試驗ニ合格シタル鑄鋼材ハ之ヲ吊リ重量三キログラム以上ノ鎚ヲ以テ打チ裂疵其ノ他ノ缺點ヲ認メザルコトヲ要ス

第十一條　試驗及檢査ニ合格シタル錨ニハ錨柄中央部ニ重量（有鉾錨ニ在リテハ錨鉾ヲ除キタル重量）ヲ刻シ之ト同側ニ於テ錨腕ニ錨爪ノ先端ヨリ錨腕ノ長サノ約三分ノ二ノ箇所ニ檢印、合格證明書番號及試驗番號ヲ刻ス尙錨柄ト錨腕ガ別箇ノモノヨリ成ルトキハ錨柄ノ旋回軸附近ニモ檢印、合格證明書番號及試驗番號ヲ刻シ又有鉾錨ノ錨鉾ニハ其ノ重量竝ニ檢印、合格證明書番號及試驗番號ヲ刻ス

第十二條　錨ハ試驗及檢査ヲ行ヒタル後ニ非ザレバ之ニ塗料ヲ施スコトヲ得ズ

附　則

本令ハ昭和十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年九月逓信省令第七十六號錨鎖索試驗規程ハ之ヲ廢止ス

別表　鎖ノ審査引試験荷重

鎖ノ呼称（有鉤端ニ在リテハ鉤ノ径ヲ除ク）（粍）	審査引試験荷重（噸）		鎖ノ呼称（有鉤端ニ在リテハ鉤ノ径ヲ除ク）（粍）	審査引試験荷重（噸）		鎖ノ呼称（有鉤端ニ在リテハ鉤ノ径ヲ除ク）（粍）	審査引試験荷重（噸）		鎖ノ呼称（有鉤端ニ在リテハ鉤ノ径ヲ除ク）（粍）	審査引試験荷重（噸）	
	甲	乙		甲	乙		甲	乙		甲	乙
以上 25 未満 30	1.48	9.52	以上 350 未満 375	9.98	27.5	以上 1450 未満 1500	28.3	77.5	以上 6300 未満 6400	60.7	87.5
30 — 35	1.72	9.98	375 — 400	10.5	27.5	1500 — 1550	29.0	78.2	6400 — 6500	61.2	88.1
35 — 40	1.95	10.5	400 — 425	10.9	27.5	1550 — 1600	29.8	78.8	6500 — 6600	61.6	89.2
40 — 45	2.16	10.9	425 — 450	11.4	27.5	1600 — 1650	30.5	79.4	6600 — 6700	62.1	89.8
45 — 50	2.37	11.4	450 — 475	11.8	27.5	1650 — 1700	31.3	80.1	6700 — 6800	62.5	90.3
50 — 55	2.57	11.8	475 — 500	12.3	27.5	1700 — 1750	32.0	80.7	6800 — 6900	63.0	90.8
55 — 60	2.76	12.3	500 — 525	12.7	27.5	1750 — 1800	32.7	81.3	6900 — 7000	63.4	91.3
60 — 65	2.95	12.7	525 — 550	13.2	27.5	1800 — 1850	33.4	82.0	7000 — 7100	63.9	91.8
65 — 70	3.13	13.2	550 — 575	13.6	27.5	1850 — 1900	34.2	82.6	7100 — 7200	64.3	92.3
70 — 75	3.30	13.6	575 — 600	14.3	27.5	1900 — 1950	34.9	83.2	7200 — 7300	64.7	92.8
75 — 80	3.46	14.3	600 — 650	15.2	27.5	1950 — 2000	35.6	83.8	7300 — 7400	65.1	93.4
80 — 90	3.70	15.2	650 — 700	16.1	27.5	2000 — 2050	36.3	84.4	7400 — 7500	65.8	94.0
90 — 100	3.99	16.1	700 — 750	16.9	27.5	2050 — 2100	36.9	85.0	7500 — 7600	66.6	94.6
100 — 110	4.27	16.9	750 — 800	17.8	27.5	2100 — 2150	37.6	85.6	7600 — 7700	67.4	95.2
110 — 120	4.52	17.8	800 — 850	18.6	27.5	2150 — 2200	38.3	86.1	7700 — 7800	68.2	95.8
120 — 130	4.77	18.6	850 — 900	19.5	27.5	2200 — 2250	39.0	87.0	7800 — 8000	69.0	96.4
130 — 140	5.00	19.5	900 — 950	20.3	27.5	2250 — 2300	39.6	88.1	8000 — 8200	69.8	97.6
140 — 150	5.23	20.3	950 — 1000	21.2	27.5	2300 — 2350	40.3	89.2	8200 — 8400	70.5	98.7
150 — 165	5.51	21.2	1000 — 1050	22.0	27.5	2350 — 2400	40.9	90.3	8400 — 8600	71.3	99.8
165 — 180	5.85	22.0	1050 — 1100	22.8	27.5	2400 — 2450	41.6	91.4	8600 — 8800	72.0	100.9
180 — 200	6.25	22.8	1100 — 1150	23.6	27.5	2450 — 2500	42.2	92.4	8800 — 9000	72.7	102.0
200 — 225	6.81	23.6	1150 — 1200	24.4	27.5	2500 — 2550	42.8	93.4	9000 — 9200	73.5	103.0
225 — 250	7.38	24.4	1200 — 1250	25.2	27.5	2550 — 2600	43.5	94.4	9200 — 9400	74.2	104.0
250 — 275	7.64	25.2	1250 — 1300	26.0	27.5	2600 — 2650	44.1	95.3	9400 — 9600	74.9	105.0
275 — 300	8.11	26.0	1300 — 1350	26.7	27.5	2650 — 2700	44.7	96.2	9600 — 9800	75.5	106.0
300 — 325	8.58	26.7	1350 — 1400	27.5		2700 — 2750	45.3	97.1	9800 — 10000	76.2	107.0
325 — 350	9.05	27.5	1400 — 1450			2750 — 2800	45.9	98.2	10000 — 10300	76.9	108.0

●鎖試驗規程（昭和十三年七月十三日遞信省令第五十七號）

鎖試驗規程左ノ通定ム

鎖試驗規程

第一條　本令ニ於テ鎖ト稱スルハ錨鎖及操舵鎖ヲ謂フ

第二條　本令ノ規定ニ該當セザル鎖ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第三條　鎖ハ其ノ各部分ニ應ジ左表ニ揭グル材料ニ依リ之ヲ製造スルコトヲ要ス

部分名	材料
鎖環（「スタッド」ヲ除ク）、「シャツクル」及「スウイヴル」	壓延丸鐵又ハ壓延丸鋼
「スタッド」	鑄鐵、可鍛鑄鐵、鑄鋼又ハ鍛鋼

前項ノ材料ハ當該官吏ノ適當ト認ムル材質ノモノニシテ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

第四條　鎖ノ普通鎖環、擴大鎖環、端末鎖環及「シャツクル」ノ形狀及寸法ハ別圖ニ揭グルモノヲ標準トスベシ

根附鎖ノ鎖環ニ混用スル「スウイヴル」ノ形狀及寸法ハ當該官吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第五條　鎖一縫ノ長サトハ一端ニ於ケル鎖環ノ內側外端ヨリ他端ニ於ケル鎖環ノ內側外端ニ至ル距離ヲ謂フ

第六條　錨鎖（根附鎖用ノモノヲ除ク）ニ在リテハ一縫ノ長サハ二五メートルヲ標準トシ各縫ニ於ケル鎖環ノ總數ハ奇數ト爲スコトヲ要ス

第七條　鎖ノ重量ハ其ノ徑ニ應ジ別表ニ揭グル割合ノ重量ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第八條　「シャツクル」ノ「ボルト」孔ハ壓延丸鐵ヲ以テ製造スル「シャツクル」ニ在リテハ端部ヲ鍛接シテ之ヲ作リ壓延丸鋼又ハ鍛鋼ヲ以テ製造スル「シャツクル」ニ在リテハ鍛接セズシテ之ヲ作ルコトヲ要ス

第九條　鎖ハ一縫毎ニ左ノ各號ニ依リ試驗ヲ行ヒ之ニ合格スルコトヲ要ス

一　切斷試驗　任意ニ採リタル三箇ノ連續セル鎖環ニ別表ニ揭グル切斷試驗荷重ヲ加ヘ之ニ堪ユルコトヲ要ス若シ之ニ合格セザルトキハ更ニ他ノ三箇ノ連續セル鎖環ヲ採リ再試驗ヲ行フコトヲ得

二　牽引試驗　前號ノ試驗ニ合格シタル鎖ヲ當該官吏ノ適當ト認ムル鎖環ヲ以テ連結シ之ニ別表ニ揭グル牽引試驗荷重ヲ加ヘ裂疵、切斷其ノ他ノ異狀ヲ生ゼザルコトヲ要ス若シ之ニ合格セザルトキハ修理又ハ取替ヲ爲シ再試驗ヲ行フコトヲ得但シ鎖環ガ鍛接部以外ノ箇所ニ於テ切斷シ又ハ鎖環ノ總數ノ百分ノ五以上ニ裂疵、切斷其ノ他ノ異狀ヲ生ジタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　鎖ノ「シャツクル」ハ同一種類ノモノ二十五箇又ハ其ノ未滿毎ニ左ノ各號ニ依リ試驗ヲ行ヒ之ニ合格スルコトヲ要ス

一　切斷試驗　任意ニ採リタル一箇ノ「シャツクル」ニ之ニ對應スル鎖ノ徑ニ應ジ別表ニ揭グル切斷試驗荷重ヲ加ヘ之ニ堪ユルコトヲ要ス

若シ之ニ合格セザルトキハ更ニ一箇ヲ採リ再試驗ヲ行フコトヲ得

二　牽引試驗　前號ノ試驗ニ合格シタル「シャックル」ニ之ニ對應スル鎖ノ徑ニ應ジ別表ニ揭グル牽引試驗荷重ヲ加ヘ裂疵、切斷其ノ他ノ異狀ヲ生セザルコトヲ要ス

第十一條　鎖ノ形狀、寸法及重量ハ牽引試驗ヲ行ヒタル後之ヲ檢査ス

第十二條　試驗及檢査ニ合格シタルトキハ鎖ノ兩端ノ鎖環及各端ヨリ各八メートルノ位置ニ於ケル鎖環竝ニ各「シャックル」ニ檢印、合格證明書番號及試驗番號ヲ刻ス

第十三條　鎖ハ試驗及檢査ヲ行ヒタル後ニ非ザレバ之ニ塗料ヲ施スコトヲ得ズ

附　則

本令ハ昭和十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

「スタッドヲ有スル鎖ノ鎖環」「スタッドヲ有セザル鎖ノ鎖環」

普通鎖環　6d　3·6d　4d

擴大鎖環　6·5d　4d　1·14d

鋼末鎖環　6·75d　4d　1·12d

普通鎖環　4·9d　3·5d　2·8d

擴大鎖環　5·7d　3·8d　1·52d

鋼末鎖環　6·75d　4·1d　1·12d

別圖　第二四三號

「シャックル」

「ンャ　ツ　ク　ル」

「アンカーシャックル」

進駐用

4d　7·1d　1·64d　0·84d　0·02d　0·08d

5·05d　2·14d　0·75d　0·04d　0·2d　0·8d

d＝鎖ノ徑トス

別表　鎖ノ切斷及斷引率試驗荷重並重量＝重量

鎖ノ徑（粍）	レスタッドヲ有スル鎖			レスタッドヲ有セザル鎖		
	切斷試驗荷重（瓲）	素引試驗荷重（瓲）	鎖一米ノ重量（瓩）	切斷試驗荷重（瓲）	素引試驗荷重（瓲）	鎖一米ノ重量（瓩）
6	——	——	——	1.36	0.68	0.76
7	——	——	——	1.85	0.92	1.08
8	——	——	——	2.41	1.21	1.40
9	——	——	——	3.05	1.53	1.76
10	——	——	——	3.77	1.89	2.16
11	5.13	3.42	2.52	4.56	2.28	2.60
12	6.11	4.08	3.00	5.43	2.71	3.12
13	7.17	4.78	3.42	6.37	3.19	3.64
14	8.31	5.55	4.08	7.39	3.69	4.24
15	9.54	6.37	4.68	8.48	4.24	4.88
16	10.9	7.24	5.32	9.65	4.83	5.56
17	12.3	8.18	6.00	10.9	5.45	6.24
18	13.7	9.17	6.76	12.2	6.11	7.00
19	15.3	10.2	7.52	13.6	6.80	7.80
20	17.0	11.3	8.32	15.1	7.54	8.64
21	18.7	12.5	9.16	16.6	8.31	9.56
22	20.5	13.7	10.08	18.2	9.12	10.48
23	22.4	15.0	11.00	19.9	9.97	11.44
24	24.4	16.3	12.00	21.7	10.9	12.48
25	26.5	17.7	13.00	23.6	11.8	13.52
26	28.7	19.1	14.08	25.5	12.7	14.64
27	30.9	20.6	15.16	——	——	——
28	33.2	22.2	16.32	29.6	14.8	16.96
29	35.7	23.8	17.48	——	——	——
30	38.2	25.5	18.72	33.9	17.0	19.48
32	43.4	29.0	21.32	38.6	19.3	22.16
34	48.7	32.7	24.04	43.6	21.8	25.04
36	54.0	36.7	26.96	48.9	24.4	28.04
38	59.3	40.9	30.04	54.4	27.2	31.28
40	64.6	45.3	33.28	60.3	30.2	34.64
42	70.4	49.9	36.72	66.5	33.3	38.20
44	76.7	54.8	40.28	73.0	36.5	41.92
46	83.8	59.9	44.04	79.8	39.9	45.80
48	91.2	65.2	47.96	86.9	43.4	49.88
50	99.0	70.8	52.04	94.3	47.1	54.12
52	107	76.5	56.28	——	——	——
54	115	82.5	60.68	——	——	——
56	124	88.7	65.24	——	——	——
58	133	95.2	70.00	——	——	——
60	143	102	74.92	——	——	——
62	152	109	80.00	——	——	——
64	162	116	85.24	——	——	——
66	169	121	90.64	——	——	——
68	177	127	96.20	——	——	——
70	185	132	101.96	——	——	——
72	192	137	107.88	——	——	——
74	199	142	113.96	——	——	——
76	207	148	120.20	——	——	——
78	214	153	126.60	——	——	——
80	221	158	133.16	——	——	——
82	228	163	139.92	——	——	——
85	238	171	150.32	——	——	——
88	248	177	161.12	——	——	——
91	257	184	172.32	——	——	——
94	266	190	183.88	——	——	——
97	275	196	195.80	——	——	——
100	282	201	208.08	——	——	——

索試驗規程（昭和十三年七月十三日遞信省令第五十八號）

索試驗規程左ノ通定ム

索試驗規程

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ索ト稱スルハ船舶ニ使用スル鋼索及麻索ヲ謂フ

第二條　本令ノ規定ニ該當セザル索ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第三條　索ノ徑ト稱スルハ索ノ外接圓ノ徑ヲ謂フ

第四條　索ノ撚リ方ハ其ノ子繩ノ撚リ方ト反對ナルコトヲ要ス

第五條　索ハ全長ヲ通ジテ徑、撚リノ度合等均等ナルコトヲ要ス

第六條　索ノ重量ハ其ノ種類及徑ニ應ジ第一表又ハ第二表ニ掲グルモノヲ標準トシ過不足ハ各百分ノ五以內ナルコトヲ要ス

第七條　試驗及檢査ニ合格シタル索ニハ鉛製封緘ヲ施シ檢印、合格證明書番號及試驗番號ヲ附ス

第二章　鋼索

第八條　鋼索ノ種別及其ノ構成ハ第一表ニ依ル

第九條　鋼索ノ子繩ヲ組成スル素線ニハ亞鉛鍍ヲ施スコトヲ要ス但シ止ムヲ得ザル場合ニ於テ當該官吏差支ナシト認メタルトキハ各子繩ニ於テ長サ一〇メートルニ付一箇所ヲ限リ熔接又ハ撚繼ヲ爲スコトヲ得

第十條　鋼索ノ子繩ノ麻心ニハ良質ノ麻類ヲ使用シ適度ニ油類ヲ含マシムルコトヲ要ス

第十一條　鋼索及子繩ノ麻心ニハ良質ノ麻類ヲ使用シ適度ニ油類ヲ含マ

第十二條　鋼索ハ一條毎ニ左ノ各號ニ依リ試驗ヲ行ヒ之ニ合格スルコトヲ要ス但シ靜索用ノモノニ付テハ第三號ノ試驗ヲ行フコトヲ要セズ

一　切斷試驗　索ヨリ採リタル試驗片ニ付測ミノ間隔ヲ徑ノ四〇倍以上ト爲シ之ヲ引張リテ切斷シタルトキ其ノ荷重ガ索ノ種別及徑ニ應ジ第一表ニ掲グル切斷荷重ヨリ小ナラザルコトヲ要ス

二　捻解試驗　索ノ一部ヨリ七本線六ツ撚鋼索ニ在リテハ七本、十二本線六ツ撚鋼索ニ在リテハ十四本、其ノ他ノ鋼索ニ在リテハ二十一本ノ素線ノ試驗片ヲ採リ之ト同一ノ徑ヲ有スル鋼線ノ周圍ニ八回密接シテ捲キ付ケタル後之ヲ解戻シ切斷セザル試驗片ノ數ガ試驗片總數ノ七分ノ六以上ナルコトヲ要ス若シ之ニ合格セザルトキハ更ニ規定數ノ試驗片ヲ採リ再試驗ヲ行フコトヲ得

再試驗ニ於テハ前試驗ト通算シ切斷セザル試驗片ノ數ガ試驗片總數ノ七分ノ六以上ナルコトヲ要ス

三　捻回試驗　索ノ一部ヨリ七本線六ツ撚鋼索ニ在リテハ七本、十二本線六ツ撚鋼索ニ在リテハ十四本、其ノ他ノ鋼索ニ在リテハ二十一本ノ素線ノ試驗片ヲ採リ其ノ徑一ミリメートル以下ナルトキハ一〇〇ミリメートル、一ミリメートルヲ超ユルトキハ二〇〇ミリメートルノ間隔ニ於テ之ヲ捻回シテ切斷シタルトキ其ノ捻回數ガ左表ニ掲グルモノノ二分ノ一以下ナル試驗片ナク且左表ニ掲グルモノ以上ナル試驗片ノ數ガ試驗片總數ノ七分ノ六以上ナルコトヲ要ス若シ之ニ合格セザルトキハ更ニ規定數ノ試驗片ヲ採リ再試驗ヲ行フコトヲ得但シ左表ニ掲グル捻回數ノ二分ノ一以下ニテ切斷シタル試驗片アル

トキハ再試驗ヲ行フコトヲ得ズ

再試驗ニ於テハ前試驗ト通算シ規定ノ捻回數以上ニテ切斷シタル試驗片ノ數ガ試驗片總數ノ七分ノ六以上ナルコトヲ要ス

素線ノ徑（粍）		捻回數
超エヲ	以下	
0.40	0.45	52
0.45	0.50	47
0.50	0.55	43
0.55	0.60	40
0.60	0.65	37
0.65	0.70	34
0.70	0.80	31
0.80	0.90	28
0.90	1.00	25
1.00	1.20	42
1.20	1.40	36
1.40	1.60	31
1.60	1.80	28
1.80	2.00	25
2.00	2.30	22
2.30	2.60	19
2.60	2.90	16
2.90	3.20	14
3.20	3.50	12
3.50	4.00	10

鋼索ヲ數條ニ分割スル場合ニ在リテハ其ノ中ヨリ當該官吏ノ任意ニ採リタル一條ニ付前項ノ試驗ヲ行ヒ合格シタルトキハ其ノ他ノモノニ付テハ試驗ヲ省略スルコトヲ得

第三章　麻索

第十三條　麻索ハ總テ三ツ撚トシ其ノ種別及各子繩ニ於ケル「ヤーン」ノ最小數ハ第二表ニ依ル

第十四條　麻索ヲ構成スル「ヤーン」ノ太サ及材質ハ索ノ全長ヲ通ジテ均等ナルコトヲ要ス

第十五條　麻索ハ一條毎ニ試驗片ヲ採リ撚ミノ間隔ヲ徑ノ四〇倍以上トナシ之ヲ引張リテ切斷シタルトキ其ノ荷重カ索ノ種別及徑ニ應ジ第二表ニ掲ゲル切斷荷重ヨリ小ナラザルコトヲ要ス但シ索ノ徑ノ四〇倍カ一八〇〇ミリメートルヲ超ユルトキハ試驗片ノ撚ミノ間隔ヲ一八〇〇ミリメートルニ止ムルコトヲ得

第十二條第二項ノ規定ハ麻索ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一表　鋼索

七本線六ツ撚鋼索		十二本線六ツ撚鋼索		十九本線六ツ撚鋼索		二十四本線六ツ撚鋼索		三十本線六ツ撚鋼索		三十七本線六ツ撚鋼索	
索ノ中心及麻心配置……索ノ中心及麻心配置……索ノ中心及麻心配置……索ノ中心及麻心配置……索ノ中心及麻心配置……索ノ中心及麻心配置……索ノ中心及麻心配置……索ノ中心及麻心配置……索ノ中心及麻心配置……索ノ中心及麻心配置……索ノ中心及麻心配置……											
各子繩ノ素線數……7		各子繩ノ素線數……12		各子繩ノ素線數……19		各子繩ノ素線數……24		各子繩ノ素線數……30		各子繩ノ素線數……37	
徑（粍）	切斷荷重（瓲）	重量（瓩/米）	切斷荷重（瓲）	重量（瓩/米）	切斷荷重（瓲）	重量（瓩/米）	切斷荷重（瓲）	重量（瓩/米）	切斷荷重（瓲）	重量（瓩/米）	切斷荷重（瓲）
10	2.89	0.370	3.15	0.250	2.98	0.365	4.50	0.330	4.10	0.310	4.23
12	4.16	0.533	4.54	0.360	4.29	0.526	6.48	0.475	5.90	0.446	6.09
14	5.66	0.725	6.17	0.490	5.83	0.715	8.82	0.647	8.04	0.608	8.29
16	7.39	0.947	8.06	0.640	7.62	0.934	11.5	0.845	10.5	0.794	10.8
18	9.35	1.199	10.2	0.810	9.64	1.183	14.6	1.069	13.3	1.004	13.7
20	11.5	1.480	12.6	1.000	11.9	1.460	18.0	1.320	16.4	1.240	16.9
22	14.0	1.791	15.3	1.210	14.4	1.767	21.8	1.597	19.8	1.500	20.5
24	16.6	2.131	18.1	1.440	17.2	2.102	25.9	1.901	23.6	1.786	24.4
26	19.5	2.501	21.3	1.690	20.1	2.467	30.4	2.231	27.7	2.096	28.6
28	22.6	2.901	24.7	1.960	23.3	2.862	35.3	2.587	32.1	2.430	33.2
30	26.0	3.330	28.4	2.250	26.8	3.285	40.5	2.970	36.9	2.790	38.1
32	——	——	32.3	2.560	30.5	3.738	46.1	3.379	42.0	3.174	43.3
34	——	——	36.4	2.880	34.4	4.219	52.0	3.815	47.4	3.584	48.9
36	——	——	40.8	3.240	38.6	4.730	58.3	4.277	53.1	4.018	54.8
38	——	——	45.5	3.610	43.0	5.271	65.0	4.765	59.2	4.476	61.1
40	——	——	50.4	4.000	47.6	5.840	72.0	5.280	65.6	4.960	67.7
42	——	——	——	——	52.5	6.438	79.4	5.821	72.3	5.468	74.6
44	——	——	——	——	57.6	7.066	87.1	6.389	79.4	6.002	81.9
46	——	——	——	——	63.0	7.723	95.2	6.983	86.8	6.560	89.5
48	——	——	——	——	68.6	8.410	104	7.603	94.5	7.142	97.5
50	——	——	——	——	74.4	9.125	113	8.250	103	7.750	106
52	——	——	——	——	——	——	122	8.923	111	8.382	——
55	——	——	——	——	——	——	136	9.983	124	9.378	——
58	——	——	——	——	——	——	151	11.101	138	10.428	——
60	——	——	——	——	——	——	162	11.880	148	11.160	——
62	——	——	——	——	——	——	173	12.685	158	11.916	——
65	——	——	——	——	——	——	190	13.943	173	13.098	——

第二表　旅　索

索徑（粍）	子繩ノレヤーンノ最小數	マニラ索			タールロープ索			白麻索		
		切斷荷重（噸）	重量（瓩/米）	重量（瓩/米）	切斷荷重（噸）	重量（瓩/米）	重量（瓩/米）	切斷荷重（噸）	重量（瓩/米）	重量（瓩/米）
20	16	1.73	0.288		1.65	0.356		2.16	0.318	
22	19	2.09	0.348		1.99	0.431		2.61	0.385	
24	23	2.49	0.415		2.36	0.513		3.10	0.458	
26	27	2.92	0.487		2.77	0.602		3.63	0.537	
28	31	3.38	0.565		3.20	0.698		4.20	0.623	
30	36	3.88	0.648		3.67	0.801		4.81	0.716	
32	41	4.41	0.737		4.16	0.911		5.47	0.814	
35	50	5.26	0.884		4.96	1.090		6.52	0.974	
40	64	6.85	1.152		6.45	1.424		8.47	1.272	
45	81	8.65	1.463		8.11	1.802		10.7	1.610	
50	100	10.6	1.800		9.96	2.225		13.1	1.988	
55	121	12.8	2.178		12.0	2.692		15.7	2.405	
60	144	15.2	2.592		14.2	3.204		18.6	2.862	
65	169	17.8	3.042		16.5	3.760		21.7	3.359	
70	196	20.6	3.528		19.1	4.361		25.1	3.896	
75	225	23.6	4.057		21.8	5.006		28.6	4.472	
80	256	26.8	4.608		24.6	5.696		32.4	5.088	
85	289	30.1	5.218		27.7	6.430		36.3	5.744	
90	324	33.7	5.832		30.8	7.209		40.5	6.440	
95	361	37.4	6.498		34.1	8.032		44.9	7.175	
100	400	41.4	7.200		37.6	8.900		49.4	7.950	

●舷窓試驗規程

（大正十一年一月二十八日　遞信省令第六號）

舷窓試驗規程左ノ通定ム

舷窓試驗規程

第一條　舷窓ヲ分チテ左ノ二種トス

一　甲種舷窓

二　乙種舷窓

甲種舷窓ニハ内蓋及外蓋ヲ備ヘ乙種舷窓ニハ内蓋ヲ備フルコトヲ要ス

第二條　舷窓ノ各部ニハ舷窓ノ種別ニ從ヒ左表ニ掲ゲル種類ノ材料ヲ用ウヘシ

舷窓各部ノ名稱	材料ノ種類	
	甲種舷窓	乙種舷窓
枠	黃銅、砲金又ハ鑄鋼	黃銅、砲金、鑄鋼又ハ可鍛鑄鐵

硝子枠	黄銅又ハ砲金	黄銅、砲金、鋳鋼又ハ可鍛鋳鐵	
内蓋	黄銅、砲金又ハ鋳鋼	黄銅、砲金、鋳鋼、可鍛鋳鐵又ハ鋳鐵	
外蓋	鋼	板鋼板、可鍛鋳鐵又ハ鋳鐵	
蝶番軸針及締附螺釘	鍛黄銅	鍛黄銅	

第三條　窓枠、硝子枠、甲種鉄窓用内蓋、蝶番軸針及締附螺釘ハ左表ニ掲ケル試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

鉄窓各部ノ名稱	試験ノ種別	試験材料	試験材ノ數	試験規格
硝子枠	抗張試験	黄銅製又ハ砲金製ノ窓枠、硝子枠及甲種鉄窓用内蓋	一鎔解毎ニ二箇（同一鎔解ヨリ造リタル鑄物ノ數五箇ヲ超ユルトキハ超エタル數ノ五十箇又ハ其ノ端數毎ニ一箇ヲ加フ）	一平方吋ノ抗張力ノ四十噸以上、伸長ノ割合百分ノ七・五以上但シ乙種鉄窓ニ用ヰル硝子枠及甲種鉄窓ノ内蓋ニ在リテハ抗張力ノ下限ヲ十二噸トス
	屈曲試験	鋳鋼製ノ窓枠及硝子枠	鎔解毎ニ二箇（同一鎔解ヨリ造リタル鑄物ノ數五十箇ヲ超ユルトキハ超エタル數ノ五十箇又ハ其ノ端數毎ニ一箇ヲ加フ）	常温ノ儘鎚打ニ裂疵ヲ生セス又屈曲シ得ルノ角度二十度以上
鋳鋼製甲種鉄窓用内蓋	屈曲試験	現品（鋳放シノ儘燒鈍シタルモノ）	鎔解毎ニ二箇（同一鎔解ヨリ造リタル鑄物ノ數五十箇ヲ超ユルトキハ超エタル數ノ五十箇又ハ其ノ端數毎ニ一箇ヲ加フ）	常温ノ儘鎚打ニ裂疵ヲ生セス又屈曲シ得ルノ角度十五度以上
				常温ノ儘鎚打ニ裂疵ヲ生セス又屈曲シ得ルノ角度三十度以上

窓枠、硝子枠及内蓋ニ於テ周緣又ハ脊稜ノ突出特ニ著シキ爲其ノ他ノ理由ニ依リ當該官吏ニ於テ現品ニ付屈曲試験ヲ適當ニ執行シ難シト認ムルトキハ之ニ代ルヘキ試験方法ニ付遞信大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條　鉄窓各部ノ構造及寸法ハ其ノ要部ニ在リテハ第五條以下ノ規定竝鉄窓ノ内徑及種別ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ定メ其ノ他ノ部分ニ在リテハ當該官吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第五條　硝子枠ハ堅牢ナル蝶番ニ依リ窓枠ニ取附ケ締附螺釘ヲ以テ之ヲ締附ケ得ル裝置ト爲シ且其ノ周圍ニ溝ヲ設ケ之ニ護謨其ノ他適當ノ塡材ヲ附シ閉鎖シタルトキ充分水密ナラシメ得ルモノナルコトヲ要ス

鉄窓用内蓋	シタルモノ）	キハ超エタル數ノ五十箇又ハ其ノ端數毎ニ一箇ヲ加フ）	シテ屈曲シ得ルノ角度三十度以上
可鍛鋳鐵製ノ窓枠及硝子枠	屈曲試験	現品（鋳放シノ儘燒鈍シタルモノ）	鎔解毎ニ二箇（同一鎔解ヨリ造リタル鑄物ノ數五十箇ヲ超ユルトキハ超エタル數ノ五十箇又ハ其ノ端數毎ニ一箇ヲ加フ）	常温ノ儘鎚打ニ裂疵ヲ生セス又屈曲シ得ルノ角度十五度以上
鍛黄銅製ノ軸針及締附螺釘	抗張試験	径〇・五六吋標點間ノ長二吋ノ四吋ノ原形ノ儘燒鈍シタルモノ	軸針又ハ締附螺釘ノ數各五十箇又ハ其ノ端數毎ニ一箇	一平方吋ノ抗張力ノ四十噸以上、伸長ノ割合百分ノ二十以上但シ乙種鉄窓ニ在リテハ抗張力ノ下限ヲ十二噸トス

第六條　締附螺釘三箇以上ヲ有スル硝子枠ニ在リテハ成ルヘク其ノ蝶番ノ壺金孔ヲ橢圓形ト爲スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ壺金ノ外徑ヲ別表ニ掲クルモノヨリ適當ニ增加スルコトヲ要ス

第七條　内蓋ハ甲種鉄窓ニ在リテハ厚八分ノ三吋以上、乙種鉄窓ニ在リテハ厚四分ノ一吋以上ニシテ適當ノ補强脊稜ヲ有シ堅牢ナル蝶番ニ依リ窓枠ニ取附ケ締附螺釘ヲ以テ之ヲ締附ケ得ル裝置ト爲シ且其ノ周圍ニ溝ヲ設ケ之ニ護謨其ノ他適當ノ塡材ヲ附シ閉鎖シタルトキ充分水密ナラシメ得ルモノナルコトヲ要ス

第八條　硝子枠及内蓋ノ締附螺釘ハ堅牢ナル蝶番ヲ以テ窓枠ニ取附クルモノナルコトヲ要ス

甲種鉄窓ノ締附螺釘ノ母螺ハ方形、六角形其ノ他螺廻具ヲ用ヰサレハ締附ケ及弛戻シ得サル形ノモノナルコトヲ要ス

第九條　硝子枠及内蓋ノ周圍ニ設クル溝ハ成ルヘク表面ノ幅ヲ八分ノ三吋、底面ノ幅ヲ二分ノ一吋及深ヲ四分ノ一吋ト爲スヘシ

第十條　外蓋ハ船内ヨリ取附ケ得ルモノニシテ窓枠ニ附シタル小突起其他適當ナル裝置ニ依リ所定ノ位置ニ正確ニ適合シ其ノ外面ハ窓枠ノ外面ヨリ八分ノ一吋以上内方ニ在ルモノナルコトヲ要ス

第十一條　甲種鉄窓ノ外蓋ノ厚ハ内徑十吋以上ノ鉄窓ニ在リテハ八分ノ五吋以上、内徑十吋未滿ノ鉄窓ニ在リテハ二分ノ一吋以上ト爲スヘシ前項ノ外蓋ニ設クル把手用環ニ對スル凹部ハ其ノ徑二吋二分ノ一以下ニシテ凹部ニ於ケル外蓋ノ厚八分ノ三吋以上ナルコトヲ要ス

第十二條　本令ニ該當セサル材料ニシテ特ニ遞信大臣ノ承認ヲ受ケタルモノ又本令ニ該當セサル構造及寸法ノ鉄窓ニシテ當該官吏ニ於テ本令ニ定ムルモノト同等以上ノ效力ヲ有スト認メタルモノハ本令ニ適合スルモノト看做ス

附　則

本令ハ大正十一年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

鉄窓要部ノ名稱ト構造及寸法

鉄窓ノ内徑（吋）	鉄窓ノ種別	硝子枠及内蓋ノ蝶番壺金ノ蝶番竝硝子枠及外徑（吋）	内蓋ノ締附螺釘軸針ノ徑（吋）	硝子枠及内蓋ノ締附螺釘						窓枠ヲ外板ニ取附クル螺釘	
				内蓋締附螺釘數	硝子枠締附螺釘數	内蓋締附螺釘ノ徑（吋）	硝子枠締附螺釘數	硝子枠締附螺釘ノ徑（吋）	螺糸底部ニ於ケル徑（吋）	螺釘數	
										甲種	乙種
					甲種						
				乙種							
6	甲、乙種	7/8	7/16	1	1	5/8	2	1/2	1/2	8	8
7	甲種	1	1/2	1	1	3/4	2	5/8	5/8	9	8
8	乙種	1	9/16	1	2	3/4	3	3/4	9/16	10	8
9	甲種	1 1/8	9/16	1	2	3/4	3	7/8	5/8	10	8
10	甲種	1 1/4	5/8	1	2	7/8	3	7/8	5/8	11	8
12	甲種	1 1/2	3/4	1	2	1	3	1 1/8	3/4	11	8

舷窓要部ノ名稱	外板ニ接スル窓枠平縁ノ厚（吋）		硝子板ノ厚（吋）	
	甲種	乙種	甲種	乙種
舷窓ノ種別 / 舷窓ノ內徑（吋）				
6	7/16	5/16	7/8	1/2
7	7/16	3/8	15/16	9/16
8	1/2	3/8	1	5/8
9	9/16	7/16	1 1/16	11/16
10	9/16	7/16	1 1/8	3/4
12	5/8	1/2	1 1/4	7/8

艙口覆布試驗規程

（昭和八年六月三日遞信省令第二十七號）

艙口覆布試驗規程左ノ通定ム

第一條　艙口覆布ヲ分チテ左ノ二種トス

一　甲種覆布

二　乙種覆布

第二條　覆布用布地ハ良質ノ亞麻絲又ハ綿絲ヲ以テ織リタルモノナルコトヲ要ス

第三條　覆布ノ防水劑ハ適當ナル「タール」、油脂又ハ化學製品ナルコトヲ要ス

第四條　覆布用布地ノ防水加工前ニ於ケル重量ハ一平方メートルニ付甲種覆布ニ在リテハ六五〇グラム以上、乙種覆布ニ在リテハ四九〇グラム以上ナルコトヲ要ス但シ「タール」以外ノ防水劑ヲ使用スル場合ニハ防水劑ノ性質ニ從ヒ前記ノ限度ヲ八五%迄輕減スルコトヲ得

第五條　覆布用布地ノ防水加工前ニ於ケル强力ハ幅三〇ミリメートルノ試驗片ニ付長二〇〇ミリメートルニテ試驗シタル結果經緯共甲種覆布ニ在リテハ八〇キログラム以上、乙種覆布ニ在リテハ六〇キログラム以上ナルコトヲ要ス但シ「タール」以外ノ防水劑ヲ使用スル場合ニハ防水劑ノ性質ニ從ヒ前記ノ限度ヲ八五%迄輕減スルコトヲ得

第六條　防水加工ヲ爲シタル覆布ハ當該官吏ノ適當ト認ムル溫度ニ於テ折疊ミタル際防水劑面ニ粘著、裂疵等ノ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス

第七條　覆布ニ塗布シタル防水劑ハ當該官吏ノ適當ト認ムル溫度ニ於テ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第八條　覆布用布地ヲ縫合スル爲ノ果方、縫絲及縫方ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト看做ス

第九條　本令ノ規定ニ該當セザル覆布ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四款　船舶積量測度

船舶積量測度法

（大正三年三月三十一日法律第三十四號）

【沿革】昭和六年三月法律第六號改正

脫帝國議會ノ協贊ヲ經タル船舶積量測度法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　船舶ノ積量ハ船舶ノ內法容積ヲ測度シ之ヲ定メ容積ノ單位ハ立方メートルトス

第二條　甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板ヲ、三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ最下層甲板ヨリ第二層ニ在ル甲板ヲ測度甲板トス

第三條　甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ測度甲板下ノ積量ニ測度甲板上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ、甲板三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ測度甲板下ノ積量ニ測度甲板上各甲板間ノ積量及上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス但シ左ニ揭クル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス

一　操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主機關ト連結セサル副汽罐副汽機ニ供用セラルル場所

二　機關室、操舵室、賄室及出入室

三　採光通風ニ要スル場所及便所

四　主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衞生又ハ利用上前各號ニ揭クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

前項ニ揭クル機關室ノ積量ハ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ總積量ニ算入スルコトヲ得

甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷端以下ノ積量ニ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス

第四條　總積量ヨリ左ニ揭クル場所ノ積量ヲ控除シタルモノヲ純積量トス

一　船員常用室及海圖室

二　荷足水艙

三　機關室

四　操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主唧筒ト連結シタル副汽罐副汽機ニ供用セラルル場所

五　水夫長倉庫

六　帆船ノ帆庫

七　主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衞生又ハ利用上前各號ニ揭クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

第五條　前二條ニ揭クル場所ノ限域ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第六條　純積量ノ算定ニ付機關室ノ積量トシテ總積量ヨリ控除スヘキ積量ハ左ノ割合ニ依リ之ヲ定ム

一　螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量カ總積量ノ百分ノ十三ヲ超エ百分ノ二十未滿ナルトキハ總積量ノ百分ノ三十二、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量カ總積量ノ百分ノ二十ヲ超エ百分ノ三十未滿ナルトキハ總積量ノ百分ノ三十七

二　前號ニ該當セサル場合ニ於テハ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量ハ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ其ノ四分ノ三、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量ニ其ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ但シ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ前號ノ割合ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ算定シタル積量カ純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除

スヘキ機關室以外ノ場所ノ積量ヲ總積量ヨリ減シタル積量ノ百分ノ五十五ヲ超ユルトキハ之ヲ百分ノ五十五ニ止ム

第七條　純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ艙庫ノ積量カ總積量ノ千分ノ二十五ヲ超ユルトキハ之ヲ千分ノ二十五ニ止ム

第八條　總積量ハ純積量ヲ噸（二百五十三分ノ千立方メートル）ヲ以テ表シタルモノヲ夫夫總噸數又ハ純噸數トス

第九條　積量測度ノ方法ハ主務大臣之ヲ定ム

第九條ノ二　主務大臣ハ長二十メートル未滿ノ船舶ノ積量ノ測度ニ付第二條乃至第七條ノ規定ニ拘ラス別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附　則

第十條　本法ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條　明治十七年布告第十號船舶積量測度規則ハ之ヲ廢止ス

第十二條　舊法ニ依リ噸數ヲ以テ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ニ付テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ積量ヲ改測ス

第十三條　前條ノ規定ニ依ル改測前ニ於テ船舶法第九條ノ申請ニ因リ積量ヲ改測スル場合ニ於テハ舊法ニ依リ之ヲ測度スルコトヲ得

第十四條　舊法ニ依リ測度シタル船舶ノ積量ハ本法ノ測度方法ニ依リ之ヲ改測スル迄本法ニ依リ測度シタルモノト看做ス

第十五條　本法公布前造船奬勵法ニ依リ認許證書ノ交付ヲ申請シ本法施行前其ノ交付ヲ受ケ製造ニ著手シタル船舶ノ噸數ハ造船奬勵法第二條ノ規定ノ適用ニ付テハ舊法ニ依ル

第十六條　本法施行ノ際現ニ遠洋航路補助法ニ依リ補助航海ニ使用スル船舶ノ噸數ハ同法ノ適用ニ付テハ其ノ補助年限內舊法ニ依ル

第十七條　本法施行ノ際現ニ遠洋漁業奬勵法ニ依リ遠洋ニ於ケル漁獲業又ハ漁獲物ノ處理運搬業ニ使用スル船舶ノ噸數ハ同法ノ適用ニ付テハ奬勵金下付許可期間內舊法ニ依ル

第十八條　第十二條ノ規定ニ依リ改測ヲ爲シタル爲登記又ハ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄稅ヲ課セス

第十九條　所有權及船舶管理人以外ノ事項ニ付登記アル船舶カ第十二條ノ規定ニ依リ又ハ船舶法第九條ノ申請ニ因リ改測セラレタル爲登記スヘカラサル船舶ト爲リタルトキト雖仍其ノ事項ニ付登記ノ存スル間ハ之ニ關スル登記及所有權ニ關スル登記ヲ爲スヘキモノトス

附　則　（昭和六年三月法律第六號）

第一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和七年六月勅令第八一號ヲ以テ同年四月二十日ヨリ施行）

第二條　從前ノ規定ニ依リ測度シタル船舶ノ總噸數又ハ登簿噸數ハ各之ヲ本法ニ依リ測度シタル總噸數又ハ純噸數ト看做ス

第三條　從前ノ規定ニ依リ石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船舶ノ積量測度ニ付テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ積量ヲ改測スル迄仍從前ノ規定ニ依ル

第四條　他ノ法令中登簿噸數トアルハ之ヲ純噸數トス

第五條　船舶カ本法施行ノ結果登記登錄ノ變更又ハ抹消ヲ要スル船舶ト爲リタル爲其ノ登記登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄稅ヲ課セス本法施行ノ際登記登錄ヲ要セサル船舶カ本法施行ノ結果新ニ登記登錄ヲ要スル船舶ト爲リタル爲其ノ登記登錄ヲ爲ス場合亦同シ

第六條　所有權及船舶管理人以外ノ事項ニ付登記アル船舶カ本法施行ノ結果登記スヘカラサル船舶ト爲リタルトキト雖モ仍其ノ事項ニ付登記

ノ存スル間其ノ事項ニ關スル登記及所有權ニ關スル登記ヲ爲スヘキモノトス

船舶ニ設定セラレタル質權ハ該船舶カ本法施行ノ結果登記スヘキ船舶ト爲リタルトキト雖モ其ノ效力ヲ害セラルルコトナシ

船舶積量測度規程

（大正三年七月十七日遞信省令第十六號）

【沿革】昭和七年四月省令第一〇號、同十一年十月同第五一號改正

船舶積量測度規程左ノ通定ム

本令ハ船舶積量測度法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和七年四月二十日ヨリ施行）

船舶積量測度規程

第一章　總則

第一條　長二十メートル以上ノ船舶ノ積量ノ測度ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ長ハ甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板梁上ニ於テ、甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水平距離トス

第一條ノ二　長、幅、深、高及厚ヲ測定スルニハメートル法ヲ以テ單位トシ單位下ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入スヘシ

分長點又ハ分深點ノ間隔及其ノ三分ノ一竝ニ面積、容積及積量ヲ算定スルニハ單位下ハ三位ニ止メ第四位ハ四捨五入スヘシ但シ總噸數及純噸數ヲ算定スルニハ單位下ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入スヘシ

第二條　測度甲板ノ長ト稱スルハ左ノ各號ニ揭クルモノヲ謂フ

一　甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ測度甲板上ニ沿ヒ船首內張板ノ內面ヨリ船尾內張板ノ內面ニ至ル距離ヲ測リ之ヨリ船首ニ於テハ甲板ノ厚ニ從ヒ船首材ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シ、船尾ニ於テハ甲板ノ厚ニ終尾船梁梁矢ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノニ從ヒ船尾肋骨ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シタルモノ

二　甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ニ於テ中心線ニテ船首內張板ノ內面ヨリ船尾內張板ノ內面ニ至ル距離

第三條　分長點ト稱スルハ測度甲板ノ長ヲ左表ニ依リ等分シタル點及首尾兩端ノ點ヲ謂フ

測度甲板ノ長	等分數
三十七メートル以下	六
三十七メートルヲ超エ五十五メートル以下	八
五十五メートルヲ超エ六十九メートル以下	十
六十九メートルヲ超ユルモノ	十二

第四條　分長點ノ深ト稱スルハ左ノ各號ニ揭クルモノヲ謂フ

一　甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ測度甲板ノ下面ヨリ二重底內底板、肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

二　前號ノ船舶ノ二重底內底板カ凹面ナルトキハ中心線ニ於テ測度甲板ノ下面ヨリ內底板迄ト緣板ノ上面迄トノ平均ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

三　甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ヨリ肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ內面ヨリ船尾內張板ノ內面ニ至ル距離ヲ測リ之ヨリ船首ニ

第五條　分深點ト稱スルハ測度甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深ニ應シ左表ニ依リ各分長點ノ深ヲ等分シタル點及上下兩端ノ點ヲ謂フ

測度甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深	等分數 二重底內底板カ四面ナルトキ	其ノ他ノ場合
五メートル以下	五	四
五メートルヲ超ユルモノ	七	六

副分深點ト稱スルハ二重底內底板カ四面ナル場合ニ於ヲ最下ノ分深點間隔ヲ四等分シタル點ヲ謂フ

第六條　分深點及副分深點ノ幅ト稱スルハ各點ニ於ケル船側內張板ノ內面ヨリ內面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

船側內張板ノ厚ニ差異アルトキハ其ノ平均ノ厚ノ所ヲ船側內張板ノ內面ト看做ス

第七條　遮浪甲板ト稱スルハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ヲ有スル全通船樓甲板ヲ謂フ

遮浪甲板ハ船舶積量測度法第二條ニ揭ケル甲板ノ層數ニ加ヘス

第八條　船舶積量測度法第三條及第四條ニ揭ケル場所ノ限域ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外檢查官吏ノ相當ト認ムル所ニ依ル

第九條　形狀正整ナル場所ノ積量ヲ算定スルニハ第三章乃至第五章ノ規定ニ拘ラス其ノ內面ニ於ケル平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ相乘スヘシ

第十條　第三章乃至第五章ノ規定ニ於テ一區分トシテ容積ヲ算定スヘキ場所ニシテ形狀複雜ナルモノニ在リテハ檢查官吏ニ於テ計算上精密ノ結果ヲ得ヘシト認ムル場合ニ限リ之ヲ二個以上ニ區分シ各區分毎ニ當該規定ヲ適用シ其ノ容積ヲ算定スルコトヲ得

第十一條　特殊ノ構造ヲ有シ又ハ特別ノ事由アルカ爲本令ノ測度方法ニ依リ難キ船舶ニ付テハ遞信大臣ノ相當ト認ムル測度方法ニ依ル

第二章　測度甲板下ノ積量及舷端以下ノ積量

第十二條　分長點ニ於ケル橫截面積ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

一　分長點ノ深ヲ四等分又ハ六等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ上下兩端ヲ除キ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點間隔ノ三分ノ一ヲ乘スヘシ

二　分長點ノ深ヲ五等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ第五分深點以上ノ部分ニ付テハ前號ノ規定ヲ適用シ最下分深點間隔ノ部分ニ付テハ第五分深點及第六分深點ノ幅ノ四分ノ一ト副分深點ヲ上端ヨリ數ヘ其ノ第一及第三ノ幅ト第二ノ幅ノ二分ノ一トヲ加ヘ之ニ分深點間隔ノ三分ノ一ヲ乘シ各部分ヲ加フヘシ

三　分長點ノ深ヲ七等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ第七分深點以上ノ部分ニ付テハ第一號ノ規定ヲ適用シ最下分深點間隔ノ部分ニ付テハ前號ノ規定ヲ準用シ各部分ヲ加フヘシ

第十三條　測度甲板下ノ積量ヲ算定スルニハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外分長點ニ於ケル橫截面積ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル面積ハ四倍シ首尾兩端ヲ除キ奇數ニ當ル面積ハ二倍シ其ノ和ニ首尾兩端ニ當ル面積ヲ加ヘ之ニ分長點間隔ノ三分ノ一ヲ乘スヘシ

第十四條　船首尾艙ヲ除キ二重底內底板又ハ肋板ノ高ニ階段アル船舶ノ測度甲板下ノ積量ヲ算定スルニハ各階段ニ從ヒ船體ヲ區分シ各區分毎ニ測度甲板ノ長ヲ測リ之ヲ第三條ノ測度甲板ノ長ニ充テ分長點ヲ定メ

第五條　第四條ノ規定ニ依リ定メタル分深點ノ等分數ヲ以テ各區分ノ分深點ヲ定メ前條ノ規定ヲ適用シ各容積ヲ算定シ之ヲ相加フヘシ但シ各區分毎ニ測リタル測度甲板ノ長カ九メートルヲ超エ十五メートル以下ナルトキハ之ヲ四等分シ九メートル以下ナルトキハ之ヲ二等分シ分長點ヲ定ムヘシ

第十五條　船艙溝ヲ有スル淺深船ノ測度甲板下ノ積量ヲ算定スルニハ船艙溝ノ末端隔壁ヲ境界トシテ船體ヲ區分シ各區分毎ニ前二條ニ規定スル方法ニ依リ算定シタル各容積ヲ相加フヘシ

第十六條　舷端以下ノ積量ヲ算定スルニハ測度甲板下ノ積量ヲ算定スル方法ヲ準用スヘシ

第三章　測度甲板上ノ積量及舷端以上ノ積量

第十七條　測度甲板上各甲板間ノ積量ヲ算定スルニハ甲板間ノ高ノ中央ニ於テ中心線ニテ船首內張板ノ內面ヨリ船尾內張板ノ內面ニ至ル長ヲ測リ之ヲ測度甲板ノ長ノ等分數ニテ等分シ各分長點ノ高ノ中央ニ於テ內面ノ幅ヲ測リ之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ首尾兩端ヲ除キ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ首尾兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔ノ三分ノ一及甲板間ノ平均ノ高ヲ乘スヘシ

第十八條　上甲板上及舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

一　測度甲板ノ長ノ二分ノ一以下ノ長ヲ有スル船樓、甲板室其ノ他蔽圍シタル場所ニ在リテハ高ノ中央ニテ前後及中央ニ於ケル內面ノ幅ヲ測リ中央ノ幅ノ四倍ニ前後ノ幅ヲ加ヘ之ニ平均ノ長ノ六分ノ一ト平均ノ高トヲ乘スヘシ

二　測度甲板ノ長ノ二分ノ一ヲ超ユル長ヲ有スル船樓、甲板室其ノ他蔽圍シタル場所ニ在リテハ其ノ長ヲ四等分シ前條ニ規定スル方法ヲ準用スヘシ

第十九條　船舶積量測度法第三條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請アリタル場合ニ於テ上甲板上ノ機關室ノ積量ノ全部又ハ一部ヲ總積量ニ算入スルハ純積量ヲ減少スル結果ヲ生スル場合ニ限ル

前項ノ機關室ノ積量ニハ上甲板上ニ在ル機關室圍壁及之ニ附屬スル蔽圍シタル場所ノ積量ヲモ包含ス

第一項ノ機關室ノ積量ノ一部トハ機關室ノ一部ニシテ甲板又ハ甲板ノ延長面及圍壁ニ依リ區畫シタル場所ノ積量ヲ謂フ

第四章　總積量ニ算入セサル上甲板上ノ場所

第二十條　船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ其ノ側壁又ハ端壁ニ幅九十一センチメートル以上高百二十二センチメートル以上（緣材ヲ附スルトキハ其ノ高六十一センチメートル以下）ナル一箇以上ノ出入口ヲ有シ之ニ扉又ハ之ニ準スヘキ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサルトキハ其ノ積量ヲ總積量ニ算入セス但シ旅客ニ供用セラルル場合又ハ出入口一箇ノミヲ有スル船樓ニシテ其ノ兩舷側ニ適當ノ排水口及排水孔ヲ備ヘサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　遮浪甲板上甲板下ノ間ノ場所ニシテ左ノ規定ニ適合スル部分ノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス但シ旅客ニ供用セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　遮浪甲板ニ長百二十二センチメートル以上幅同甲板ノ後部正艙口ノ幅ヨリ少カラサル常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ヲ有シ且遮浪甲

板上ヨリ操作シ得ル螺旋締裝置ヲ有スル徑十三センチメートル以上ノ自働不還弁ヲ該口直下ノ兩舷側ニ備フルコト

二　前號ノ甲板口ヲ船尾ニ設クルトキハ其ノ後端ヲ船尾材ノ後面ヨリ船ノ長ノ二十分ノ一ヨリ少カラサル距離ニ、船首ニ設クルトキハ其ノ前端ヲ船首材ノ前面ヨリ船ノ長ノ五分ノ一ヨリ少カラサル距離ニ設クルコト

前項ノ船ノ長トハ測度甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

三　第一號ノ甲板口ヲ船尾ニ設クルトキハ其ノ直下ノ甲板間ニ於テ該口ヨリ船首ニ在ル橫通隔壁ニハ前條ノ規定ニ依ル出入口二箇以上ヲ設クルコト

四　第一號ノ甲板口ノ緣材ノ高ハ甲板上平均三十センチメートルヲ超エサルコト又該口ノ周圍ニハ之ヲ水密ニ閉鎖シ得サル樣椗欄ヲ設クルコト

第二十二條　賄室トハ廚室及麵麭燒室ヲ謂フ

第二十三條　艙口ノ積量カ總積量ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ積量ノ千分ノ五以下ナルトキハ之ヲ總積量ニ算入セス

艙口ノ積量カ總積量ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ積量ノ千分ノ五ヲ超エルトキハ其ノ超過積量ニ限リ之ヲ總積量ニ算入ス

第二十四條　飲料水蒸溜機、消防消毒用瓦斯發生機、「サーモダンク」、探海燈及燈塔ニ供用セラルル場所ノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス

遞信大臣ハ前項ニ揭クル場所ノ外船舶積量測度法第三條第一項第四號ノ規定ニ依リ同項第一號乃至第三號ニ揭クルモノニ準スヘキモノト認ムル場

ムル場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第五章　純積量

第二十五條　純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ場所ノ積量ニ付テハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十六條　船員常用室トハ船長ノ專用スル諸室、海員ノ專用スル寢室、食堂、食器室、飲食料倉庫、洗面室、浴室、病室、藥局、廚室、麵麭燒室及便所竝以上各室ニ專屬スル通路及採光通風ニ要スル場所ヲ謂フ

第二十七條　海圖室トハ海圖、信號器具其ノ他航海用器具ニ供用セラルル場所ヲ謂フ

第二十八條　荷足水艙トハ二重底水艙ヲ除クノ外人孔ノミヲ備ヘ貨物、倉庫品及燃料ヲ積載スルニ適セサル構造ヲ有スル水艙ヲ謂フ

第二十九條　荷足水艙ノ積量ヲ算定スルニハ水艙ノ頂板ノ長ヲ測リ其ノ長九メートル以下ナルトキハ之ヲ二等分シ九メートルヲ超エ十五メートル以下ナルトキハ之ヲ四等分シ十五メートルヲ超ユルトキハ之ヲ第三條ノ測度甲板ノ長ニ充テ之ヲ等分シ又船ノ中央ニ近キ分長點ノ深ヲ測リ其ノ深五メートル以下ナルトキハ之ヲ二等分シ五メートルヲ超ユルトキハ之ヲ四等分シ第十二條及第十三條ノ規定ヲ準用スヘシ

第三十條　機關室ノ積量トハ機關室ノ冠頂下ノ場所、冠頂下上甲板トノ間ノ場所及車軸隧道ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

船舶所有者ノ申請ニ依リ上甲板上ノ機關室ノ積量ノ全部又ハ一部ヲ總積量ニ算入シタルトキハ之ヲ機關室ノ積量ニ算入ス

機關室ノ積量中船舶ノ推進ニ關係ナキ場所アルトキハ其ノ積量ヲ機關室ノ積量ヨリ除去スヘシ

第三十一條　機關室ノ冠頂下ノ場所、冠頂下上甲板下ノ間ノ場所、上甲板上ノ場所及車軸隧道ノ積量ヲ算定スルニハ平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ相乘スヘシ

第三十二條　螺旋推進器ヲ有シ車軸隧道ヲ設ケサル船舶ニ於テ車軸ニ供用セラルル場所ノ積量ヲ算定スルニハ中間軸ノ徑ノ三倍ヲ自乘シ之ニ機關室後端隔壁ヨリ船尾管前端ニ至ル長ヲ乘スヘシ

第三十三條　機關室內ノ船舶ノ推進ニ關係ナキ場所ノ積量ヲ算定スルニハ其ノ平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ相乘スヘシ

第三十四條　船舶積量測度法第六條第一項第二號但書ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請アリタル場合ニ於テ同項第一號ノ規定ヲ適用スルハ機關室ノ積量カ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ十三以下、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ二十以下ニシテ特別ノ事由アル場合ニ限ル

第三十五條　水夫長倉庫トハ甲板用諸器具、覆布、滑車類、端艇用附屬具、救命具及索類ヲ藏置スル場所ヲ謂フ

第三十六條　純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ水夫長倉庫ノ積量ハ總積量ニ應シ左表ニ揭クル控除積量ヲ超ユルトキハ之ヲ該積量ニ止ム但シ二百十三立方メートルヲ超ユルコトヲ得ス

總積量	控除積量
四百立方メートル未滿	八立方メートル
四百立方メートル以上千四百立方メートル未滿	總積量ノ百分ノ二
千四百立方メートル以上二千八百立方メートル未滿	二十八立方メートル
二千八百立方メートル以上	總積量ノ百分ノ一

第三十七條　無線電氣機具、其ノ從事員室、飲料水蒸溜機、消防消毒用瓦斯發生機、「サーモダンク」及「コツファーダム」ニ供用セラルル場所ノ積量ハ純積量ノ算定ニ付キ總積量ヨリ之ヲ控除スヘシ

遞信大臣ハ前項ニ揭クル場所ノ外船舶積量測度法第四條第七號ノ規定ニ依リ同條第一號乃至第六號ニ揭クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所ヲ指定スルコトアルヘシ

附　則　（昭和七年四月遞信省令第一〇號）

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和七年六月二十日ヨリ施行）

本令施行前ノ申請ニ基ク船舶ノ積量ノ測度ハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

船舶積量改測規則

（大正三年七月十七日遞信省令第十七號）

船舶積量改測規則左ノ通定ム

本令ハ船舶積量測度法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船舶積量改測規則

第一條　本令ハ船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ行フ場合ニ之ヲ適用ス

第二條　船舶ノ積量ノ改測ハ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フ

一　本令施行ノ日ヨリ大正四年九月三十日ニ至ル期間

遠洋航路ヲ航路定限ト爲ス汽船、近海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數千噸以上ノ汽船及總噸數八十噸以上ノ帆船

二　大正四年十月一日ヨリ大正五年九月三十日ニ至ル期間

近海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數千噸未滿ノ汽船、沿海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數百噸以上ノ汽船及總噸數四十噸以上八十噸未滿ノ帆船

三　大正五年十月一日ヨリ大正六年九月三十日ニ至ル期間

沿海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數百噸未滿ノ汽船、平水航路ヲ航路定限ト爲ス汽船及總噸數四十噸未滿ノ帆船

四　大正六年十月一日以後

前各號ノ期間内ニ改測ヲ了ラサル船舶及前各號ニ揭ケサル船舶

改測ハ定期檢査ト同時ニ之ヲ行フ但シ船舶檢査法ノ適用ヲ受ケサル船舶ノ改測ノ時期ニ付テハ船舶所有者ノ申請ニ因リ管海官廳之ヲ指定ス

第一項各號ニ揭ケル船舶ニシテ當該期間内ニ定期檢査ヲ受ケサルモノノ改測ハ順次次ノ期間ニ於テ之ヲ行フ

船舶所有者ヨリ特別ノ事由ヲ具シ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ相當ト認ムルトキハ前三項ノ規定ニ拘ラス改測ヲ行フコトヲ得

第三條　改測ヲ受クヘキ船舶ニシテ船舶檢査法ノ適用ヲ受ケサルモノノ所有者ハ前條第一項各號ノ期間内ニ於テ改測ヲ受ケムトスル管海官廳ニ改測ノ申請書ヲ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ船舶ノ番號、種類、船名、船籍港、總噸數、改測ノ爲檢査官吏ノ臨檢ヲ受ケムトスル場所及船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依リ改測ヲ申請スル旨ヲ記載スヘシ

前二項ノ規定ハ前條第四項ノ規定ノ適用ヲ受ケムトスル船舶所有者ニ之ヲ準用ス

第四條　船籍港ヲ管轄セサル管海官廳ニ於テ改測ヲ行ヒタルトキハ遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

第二條第一項各號ニ定ムル期間内ニ前項ノ關係書類ヲ送付スルコト能ハサルトキハ當該官廳ハ豫メ其ノ旨ヲ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ通知スヘシ

第五條　船舶所有者ニ於テ第三條ノ申請ヲ爲ササル船舶ニ付テハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ職權ヲ以テ適宜ノ時期ニ於テ其ノ改測ヲ行フヘシ

前項ノ規定ニ依リ改測ヲ行フ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第六條　前四條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿ノ船舶ニ之ヲ適用セス

第七條　前條ノ船舶ニ付テハ地方長官其ノ定ムル所ニ依リ本令施行後五年以内ニ其ノ積量ヲ改測ス

◉船舶積量測度心得

（大正三年七月十七日遞信省訓令第一號）

【沿革】大正五年二月訓令第一號、昭和七年四月同第一號、同十一年十月同第二號改正

道廳　府縣　管海官廳

船舶積量測度心得左ノ通定メ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

船舶積量測度心得

第一章　總則

第一條　本訓令ハ長二十メートル以上ノ船舶ノ積量ノ測度ニ關スル心得ヲ示スモノトス

第一條ノ二　船舶ノ積量ハ登記登錄ノ基礎トナリ諸稅手數料賦課ノ標準トナルモノナレハ之カ誤測アルニ於テハ訂正ノ手續容易ナラサルニ付測度ニ際シテハ特ニ周密ナル注意ヲ拂ヒ精確ヲ期スヘシ

第二條　測度ニ當リ疑義ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ詳細ヲ具シ必要ト認ムルトキハ圖面ヲ添ヘ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

第三條　製造中ノ檢査ヲ行フ船舶ニ付テハ成ルヘク適當ナル時期ニ於テ部分測度ヲ行ヒ測度申請アリタル場合ノ參考ニ供スヘシ

第四條　管海官廳ニ於テハ豫メ標準距離ヲ設定シ時々測度用卷尺ヲ之ト照合シ其ノ尺差ヲ檢定シタル上使用スヘシ

卷尺ヲ濕潤セシメタルトキハ之ヲ拭シ充分乾燥セシメタル後更ニ油布ヲ以テ清拭スヘシ

第五條　下層甲板カ貨物艙又ハ横置然料艙ニ於テ斷切スルトキハ該甲板ハ船舶積量測度法第二條ニ揭ケル甲板ノ層數ニ加ヘス

第六條　低船首尾樓甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ該船樓ノ部分ニ於テ該甲板ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ船舶積量測度法第二條及第三條ニ揭ケル上甲板ト看做ス

第七條　船舶積量測度規程第二條ノ規定ニ依リ測度甲板ノ長ヲ測ルニハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　船首内張板及船尾内張板ト稱スルハ測度甲板ノ直下ニ於ケル内張板ヲ謂フ

二　甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ測度甲板上ニ於テ船首ヨリ船尾ニ至ル水平距離ヲ測リ得ルトキハ測度甲板上ニ指ヒタル距離ノ代リニ該距離ヲ採ルモ妨ナシ

甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテモ前項ニ準シ取扱フヘシ

三　船尾ニ戸建ヲ有スル木製帆船ニ在リテハ測度甲板ノ長ハ戸建ノ内面迄測ルヘシ

四　船首ニ於テ上甲板ニ傾斜アル木製帆船ニ在リテハ測度甲板ノ長ハ該甲板ノ下面ト船首材トノ交叉部ヲ標準トシテ測ルヘシ

第八條　船首尾艙ニ於ケル分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スル二重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第九條　鐵鋼船ノ船底内張板及艙内船側内張板ノ厚カ七、五センチメートルヲ超ユルトキハ之ヲ七、五センチメートルト看做シ測ルヘシ

鐵鋼船ノ冷藏艙ニ設ケル内張板ニ付テモ前項ニ準シ取扱フヘシ

鐵鋼船ノ船底内張板下ノ横木ノ高ハ之ヲ内張板ノ厚ニ算入ス

第十條　木船ノ内張板ノ厚ハ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

木船ノ肋根材上ニ設ケタル横木ノ高ハ内張板ノ厚ニ算入セス

木船ノ梁受板、艙内縱通材及彎曲部縱通材ハ内張板ノ一部ト看做シ船艙ノ幅ヲ測ルヘシ

第十一條　船舶積量測度規程第六條第二項ニ揭ケル船側内張板ノ平均ノ厚ハ内張板又ハ「バッテン」ノ間隔カ三十センチメートル以下ナルトキハ其ノ厚ノ平均ヲ、三十センチメートルヲ超ユルトキハ其ノ厚ヲ全心距ニ等布シタルモノヲ採ルヘシ

前項ノ間隔カ九十センチメートルヲ超ユルトキハ内張板ナキモノト看做シ取扱フヘシ

第十二條　内張板ヲ備ヘサル船艙ノ深ハ二重底内底板、肋板又ハ肋根材ノ上面迄、其ノ幅ハ肋骨ノ内面迄測ルヘシ但肋骨ノ心距百二十二セン

チメートルヲ超ユル木船ノ船艙ノ深又ハ幅ハ外板ノ内面迄測ルヘシ

第十三條　艙内ニ内張板ヲ有シ船首尾艙又ハ機關室等ニ内張板ヲ有セサル船舶ノ船艙ノ深及幅ハ測度スヘキ箇所ノ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

第十四條　分深點カ「ポツス」ノ位置ニ在ル場合ニ於テハ分深點ノ幅ハ「ポツス」ヲ構成スル肋骨ノ内面ヨリ内面迄測ルヘシ

第十五條　肋骨ノ深ニ階段アル船舶ノ船艙ノ幅ハ測度スヘキ箇所ノ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

肋骨一本置キニ肋骨ノ深ヲ異ニスル船舶ノ船艙ノ幅ハ深ノ大ナル肋骨迄測ルヘシ

第十六條　二重底ヲ備ヘサル船舶ノ船底ノ幅ハ肋板又ハ肋根材ニ水平ナル部分アルトキハ該部分ノ幅ヲ採リ、肋板又ハ肋根材カ傾斜スルトキハ内龍骨ノ幅ヲ採ルヘシ

第十七條　二重底内底板カ凸面ナル場合ニ於テハ分長點ノ深ハ中心線ニ於ケル内底板迄ノ深ニ山形ナルトキハ緣板上ヨリ測リタル山形ノ高ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ、蒲鉾形ナルトキハ緣板上ヨリ測リタル蒲鉾形ノ高ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノヲ採ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ最下分深點ノ幅ハ緣板ヨリ緣板ニ至ル水平距離ヲ測ルヘシ

二重底内底板カ船側ニ達スル場合ニ於テハ船側肋骨ヲ内底板ニ固著スル肘板ノ内緣ヲ前二項ノ緣板ノ位置ト看做ス

第十八條　船舶積量測度規程第五條ノ規定ノ適用ニ當リ中心線内底板ト緣板トノ高ノ差カ十五センチメートル未滿ナルトキ又ハ内底板カ凹面ナルモ彎曲セサルトキハ副分深點ヲ設ケシテ前條ニ準シ測度スルモ妨ナシ

第十九條　上甲板上蔽圍シタル場所及純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ場所ニシテ其ノ形狀複雜ナルモノニ在リテハ檢査官吏ハ計算上便宜ニシテ且精密ノ結果ヲ得ヘシト認ムル場合ニ限リ先ツ全容積ヲ測リ之ヨリ算入スヘカラサル部分ノ容積ヲ減シ其ノ場所ノ容積ヲ算定スルモ妨ナシ

第二十條　船舶積量測度法第三條及第四條ニ揭クル副汽機トハ蒸汽喞筒及喞筒ト連結シタル汽機ヲ謂フ

第二十一條　船舶積量測度規程第二十條及第二十一條ニ揭クル場所ニシテ旅客ニ供用セサルカ爲總積量ニ算入セサル場所及船員常用室トシテ登簿噸數ヲ算定スル爲總噸數ヨリ控除シタル場所ヲ旅客ニ供用スルトキハ改測ノ申請ヲ爲サシムヘシ

第二十一條ノ二　修繕又ハ模樣替ノタメ積量ニ變更ヲ生スヘキ場合ト雖短期間ノ後復舊スヘキコト明ナル場合ニ於テハ積量ニ變更ナキモノト看做スコトヲ得

第二章　測度甲板下ノ積量及舷端以下ノ積量

第二十二條　船舶積量測度規程第十四條ノ規定ヲ適用スルニハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　全通二重底ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ下部ニ於ケル二重底ニ三十センチメートル以下、機關室ノ下部以外ノ二重底ニ十五センチメートル以下ノ階段アルモ區分測度ヲ爲スニ及ハス

二　車軸隧道端室ニ於テ二重底又ハ普通肋板ニ階段アルモ區分測度ヲ爲スニ及ハス

三　二重底ヲ備フル船舶ニシテ汽鑵室ノ下部ノミニ二重底内底板ヲ張

ラサルカ又ハ普通肋板ヲ有スルトキハ區分測度ヲ爲サシテ他ノ部分ト同一ノ高ヲ有スル二重底ヲ備フルモノト看做シ測度スヘシ

四　普通肋板ノミヲ有スル船舶ニシテ機關室ノ下部ニ於ケル肋板ニ高底アルモ區分測度ヲ爲サスシテ他ノ部分ト同一ノ高ヲ有スル普通肋板ヲ有スルモノト看做シ測度スヘシ

五　二重底ノ階段カ漸次傾斜スルモノニ在リテハ該傾斜部ハ二重底ノ高ノ低キ部分ト同一區畫トシテ取扱フヘシ

第二十三條　漁船ノ生洲及淺漥船ノ泥艙ノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入ス

前項ノ生洲及泥艙ニ付テハ區分測度ヲ爲サスシテ其ノ部分ノ分長點ノ深ハ其ノ前後ニ於ケル二重底内底板、肋板又ハ肋根材ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第三章　測度甲板上ノ積量及舷端以上ノ積量

第二十四條　船舶積量測度規程第十七條ニ揭クル甲板間ノ平均ノ高トハ各分長點ニ於テ中心線ヨリ船ノ幅ノ約四分ノ一ノ所ニテ測リタル上層甲板ノ下面ヨリ下層甲板ノ上面ニ至ル平均ノ高ノ平均ヲ謂フ

第二十五條　上甲板上及舷端以上蔽圍シタル場所ニシテ二箇以上ノ室ヨリ成ルモノト雖相連續セル圍壁ヲ有スルトキハ一區畫室トシテ取扱ヒ其ノ長及幅ハ圍壁ノ内面ヨリ内面迄測ルヘシ

第二十六條　船舶積量測度規程第十八條ノ規定ニ依リ後端圓形ナル船尾樓又ハ低船尾樓ノ積量ヲ算定スル場合ニ於テハ平均ノ長ハ高ノ中央ニ於テ中心線ニテ船樓ノ前端内面ヨリ船尾ノ内面迄測リタルモノヲ、後端ノ幅ハ船尾端ノ幅ノ代リニ高ノ中央ニ於テ船尾材ノ前面ニテ測リタルモノヲ採ルヘシ

第二十七條　船舶積量測度規程第十七條ノ規定ニ依リ後端圓形ナル甲板間ノ積量ヲ算定スル場合ニ於テモ亦前項ニ準シ取扱フヘシ

前二項ノ方法ニ依ルヲ時ニ不適當ナリト認ムルトキハ檢査官吏ハ適當ノ方法ニ依リ後端ノ幅ヲ算定スヘシ

第二十八條　船樓端ニ於テ舷側ニ外板ヲ有スル突出部アルトキハ内ノ容積ハ之ヲ船樓ノ積量ニ加ヘ其ノ他ノ突出部ハ小ナルモノニ在リテハ其ノ容積ハ之ヲ船樓ノ積量ニ加ヘ大ナルモノニ在リテハ之ヲ甲板室ノ一部トシテ取扱フヘシ

第四章　總積量ニ算入セサル上甲板上ノ場所

第二十九條　操舵機具、繫船機具、揚錨機具及副汽鑵副汽機ニ供用セラルル場所トハ此等ノ機具機關ニ供用スル爲特ニ設ケタル室又ハ區畫アルトキハ該室又ハ該區畫ヲ、室又ハ區畫ナキトキハ其ノ實際占有スル場所及檢査官吏ニ於テ其ノ取扱ニ必要ナリト認ムル場所ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

第三十條　船舶積量測度規程第二十條ニ揭クル扉ニ準スヘキ常設閉鎖裝置トハ引戸及捩止釘又ハ鉤形止釘ヲ以テ閉鎖シ得ル板戸ヲ謂フ

出入口ノ兩側ニ設ケタル竪溝形材ニ挿板ヲ爲セル裝置ハ之ヲ前項ノ常設閉鎖裝置ト看做サス

船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ出入口一箇ヲ有スルモノト雖該出入口ノ面積カ特ニ大ニシテ出入口二箇以上ヲ有スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認メ得ヘキ場合ノ取扱ニ付テハ圓面ヲ添ヘ意見ヲ具シ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十條　船舶積量測度規程第二十條ニ揭クル適當ノ排水口トハ高約五

十一センチメートル幅約三十八センチメートルノモノトシ甲板間ニ設ケル排水孔ノ間隔ハ約十メートルニ付各舷一箇ノ割合トス但シ部分隔壁ヲ以テ區分セラルル場合ニ於テハ該區分毎ニ各舷一箇以上ノ排水孔ヲ設クヘキモノトス

第三十一條　廚室トハ「カレー」「スカレリー」及流シ場ヲ謂フ

第三十二條　上甲板以上ニ在ル出入口ノミニ供用セラルル場所ハ之ヲ出入口室ノ一部ト看做シ其ノ積量ヲ總積量ニ算入セス

第三十三條　船舶積量測度規程第二十三條ニ掲ケル艙口ノ積量トハ暴露甲板ニ在ル艙口及載炭口ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

圍壁艙口ニ非サル艙口又ハ載炭口ノ徑、長又ハ幅一メートル未滿ナルトキハ其ノ積量ハ之ヲ前項ノ艙口ノ積量ニ算入セス

圍壁艙口ノ積量ハ暴露甲板以上ニ在ルモノハ之ヲ艙口ノ積量ニ算入ス

遮浪甲板下又ハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル船樓下ノ上甲板ハ前二項ニ掲ケル暴露甲板ト看做ス

艙口ノ一部ニ出入口室ヲ假設スルトキハ該出入口室ナキモノト看做シ艙口ノ積量ヲ算定ス

第三十四條　上甲板上ニ在ル採光通風ニ要スル場所ノ積量トハ天窓、其ノ圍壁内及通風圍壁内ノ積量ヲ謂フ

「カウル」「マッシュルーム」「ゲースネツク」其ノ他專賣式ノ頭部ヲ有スル通風管ニシテ蔽圍シタル場所ニ在ル部分ノ積量ハ之ヲ該場所ノ積量ニ算入ス

第三十五條　大型旅客船ニ在リテハ上甲板以上ニ於テ食堂上ノ「ドーム」ト食堂直上ノ甲板トノ間ニ中間ノ場所アルトキハ圍壁ナキモノト雖圍壁アルモノト看做シテ其ノ積量ヲ算定シ之ヲ採光通風ニ要スル場所ノ積量ニ算入スヘシ

第三十六條　浴室ト便所トヲ同室内ニ設ケタルトキハ便所トシテ要スル場所ノ積量ノミヲ便所ノ積量トシテ算定スヘシ

第三十七條　操舵室ト海圖室トヲ同室内ニ設ケタルトキハ操舵ノ爲要スル場所ノ積量ノミヲ操舵室ノ噸數トシテ算定スヘシ

第五章　純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ場所ノ積量

第三十八條　船員常用室ノ積量ハ各室毎ニ内法寸法ヲ測リ算定スヘシ

第三十九條　海員ノ事務室並水先人、郵便官吏、稅關官吏、檢疫官吏、買辦、漁船ニ於テ漁獵ノミニ從事スル者、理髮人及海員ニ非スシテ船中ニ於テ職務ヲ行フ者ニ供用セラルル諸室ノ積量ハ之ヲ船員常用室ノ積量ニ算入セス

船員及旅客ニ併用スル場所ノ積量ハ之ヲ船員常用室ノ積量ニ算入セス但シ旅客船ニ非サル船舶又ハ臨時旅客ヲ搭載シタル爲旅客船ト爲リタル船舶ニ於テ船員及旅客ニ併用スル場所ノ噸數並旅客船ニ臨時旅客ヲ搭載シタル場合ニ於テ船員及臨時旅客ニ併用スル場所ノ噸數ハ之ヲ船員常用室ノ噸數ニ算入ス

第四十條　船首尾水艙ハ淡水艙ノミニ用ヰラルル場合ト雖之ヲ荷足水艙ト看做ス

第四十一條　船舶積量測度規程第二十九條ノ規定ニ依リ船首尾水艙ノ積量ヲ算定スル場合ニ於テ各分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スル二重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長迄測ルヘシ

第四十二條　機關室カ二室以上アル場合ニ於ケル各室間ノ通路、機關室又ハ車軸隧道ヨリ上甲板ニ至ル通路ノ積量ハ之ヲ機關室ノ積量ニ算入ス

第四十三條　船舶積量測度法第四條ニ揭クル主唧筒トハ淦水排出ニ供用セラルル蒸汽唧筒ヲ謂フ

第四十四條　主機關ト連結シタル副汽鑵ニ供用セラルル場所ノ積量ハ之ヲ機關室ノ積量トシテ取扱フヘシ

第四十五條　船舶積量測度規程第三十條ニ揭クル機關室内ニ於ケル船舶ノ推進ニ關係ナキ場所トハ該室内ニ於テ主機關ト連結セサル副汽鑵發電機、製氷機、倉庫、工作場、操舵機、消防消毒用瓦斯發生機、飲料水蒸溜機、艙内送風機ニ供用セラルル場所又ハ特ニ構成シタル豫備螺旋軸置場ニシテ區畫アルトキハ該區畫ヲ、區畫ナキトキハ其ノ實際占有スル場所及檢査官吏ニ於テ其ノ取扱ニ必要ナリト認ムル場所ヲ加ヘタルモノヲ謂フ淺漑船其ノ他特殊ノ船舶ニ於テ特殊ノ目的ニ供用セラルル機械ヲ据付ケタル場合亦同シ

第四十六條　石炭庫及燃料油庫ノ積量ハ機關室ノ積量ニ算入スヘカラス

第四十七條　船舶積量測度規程第三十四條ノ場合ニ於テ船舶所有者ヨリ申請アリタルトキハ檢査官吏ハ意見ヲ具シ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

附　則　（昭和七年四月遞信省令第一號）

本訓令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和七年六月二十日ヨリ施行）

本訓令施行前ノ申請ニ基ク船舶ノ積量ノ測度ハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

簡易船舶積量測度規程

（昭和七年四月十一日遞信省令第十二號）

第一條　長二十メートル未滿ノ船舶ノ積量ノ測度ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　船ノ長トハ上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

船ノ幅トハ船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

船ノ深トハ船ノ長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル上面ニ至ル垂直距離ヲ謂フ

第三條　甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ヲ上甲板梁ノ上面ト看做スヘシ

低船首樓甲板、低船尾樓甲板又ハ之ニ準スヘキ甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ該甲板ノ部分ニ於テ之ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ上甲板ト看做スヘシ

一部分ノミニ上甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ甲板ナキ部分ニ於テ舷端ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ上甲板ト看做スヘシ

前各項ノ外特殊ノ構造ヲ有スル船舶ニ在リテハ船ノ長、幅及深ハ其ノ構造ニ應シ前條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ定ムヘシ

第四條　長、幅、深及高ヲ測定スルニハメートルヲ以テ單位トシ單位下ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入スヘシ

容積及積量ヲ算定スルニハ單位下ハ三位ニ止メ第四位ハ四捨五入スヘシ但シ總噸數及純噸數ヲ算定スルニハ單位下ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入スヘシ

第五條　甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板下ノ積量ニ上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス但シ左ニ揭クル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス

一、機關室、操舵室、賄室及出入口室

二、採光通風ニ要スル場所及便所

三、長又ハ幅カ一メートル未滿ナル暴露シタル艙口

四、遞信大臣ニ於テ船舶ノ完全、衞生又ハ利用上前各號ニ揭クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷端以下ノ積量ニ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス

第六條　船樓、甲板室、其ノ他上甲板上ノ場所ニシテ其ノ側壁又ハ端壁ニ幅九十一センチメートル以上高百二十二センチメートル以上ノ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル開口ヲ有スルモノハ前條ノ蔽圍シタル場所ト看做サス但シ旅客ニ供用セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　上甲板下又ハ舷端以下ノ積量ハ船ノ長、幅及深ノ相乘積ニ船質ニ應シ左ノ係數ヲ乘シタルモノトス

鋼船　〇・六二

木船　〇・五五

上甲板上又ハ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ算定スルニハ各場所ノ內法ノ平均ノ長、幅及高ヲ相乘シテ得タル容積ヲ加フヘシ

第八條　總積量ヨリ推進機關ヲ有セサル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ二十ヲ控除シタルモノ、推進機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ二十ヲ控除シ且機關室ノ積量ノ一倍四分ノ三及總積量ノ百分ノ四十四ノ內小ナルモノヲ控除シタルモノヲ純積量トス

機關室ノ積量ヲ算定スルニハ車軸室ノ部分ヲ除キ上甲板下又ハ舷端以下ニ於ケル機關室ノ內法ノ平均ノ長、幅及深ヲ相乘スヘシ

第九條　形狀複雜ナル場所ノ積量ハ其ノ場所ヲ二個以上ニ區分シ各區分毎ニ算定シタル容積ヲ加ヘ又ハ之ニ準スル方法ニ依リ算定スルコトヲ得

附　則

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和七年六月二十日ヨリ施行）

本令施行前ノ申請ニ基ク船舶ノ積量ノ測度ハ大正三年勅令第十六號船舶積量測度規程ニ依ルコトヲ得

●石數船改測規則

（昭和七年四月十一日遞信省令第十一號）

石數船改測規則左ノ通定ム

第一條　昭和六年法律第六號附則第三條ニ揭クル船舶ハ本令施行ノ日ヨリ二年以內ニ其ノ積量ノ改測ヲ受クヘシ

第二條　前條ノ船舶ノ所有者ハ改測ヲ受ケムトスル管海官廳ニ船舶ノ番號、船名、船籍港、積石數、改測ノ爲臨檢ヲ受ケムトスル場所及本令ニ依リ改測ヲ申請スル旨ヲ記載シタル改測ノ申請書ヲ差出スヘシ

第三條　改測ヲ行ヒタル管海官廳カ當該船舶ノ船籍港ヲ管轄セサル場合ニ於テハ該管海官廳ハ遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

第四條　前二條ノ規定ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第五條　前條ノ船舶ノ改測ニ付テハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和七年六月二十日ヨリ施行）

●船舶改測ニ依リ噸數減少ノ爲資格低下ノ場合ノ件

（大正三年九月二十六日遞信省令第三十一號）

船舶檢査規程第七條又ハ漁船檢査規程第三條ノ規定ニ依リ資格ヲ定メラレタル船舶カ船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依ル改測ニ因リ上甲板下ノ噸數減少シタル爲資格ヲ低下スヘキ場合ニ於テハ當該船舶ノ上甲板下ノ噸數ハ船舶檢査規程第七條又ハ漁船檢査規程第三條ノ規定ノ適用ニ付テハ改測ヲ了リタル日ヨリ五年以內舊法ニ依ルコトヲ得但シ改測後修繕ニ因リ上甲板下ノ噸數ニ變更ヲ生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●巴拿馬運河噸數證書交付規則

（大正四年二月十五日遞信省令第十號）

【沿革】　大正四年十月省令第四五號、同十年三月同第七號、昭和七年四月同第一三號、同十三年二月同第一〇號改正

巴拿馬運河噸數證書交付規則左ノ通定ム

巴拿馬運河噸數證書交付規則

第一條　日本船舶ノ所有者ニシテ亞米利加合衆國政府ニ於テ千九百三十七年八月二十五日發布シタル巴拿馬運河船舶測度規則ニ依ル船舶ノ測度及噸數證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ附錄書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二條　前條ノ申請ヲ爲ス者ハ測度ヲ受クルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第三條　管海官廳ニ於テ第一條ノ申請ヲ受ケタルトキハ檢査官吏ヲシテ巴拿馬運河船舶測度規則ニ依リ船舶ノ測度ヲ行ヒ噸數證書ヲ調製セシメ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ檢査官吏ハ當該船舶ノ船體中心線縱截面圖及各甲板平面圖ヲ申請者ヨリ差出サシムルコトヲ得

第四條　噸數證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル爲改測及證書ノ書換ヲ要スルモノト認ムルトキハ船舶所有者ハ附錄書式ノ申請書ニ現ニ有スル證書ヲ添附シ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二條及第三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　噸數證書ニ記載シタル事項中改測ニ關係ナキモノニ變更ヲ生シタルトキ又ハ噸數證書ヲ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ記載シタル書換ノ申請書ニ現ニ有スル證書ヲ添附シ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

噸數證書ノ滅失ニ因リ其ノ再交付ヲ申請セムトスルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ前二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ檢査官吏ヲシテ噸數證書ヲ調製セシメ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

第六條　噸數證書カ不用トナリタルトキハ船舶所有者ハ遲滯ナク之ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

噸數證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ管海官廳ニ屆出ツヘシ但シ前條第二項ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第六條ノ二　噸數證書ニ記載シタル事項カ巴拿馬運河官憲ニ依リ變更セラレタルトキハ船舶所有者ハ當該船舶カ内地ニ歸航シタル後遲滯ナク其ノ旨ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ届出ト同時ニ噸數證書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ檢査官吏ヲシテ噸數證書ヲ査閲セシメタル後遲滯ナク之ヲ船舶所有者ニ返還スヘシ

第七條　船舶ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ附錄測度手數料表ニ定ムル測度手數料ヲ納付スヘシ

申請人ノ都合ニ依リ測度ノ申請ヲ取下ケタル場合ト雖測度著手後ナルトキハ測度手數料ヲ徵收ス改測ノ場合ニ付亦同シ

第八條　噸數證書ノ交付、書換又ハ再交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ證書一通ニ付四圓ノ手數料ヲ納付スヘシ

附錄

測度手數料表

測度種類 ＼ 船舶種類	總噸數二十噸以上五十噸未滿	五十噸以上百噸未滿	百噸以上三百噸未滿	三百噸以上五百噸未滿	五百噸以上千噸未滿	千噸以上二千噸未滿	二千噸以上三千噸未滿	三千噸以上四千噸未滿	四千噸以上六千噸未滿	六千噸以上八千噸未滿	八千噸以上一萬噸未滿	一萬噸以上
新規測度又ハ全部改測	汽船及機關ヲ有スル帆船	七圓	十圓	十五圓	二十圓	二十五圓	三十圓	四十圓	五十圓	六十圓	七十圓	八十圓	百圓
	機關ヲ有セサル帆船	五圓	七圓	十圓	十五圓	二十圓	二十五圓	三十圓	四十圓	五十圓	六十圓	七十圓	八十圓
一部改測	汽船及機關ヲ有スル帆船	三圓	五圓	七圓	十圓	十五圓	二十圓	二十五圓	三十圓	四十圓	五十圓	六十圓	七十圓
	機關ヲ有セサル帆船	二圓	三圓	五百噸以上五圓	七圓	十圓	十五圓	二千噸以上十圓	二十圓	二十五圓	三十圓	四十圓	五十圓

備考

一　測度甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ之ヲ全部改測ト看做シ本表ニ規定セル手數料ヲ納付スヘシ

二　第七條第二項ノ場合ニ於テ總噸數ヲ定ムルコト能ハサルトキハ

第九條　前二條ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

手數料納付書ニ貼用シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但シ納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第十條　本令ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測度執行地ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條　本令ハ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶及外國船舶ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則　（昭和十三年二月遞信省令第一〇號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

千九百三十八年二月末日迄ニ巴拿馬運河ヲ通航セントスル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

計畫總噸數ニ依リ測度手數料ヲ納付スヘシ

書式

巴拿馬運河噸數證書交付（書換）申請書

汽（帆）船何丸

右巴拿馬運河噸數證書交付規則ニ依リ大正　年　月　日某所ニ於テ測度（改測）執行ノ上噸數證書交付（書換）相成度此段及申請候也

年　月　日

所有者　何　某印

管海官廳宛

㊙蘇士運河噸數證書交付規則

沿革　大正一〇年三月遞信省令第八號、昭和七年四月第二四號改正

（大正四年九月二十五日遞信省令第三十九號）

蘇士運河噸數證書交付規則左ノ通定ム

蘇士運河噸數證書交付規則

第一條　日本船舶ノ所有者ニシテ蘇士運河會社ノ通航規則ニ依ル船舶ノ測度及噸數證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ附錄書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二條　前條ノ申請ヲ爲ス者ハ測度ヲ受クルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第三條　管海官廳ハ第一條ノ申請ヲ受ケタルトキハ蘇士運河會社ノ通航規則ニ依リ船舶ノ測度ヲ行ヒ噸數證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ管海官廳ハ當該船舶ノ船體中心線縱截面圖及各甲板平面圖ヲ申請者ヨリ差出サシムルコトヲ得

第四條　噸數證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル爲改測及證書ノ書換ヲ要スルモノト認ムルトキハ船舶所有者ハ附錄書式ノ申請書ニ現ニ有スル證書ヲ添附シ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二條及第三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　噸數證書ニ記載シタル事項中改測ニ關係ナキモノニ變更ヲ生シタルトキ又ハ噸數證書ヲ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ記載シタル書換ノ申請書ニ現ニ有スル證書ヲ添附シ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

噸數證書ノ滅失ニ因リ其ノ再交付ヲ申請セムトスルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ハ前二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ噸數證書ヲ調製シ之カ申請者ニ交付スヘシ

第六條　噸數證書カ不用トナリタルトキハ船舶所有者ハ遲滯ナク之ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

噸數證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ但シ前條第二項ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第七條　噸數證書ニ記載シタル事項カ蘇士運河會社ニ依リ變更セラレタルトキハ船舶所有者ハ當該船舶カ内地ニ歸航シタル後遲滯ナク其ノ旨ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ届出ト同時ニ噸數證書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ噸數證書ヲ査閲シタル後遲滯ナク之ヲ船舶所有者ニ返還スヘシ

第八條　船舶ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ附錄測度手數料表ニ定ムル測度手數料ヲ納付スヘシ

附錄

測度手數料表

測度種類 ＼ 總噸數	二十噸以上五十噸未滿	五十噸以上百噸未滿	百噸以上三百噸未滿	三百噸以上五百噸未滿	五百噸以上千噸未滿	千噸以上二千噸未滿	二千噸以上三千噸未滿	三千噸以上四千噸未滿	四千噸以上六千噸未滿	六千噸以上八千噸未滿	八千噸以上一萬噸未滿	一萬噸以上
新規測度又ハ全部改測	汽船及機關ヲ有スル帆船	七圓	十圓	十五圓	二十圓	二十五圓	三十圓	四十圓	五十圓	六十圓	七十圓	八十圓	百圓
	機關ヲ有セサル帆船	五圓	七圓	十圓	十五圓	二十圓	二十五圓	三十圓	四十圓	五十圓	六十圓	七十圓	八十圓
一部改測	汽船及機關ヲ有スル帆船	三圓	五圓	七圓	十圓	十五圓	二十圓	二十五圓	三十圓	四十圓	五十圓	六十圓	七十圓
	機關ヲ有セサル帆船	二圓	三圓	五百噸以上五圓									

備考

一　測度甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ之ヲ全部改測ト看做シ本表ニ規定セル手數料ヲ納付スヘシ

二　第八條第二項ノ場合ニ於テ總噸數ヲ定ムルコト能ハサルトキハ計畫總噸數ニ依リ測度手數料ヲ納付スヘシ

書式

蘇士運河噸數證書交付（書換）申請書

汽（帆）船何丸

右蘇士運河噸數證書交付規則ニ依リ大正　年　月　日某所ニ於テ測度（改測）執行ノ上噸數證書交付（書換）相成度此段及申請候也

年　月　日

住所
所有者　何　某印

管海官廳宛

申請人ノ都合ニ依リ測度ノ申請ヲ取下ケタル場合ト雖測度著手後ナルトキハ測度手數料ヲ徵收ス改測ノ場合ニ付亦同シ

第九條　噸數證書ノ交付、書換又ハ再交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ證書一通ニ付四圓ノ手數料ヲ納付スヘシ

第十條　前二條ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

手數料納付書ニ貼用シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但シ納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ケナシ

第十一條　本令ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測度執行地ハ別ニ之ヲ定ム

第十二條　本令ハ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶及外國船舶ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正四年十月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

附　則　（大正十年三月遞信省令第八號）

本令ハ大正十年三月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前測度又ハ改測ヲ申請シタル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第五章　航海

第一款　航路統制、補助

●航路統制法（昭和十一年五月三十日法律第三十五號）

【沿革】昭和十六年三月法律第三五號改正

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル航路統制法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

航路統制法

第一條　本法ニ於テ海運業ト稱スルハ一般ノ需用ニ應ジ船舶ニ依リテ人又ハ物ヲ運送スル事業ヲ謂フ

第二條　本法ハ帝國臣民又ハ帝國法人ガ遠洋區域、近海區域又ハ勅令ヲ以テ定ムル沿海區域ニ於テ營ム海運業ニ之ヲ適用ス

第三條　政府ハ海運業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ海運業者ニ對シ不當ナル競業ノ防止ニ關シ勸告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ勸告其ノ效ヲ奏セザル場合ニ於テ政府ハ必要アリト認ムルトキハ海運業者ニ對シ航路ノ經營ニ關スル協定ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ航路ノ經營ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ航路ノ經營ノ禁止又ハ制限ハ實情ニ依リ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ヲ除クノ外前項ノ規定ニ依リ命セラレタル協定成ラザル場合ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條　政府ハ運賃其ノ他ノ航路ノ經營條件ガ公益ニ反スト認ムルトキハ海運業者ニ對シ其ノ經營條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第五條　海運業者ハ命令ノ定ムル事項ヲ行政官廳ニ屆出ヅベシ

第六條　行政官廳ハ第三條及第四條ノ規定ニ依ル措置ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ海運業者ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ檢査ヲ爲シ又ハ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條　帝國臣民又ハ帝國法人ニ非ザル者ノ營ム海運業ニシテ其ノ資本ノ全部又ハ一部ガ帝國臣民又ハ帝國法人ニ屬スルモノニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ準用ス

第八條　（削除）

第九條　第三條第二項ノ規定ニ依ル航路ノ經營ノ禁止若ハ制限ニ關スル命令又ハ第四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　第六條ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ同條ノ規定ニ依リ命ゼラレタル報告ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　海運業者ハ支配人其ノ他ノ代理人又ハ船長其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基ク命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十二條　本法又ハ本法ニ基ク命令ニ依リ海運業者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條　第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十一年七月勅令第一七六號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行）

●航路統制法施行令

（昭和十一年七月十一日勅令第百七十七號）

朕航路統制法施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

航路統制法施行令

第一條　航路統制法第二條ノ沿海區域ハ左ニ揭グルモノトス

一　內地ト朝鮮トノ間ノ航路ノ存スル沿海區域

二　本州ト北海道又ハ樺太トノ間ノ航路ノ存スル沿海區域

三　國庫ヨリ費用ヲ補助スル航路ノ存スル沿海區域

第二條　航路統制法第三條及第八條ノ規定ハ同法第七條ニ揭グル海運業ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●航路統制法施行規則

（昭和十一年七月十一日遞信省令第二十三號）

航路統制法施行規則左ノ通定ム

航路統制法施行規則

第一條　海運業者ハ航路ヲ開始セントスルトキハ事前（成ルベク一ケ月前迄）ニ左ノ各號ノ事項ヲ具シ遞信大臣ニ屆出ヅベシ

一　航路

(イ)　起點港

(ロ)　寄港地

(ハ)　終點港

二　使用船舶

(イ)　名稱

(ロ)　總噸數及重量噸數

(ハ)　最强速力及航海速力

(ニ)　航海回數

三　航海速力ニテ航行スル場合ニ於ケル一晝夜ノ燃料消費量

海運業者ハ航路、使用船舶若ハ航海回數ヲ變更シ又ハ航路ヲ廢止セントスルトキハ事前（成ルベク一ケ月前迄）ニ其ノ旨遞信大臣ニ屆出ヅベシ

遞信大臣必要アリト認ムルトキハ前二項ニ揭グル事項以外ノモノニ付屆出ヲ命ズルコトアルベシ

第二條　海運業者ハ航路ノ經營ニ關スル協定ヲ爲シタルトキ又ハ之ヲ變更若ハ廢止シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨遞信大臣ニ屆出ヅベシ

第三條　海運業者ハ營業期ノ定メアルモノニ付テハ每營業期、其ノ定メナキモノニ付テハ每年十二月末日ニ終ル一年間ニ付營業報告書ヲ添ヘ

貨客運輸狀況ヲ附錄書式ニ依リ當該期間終了後二月以内ニ遞信大臣ニ届出ヅベシ

前項ノ届出ニハ第一回ノ際ニ限リ會社ニ在リテハ定款、組合ニ在リテハ組合契約ヲ添附スベシ

第四條　海運業者ハ其ノ業務ヲ開始シタルトキハ會社ニ在リテハ定款、組合ニ在リテハ組合契約ヲ添ヘ遲滯ナク左ノ事項ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ

一　資本金及拂込資本金

二　使用船舶ノ名稱及總噸數

海運業者ハ其ノ業務ヲ廢止シタルトキ又ハ定款若ハ組合契約ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨遞信大臣ニ届出ヅベシ

第五條　前四條ノ規定ハ第三條第一項ノ規定ヲ除クノ外遞信大臣ノ命令ニ依ル航路ヲ營ム者ニ之ヲ適用セズ

第六條　本令ノ規定ニ依ル届出ハ海運業者ノ住所又ハ主タル營業所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ヲ經由スベシ

附　則

本令ハ昭和十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前海事資源調査規則第十一條第二項ニ依ル手續ヲ爲シタルモノハ第三條第二項ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要セズ

附錄書式

貨客運輸狀況報告書（自昭和　年　月　日至昭和　年　月　日）

海運業者	氏名又ハ名稱		住所	
航路	名稱		起點港 終點港	
使用船舶	船名	航復	噸數（總噸數及速力ヲ附記スベシ）	
航海回數	往航	同	回	
	復航	同	回	
旅客員數	往航		人	
運賃	復航		人	
	計		人	

（同上中外國各港間輸送旅客貨物數量運賃　往航　復航　計　噸　噸　噸　回　回　回）

補考

一　不定期航海ニ從事スル場合ニ於テハ次ノ通記入スベシ

(イ)　航路ノ欄中各稱ハ航海方面（例ヘバ歐洲方面、北米方面等）ヲ記入スベシ

(ロ)　航海回數ノ欄中往航、復航ハ記入スルコトヲ要セザルモ一括シテ航海回數ヲ記入スベシ

(ハ)　旅客員數運賃及貨物數量運賃ノ欄中往航ハ本邦乘船ノ者（貨物ニ付テハ本邦積出ノモノ）及復航ハ本邦下船ノ者（貨物ニ付テハ本邦陸揚ノモノ）ト記入スベシ

二　本報告書ハ各航路（不定期航海ニ從事スル場合ニ於テハ各航海方面）毎ニ作成スベシ

●遠洋航路補助法

（明治四十二年三月二十五日法律第十五號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル遠洋航路補助法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

遠洋航路補助法

第一條　主務大臣ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ運送業ヲ營ム者ニ本法ニ依リ航海補助金ヲ支給シ五年以内ノ期間ヲ限リ左ノ遠洋航路ニ於テ定期航海ニ從事セシムルコトヲ得但シ補助金額及年限ニ付テハ帝國議會ノ協賛ヲ求ムヘシ

一　歐洲航路

二　北米航路

三　南米航路

四　濠洲航路

本法ニ於テ補助航海ト稱スルハ前項ニ依ル定期航海ヲ謂フ

第二條　補助航海ニ使用スル船舶ハ總噸數三千噸以上ニシテ一時間十二海里以上ノ速力ヲ有シ主務大臣ノ定ムル造船規程ニ合格シ且帝國船籍ニ登錄シタル船齡十五年以内ノ鋼製汽船ニ限ル

船舶ノ速力ハ主務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ算定ス

第三條　外國製造ノ船舶ハ補助航海ニ使用スルコトヲ得ス但シ帝國船籍ニ登錄ノ際船齡五年以内ノ船舶ニシテ已ムヲ得サル事由ニ因リ其ノ使用ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　航海補助金ハ使用船舶總噸數一噸航海里數一千海里ニ付速力一時間十二海里ヲ有スルモノニ對シ五十錢以内、速力一時間一海里ヲ增ス毎ニ其ノ百分ノ十ヲ增シタル金額以内ニ於テ航路ノ狀況ニ應シ之ヲ支給ス但シ船齡五年ヲ超ユル船舶ニ對シテハ一年毎ニ其ノ百分ノ五ヲ遞減ス

外國製造ノ船舶ニ對シテハ前項ノ規定ニ依リ支給スヘキ航海補助金ノ半額ヲ支給ス

特ニ主務大臣ノ認可ヲ得タル設計ニ依リ製造シタル船舶又ハ定期航海ノ開始後五年ヲ經過セサル航路ニ使用スル船舶ニ對シテハ前二項ノ規定ニ依リ支給スヘキ航海補助金ノ百分ノ二十五以内ヲ增給スルコトヲ得

航海補助金ノ算定ニ於テハ航海里數ハ各港間ノ最近航路ニ依リ一噸未滿又ハ一海里未滿ノ端數ハ之ヲ除算ス

第五條　補助航海ニ於ケル旅客、貨物ノ運賃ハ主務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムヘシ

主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ種類ヲ指定シ旅客、貨物ノ運賃ヲ低減セシムルコトヲ得

第六條　補助航海ニ使用スル船舶ニハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ郵便物及郵便用品ヲ無賃ニテ搭載シ無線電信ノ通信ニ關スル設備ヲ爲シ且通信事務又ハ航海視察ノ爲主務大臣ノ派出スル吏員ヲ無賃ニテ乘船セシムヘシ

第七條　補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ定期航海ノ維持ニ必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第八條　補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ左ノ割合以内ニ於テ其ノ費用ヲ以テ航海修業生ヲ使用船舶ニ乘組マシムヘシ

總噸數三千噸以上五千噸未滿　四人
總噸數五千噸以上八千噸未滿　五人
總噸數八千噸以上　六人

第九條　補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ外國人ヲ其ノ本店若ハ支店ノ事務員又ハ使用船舶ノ職員ト爲スコトヲ得ス

外國ニ於テ死亡其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ使用船舶ノ職員ニ闕員ヲ生シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ補フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ補助航海ニ從事スル者又ハ船長ヨリ直ニ主務大臣ノ許可ヲ請フヘシ

第十條　補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ補助航海ニ關スル收支計算書及營業狀況報告書ヲ提出スヘシ

主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ補助航海ニ從事スル者ノ本店、支店、代理店又ハ使用船舶ニ吏員ヲ派遣シ其ノ收支計算及營業狀況ヲ監査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ補助航海ニ從事スル者ハ當該吏員ノ求ムル所ニ從

ヒ業務上一切ノ事項ヲ開申シ帳簿其ノ他一切ノ文書ヲ檢閱ニ供スヘシ

第十一條　主務大臣ハ相當ノ補償金額ヲ定メ補助航海ニ使用スル船舶ヲ公用ノ爲收用又ハ使用スルコトヲ得

補助航海ニ使用シタル船舶ニ付テハ最終ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三年間仍前項ノ規定ヲ適用ス

補償金額ニ對シ不服アル者ハ收用又ハ使用ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ出訴ハ船舶ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

第十二條　補助航海ニ使用スル船舶ハ航海補助金ヲ受ケテ航海スル期間及最終ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ外國人ニ讓渡シ、貸渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得但シ其ノ船舶ニ對シ支給シタル航海補助金ヲ償還シタルトキ、天災其ノ他ノ不可抗力ニ因リ航行ニ堪ヘサルトキ又ハ主務大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　左ノ事項ハ主務大臣之ヲ定ム

一　補助航海ノ起點、終點及寄港地
二　使用船舶ノ數、總噸數、速力、船齡及代船ニ關スル事項
三　航海度數、航海日數及發著日時ニ關スル事項
四　航海補助金ノ支給方法
五　義務ノ不履行ニ基ク航海補助金ノ減給、停止、廢止、償還又ハ其ノ他ノ處分ニ關スル事項

第十四條　主務大臣ハ補助航海ニ從事スル者ノ義務ニ屬スル事項ニ付テハ直ニ其ノ代理人又ハ船長ニ命令ヲ下スコトヲ得

第十五條　第十一條ノ規定ニ依ル船舶ノ收用若ハ使用ヲ拒ミタル者又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ且當該船舶ニ對シ支給シタル航海補助金ニ相當スル金額ヲ償還セシム

前項償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第十六條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附　則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

航海奬勵法ハ之ヲ廢止ス但シ本法公布ノ際同法ニ依リ航海奬勵金ヲ受クル資格ヲ有スル船舶及同法ノ適用ヲ受クル爲製造中ノ船舶ニ關シテハ明治四十七年九月三十日迄同法ニ依リ航海奬勵金ヲ受クルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ航海奬勵金ヲ受ケタル船舶ニ對シテハ本法ニ依リ航海補助金ヲ支給セス

明治三十二年九月三十日以前ニ於テ帝國船籍ニ登錄シタル外國製造ノ船舶ニ關シテハ第四條第二項ノ規定ヲ適用セス

●遠洋航路補助法施行細則

（明治四十二年十二月一日遞信省令第五十六號）

沿革　明治四三年三月遞信省令第五九號、大正三年五月第二四號、一二月第六二號、四年一二月第五六號、五年二月第五號、八年一二月第一〇三號、九年九月第八四號、一二月第一二二號、一〇年三月第一三號、第一五號、一一年七月第四四號、一四年一二月第九一號、昭和三年五月第二八號、四年一〇月第四一號、七年九月第二九號、九年二月第二八號、五月第四六號、一一年六月第一八號、一三年一二月第八一號、一四年二月第六四號、一五年一二月第八一號改正

遠洋航路補助法施行細則左ノ通之ヲ定ム

遠洋航路補助法施行細則

第一章　總則

第一條　遠洋航路補助法第一條ニ揭ケル各航路ニ於テ補助航海ニ從事セ

シムル線路左ノ如シ

一　北米航路
　桑港線
　シヤトル線
二　南米航路
　東岸線
　西岸線

各線路ニ於ケル起點、終點竝寄港地、使用船舶ノ數、總噸數竝速力及航海度數ハ別表ニ依ル

遞信大臣ハ必要アリト認ムルトキハ一時別表ヲ變更スルコトアルヘシ

第二條　前條ノ各線路ニ於テ補助航海ニ從事セントスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

一　當該線路ニ使用セントスル船舶ノ件名書（第一號書式）
二　營業目論見書（第二號書式）

第三條　商事會社ニ在テハ業務ヲ執行スル社員又ハ取締役ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ前條ノ書類ヲ差出スヘシ

一　會社ノ種類
二　社員又ハ株主ノ氏名
三　定款
四　業務ヲ執行スル社員又ハ取締役及監査役ノ氏名

第四條　遞信大臣ハ前二條ノ書類ヲ審査シ補助航海ニ從事セシムルニ適當ナリト認ムル者ニ對シ補助航海命令書ヲ下付スヘシ

補助航海命令書ニハ其ノ從事スヘキ線路、命令期間、航海補助金ノ率及最高額、航海日數其ノ他遠洋航路補助法及本則ノ定ムル所ニ依リ同大臣ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ定ム

本則ニ於テ受命者ト稱スルハ補助航海ニ從事スヘキコトヲ命セラレタル者ヲ謂ヒ受命線路ト稱スルハ補助航海ニ從事スヘキコトヲ命セラレタル線路ヲ謂フ

第五條　第一條ノ各線路ニ於ケル補助航海開始ノ時期及第二條ノ願書提出ノ時間ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　使用船舶

第六條　補助航海ニ使用スル船舶ハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタルモノニ限ル

本則ニ於テ使用船舶ト稱スルハ前項ノ認可ヲ受ケタル船舶ヲ謂フ

第七條　受命者ニ於テ補助航海命令書ノ下付ヲ受ケタルトキハ補助航海ニ使用セントスル船舶ノ圖面及仕樣書ヲ差出シ前條ノ認可ヲ出願スヘシ

前項ノ圖面ハ左ノ七種ニ分チ寸法ヲ附記シ各二通ツヽ差出スヘシ但シ其ノ一通ハ螺引布ヲ以テ調製シタルモノナルコトヲ要ス

一　船體中央横截面圖
二　船體中心線縱截面圖及各甲板竝艙内平面圖
三　船體部諸管配置圖
四　汽機横縱截面圖
五　汽罐横縱截面圖
六　載貨重量圖
七　諸計算曲線圖

造船奬勵法ニ依リ又ハ既往ニ於ケル補助航海ノ受命ニ依リ圖面又ハ仕樣書ヲ遞信省ニ差出シタル船舶ニ付テハ該圖面又ハ仕樣書ニ變更ナキ場合ニ限リ事由ヲ疏明シテ其ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

外國製造ノ船舶ニ付テハ其ノ使用ノ事由ヲ第一項ノ願書ニ附記スヘシ

第八條　遞信大臣ニ於テ前條ノ願書ヲ受ケタルトキハ檢査官吏ヲシテ其ノ船舶ヲ檢査セシメ受命線路ニ於ケル補助航海ニ適當ト認ムルトキハ其ノ使用ヲ認可スヘシ

前項ノ檢査ハ遞信大臣ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ執行ス

第九條　受命線路ニ使用スル目的ヲ以テ製造又ハ製造ノ計畫ニ著手シタル船舶ニ付第七條第一項ノ出願ヲ爲スニハ同條第二項第二號ノ圖面ヲ差出シ該船舶竣工ノ上同項第一號竝第三號乃至第七號ノ圖面及仕樣書ヲ差出スヘシ

前項ノ船舶ニ付遠洋航路補助法第四條第三項ニ掲グル船舶ノ設計ニ關スル認可ヲ受ケントスルトキハ願書ニ其ノ圖面及仕樣書ヲ添ヘ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

遞信大臣ハ前項ノ船舶ニ付設計ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　遞信大臣ニ於テ前條ノ船舶ヲ受命線路ニ於ケル補助航海ニ適當ト認ムルトキハ第八條ノ規定ニ拘ラス其ノ使用ヲ認可スヘシ此ノ場合ニ於テハ該船舶竣工ノ上檢査官吏ヲシテ檢査セシメ其ノ成績ニ依リ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第十一條　使用船舶ノ速力ハ自然通風ノ機關力ヲ以テ左ノ條件ニ依リ三海里以上ノ距離ニ於テ當該船舶ヲ六回航走セシメ毎回測定シタル速力ヲ平均シテ之ヲ定ム但シ回轉中ト雖モ常ニ機關ヲ全力ト爲スコトヲ要ス

一　艤裝ハ遞信大臣ノ適當ト認ムル狀態ト爲スコト
二　喫水ハ遞信大臣ニ於テ當該船舶ニ付認定シタル載貨重量ノ二分ノ一以上ノ重量ヲ搭載シタル狀態ト爲スコト

遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ノ首尾ニ於ケル喫水ノ差及機關ノ調整ニ關シ制限ヲ加フルコトアルヘシ

航海中常ニ使用スル目的ヲ以テ加速通風機ヲ備フル船舶ハ速力試驗ニ該通風機ヲ使用スルコトヲ得

速力試驗ノ執行中船舶カ天災其ノ他ノ事變ニ因リ速力ヲ減シ又ハ機關ノ運轉ヲ停止スルニ至リタルトキハ該試驗ハ總テ之ヲ無效ト爲シ更ニ速力試驗ヲ行フ

遞信大臣ニ於テ船體機關ノ構造ニ變更アリタル爲メ使用船舶ノ速力ニ變更ヲ生シタリト認ムルトキハ更ニ速力試驗ノ執行ヲ命スヘシ但シ速力ニ變更ヲ生シタルモ航海補助金ノ算定ニ異動ナシト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　使用船舶ノ船齡ハ其ノ進水ノ日ヨリ起算ス但シ日ノ不明ナルモノハ其ノ月ノ一日、月ノ不明ナルモノハ其ノ年ノ一月ニ進水シタルモノト看做ス

第十三條　遞信大臣ハ何時タリトモ檢査官吏ヲシテ使用船舶ヲ檢査セシメ其ノ成績ニ依リ受命者ニ使用船舶ノ修繕ヲ命シ又ハ使用認可ヲ取消スコトアルヘシ

前項ニ依リ使用船舶ノ修繕ヲ命セラレタルトキハ受命者ハ遞信大臣ノ指定スル期間内ニ同大臣ノ命スル修繕ヲ爲スヘシ

第一項ニ依リ使用認可ヲ取消サレタルトキハ受命者ハ遞信大臣ノ指定スル期間内ニ本則ニ定ムル條件ニ適合スル船舶ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

第十四條　使用船舶ノ喪失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ使用スルコト能ハサルニ至リタルトキハ受命者ハ直ニ其ノ趣ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　遞信大臣ハ第九條第一項、第十三條第三項又ハ前條第二項ノ場合ニ期間ヲ指定シテ代船ノ使用ヲ命スルコトアルヘシ修繕其ノ他ノ事由ニ依リ一時使用船ヲ使用スルコト能ハサル場合ニ付亦同シ

受命者ハ前項ニ掲クル場合ニ於テ代船使用ノ認可ヲ出願スルコトヲ得

第十六條　受命者ニ於テ使用船舶ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ豫メ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條　第七條、第八條及第十一條ノ規定ハ第十三條第三項、第十四條第二項及前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　受命者ニ於テ使用船舶ノ船體又ハ機關ニ變更ヲ加ヘントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ圖面及仕様書ヲ差出シ豫メ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ竣工ノ上遲滯ナク其ノ趣ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

使用船舶ニ損傷ヲ生シタルトキ又ハ之ニ修繕ヲ加ヘタルトキハ受命者又ハ船長ヨリ損傷ノ箇所及其ノ事由ヲ詳記シ修繕ヲ加ヘタル場合ニ於テハ修繕工事ノ仕様書ヲ添附シ遲滯ナク遞信大臣ニ届出ツヘシ

第十九條　本則ノ規定ニ依リ檢査官吏船内ニ臨檢スルトキニ受命者又ハ船長ハ檢査ニ必要ナル準備ヲ爲シ其ノ命令ヲ遵守スヘシ

第三章　航海

第二十條　受命者ハ受命線路ニ於ケル補助航海ヲ實施スル前一箇月ニ於テ發著日時表ヲ差出シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

補助航海命令書下付ノ日ヨリ一箇月ニ滿タサル期間内ニ補助航海ヲ實施スヘキ場合ニ於テハ受命者ハ命令書ノ下付ヲ受ケタル後遲滯ナク發著日時表ヲ差出シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

受命者ニ於テ發著日時表ヲ變更セントスルトキハ其ノ實施前二週間ニ於テ事由ヲ具シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ發著日時表ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

天災其ノ他止ムコトヲ得サル事由ニ因リ發著日時表ニ從ヒ航海ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ受命者ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ發著日時ノ變更ニ付遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ事前ニ認可ヲ受クル暇ナキトキハ其ノ事由ヲ具シ追認ヲ受クルコトヲ得

第二十一條　受命者ニ於テ遠洋航路補助決第五條第一項ニ掲クル運賃ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ豫メ旅客貨物運賃表ヲ調製シ之ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ受命者ニ於テ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二十二條　受命者ハ天災其ノ他ノ不可抗力ニ因ル場合ノ外使用船舶ヲ受命線路ノ起點、終點若ハ寄港地以外ノ場所ヘ寄港セシメ又ハ受命線路ヲ離レテ航行セシムルコトヲ得ス

受命者ニ於テ受命線路ニ於ケル寄港地ヲ增減シ又ハ之ヲ變更セントスルトキハ豫メ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ受命者カ受命線路ノ起點又ハ終點ニ於テ發著日時表ニ定ムル碇泊時間内ニ供用船舶ヲ補助航海以外ノ航海ニ使用セントスルトキ亦同シ

遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時ニ受命線路ニ於ケル起點、終點若ハ寄港地ノ變更又ハ寄港地ノ增加ヲ命スルコトアルヘシ

第二十三條　使用船舶カ受命線路ニ於ケル起點、終點及寄港地ニ發著ス

ルトキハ郵便局所、外國ニ在テハ帝國領事館ニ届出テ發著ノ證明ヲ受クヘシ

第二十四條　使用船舶ニハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル航海日誌ヲ備ヘ當該船舶職員ヲシテ必要ノ事項ヲ記載セシメ一航海ヲ終リタル毎ニ前條ノ發著證明書ヲ添ヘ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第四章　通信

第二十五條　（削除）

第二十六條　受命者ハ遞信大臣ノ遞送ヲ命シタルモノノ外使用船舶ニ郵便物又ハ郵便用品ヲ搭載スルコトヲ得ス

第二十七條　受命者ハ遞信大臣ノ指定ニ從ヒ使用船舶ニ盜難、濕氣、火災其ノ他一切損害ノ虞ナキ場所ヲ擇ヒ相當ノ容積ヲ有シ且損害ノ豫防上適當ノ裝置ヲ施シタル郵便室ヲ設ケ遞信大臣ヨリ遞送ヲ命セラレタル郵便物及郵便用品ヲ藏置スヘシ

受命者ハ使用船舶ニ見易ク且安全ナル場所ヲ擇ヒ成規ノ郵便函ヲ取付クヘシ

第二十八條　遞信大臣ニ於テ遠洋航路補助法第六條ニ依リ通信事務取扱ノ爲メ通信吏員ヲ使用船舶ニ乘船セシメタルトキハ受命者ハ同大臣ノ指定ニ從ヒ通信事務室ヲ設備スヘシ

受命者ハ前項ノ通信吏員ニ相當ノ寢室及食料ヲ供シ高等海員ニ準スル待遇ヲ爲スヘシ

第二十九條　遞信大臣ヨリ遞送ヲ命セラレタル郵便物並郵便用品及郵便函ニ投入ノ郵便物ハ通信吏員乘船スルトキハ該吏員ニ於テ、通信吏員乘船セサルトキハ該船舶ノ船長、一等運轉士又ハ事務長ニ於テ之カ取扱ヲ爲スヘシ

第三十條　受命者ニ於テ遞送中ナルト船積又ハ陸揚中ナルトヲ問ハス郵便物又ハ郵便用品ヲ亡失毀損セシメタルトキハ其ノ損害ヲ辨償スヘシ但シ其ノ損害カ天災其ノ他ノ不可抗力又ハ通信吏員ノ過失ニ因リ生シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　航海中遭難其ノ他ノ事故ニ因リ遞信大臣ヨリ遞送ヲ命セラレタル郵便物又ハ郵便用品ヲ遞送スルコト能ハサルトキハ受命者ハ別ニ定ムル方法ニ依リ之ヲ遞送スヘシ第十三條又ハ第十四條ニ依リ遞信大臣ノ指定スル期間内ニ使用船舶ノ修繕又ハ補充ヲ爲ササルトキ亦同シ

第三十二條　受命者カ郵便物又ハ郵便用品遞送ノ命令ニ違背シタル爲メ遞信大臣ニ於テ他ノ方法ニ依リ該郵便物又ハ郵便用品ヲ遞送セシメタルトキハ受命者ハ因テ生シタル費用及損害ヲ辨償スヘシ

第三十三條　使用船舶カ受命線路ニ於ケル起點、終點及寄港地ニ出入スルトキハ郵便旗章ヲ揭揚スヘシ

第三十四條　郵便物及郵便用品ノ遞送授受ニ關シ本則ニ規定ナキ事項並無線電信ノ設備ニ關スル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第五章　施設

第三十五條　受命者ハ別ニ定ムル所ニ從ヒ遞信大臣ノ指定スル場所ニ營業上必要ナル海陸設備ヲ爲スヘシ海陸設備ト稱スルハ倉庫、埠頭、棧橋又ハ艀舟ノ類ヲ謂フ

第三十六條　受命者ハ受命線路ニ於ケル起點、終點及寄港地ニ支店又ハ

代理店ヲ設置スヘシ

受命者ニ於テ代理店ヲ設置シタルトキハ其ノ店名、所在地名、海陸設備ヲ有スルトキハ其ノ明細及業務擔當人ノ氏名竝外國人ナルトキハ其ノ國籍ヲ具シ遲滯ナク遞信大臣ニ届出ツヘシ受命者ニ於テ代理店ヲ變更シタルトキ亦同シ

代理店ノ店名、所在地又ハ業務擔當人ニ變更アリタルトキハ受命者ハ其ノ趣ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ特ニ場所及設備ヲ指定シテ支店ヲ設置セシムルコトアルヘシ

遞信大臣ニ於テ代理店ノ業務執行ヲ適當ナラスト認ムルトキハ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ受命者ハ遲滯ナク更ニ代理店ヲ選定シ遞信大臣ニ届出ツヘシ

第三十七條　受命者ハ受命線路ニ於ケル各支店及代理店ニ噸艇ヲ備ヘ遞信大臣ノ指定スル支店又ハ代理店ニハ小蒸氣船又ハ發動機船ヲ備フヘシ

第三十八條　受命者ハ使用船舶ニ申告簿ヲ備ヘ船長又ハ一等運轉士之ヲ保管シ旅客ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ提出スヘシ

申告簿ハ一航海ヲ終リタル毎ニ遞信大臣ノ檢閱ヲ受クヘシ

第三十九條　受命者ハ遞信大臣ノ指定アルトキハ使用船舶ニ一名以上ノ醫員ヲ乘組マシムヘシ

第六章　航海修業生

第四十條　遠洋航路補助法第八條ニ依リ航海修業生ヲ使用船舶ニ乘組マシムルトキハ受命者ハ之ニ食料ヲ給與シ及相當ノ居室竝寢具ヲ備與スルノ外左ノ割合ニ依リ手當ヲ支給スヘシ

一　海上履歷一年未滿ノ者月額金三圓以上
二　海上履歷二年未滿ノ者月額金五圓以上
三　海上履歷二年以上ノ者月額金七圓以上

第四十一條　航海修業生ヲ乘組マシメタル使用船舶ノ船長ハ該修業生ヲシテ技術ヲ練習セシメ其ノ品行及技能ニ注意シ六箇月毎ニ其ノ狀況ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ但シ六箇月ニ達セスシテ下船シタルトキハ下船ノ際之ヲ報告スヘシ

第四十二條　航海修業生カ執務ノ爲ノ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ被リタルトキハ受命者ハ三箇月ヲ超エサル期間醫藥ノ費用ヲ給與スヘシ

第四十三條　受命者ハ止ムコトヲ得サル事由アルトキハ航海修業生ヲ下船セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ詳記シ遲滯ナク遞信大臣ニ届出ツヘシ

第四十四條　受命者ニ於テ航海修業生ヲ下船セシメタルトキハ下船地ヨリ遞信大臣ノ指定スル地迄ノ旅費ヲ支給スヘシ但シ失行ニ因リ下船セシメタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七章　從業者

第四十五條　受命者ハ各線命令書ノ定ムル所ニ從ヒ本店竝支店ノ事務員名簿及使用船舶ノ乘組員名簿ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第四十六條　受命者ニ於テ其ノ本店若ハ支店ノ事務員又ハ使用船舶ノ職員トシテ外國人ヲ使用セントスルトキハ左ニ揭クル事項ヲ具シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ既往ニ於テ補助航海ニ從事シタル爲既ニ認可ヲ受ケタルモノニ變更ナキ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ疏明シ届出ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

一　使用ノ理由
二　契約ノ條項
三　被雇者ノ國籍、氏名、現住所、生年月及履歷
四　海技免狀ヲ受有スル者ナルトキハ其ノ免狀ノ寫

受命者ニ於テ前項ノ認可ヲ受ケ使用シタル外國人ヲ解雇シタルトキハ直ニ其ノ趣ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

第四十七條　遠洋航路補助法第九條第二項ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ詳記シ帝國領事館ノ公認ヲ受ケ事後遲滯ナク受命者又ハ船長ヨリ前條第一項ニ準シ認可ヲ出願スヘシ

第四十八條　遞信大臣ニ於テ受命者ノ本店若ハ支店ノ事務員又ハ使用船舶ノ乘組員カ職務ニ關スル過失、怠慢其ノ他ノ失行アリト認ムルトキハ其ノ交代ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ規定ハ代理店ノ業務擔當人ニ之ヲ準用ス

第八章　船舶ノ收用及使用

第四十九條　遞信大臣ニ於テ遠洋航路補助法第十一條第一項又ハ第二項ニ依リ船舶ヲ收用又ハ使用セントスルトキハ回航ノ期日及場所ヲ定メ該船舶ノ所有者又ハ船長ニ命令スヘシ

船舶所有者又ハ船長ハ前項ノ命令ニ從ヒ本船ヲ回航セシムヘシ

第九章　航海補助金

第五十條　航海補助金ハ一航海ヲ終リタル毎ニ之ヲ支給ス

受命者ニ於テ航海補助金ノ支給ヲ受ケントスルトキハ航海補助金請求書ヲ遞信省ニ差出スヘシ

之ニ代フルコトヲ得

第五十一條　航海里數ハ水路部刊行ノ海圖ニ就キ遞信大臣ノ適當ト認ムル方法ニ據リ之ヲ算定ス但シ水路部刊行ノ海圖ナキ航路ニ付テハ同大臣ノ適當ト認ムル外國政府刊行ノ海圖ニ依ル

第五十二條　第二十二條第二項ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テ航海里數ヲ增加スルコトアルモ之ニ對シ航海補助金ヲ支給セス

第十章　監理及處分

第五十三條　受命者ハ通貨又ハ國債ヲ以テ保證金ヲ遞信省ニ差出スヘシ」

保證金ノ額ハ各線命令書ノ定ムル所ニ依ル

第五十四條　遠洋航路補助法第十條第一項ノ收支計算書及營業狀況報告書ハ各線命令書ノ定ムル所ニ從ヒ受命線路ニ付一營業期毎ニ之ヲ調製シ當該營業期ヲ終リタル日ヨリ九十日以內ニ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第五十四條ノ二　受命者ニ於テ明治四十三年法律第三十二號ニ依リ定款變更ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ理由ヲ具シタル願書ヲ、役員選定ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ氏名及住所ヲ具シタル願書ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ

第五十五條　受命者ニ於テ受命線路ノ航海運輸ニ關シ三箇月以上繼續スル契約ヲ締結セムトスルトキハ其ノ契約條項ヲ具シ豫メ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ既往ニ於テ補助航海ニ從事シタルタメ既ニ認可ヲ受ケタルモノニ變更ナキ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ疏明シ届出ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

受命者ニ於テ前項ノ契約ノ條項ヲ變更セントスルトキハ豫メ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十六條　補助航海ニ使用シ又ハ使用シタル船舶ニ付遠洋航路補助法

第十二條ニ揭クル認可ヲ受ケントスルトキハ該船ノ所有者ヨリ其ノ事由ヲ具シ遞信大臣ニ出願スヘシ

天災其ノ他ノ不可抗力ニ因リ船舶カ航行ニ堪ヘサル場合ニ於テ遠洋航路補助法第十二條ニ揭クル處分ヲ爲シタルトキハ該船ノ船長又ハ所有者ヨリ其ノ事由ヲ具シ管海官廳、外國ニ在テハ帝國領事館ノ公認ヲ受ケ遞信省ニ届出ツヘシ

前二項ニ該當スル場合ノ外使用船舶ヲ讓渡シ、貸渡シ若ハ擔保ニ供シ又ハ其ノ最終ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三年内ニ之ヲ讓渡シ、貸渡シ若ハ擔保ニ供シタルトキハ該船ノ所有者ヨリ其ノ顚末ヲ具シ之ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

第五十七條　遞信大臣ニ於テ遠洋航路補助法第六條ニ依リ航路視察ノ爲メ吏員ヲ使用船舶ニ乘船セシムルトキハ受命者ハ之ニ相當ノ寢室及食料ヲ供シ一等船客ニ準スル待遇ヲ爲スヘシ

第五十八條　受命者、其ノ代理人又ハ船長ニ於テ遠洋航路補助法、本則及各線命令書ニ定ムル義務ニ違背シタルトキハ遞信大臣ハ各線命令書ノ定ムル所ニ依リ受命者ヨリ違約金ヲ徵收スヘシ

遞信大臣ハ前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ航海補助金ノ支給ヲ停止スルコトヲアルヘシ

第五十九條　違約金及第三十條又ハ第三十二條ニ依リ受命者ノ負擔スヘキ辨償金ハ毎回支給スル補助金又ハ保證金ヨリ差引キ仍不足アルトキハ受命者ヨリ之ヲ徵收ス

前項ニ依リ違約金又ハ辨償金ヲ保證金ヨリ差引キタルトキハ受命者ハ一箇月以内ニ之ヲ補充スヘシ

第六十條　受命者ニ於テ左ノ各號ノ場合ニ該當スルトキハ遞信大臣ハ補助航海命令ヲ解除シ航海補助金ノ支給ヲ廢止スヘシ

一　著シク遠洋航路補助法、本則及各線命令書ニ定ムル義務ヲ怠リ又ハ其ノ義務ヲ履行スルニ不適當ナリト認ムヘキ事實アリタルトキ

一ノ二　明治四十三年法律第三十二號又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違背シタルトキ

二　受命線路ニ於ケル補助航海ニ關スル義務ノ下請負ヲ爲サシメタル時

三　受命線路ノ航海運輸ニ關シ外國人ヲ組合員ト爲シタルトキ

四　破產シタルトキ

五　遠洋航路補助法第十一條ニ依ル船舶ノ收用又ハ使用ヲ拒ミタル時

六　遠洋航路補助法第十二條ニ違背シタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ解除ノ原因タル事實ノ生シタル前一年間ニ支給シタル航海補助金ニ相當スル金額ヲ償還セシメ且保證金ヲ沒收スルコトアルヘシ

第一項第五號及第六號ノ場合ニ於テハ遠洋航路補助法第十五條ニ依リ航海補助金ニ相當スル金額ヲ償還セシムル外保證金ヲ沒收スヘシ

第十一章　雜則

第六十一條　受命者カ命令期間内ニ死亡シタル場合ニ於テ受命者ノ相續人カ被相續人ノ從事シタル補助航路ヲ繼續セントスルトキハ相續人タルコトヲ證明スヘキ戶籍謄本ヲ添ヘ第二條ノ書類ヲ差出スヘシ但シ本則ニ依リ願書ニ添附スヘキ書類中被相續人カ差出シタルモノニシテ且本條ノ出願ヲ爲ス際變更ナキモノニ限リ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第六十二條　第二條ニ依リ差出シタル書類ニ記載スル本店若ハ支店ノ所在地又ハ第三條第二號ニ揭クル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ受命者ハ遲滯ナク其ノ趣ヲ遞信省ニ届出ツヘシ但シ第三條第二號ノ事項ニ付テハ外國人ヲ社員又ハ株主ト爲シタル場合ヲ除ク外一年二回取纏メ届出ツルコトヲ得

第六十二條ノ二　業務ヲ執行スル社員、取締役又ハ監査役カ死亡其ノ他ノ事由ニ因リ退任シタルトキハ受命者ハ遲滯ナク其ノ趣ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

第六十三條　本則ニ依リ帝國領事館ニ就キ爲スヘキ手續ハ帝國領事館ノ設ナキ地ニ在テハ外國官廳ニ就キ之ヲ爲スヘシ

（別表）

線路	起點	終點	寄港地	使用船舶 數	總噸數 速力（一時間）	航海度數
北米航路 桑港線	横濱	香港	神戸、上海「ホノルル」	三	一萬三千噸以上一萬七千五百噸以下 十八海里以上二十海里以下	毎四週一回以上一年期間十八航海以上
北米航路「シヤトル」線	神戸	「シヤトル」	横濱、晩香坡又ハ「ビクトリヤ」	三	一萬一千噸以上一萬二千噸以下 十七海里以上十九海里以下	一年期間十四航海以上
南米航路東岸線	神戸	「ヴエノスアイレス」	横濱、「グリストバル」、「リオデジヤネーロ」、「サントス」	二	九千噸以上一萬噸以下 十五海里以上十八海里以下	毎二箇月一回以上一年期間六航海以上

第六十四條　本則ニ於テ支店ト稱スルハ出張所其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス受命者ニ於テ業務ヲ取扱フ爲設ケル營業所ヲ謂フ

附　則

第六十五條　本則ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十六條　遠洋航路補助法施行前ニ於テ第十一號ニ定ムル所ト同一ノ方法ニ依リ遠力試驗ヲ執行シタル船舶ニ付テハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ遠力試驗ヲ省略スルコトヲ得

附　則（昭和十四年十二月遞信省令第六四號）

本令ハ昭和十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前本邦ヲ發航シタル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

南米航路 西岸線	東廻	横濱	「バルパライソ」	往航 「ホノルル」、「ロスアンセルス」、「マンザニーヨ」又ハ「サリナグルス」、「カイヤオ」、「アリカ」 復航 「イキーケ」、「カイヤオ」、「マンザニーヨ」又ハ「サリナグルス」、「ロスアンセルス」	三艘	九千噸以上一万五千噸以下	毎三箇月一回以上一年期間六航海以上

（第一號書式）

船舶件名書

一　船名
二　總噸數
三　速力
四　甲板ノ層數及種類
五　二重底
六　機關ノ種類
七　製造地名
八　進水ノ年月日
九　所有者ノ氏名又ハ名稱及共有ノ場合ニ於テハ其ノ持分

右ノ通候也

年　月　日

氏　名印

備考

製造中又ハ製造計畫中ノ船舶ニ付テハ第一號乃至第八號ノ事項ニ關シ其ノ豫定ヲ記入シ且竣工ノ時期ヲ記載スヘシ又船舶安全法ニ依ル檢査ヲ受ケタル船舶ニ付テハ仕樣ノ大要ヲ記入スヘシ

（第二號書式）

何線營業目論見書

一　起點、終點及寄港地ニ於ケル海陸設備ノ現況及將來ノ計畫
　何地
　陸上設備
　海上設備
二　旅客貨物運搬見込（一航海分及一箇年分）
　旅客員數
　　一等客
　　二等客
　　三等客
　貨物員數
　　何品
　　何品
三　收支豫算（一航海分及一箇年分）
四　營業事務所及店員
　本店所在地
　同事務員氏名
　支店所在地
　同事務員氏名
　出張所所在地
　同事務員氏名
　代理店所在地
　同業務擔當人氏名

右ノ通候也

年　月　日　氏　名印

備考

外國人タル事務員及業務擔當人ニ付テハ其ノ國籍ヲ附記スヘシ
支店出張所及代理店ハ當該線路ニ於ケルモノヲ謂フ

遠洋航海助成金交付申請方

（昭和十二年七月二日遞信省告示第千九百七號）

遠洋航海助成金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ左記ニ依リ遞信省ニ申請書ヲ差出スヘシ

一　助成金ノ交付ヲ受クヘキ者ハ海運業者ニシテ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル會社ナルコト

二　助成金ノ交付ヲ受クヘキ航海（以下適格航海ト稱ス）ハ遞信大臣ノ特ニ認ムル場合ノ外左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルヲ要スルコト但シ近海區域第一區外ノ諸港間ニ於ケル航海ノ途中專ラ船舶檢査ノ受檢、炭水食料ノ補給、船員ノ補充交替若ハ避難ノ爲又ハ海難ニ罹リタルニ因リ同區内ノ港ニ寄港スルモ妨ナキコト

（イ）專ラ近海區域第一區外ノ諸港間ニ於テ百八十日以上繼續スル航海

（ロ）近海區域第一區内ノ最後ノ港ヲ發航シ同區内ノ最初ノ港ニ到達スル差引續キ百八十日以上ヲ要スル航海

三　使用船舶ハ内地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍ヲ定ムル船舶ニシテ遞信大臣ノ認ムル場合ノ外總噸數四千噸以上、最强速力一時間十二海里以上且船齡二十五年未滿ノモノナルベキコト

四　第二項ニ定ムル適格航海ノ日數ノ算定ハ左ノ各號ニ依ルコト

（イ）左ニ揭ゲル日數ニシテ遞信大臣ノ承認ヲ受ケタルモノハ之ヲ適格航海ノ日數ニ通算スルコト但シ近海區域第一區内ニ於ケルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラザルコト

（一）積荷、揚荷及炭水補給ノ爲要シタル日數
（二）不可抗力ニ因ル滯船日數
（三）修繕ノ爲要シタル日數

(ロ) 近海區域第一區外ノ諸港間ニ於ケル航海ノ途中專ラ船舶檢査ノ受檢、炭水食料ノ補給、船員ノ補充交替又ハ避難ノ爲同區內ノ港ニ寄港シタルトキハ同區外ノ最後ノ發航港ヨリ同區外ノ最初ノ到達港ニ至ル海里程ニ依リ算定シタル日數ヲ適格航海ノ日數トスルコト

(ハ) 近海區域第一區外ノ諸港間ニ於ケル航海ノ途中海難ニ罹リタルニ因リ同區內ノ港ニ寄港シタルトキ引續キ豫定ノ航海ニ從事シタル場合ニ在リテハ前號ノ例ニ依リ、豫定ノ航海ヲ中止シタル場合ニ在リテハ海難ノ日ノ翌日ヨリ同區內ノ最後ノ港ヲ發航スル日ノ前日迄ノ日數ヲ適格航海ノ日數ニ算入セザルコト

(ニ) 空船航海ニ付テハ遞信大臣ノ承認ヲ受ケタルモノノ外其ノ日數ヲ適格航海ノ日數ニ通算セザルコト

五　助成金ハ左ノ各號ニ依リ支給スルコト

(イ) 總噸數一噸、航海日數三十日ニ付金九十錢ノ割合ヲ以テ算定スルコト

(ロ) 引續キ一年以上ノ適格航海ニ從事スルトキハ其ノ一年ヲ超ユル期間ニ付總噸數一噸、航海日數三十日毎ニ金二十錢ヲ加算スルコト

(ハ) 大西洋方面ニ於ケル適格航海ニ付テハ總噸數一噸、航海日數三十日毎ニ金十錢ヲ加算スルコト

(ニ) 三十日未滿ノ航海日數ニ付テハ日割ヲ以テ計算スルコト

(ホ) 使用船舶ノ總噸數ニ一噸未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切棄テ計算スルコト

六　前項(ハ)ノ加算ハ使用船舶ガスエズ運河若ハパナマ運河ニ入リタル日又ハ赤道以南ニ於テ東經十八度若ハ西經七十度ヲ通過シタル日ニ終始スル期間ニ付之ヲ爲スコト

七　第二項及第四項乃至第六項ノ日數ノ計算ニ付テハ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トスルコト

八　助成金ハ最初ノ百八十日分ニ付テハ適格航海開始ノ日ヨリ六月ヲ經過シタルトキ、其ノ後ノ分ニ付テハ一月毎ニ之ヲ支給スルコト

九　申請書ハ附錄書式ニ依ルベキコト

一〇　使用船舶ニハ遞信大臣ノ承認ヲ受クルニ非ザレバ外國人船員ヲ乘組マシムルヲ得ザルコト

一一　命令書ノ規定ニ違背シタルトキハ契約ヲ解除シ、助成金ノ支給ヲ廢止シ、既ニ支給シタル助成金ヲ還納セシメ又ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ相當ノ違約金ヲ徵收スルコトアルベキコト

附錄書式

遠洋航海助成申請書

一　航路(特定ノ航路ナキ場合ハ就航方面)

二　使用船舶ノ隻數及總噸數

三　航海回數

四　配船ノ豫定

右航海ニ從事シ遠洋航海助成金ノ交付ヲ相受度此段及申請候也

年　月　日

住所

氏　名　印

遞信大臣宛

備考

一　昭和十二年度ノ豫定ヲ記入スルコト

二　第三號ハ昭和十二年度中ノ發航回數ヲ記入スルコト

三　第四號ハ昭和十二年度中ニ發航スル各船舶ニ付大體ノ豫定年月ヲ記入スルコト

●補助航海ニ從事スル商事會社ニ關スル件

(明治四十三年三月二十九日法律第三十二號)

於帝國議會ノ協賛ヲ經タル補助航海ニ從事スル商事會社ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

遠洋航路補助法ニ依リ補助航海ニ從事スル商事會社ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキ及業務ヲ執行スル社員、取締役又ハ監査役ヲ選定セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

主務大臣ハ前項ニ揭ケタル會社ノ役員カ補助航海ニ關スル義務ヲ履行セス又ハ其ノ義務ヲ履行スルニ不適當ナル行爲アリト認ムルトキハ其ノ解任ヲ命スルコトヲ得

樺太航海補助規程

（昭和八年一月十五日樺太廳令第一號）

樺太航海補助規程左ノ通定ム

樺太航海補助規程

第一條　樺太各地間及樺太ト他ノ地方間ノ航路ニ於ケル定期航海ニシテ拓殖上必要アリト認ムルモノニ對シ本令ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ航海補助金ヲ交付ス

本令ニ於テ補助航海ト稱スルハ前項ノ規定ニ依リ補助金ノ交付ヲ受クル定期航海ヲ謂ヒ受命者ト稱スルハ補助航海ニ從事スル者ヲ謂フ

第二條　補助航海ニ從事セムトスル者ハ毎年一月二十日迄ニ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ樺太廳長官ニ提出スヘシ

一　航海ノ起點、終點及寄港地

二　航海ノ期間、回數及補助金額

前項ノ願書ニハ第一號樣式ニ依ル使用船舶件名書及第二號樣式ニ依ル營業目論見書ヲ添附スヘシ

商事會社ニ在リテハ前二項ノ書類ノ外會社ノ種類、社員又ハ株主ノ氏名、定款、業務ヲ執行スル社員又ハ取締役及監査役ノ氏名ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第三條　樺太廳長官ハ前條ノ書類ヲ審査シ補助航海ニ從事セシムルニ適當ナリト認ムル者ニ對シ補助航海命令書ヲ下付ス

補助航海命令書ニハ航海ニ從事スヘキ線路、航海ノ起點、終點、寄港地、期間、回數、使用船舶及航海補助金額其ノ他樺太廳長官ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ定ム

本令ニ於テ受命線路ト稱スルハ補助航海ニ從事スヘキコトヲ命セラレタル線路ヲ謂フ

第四條　航海補助金ハ使用船舶、航海里數、航海回數其ノ他必要ト認ムル事項ニ付キ審査シ其ノ金額ヲ定ム

第五條　航海補助金ハ一航海ヲ終リタル毎ニ受命者ノ請求ニ依リ之ヲ分割支給ス但シ一航海ノ補助金ハ航海回數ヲ以テ補助金額ヲ除シ圓位ニ止メ端數ハ之ヲ最終ノ支給額ニ加算ス

天災其ノ他ノ已ムヲ得サル事由ニ因リ又ハ樺太廳長官ノ命令ニ依リ航海終了セサル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ終了シタルモノト看做シ補助金ヲ支給スルコトアルヘシ

第六條　受命者ハ豫メ補助航海線路ノ船舶發著日時表ヲ提出シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

樺太廳長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ發著日時表ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

天災其ノ他ノ已ムヲ得サル事由ニ因リ發著日時表ニ依ル發著ノ日ニ遲速ヲ生スルニ至リタルトキハ受命者ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ發著日ノ變更ニ付樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ其ノ遲速二日以内ナル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ樺太廳長官ニ届出ツルヲ以テ足ル

第七條　受命者ハ使用船舶カ受命線路ノ起點、終點及寄港地ニ發著スルトキハ發著日時ニ對スル最寄郵便局ノ證明ヲ受クヘシ但シ郵便局ノ證明ヲ受クルコト能ハサル事由アルトキハ最寄警察官吏ノ證明ヲ以テ代フルコトヲ得

第八條　樺太廳長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ補助金額ノ範圍内ニ於テ航海ノ起點、終點若ハ寄港地ヲ變更セシメ又ハ臨時航海ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　受命者ニ於テ航海ノ起點、終點ヲ變更シ又ハ寄港ヲ省略セムトスルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ航海里數減少シタルトキハ補助金額ヲ減スルコトアルヘシ

第十條　受命者ニ於テ其ノ船舶ヲ所定ノ寄港地外ニ寄港セシメムトスルトキハ豫メ其ノ寄港日時ヲ樺太廳長官ニ届出ツヘシ

第十一條　受命者ハ旅客貨物ノ運賃表ヲ提出シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

樺太移住民ニシテ制規ノ割引乘船券ヲ所持スル者ノ乘船賃、家具農具類、食糧品ノ運賃及手荷物制限外重量ニ對スル運賃ハ定額ノ五割引トス

樺太廳長官ハ前項ノ外種類ヲ指定シテ旅客及貨物運賃ヲ低減セシメ又ハ其ノ取扱方ヲ指示スルコトアルヘシ

第十二條　受命者ハ第三條ノ規定ニ依リ定メラレタル船舶ヲ以テ其ノ受命線路ニ於ケル郵便物ヲ無賃ニテ遞送スヘシ郵便物ノ取扱手續及郵便物ノ受授ヲ爲スヘキ港名ハ樺太廳長官別ニ之ヲ定ム

前項ニ於テ郵便物ト稱スルハ郵便法、郵便ニ關スル條約其ノ他將來公布ニ係ル法律、命令又ハ條約ニ依リ郵便物トシテ取扱フモノ及其ノ運搬ニ要スル諸器具ヲ謂フ

第十三條　郵便物ノ遞送及第十二條ノ規定ニ依ル各港ニ於テ郵便物ノ船積、陸揚ニ要スル費用ハ受命者ノ負擔トス

第十四條　郵便物ハ盜難、濕氣、火災其ノ他損害ノ虞ナキ安全ナル場所ニ保管スヘシ

受命者ハ樺太廳長官ノ指定シタル使用船舶ニ旅客ノ最モ認メ易ク且安全ナル場所ヲ擇ヒ郵便函ヲ堅固ニ取付置クヘシ

前項ノ郵便函ノ設置及修繕ニ要スル費用ハ受命者ノ負擔トス

第十五條　遞送ヲ爲スヘキ郵便物及前條ニ規定スル郵便函ニ投入ノ郵便物ハ當該船舶ノ船長、一等運轉士又ハ事務長之カ取扱ヲ爲スヘシ郵便函ノ開閉ニ付テモ亦同シ

第十六條　受命者ハ郵便物遞送中ナルトキ船積又ハ陸揚中ナルトキ間ハス之ヲ紛失又ハ毀損セシメタルトキハ天災其ノ他ノ已ムヲ得サル事由ニ因ル場合ヲ除クノ外損害賠償ノ責ニ任スヘシ

船舶ノ遭難其ノ他ノ事由ニ因リ所定ノ船舶ヲ以テ郵便物ヲ遞送スルコト能ハサルトキハ受命者ノ自己ノ負擔ヲ以テ適當ノ方法ニ依リ之ヲ遞送スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ遞送ノ方法ヲ速ニ樺太廳長官ヘ報告スヘシ

第十七條　受命者郵便物遞送ノ命令ニ違反シタル爲樺太廳長官ニ於テ他ノ船舶ヲ以テ該郵便物ヲ遞送セシメタルニ因リ生シタル費用及損害ハ受命者之ヲ辨償スヘシ

第十八條　郵便物ノ遞送ニ使用スル船舶ニシテ第十二條ニ依ル指定港ニ出入スルトキハ郵便旗章ヲ揭揚スヘシ

第十九條　樺太廳警察官吏（警部以下）樺太沿岸ヲ公務旅行ノ爲乘船スルトキハ食料ノ外無賃トスヘシ

水產物檢查員樺太沿岸ヲ公務旅行ノ爲乘船スルトキハ其ノ乘船賃ハ定額ノ半減トスヘシ

第二十條　受命者ニ於テ使用船舶ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由及第一號樣式ニ依ル代船ノ件名書ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條　樺太廳長官ハ臨時所屬職員ヲ派遣シテ船舶ヲ檢查セシメ必要ト認ムルトキハ其ノ修繕又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ期間内ニ完全ニ之ヲ修理シ又ハ樺太廳長官ノ承認ヲ經タル船舶ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

第二十二條　受命者ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ航海期間中其ノ船舶ヲ他人ニ讓渡シ又ハ貸渡スルコトヲ得ス

受命者ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ補助航海命令書ニ於テ定メラレタル義務ノ下請負ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二十三條　受命者ハ左記事項ヲ船舶内旅客ノ認メ易キ場所ニ揭示スヘシ

一　船舶發著日時表及旅客貨物運賃表

二　申告簿保管者ノ氏名及旅客ノ請求ニ應シ之ヲ提出スヘキ旨ノ記載事項

前項第二號ノ申告簿ハ受命者ニ於テ之ヲ設ケ航海終了後樺太廳長官ニ提出シ其ノ檢閱ヲ受クヘシ

第二十四條　樺太廳長官ハ隨時所屬職員ヲ派遣シテ業務ノ實況ヲ視察セシムルコトアルヘシ

受命者及當該船舶ノ船長ハ前項官吏ノ質問ニ應シ業務上一切ノ事項ヲ開陳シ帳簿ヲ檢閱ニ供スヘシ

第一項ニ於テ規定スル職員ハ無賃ヲ以テ乘船セシメ内國旅費規則及樺太廳職員内國旅費規則ニ依リ規定スル等級ノ待遇ヲ爲スヘシ

第二十五條　樺太廳長官ハ補助航海ニ於ケル業務ノ實況ニ依リ必要ト認ムルトキハ其ノ事由ヲ示シ補助金額ヲ改訂シ又ハ補助航海命令書ニ定ムル義務ヲ加重スルコトアルヘシ

第二十六條　受命者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ一航海ニ對スル補助金額ノ百分ノ十以内ノ違約金ヲ徵收スルコトアルヘシ

一　認可ヲ受クスシテ所定ノ航海ヲ闕キ若ハ寄港地ニ寄港セサルトキ

二　認可ヲ受クスシテ使用船舶ヲ變更シタルトキ

三　第二十二條ノ規定ニ違反シタルトキ

四　郵便物ノ遞送ニ關スル命令ニ違反シタルトキ

第二十七條　受命者船舶發著日時表及旅客貨物ノ運賃表ヲ所定ノ場所ニ揭示セス又ハ其ノ定額ヲ超過セル運賃ヲ請求シタルトキハ金三百圓以下ノ違約金ヲ徵收スルコトアルヘシ

第二十八條　受命者正當ノ事由ナクシテ航海ヲ遲延シタルトキハ遲延日數一日ニ付其ノ航海ニ對スル補助金額ノ百分ノ一以内ノ違約金ヲ徵收スルコトアルヘシ

第二十九條　受命者ニ於テ本令及補助航海命令書ニ定ムル義務ヲ怠リ又ハ其ノ義務ヲ履行スルニ不適當ナリト認ムヘキ事實アリタルトキハ樺太廳長官ハ補助航海命令ヲ取消スコトアルヘシ

第三十條　違約金又ハ辨償金ハ受命者ニ交付スヘキ航海補助金ト相殺シ其ノ交付スヘキ補助金ナキカ又ハ不足ナルトキハ受命者ヨリ之ヲ追徵ス

第三十一條　受命者ハ一航海終了毎ニ其ノ各寄港地ニ於テ積込又ハ陸揚シタル貨物ノ數量（箇數及噸數）及旅客ノ員數（各等級別）竝航海日誌ノ要領、海水ノ温度、潮流ノ方嚮及流氷ノ狀況等ヲ具シ郵便局ノ發著證明書ヲ添附シ航海實踐報告書ヲ樺太廳長官ニ提出スヘシ

第三十二條　受命者ハ受命航路ニ於ケル夏期、冬期各航海終了後直ニ第三號樣式ノ收支計算書ヲ調製シ樺太廳長官ニ提出スヘシ

第三十三條　受命者ニシテ受命期間中住所、氏名及第二條第三項ニ規定スル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ旨遲滯ナク樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第三十四條　冬期海陸聯絡ノ爲碎氷事業ニ從事スル者ニ對スル補助金ノ交付ニ付テハ第二十條、第二十一條、第二十二條、第二十五條、第二十六條、第二十九條及第三十條ノ規定ヲ準用ス

附　則

第三十五條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條　第二條ニ定ムル願書提出期限ハ昭和八年度ニ限リ二月十日迄トス

第一七七號（三〇ノ一）

第二十七類　船舶發著日時表及旅客貨物運賃表

第一號樣式　使用（又ハ代船）船舶件名書

一　船名
二　總噸數
三　速力
四　船體ノ構造及船内裝置ノ概要
五　機關ノ種類
六　製造所名
七　進水年月日
八　船籍及所有者氏名

右之通ニ候也

年　月　日

氏名　印

第二號樣式　何線營業目論見書

一　起點、終點及寄港地ニ於ケル海陸聯絡設備
　イ　何地
　ロ　何岸壁ニ繫著又ハ同業者何某ト艀聯絡上ノ契約ヲ爲ス等
二　旅客貨物運載見込（一航海分及一箇年分）
　イ　旅客員數

一等客　何人
二等客　何人
三等客　何人
ロ　貨物員數
何　品　何箇又ハ何噸
三　收支豫算（一航海分及一箇年分）
イ　收　入
運　賃
旅客運賃
貨物運賃
其ノ他（何々ト詳記ノコト）
ロ　支　出
旅客、貨物取扱費
船　費
其ノ他（何々ト詳記ノコト）
差引損益
四　營業事務所所在地及主タル事務員ノ氏名
イ　本　店
ロ　支　店
ハ　出張所
ニ　代理店
右之通ニ候也
年　月　日

氏　名印

第三號樣式　自　年　月　日何線收支計算書
至　年　月　日

收　入
運　賃
旅客運賃
貨物運賃
其ノ他
支　出
貨物費
貨物取扱費
貨物辨償金
運賃割戻金
旅客費
旅客取扱費
運賃割戻金
船　費
船員給料及手當金
船員其ノ他ノ賄費
燃　料　費
需　用　品　費
艤　裝　品　費
稅金及港費
修　繕　費
保　險　料
其ノ他
店　費
海陸施設費
收支差引損益
諸　積　立　金
收支再差引損益
政府補助金
差引純損益
右之通ニ候也
年　月　日

氏　名印

第二款　海上衝突豫防

海上衝突豫防法

（明治二十五年六月二十二日法律第五號）

【沿革】明治三十年四月法律第四三號、同三十九年四月同第四四號、大正十四年三月同第三八號改正

初版（三四〇）

駐帝國議會ノ協賛ヲ經タル海上衝突豫防法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海上衝突豫防法

總則

第一條　本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ問ハス凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス

本法中汽船ト雖帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用ヰサルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ帆ヲ用ヰサルトノ別ナク汽船ト看做スヘシ

本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ

本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁、膠沙ニ非サル場合ヲ謂フ

船燈

第二條　船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第三條　汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲クルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ掲クルヲ要ス然レトモ二艘以上ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ尚同種ノ白燈一箇ヲ增掲スヘシ

本條ノ引船ハ引カルル船舶ノ操舵目標トシテ烟突若ハ後檣ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ掲クルヲ得但シ此ノ白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

第四條　事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ（汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ）二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ紅燈ハ周囘少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス及晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若クハ黑色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ（汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ）三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツヽヲ隔テ連掲スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ內上下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周囘少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下少クモ六尺ツヽヲ隔テ連掲シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用ヰ中央ノ一箇ハ白色竪菱形ヲ用ウヘシ

本條ノ船舶全ク運行セサルトキハ舷燈ヲ掲クヘカラス然レトモ運行スルトキハ必ス之ヲ掲クヘシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハルノ信號ト認ムヘシ

本條ノ信號ハ難船信號ト混同スヘカラス難船信號ハ第三十一條ニ於テ之レヲ規定ス

第五條　航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ舷燈ノミヲ掲クヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲クヘカラス

本條ノ信號ハ難船信號ト混同スヘカラス難船信號ハ第三十一條ニ於テ之レヲ規定ス

第六條　小形船舶航行中天氣ノ模樣ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ掲ケ置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ檣點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我カ船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリモ見得易キ樣各舷ニ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリモ見得ス且少クモ成ルヘク各舷正橫後ノ二點ヨリ後方ヘ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

此ノ綠紅ノ各燈ヲ間違ヒナク容易ニ取扱フ爲綠燈ハ綠色紅燈ハ紅色ニテ外面ヲ塗リ且適當ノ隔板ヲ備置クヘシ

第七條　總積量四十噸未滿ノ汽船總積量二十噸未滿ノ帆船及櫂ヲ以テ運轉スル船航行中ハ必スシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ若之ヲ掲ケサルトキハ必ス左ノ規定ニ依ルヘシ

一　四十噸未滿ノ汽船

甲　船ノ前部又ハ烟突若クハ其ノ前面ニ於テ舷緣上九尺ヨリ低カラス且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲クヘシ

乙　第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ綠紅ノ二舷燈ヲ掲クルカ又ハ船首ヨリ各舷正橫後ノ二點ヨリ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シタル兩色燈一箇ヲ掲クヘシ但シ此ノ燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ掲クルヲ要ス

二　汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷緣上九尺ノ所ヨリ下方ニ掲クルヲ得然レトモ其ノ白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三　二十噸未滿ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト櫓櫂ヲ用ウルトニ拘ハラス一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヰタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我カ船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左

舷ヨリ紅光ヲ右舷ヨリ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

四　檣燈ヲ以テ運轉スル船ハ檣燈ヲ用ウルト帆ヲ用ウルトニ拘ハラス白色ノ燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ臨時之ヲ表示スヘシ

本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ揭クルニ及ハス

第八條　水先船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアルトキハ他船ニ要スル燈ヲ表示セス周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ檣頭ニ揭ケ且十五分時ヲ超エサル短時ノ間隙ヲ以テ閃火一箇若ハ數箇ヲ發スヘシ

水先船ニハ點火シタル舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ短時ノ間隙ヲ以テ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要招スル船舶ヘ直付ケスヘキ水先船ハ白燈ヲ檣頭ニ揭クル代リニ隨時之ヲ表示シ又前項ノ舷燈ノ代リニ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヰタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ前項ノ規定ニ依リ之ヲ使用スルヲ得

免許水先人ノ業務ニ專用スル水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊セサルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ檣燈ノ下方八尺ノ所ニ周囘少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ紅燈一箇ヲ增揭シ且航行中ノ船舶ニ要スル舷燈ヲ揭クヘシ

前項ノ水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊スルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ前項ノ規定ニ依リ紅燈ヲ增揭スヘシ但シ舷燈ヲ揭クヘカラス

水先船其ノ營業所ニアルモ水先業務ニ從事セサルトキハ其ノ積量ニ相當スル他船ト同樣ノ燈ヲ揭クヘシ

第九條　漁船ハ航行中特ニ本條ニ規定アル場合ヲ除ク外其ノ積量ニ相當スル航行中ノ船舶ニ對シテ規定シタル燈ヲ揭クルカ又ハ之ヲ表示スヘシ

一　無甲板船卽チ全部張詰メタル甲板ニ因リテ海水ノ浸入ヲ防カサル船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離カ百五十尺以內ナルトキハ周囘ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭クヘシ

無甲板船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離カ百五十尺ヲ超ユルトキハ周囘ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭ケ且我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ又ハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルトキハ其ノ白燈ノ下方ニ少クモ三尺ヲ隔テ且漁具ノ結著シタル方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ增表スヘシ

二　第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外流シ網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ハ網ノ全部又ハ一部水中ニ投下シアル間ハ最モ見得易キ所ニ白燈二箇ヲ揭クヘシ此ノ兩燈ハ上下ノ距離六尺ヨリ少カラス十五尺ヨリ多カラス且龍骨線ニテ測リタル前後ノ距離五尺ヨリ少カラス十尺ヨリ多カラサル樣其ノ一燈ヲ他燈ノ下方ニ裝置シ其ノ下燈ハ網ノ方向ニ揭クヘシ此ノ兩燈ハ周囘少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

無積量二十噸未滿ノ帆走漁船ハ地中海及日本國竝韓國ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ揭クルヲ要セス然レトモ之ヲ揭ケサルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ同一ノ位置（網又ハ漁具ノ方向ニ於テ）ニ表示スヘシ

三　第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外延繩ヲ用ヰテ漁業ニ從事スルニ當リ延繩ヲ結著シ又ハ之ヲ曳入ルル船舶ニシテ碇泊セス又ハ第八ニ依リ停留セサルモノハ流シ網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ト同一ノ燈ヲ揭クヘシ其ノ延繩ヲ延ヘ又ハ曳繩ヲ用ウルモノハ其ノ船ノ種類ニ應シ航行中ノ汽船又ハ帆船ニ對シテ規定シタル燈ヲ揭クヘシ

總積量二十噸未滿ノ帆走漁船ハ地中海及日本國竝韓國ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ揭クルヲ要セス然レトモ之ヲ揭ケサルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ同一ノ位置（釣繩ノ方向ニ於テ）ニ表示スヘシ

四　打タセ網（總テ海底ニ漁具ヲ曳クモノヲ包含ス）ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

甲　汽船ハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三色ノ燈籠一箇ヲ揭ケ尙其ノ下方六尺ヨリ少カラス十二尺ヨリ多カラサル所ニ白燈ノ籠色一箇ヲ增揭スヘシ此ノ三色燈ハ船ノ正首ヨリ左右各二點マテハ白色其レヨリ各舷正橫後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シ且裝置スルヲ要シ又白燈ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周囘ヲ照スヘク製造シタルモノタルヲ要ス

乙　帆船ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周囘ヲ照スヘク製造シタル白色ノ燈籠一箇ヲ揭ケ且他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メ最モ見得易キ所ニ白色ノ閃火又ハ炬火一箇ヲ表示スヘシ

甲及乙ニ規定シタル諸燈ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

五　桁網ヲ用ヰテ牡蠣採取ニ從事スル船舶其ノ他桁網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ハ打タセ網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ト同一ノ燈ヲ揭ケ及之ヲ表示スヘシ

六　漁船ハ本條ニ規定シタル燈ヲ揭ケ及之ヲ表示スル外何時ニテモ閃火ヲ用ヰ且漁業用ノ燈火ヲ用ウルヲ得

七　長サ百五十尺未滿ノ漁船碇泊中ハ周囘少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭クヘシ

長サ百五十尺以上ノ漁船碇泊中ハ周囘少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭ケ且第十一條ニ規定シタル白燈一箇ヲ增揭スヘシ

長サ百五十尺未滿ナルト百五十尺以上ナルトヲ問ハス碇泊中ノ漁船漁網其ノ他ノ漁具ヲ結著シタルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルトキ碇泊燈ノ下方少クモ三尺ヲ隔テ且漁網其ノ他ノ漁具ノ方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ增表スヘシ

八　漁船漁業ニ從事中漁具ノ岩礁其ノ他障碍物ニ纏著シタル爲メ停留スルトキハ晝間ニアリテハ第十二ニ規定スル晝間信號ヲ引下シ夜間ニアリテハ碇泊船ト同一ノ燈ヲ表示シ又霧中降雪其ノ他暴雨中ハ碇泊船ニ對シテ規定シタル霧中信號ヲ爲スヘシ（第十五條第四項及末項參照）

九　霧中降雪其ノ他暴雨中流シ網打タセ網桁網又ハ延繩ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル總積量二十噸以上ノ船舶ハ汽船ニアリテハ汽笛若ハ汽角帆船ニアリテハ號角ヲ用ヰ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ一聲ヲ發シ之ニ續キテ號鐘ヲ鳴ラスヘシ總積量二十噸未滿ノ漁船ハ必シモ此ノ信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ之ヲ爲ササルトキハ一分時ヨリ多

カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ有效ナル音響信號ヲ爲スヘシ

十　網延繩又ハ打メセ網ヲ用ヰテ漁業ニ從業スル船舶航行中晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ籃其ノ他ノ信號ヲ揭ケ近寄リ來ル他船ニ其ノ漁業中ナルコトヲ表示スヘシ若シ碇泊中ノ船舶漁具ヲ投下セルトキハ他船ノ近寄リ來リタルトキ同樣ノ信號ヲ他船ノ航過シ得ル舷側ニ於テ表示スヘシ

本條ニ依リ特ニ規定シタル燈ヲ揭ケ又之ヲ表示スル船舶ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ揭クルニ及ハス

第十條　他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スヘシ

本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ檣ノ船尾ニ揭置クヲ得然レトモ此ノ燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノニシテ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ鍼盤ノ十二點間ヲ照スヘク製造シ船ノ正後ヨリ左右ヘ六點間宛射光ノ及フヘキ樣隔板ヲ裝置シ成ルヘク舷燈ト同一ノ高サニ揭クヘシ

第十一條　長サ百五十尺未滿ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上ヨリ二十尺ヲ超エサル所ニ白燈一箇ヲ揭クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周囲少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ揭ケ且船尾若クハ其ノ最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一箇ヲ揭クヘシ

本條船舶ノ長サハ本船船籍證書面ノ長サニ依ルヘシ

船路若クハ其ノ最寄ニ於テ乘揚ケタル船舶ハ本條白燈ノ外尙第四條第一項ニ規定シタル紅燈二箇ヲ揭クヘシ

第十二條　各船他船ノ注意ヲ喚起スル爲必要ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外尙閃火ヲ發シ或ハ難船信號ト混同セサル爆裂信號ヲ發スルヲ得

第十三條　本法船燈ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラルル船舶ニ增揭スル列位燈及信號燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ劃定シタル規則ノ施行ヲ妨ケス又船舶所有主ニ於テ其ノ國政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續ヲ經テ私用スル識別信號ノ使用ヲ妨ケス

第十四條　汽船晝間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ烟突ヲ引下ケサルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若クハ黑色形象一箇ヲ揭クヘシ

霧中信號

第十五條　航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウヘシ

汽船ハ汽笛若クハ汽角

帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其ノ他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若クハ汽角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且號鐘及機關ノ作用ニ因リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同樣ノ號鐘及霧中號角ヲ備フヘシ

霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ

一　汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ

二　汽船航行中運轉ヲ止テ速力ヲ有タサルトキハ二分時ヨリ多カラサ

初版

一　大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス

二　萬國船舶信號書ニ記載スルNCノ雛船信號ヲ表示ス

三　方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ揭クル遠隔信號ヲ表示ス

四　霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

夜間信號

大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス

二　船上ノ發焰（タール桶、油槽等燃燒スルノ類）

三　星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツツ度々打揭ク

四　霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

附　則

第三十二條　本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス

第三十三條　本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

第三十四條　明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則同十四年五月第三十三號布告同規則追加同十八年八月第二十七號布告同規則改正追加法ハ施行ノ日ヨリ廢止ス

船用品取締規則

（昭和九年二月五日　遞信省令第十七號）

船用品取締規則左ノ通定ム

船用品取締規則

第二十類　通信、交通及電氣　第二編　交通

目次

第一章　總則
第二章　製造免許
第三章　型式承認
第四章　檢定
第五章　監査
第六章　手數料
第七章　罰則
附　則

第一章　總則

第一條　法令ニ依リ船舶ニ備フヘキ船用品ニシテ別表第一號ニ揭ケルモノヲ製造スル者ハ當該船用品ノ型式每ニ第二章ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ製造免許ヲ受クルコトヲ要ス但シ船用品檢査試驗規則ニ依ル船用品合格證明書（以下單ニ合格證明書ト稱ス）ヲ受クル目的ヲ以テ製造スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

船用品ニ付製造免許ヲ受ケタル者（以下單ニ免許製造人ト稱ス）其ノ製造免許船用品ヲ製造シタルトキ又ハ當該船用品若ハ之ト同種類ノモノノ要部ヲ修繕シタルトキハ第四章ノ規定ニ依リ製造免許船用品檢定又ハ船用品修繕檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第二條　前條ニ定ムル船用品ノ要部ノ修繕ハ當該船用品又ハ之ト同種類ノモノノ免許製造人ニ非ザル者ナシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ズ但シ航海中其ノ他免許製造人ナシテ修繕ヲ爲サシムルニ著シク困難ナル事

情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ條緒ヲ爲サシムル場合ニハ船燈ニ付テハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ヲ條緒人ニ提示スベシ

第一項但書ノ規定ニ依リ條緒ヲ爲シタルトキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ニ於テ現品ニ付第四章ノ規定ニ依リ船用品條緒檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第三條　別表第二號ニ揭ゲル船用品ニ付テハ其ノ型式毎ニ第三章ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ型式承認ヲ受クルコトヲ得

別表第二號ニ揭ゲザル船用品ト雖モ遞信大臣ニ於テ必要アリト認ムルモノニ付亦前項ニ同ジ

型式承認船用品ヲ製造又ハ輸入シタル者ハ第四章ノ規定ニ依リ型式承認船用品檢定ヲ受クルコトヲ得

第四條　第一條ニ定ムル船用品ハ船用品檢査試驗規則ニ依ル甲號檢印又ハ本令ニ依ル檢印ヲ附シタルモノナルコトヲ要ス

第五條　本令ニ於テ船用品ノ試驗規程ト稱スルハ船燈ニ付テハ船燈試驗規程、信號器ニ付テハ信號器試驗規程、救命器具ニ付テハ救命器具試驗規程、防毒面ニ付テハ防毒面試驗規程、消火器ニ付テハ消火器試驗規程、火災警報裝置ニ付テハ火災警報裝置試驗規程、舶口覆布試驗規程ヲ謂フ

第六條　本令ニ依リ遞信大臣ニ申請書若ハ届書ヲ提出シ又ハ證書ヲ返還スル場合ニ於テハ主タル營業所所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スベシ

第七條　本令中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

第二章　製造免許

第八條　船用品ニ付製造免許ヲ受ケントスルトキハ標本ニ付合格證明書ノ交付ヲ受ケ船用品製造免許申請書（第一號書式）ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ事業資金額、製造所ノ設備、使用人ノ員數、會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ定款又ハ之ニ準ズベキモノ及代表者ノ氏名ヲ記載シタル書類竝ニ當該船用品ノ合格證明書ノ寫ヲ添附スベシ

榴彈、火箭、信號青焰、信號紅焰、救命胴衣、救命焰又ハ救命索發射器ニ關スル申請書ニハ第二十二條ノ規定ニ依ル說明書ヲモ添附スベシ

倚榴彈、火箭、信號青焰、信號紅焰又ハ救命索發射器ニ關スル申請書ニハ銃砲火藥類取締法ニ依リ火藥類ノ製造ニ關スル許可ヲ受ケタルコトヲ證明スル書類ノ寫ヲモ添附スベシ

第九條　遞信大臣前條ノ申請ニ依リ船用品ノ製造ヲ免許シタルトキハ船用品製造免許證書（第二號書式）ヲ申請人ニ交付ス

船用品製造免許期間ハ五年以內トス

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遞信大臣ハ製造免許ヲ取消スコトアルベシ

一　本令ノ規定ニ違反シタルトキ

二　標本又ハ製造品ニ關シ不正ノ所爲アリタルトキ

三　製造所ノ設備ノ變更其ノ他ノ事由ニ依リ製造免許船用品ノ製造ヲ爲スニ適セズト認ムルニ至リタルトキ

四　銃砲火藥類取締法ニ依ル火藥類ノ製造ニ關スル許可ヲ取消サレタルトキ

五　第十二條ニ揭ゲル標本ノ要部ガ當該品ノ試驗規程ノ改正ニ依リ之ニ適合セザルニ至リタルトキ

六　其ノ他遞信大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ

第十一條　遞信大臣船用品ノ製造ヲ免許シタルトキ又ハ製造免許ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第十二條　免許製造人ハ製造免許船用品ノ型式毎ニ合格證明書ノ交付ヲ受ケタル標本ヲ各製造所ニ保管シ且第二十八條ノ規定ニ依リ製造免許船用品檢定ヲ受ケントスル遞信省管船局船舶試驗所（以下單ニ船舶試驗所ト稱ス）、船舶試驗所支所又ハ管海官廳ニ差出スベシ

前項ノ規定ニ依リ保管シ又ハ差出シタル標本ガ滅失又ハ損傷シタルトキハ免許製造人ハ更ニ標本ヲ當該製造所ニ保管シ又ハ當該船舶試驗所、船舶試驗所支所若ハ管海官廳ニ差出スベシ

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ差出シタル標本ハ第二十條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ之ヲ還付ス

第十三條　免許製造人ハ製造免許船用品ノ標本ノ合格證明書ニ附屬セル明細書寫（通數ハ其ノ都度指定ス）ヲ船舶試驗所ニ差出スベシ

第十四條　免許製造人ハ製造品毎ニ當該官吏ノ適當ト認ムル方法ニ依リ船燈、信號器又ハ救命器具ニ在リテハ其ノ品名、型式、製造番號、製造人ノ氏名又ハ名稱及製造年月ヲ、船燈部分品ニ在リテハ製造番號及製造人ノ記號ヲ、救命索ニ在リテハ其ノ品名、型式、寸法、製造番號、製造人ノ氏名又ハ名稱及製造年月ヲ標示スベシ

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許製造人ハ船用品製造免許證書ノ書換ヲ遞信大臣ニ申請スベシ

一　氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキ

二　主タル營業所ヲ移轉シタルトキ

三　主タル營業所ニ付行政區畫ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキ

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許製造人ハ遞信大臣ニ之ヲ届出ヅベシ

一　事業資金額ヲ變更シタルトキ

二　會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ定款若ハ之ニ準ズベキモノ又ハ代表者ヲ變更シタルトキ

三　營業所（主タル營業所ヲ除ク）若ハ製造所ヲ移轉若ハ增減シ又ハ製造所ノ設備ヲ變更シタルトキ

四　銃砲火藥類取締法ニ依ル火藥類ノ製造ニ關スル許可ヲ取消サレタルトキ

第十七條　免許製造人ガ死亡シタルトキハ其ノ相續人ニ限リ其ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ製造ヲ繼續セントスルトキハ相續ヲ證明スル書類ヲ添エ船用品製造免許證書ノ書換ヲ遞信大臣ニ申請スベシ

第十八條　船用品製造免許證書ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ當該免許製造人ニ船用品製造免許證書ノ再交付ヲ遞信大臣ニ申請スベシ

第十九條　免許製造人第十五條、第十七條又ハ前條ノ規定ニ依リ船用品製造免許證書ノ交付ヲ受クルトキハ之ト引換ニ舊證書ヲ遞信大臣ニ返還スベシ

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許製造人ハ船用品製造免許

許證書ノ保管者ハ其ノ事由ヲ具シ遅滯ナク船用品製造免許證書ヲ遞信大臣ニ返還スベシ

一　船用品製造免許期間滿了シタルトキ

二　免許製造人廢業シタルトキ

三　免許製造人死亡シ其ノ相續人製造ヲ繼續セザルトキ

四　製造免許ヲ受ケタル法人解散シタルトキ

五　製造免許ヲ取消サレタルトキ

第二十一條　免許製造人ハ其ノ製造品ニ付製造所毎ニ毎三月中ノ製造販賣高統計表(第三號書式)ヲ作成シ翌月十日迄ニ當該製造所所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ屆出ヅベシ

第二十二條　第一條ニ定ムル船用品ヲ販賣スルニ當リテハ船燈ニ在リテハ一箇毎ニ船燈檢定證明書一通ヲ、榴彈ニ在リテハ十二箇又ハ其ノ端數毎ニ略圖ヲ附シタル使用法說明書一通及打上臺一箇ヲ、火箭、信號青焰又ハ信號紅焰ニ在リテハ十二箇又ハ其ノ端數毎ニ略圖ヲ附シタル使用法說明書一通ヲ、救命胴衣ニ在リテハ二十箇又ハ其ノ端數毎ニ圖解ヲ附シタル著用法說明書一通ヲ、救命浮器ニ在リテハ一箇毎ニ又救命索發射器ニ在リテハ一組毎ニ各略圖ヲ附シタル使用法說明書一通ヲ添附スベシ

第二十三條　第一條ニ定ムル船用品ニシテ合格證明書ヲ有スルモノヲ販賣スルニ當リテハ船燈ニ在リテハ一箇毎ニ合格證明書ヲ添附スベシ其ノ他ノモノニ在リテハ前條ノ規定ヲ準用ス

第三章　型式承認

第二十四條　船用品ニ付型式承認ヲ受ケントスルトキハ船用品型式承認申請書(第四號書式)ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ當該船用品ノ合格證明書ノ寫又ハ船用品檢査試驗規則ニ依ル船用品檢査試驗成績書ノ寫ヲ添附スベシ

第二十五條　遞信大臣前條ノ申請ヲ適當ト認ムルトキハ當該船用品ノ型式ヲ承認ス

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遞信大臣ハ型式承認ヲ取消スコトアルベシ

一　型式承認ヲ受ケタル船用品ノ要部ガ當該品ノ試驗規程ノ制定又ハ改正ニ依リ之ニ適合セザルニ至リタルトキ

二　其ノ他遞信大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ

第二十七條　遞信大臣船用品ノ型式ヲ承認シタルトキ又ハ型式承認ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第四章　檢定

第二十八條　製造免許船用品檢定又ハ型式承認船用品檢定ヲ受ケントスルトキハ申請書(第五號書式又ハ第六號書式)ヲ現品ト共ニ船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ製造所(當該船用品ガ輸入品ナルトキハ營業所)所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ提出スベシ但シ型式承認船用品檢定ノ場合現品ヲ差出シ難キトキハ當該官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ現品ノ所在地ニ於テ檢査ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合第一條ニ定ムル船燈ニ付テハ一箇毎ニ標本ノ合格證明書ニ附屬セル明細書寫ニ製造番號及製造年月ヲ記載シタルモノヲ添附スベシ

第二十九條　前條第一項但書ニ依リ檢査ヲ受クル者ハ當該官廳ノ指定スル所ニ從ヒ該船用品檢査ノ爲當該官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納

付スベシ

第三十條　船用品修繕檢定ヲ受ケントスルトキハ申請書(第七號書式)ヲ現品ト共ニ船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ最寄管海官廳ニ提出スベシ此ノ場合第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ヲ添附スベシ

第三十一條　第二十八條及前條ノ申請アリタルトキハ船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ管海官廳ハ現品ヲ檢査シ當該船用品ノ試驗規程又ハ型式承認ニ適合スト認メタルトキハ左ノ各號ノ一ニ依リ之ヲ處理ス

一　製造免許船用品又ハ型式承認船用品ノ檢定ノ場合ニ於テハ現品ニ檢印(別記雛形)ヲ附シ之ヲ申請人ニ還付シ尙第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ一箇毎ニ船燈檢定證明書(第八號書式)ヲ、型式承認船用品ニ在リテハ型式承認船用品檢定證明書(第九號書式)ヲ申請人ニ交付ス

二　船用品修繕檢定ノ場合ニ於テハ第三十五條第一項ノ規定ニ依リ檢印ノ效力ヲ停止セラレタル現品ハ更ニ之ニ檢印ヲ附シタル上、其ノ他ノモノハ其ノ儘之ヲ申請人ニ還付シ尙第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ノ裏面ニ修繕檢定年月日及修繕箇所ヲ記載シ當該官吏捺印ノ上之ヲ申請人ニ還付ス

船用品修繕檢定ニ於テ現品ガ當該船用品ノ試驗規程ニ適合セズト認メタルトキハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ニ消印ヲ捺シ檢印ノ效力ヲ停止シタルトキハ其ノ旨合格證明書又ハ船燈檢定證明書ニ消印ノ上之ヲ申請人ニ還付ス

第三十二條　船燈檢定證明書ヲ滅失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ船燈檢定證明書再交付申請書(第十號書式)ヲ船舶試驗所、船舶試驗所支所ハ最寄管海官廳ニ提出シ船燈檢定證明書ノ再交付ヲ受ケントスルトキハ申請書(第七號書式)ヲ現品ト共ニ船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ最寄管海官廳ニ提出スベシ此ノ場合第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ヲ添附スベシ

第三十三條　前條第二項ノ申請アリタルトキハ船舶試驗所又ハ船舶試驗所支所ハ現品ヲ檢査シ船燈試驗規程ニ適合スト認メタルトキハ更ニ檢印ヲ附シ且船燈檢定證明書ヲ交付シ現品ガ船燈試驗規程ニ適合セズト認メタルトキハ複線ヲ以テ檢印ヲ抹消シ之ヲ申請人ニ還付ス

第五章　監査

第三十四條　船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲシテ免許製造人又ハ型式承認船用品製造人ノ營業所若ハ製造所ニ就キ第十條又ハ第二十六條ノ適用ニ關シ必要ナル監査ヲ爲サシメ若ハ船舶ニ就キ第一條及第三條ニ定ムル船用品ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十五條　當該官吏ハ前條ノ監査又ハ檢査ニ當リ船用品ガ其ノ試驗規程又ハ型式承認ニ適合セズト認ムルトキハ複線ヲ以テ檢印ヲ抹消スベシ但シ第一條ニ定ムル船用品ニシテ修繕ノ上當該品ノ試驗規程ニ適合スル見込アルモノニ付テハ檢印ニ單線ヲ附シ其ノ效力ヲ停止スベシ

第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ前項ノ規定ニ依リ其ノ檢印ヲ取消シタルトキハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ニ消印ヲ捺シ檢印ノ效力ヲ停止シタルトキハ其ノ旨合格證明書又ハ船燈檢定證明書ノ裏面ニ記載シ當該官吏捺印スベシ

第三十六條　當該官吏ハ第三十四條ノ監査又ハ檢査ノ爲必要ト認ムルトキハ第一條又ハ第三條ニ定ムル船用品ヲ提出セシメ之ヲ試驗ニ供スル

コトヲ得

第六章　手數料

第三十七條　船用品製造免許證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手數料二圓ヲ、船燈檢定證明書ノ再交付ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手數料二十錢ヲ納付スベシ但シ第十五條第三號ニ該當シ船用品製造免許證書ノ書換ヲ爲ス場合ニハ手數料ヲ徵收セズ

第三十八條　船用品ノ檢定ヲ受クルトキハ檢定品一箇ニ付別表ニ定ムル手數料ヲ納付スベシ

第三條第二項ノ規定ニ依ル型式承認船用品ノ檢定手數料ハ其ノ都度之ヲ定ム

第三十九條　手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書（第十二號書式）ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

第四十條　本章ノ規定ニ依ル手數料ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徵收セズ

第七章　罰則

第四十一條　第一條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條第二項、第二條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條、第二十條又ハ第二十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第四十二條　前條ノ規定ニ依リ處罰セラルベキ者其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者、禁治産者又ハ法人ナルトキハ其ノ者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

附　則

第四十三條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十四條　昭和四年六月遞信省令第十八號船燈信號器救命具取締規則（以下單ニ舊取締規則ト稱スルハ之ヲ廢止ス

第四十五條　本令施行前舊取締規則ノ罰則ニ觸ルル行爲ヲ爲シタル者ニ付テハ仍舊取締規則ニ依ル

第四十六條　舊取締規則ニ依リ受ケタル製造免許ハ其ノ免許期間內本令ニ依リ受ケタルモノト看做ス但シ乙種檣燈及乙種兩色燈ニ付テハ其ノ期間內ト雖モ製造免許ヲ取消スコトアルベシ

第四十七條　舊取締規則ニ依リ第一條ニ定ムル船用品ニ附シタル檢印ハ本令ニ依リ附シタルモノト看做ス

舊取締規則ニ依ル船燈檢定證明書ハ本令ニ依ル船燈檢定證明書ト看做ス

乙種檣燈及乙種兩色燈ニ附シタル檢印及當該船燈檢定證明書ノ有效期限ニ付テハ前二項ノ規定ニ拘ラズ別ニ之ヲ告示ス

第四十八條　舊取締規則ニ依ル製造免許ヲ有スル者ノ製造シタル船用品及舊取締規則ニ依ル檢印ヲ附シタル船用品ノ檢定ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

別記雛形

船舶試驗所及船舶試驗所支所檢印（船檢）

備考

「船檢」ノ上ニハ船舶試驗所ノモノニ在リテハ「東」、船舶試驗所支所ノモノニ在リテハ其ノ所在地名ノ頭字ヲ冠スルモノトス

管海官廳檢印（海檢）

備考　「海檢」ノ上ニハ管海官廳所在地名ノ頭字ヲ冠スルモノトス

別表

第一號

品名		檢定手數料	
		製造免許船用品檢定	船燈再檢定
		圓	圓
船燈	甲種檣燈	○・五○	五・○○
	乙種檣燈	○・三○	三・○○
	甲種舷燈	○・五○	五・○○
	乙種舷燈	○・三○	三・○○
	甲種兩色燈	○・四○	四・○○
	乙種兩色燈	○・一○	一・○○
	甲種白燈	○・三○	三・○○
	乙種白燈	○・二○	二・○○
	丙種白燈	○・二○	二・○○
	丁種白燈	○・一○	一・○○
	紅燈	○・三○	三・○○

品名		檢定手數料	
		製造免許船用品檢定	船燈再檢定
		圓	圓
燈船尾燈	水先燈	○・四○	四・○○
	三色燈	○・五○	五・○○
	船尾燈	○・三○	三・○○
	操舵目標燈	○・一○	一・○○
船燈部分品	無色透鏡	○・○五	
	著色透鏡	○・○五	
	著色圓筒形硝子	○・○五	
	著色挿入硝子	○・○五	
信號器	霧中號角	○・一○	
	榴彈火箭	○・○五	
	信號青焰	○・○五	
	信號紅焰	○・○五	
救命具	救命浮環	○・一○	
	救命胴衣	○・一○	
	救命焰器	○・一○	
	救命索發射器	○・一○	

第二號

品目	名稱	型式承認船用品檢定手數料
救命器具部分品	救命索	○・○五
船燈部分品	無色圓筒形硝子	○・○五
救命器具	第一級甲型救命艇	二・○○
	第一級乙型救命艇	二・○○
	第二級甲型救命艇	二・○○
	第二級乙型救命艇	二・○○
	發動機附救命艇	三・○○
	救命筏	一・五○
	救命浮器	一・○○
防毒面部分品	防毒面	○・三○
	吸收罐	○・○五
船燈	信號燈	○・三○
	安全燈	○・三○
消火器部分品	封緘裝塡物	○・○五
消火器	持運式（携帶用）液體消化器	○・五○
	持運式（携帶用）泡消火器	○・五○
	移動式泡消火器	○・五○
火災警報裝置	電氣「サーモスタット」	○・一○
	空氣管	○・一○
	警報器	○・三○
	檢出器	○・二○
	探知器	○・二○
艙口覆布部分品	甲種艙口覆布	○・二○
	乙種艙口覆布	○・二○
	布地	○・一○

備考

一　電線式「サーモスタット」ニ在リテハ其ノ電線ノ長サ五メートル又ハ其ノ端數ヲ一箇ト看做ス

二　空氣管ニ在リテハ之ヲ連續セルモノトシ其ノ長サ五メートル又ハ其ノ端數ヲ一箇ト看做ス

三　布地ニ在リテハ其ノ長サ五〇メートル又ハ其ノ端數ヲ一箇ト看做ス

第一號書式

船用品製造免許申請書

一　船用品ノ品名及型式
二　營業所ノ位置及名稱
三　製造所ノ位置及名稱
四　船用品合格證明書ノ番號及交付年月日

右船用品取締規則第一條第一項ニ依リ船用品製造免許申請候也

年　月　日

主タル營業所
申請人　氏　　名印

遞信大臣宛

第二號書式

第　號

船用品製造免許證書

主タル營業所
氏　　名

一　船用品ノ品名及型式
二　標本ノ船用品合格證明書ノ番號及交付年月日
三　免許期間

第二十類　通信、交通及電氣　第二編　交通

右船用品取締規則ニ依リ製造ヲ免許ス

年　月　日

遞信大臣　氏　　名印

第三號書式

自年月日
至年月日　三月中製造免許船用品製造販賣高統計表

一　船用品免許製造人ノ氏名又ハ名稱及主タル營業所
二　製造所ノ位置及名稱

船用品製造免許證書番號	船用品ノ名及型式	前期繰越箇數	製造箇數 合格箇數	製造箇數 不合格箇數	販賣箇數 本期末現存箇數	一箇ノ代價 卸賣	一箇ノ代價 小賣

第四號書式

船用品型式承認申請書

一　船用品ノ品名及型式

二　營業所ノ位置及名稱
三　製造所ノ位置及名稱
四　船用品合格證明書／船用品檢查試驗成績書ノ番號及交付年月日

右船用品取締規則第三條第一項第二項ニ依リ船用品型式承認申請候也

年　月　日

主タル營業所
申請人　氏　　名印

遞信大臣宛

第五號書式

製造免許船用品檢定申請書

一　船用品製造免許證書ノ番號
二　船用品ノ品名、型式及箇數
三　製造所ノ位置及名稱
四　製造年月
五　製造番號

右船用品取締規則第一條第二項ニ依リ製造免許船用品檢定申請候也

年　月　日

主タル營業所
申請人　氏　　名印

遞信省管船局船舶試驗所宛
（又ハ同支所若ハ管海官廳）

第六號書式

型式承認船用品檢定申請書

一　船用品型式承認番號
二　船用品ノ品名、型式及箇數
三　製造所ノ位置及名稱
四　製造年月
五　製造番號
六　船用品取締規則第二十八條第一項但書ノ規定ニ依リ現品ノ所在地ニ於テ檢查ヲ受ケントスルトキハ其ノ場所

右船用品取締規則第三條第三項ニ依リ型式承認船用品檢定申請候也

年　月　日

主タル營業所
申請人　氏　　名印

遞信省管船局船舶試驗所宛
（又ハ同支所若ハ管海官廳）

第七號書式

船用品修繕檢定申請書

一　船用品製造免許證書／船用品合格證明書ノ番號
二　船用品ノ品名、型式及箇數
三　修繕箇所
四　修繕年月
五　備附船舶ノ番號、種類、名稱、總噸數及所有者ノ氏名又ハ名稱
六　船用品取締規則第二條第一項但書ニ依ルモノニ在リテハ其ノ事由

右船用品取締規則第一條第二項第二條第三項ニ依リ船用品修繕檢定申請候也

年　月　日

主タル營業所又ハ住所（當該官廳ヨリ通知ヲ受クベキ場所）
申請人　氏　　名印

遞信省管船局船舶試驗所宛
（又ハ同支所若ハ管海官廳）

四　製造所ノ位置及名稱
五　製造年月
六　製造番號

右船用品取締規則ニ依リ檢定シタル結果承認型式ニ適合スルモノト認ム

年　月　日

遞信省管船局船舶試驗所名印
（又ハ同支所若ハ管海官廳）

第十號書式

船燈檢定證明書再交付申請書

一　船用品製造免許證書ノ番號
二　船燈ノ品名及型式
三　製造人ノ氏名又ハ名稱
四　製造年月
五　製造番號
六　檢定官廳
七　再交付申請ノ事由

右船用品取締規則第三十二條第一項ニ依リ船燈檢定證明書再交付申請候也

年　月　日

住所（當該官廳ヨリ通知ヲ受クベキ場所）
申請人　氏　　名印

遞信省管船局船舶試驗所宛
（又ハ同支所若ハ管海官廳）

第二十類　通信、交通及電氣　第二編　交通

第十一號書式

船燈再檢定申請書

一　船燈ノ品名及型式

右船用品取締規則第三十二條第二項ニ依リ船燈再檢定申請候也

年　月　日

住所（當該官廳ヨリ通知ヲ受クベキ場所）
申請人　氏　　名印

遞信省管船局船舶試驗所（又ハ同支所）宛

第十二號書式

手數料納付書

手數料ノ種別	手數料算定ノ基礎	手數料
船用品製造免許證書（交付、再交付、書換）手數料	通	圓　錢
船燈檢定證明書再交付手數料	通	圓　錢
製造免許船用品檢定手數料	箇	圓　錢
型式承認船用品檢定手數料	箇	圓　錢

右　年　月　日附申請ノ手數料トシテ納付候也

年　月　日　　申請人　氏　　名印

遞信大臣　遞信省管船局船舶試驗所、同支所又ハ管海官廳）宛

船燈試驗規程

（昭和九年二月五日遞信省令第十九號）

船燈試驗規程左ノ通定ム

目次

第一章　總則
第二章　油船燈
　第一節　通則
　第二節　檣燈
　第三節　舷燈
　第四節　兩色燈
　第五節　白燈
　第六節　紅燈
　第七節　三色燈
　第八節　船尾燈
　第九節　操舵目標燈
　第十節　信號燈
　第十一節　安全燈
第三章　電氣船燈
　第一節　通則
　第二節　檣燈
　第三節　舷燈
　第四節　白燈
　第五節　紅燈
　第六節　三色燈
　第七節　船尾燈
　第八節　安全燈
附則

船燈試驗規程

第一章　總則

第一條　船燈ノ金屬部ハ銅又ハ眞鍮ヲ以テ堅牢ニ製造シ其ノ接合部ハ密著セシメテ鐵附シ且要部ハ總テ鋲附ト爲スベシ但シ安全燈ニ在リテハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ銅又ハ眞鍮以外ノ材料ヲ使用スルコトヲ得

檣燈、舷燈、甲種兩色燈、三色燈、船尾燈及信號燈ノ燈胴ト燈蓋及燈底トノ接合竝ニ甲種白燈及紅燈ノ燈胴ト燈蓋トノ接合ハ折曲抱合ト爲シ乙種兩色燈ノ燈胴ト燈蓋トノ接合ハ折曲ト爲シ甲種白燈及紅燈ノ燈胴ト燈底トノ接合ハ鋲附ト爲スベシ

燈胴及外部煙筒ヲ構造スル金屬板ノ周緣ニハ適當ナル眞鍮針金ヲ捲込ムベシ但シ乙種兩色燈、丁種白燈及操舵目標燈ノ燈胴及外部煙筒下部ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

船燈ニハ其ノ種類ニ應ジ適當ナル掛具、燈足又ハ通索環ヲ裝置スベシ

燈窓ニ竪ニ取附クル枠棒ノ徑又ハ幅ハ七ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ズ

第二條　燈窓硝子及著色挿入硝子ハ有害ナル氣泡其ノ他ノ瑕疵ヲ有セズ且冷熱ニ堪フル品質ニシテ兩面ヲ滑ニ磨キタルモノナルコトヲ要ス但シ著色透鏡、無色壓形硝子及無色球形硝子ノ兩面ハ磨カザルモ妨ナシ

第三條　無色透鏡ハ二・九ノ密度（公差正負〇・〇七）ヲ有スル無色鉛硝子ヲ以テ成ルベク薄ク製造シ內面ハ圓筒形ト爲シ外面ニハ中央ニ一帶ノ凸形ヲ設ケ其ノ上下ニ各三帶ノ折射形ヲ設クベシ

無色透鏡ノ形狀ハ透鏡ノ中央橫截面ノ中心ニ於ケル燈火ヲ該面ノ上下各一〇度ノ範圍ニ集束シ其ノ照度ハ該燈火ノ照度ニ比シ白燈及紅燈用透鏡ニ在リテハ上下各二・五度以內ノ方向ニ於テ、其ノ他ノ透鏡ニ在リテハ上下各五度以內ノ方向ニ於テ二倍以上ニシテ且上下各一〇度ノ方向ニ於テ一倍以上トナラシメ其ノ他ノ方向ニ於テハ漸次ニ其ノ倍率ヲ變化スルモノナルコトヲ要ス

無色透鏡ノ竪截面ノ形狀ハ各截面ニ於テ差異ナキモノナルコトヲ要ス

無色透鏡ニハ密度測定用試驗片ヲ附シ置クベシ

無色透鏡ノ高サ及橫截內面半徑ノ公差ハ各正負〇・五ミリメートルトス

第四條　著色透鏡ハ著色硝子ヲ以テ成ルベク薄ク製造シ外面ハ球形ト爲シ內面ニハ中央ニ一箇ノ凸形ヲ設ケ其ノ周圍ニ九帶ノ折射形ヲ設クベシ

著色透鏡ノ形狀ハ透鏡ノ中央截面ノ中心ニ於ケル燈火ヲ該面ノ各側五度ノ範圍ニ集束スルモノナルコトヲ要ス

著色透鏡ノ中央截面ノ形狀ハ各截面ニ於テ差異ナキモノナルコトヲ要ス

著色透鏡ノ徑ノ公差ハ正負〇・五ミリメートルトス

第五條　圓筒形ノ燈窓硝子及著色挿入硝子ノ厚サ、高サ及橫截內面半徑ノ公差ハ各正負〇・五ミリメートルトシ無色聚形硝子及無色球形硝子ノ厚サノ公差ハ正負一ミリメートルトス

第六條　著色燈窓硝子、著色挿入硝子及著色透鏡ハ適當ナル色調ヲ有シ濃度ニ不同ナク且一〇%乃至一五%ノ全透率ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七條　船燈各部ノ構造及寸法ニシテ本令ニ規定ナキモノニ付テハ當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第八條　本令ノ規定ニ該當セザル船燈ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第二章　油船燈

第一節　通則

第九條　燈龍ハ口金及燈筒ヲ裝置シタル油壺ヲ挿入シ得ルモノナルコトヲ要ス

煙筒ハ火口ノ直上ニ設クベシ

燈窓ニ竪ニ取附クル枠棒ハ火口ノ延長線上ニ置クコトヲ得ズ

第十條　船燈ハ無風高氣溫ノ場合ニ於テモ通氣十分ニシテ燈火ガ不同ナク十分ニ燃照スル構造ノモノナルコトヲ要ス

船燈ハ風又ハ船舶ノ動搖等ニ依リ油煙ヲ生ズルコトナク又消火セザル樣通氣孔ノ大サ及配置ヲ適當ニシ且飛沫ノ浸入ニ依リ光度ニ影響ヲ及ボスコトナキ構造ノモノナルコトヲ要ス

第十一條　油壺ハ煙火ガ信號燈及安全燈ニ在リテハ五時間以上、乙種兩色燈、丁種白燈及操舵目標燈ニ在リテハ八時間以上、其ノ他ノ船燈ニ在リテハ一六時間以上繼續シテ安全ニ燃照シ得ル油量ヲ貯ヘ得ルモノナルコトヲ要ス

油壺ノ形狀ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

油壺ニハ氣孔ヲ有スル注油栓ヲ裝置シ且油壺ノ內部ニハ燈油ノ動搖ヲ防ゲ裝置ヲ設クベシ

第十二條　火口ノ形狀ハ一字形ニシテ第一表ニ揭ゲル幅ノ平燈心ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

口金ニハ燈心調整裝置ヲ附シ引火防具及氣孔ヲ裝置スベシ但シ種油用ノモノニ在リテハ引火防具及氣孔ヲ裝置スルコトヲ要セズ

第十三條　油壺及口金ノ挿入裝置ハ口金ヲ裝置シタル油壺ヲ燈龍ニ挿入スルトキ火口カ正規ノ位置外ニ止マル虞ナキモノナルコトヲ要ス

第十四條　石油燈ニハ燈筒ヲ使用スベシ

燈筒ハ無色透明ナル良質ノ硝子ヲ以テ成ルベク薄ク且厚サニ不同ナク製造シ形狀及寸法ハ當該官吏ニ於テ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第十五條　反射鏡ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザル限リ大形ト爲シ其ノ表面ハ燈火ノ最輝點ヲ中心トスル球面ノ一部ニシテ十分磨キタル後銀色鍍ヲ施シタルモノナルコトヲ要ス但シ乙種兩色燈及操舵目標燈ノ反射鏡ノ表面ハ圓筒形ト爲スコトヲ得

第十六條　油船燈ニハ石油ヲ使用スベシ但シ丁種白燈及操舵目標燈ニハ種油ヲ使用スルコトヲ得

第十七條　油船燈各部ノ寸法ハ第一表ニ依ル

第十八條　水先燈ノ構造及寸法ハ本節ノ規定ニ依ルノ外當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二節　檣燈

第十九條　燈窓ニハ甲種檣燈ニ在リテハ無色透鏡ヲ、乙種檣燈ニ在リテハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第二十條　燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面カ船燈ノ對稱面ト一一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第二十一條　火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後緣ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第二十二條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後甲種檣燈ニ在リテハ一〇燭光以上、乙種檣燈ニ在リテハ七燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二十三條　檣燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第二十四條　檣燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第三節　舷燈

第二十五條　甲種舷燈ノ燈窓ニハ無色透鏡ヲ裝置シ其ノ內面ニ接シ左舷舷燈ニ在リテハ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷舷燈ニ在リテハ綠色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

乙種舷燈ノ燈窓ニハ左舷舷燈ニ在リテハ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷舷燈ニ在リテハ綠色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第二十六條　燈窓硝子ノ後部留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面カ燈籠ノ側面ト一一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

燈窓硝子ノ前部留金ノ緣ヨリ燈籠ノ側面ニ至ル距離ハ該側面ヨリ火口ノ中心ニ至ル距離ヨリ一五ミリメートル以上小ナルコトヲ要ス

第二十七條　著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子カ正規ノ位置外ニ止マル虞ナク且左舷舷燈用ノ硝子ヲ左舷舷燈ニ挿入シ得ザル構造ト爲スベシ

著色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ

著色挿入硝子ノ金屬枠及挿入裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第二十八條　油壺ノ挿入裝置ハ左舷舷燈用ノ油壺ヲ右舷舷燈ニ、右舷舷燈用ノ油壺ヲ左舷舷燈ニ挿入シ得ザル構造ト爲スベシ

第二十九條　火口ハ燈籠ノ側面ト一一二・五度ノ角度ヲ爲ス方向ニ置キ且火口ノ後緣ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第三十條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後甲種舷燈ニ在リテハ一〇燭光以上、乙種舷燈ニ在リテハ五燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第三十一條　燈籠側部ノ掛具及隔板ニ取附クル突起金具ノ形狀及寸法ハ第一圖ニ依ル

隔板ノ形狀及寸法ハ第二圖乃至第四圖ニ依ル

第三十二條　舷燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第三十三條　甲種舷燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト燈胴下部トノ間ニ金屬

製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第四節　兩色燈

第三十四條　甲種兩色燈ノ燈窓ニハ左舷側ニ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷側ニ綠色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

乙種兩色燈ノ燈窓ニハ左舷側ニ紅色透鏡ヲ、右舷側ニ綠色透鏡ヲ裝置スベシ

第三十五條　甲種兩色燈ノ各側ノ燈窓硝子ノ後部留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第三十六條　燈窓硝子ノ前面中央ニハ竪ニ隔障ヲ設クベシ

隔障ハ燈籠ノ前面ニ鋲附ト爲スベシ

甲種兩色燈ノ燈窓硝子ノ前部留金ノ幅ハ隔障中心ヨリ測リ左右各四ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十七條　火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後緣ノ中央ヲ甲種兩色燈ニ在リテハ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ、乙種兩色燈ニ在リテハ著色透鏡ノ焦點ヲ過ギル垂直軸上ニ置クベシ

第三十八條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ甲種兩色燈ニ在リテハ一六時間繼續燃照後五燭光以上、乙種兩色燈ニ在リテハ八時間繼續燃照後三燭光以上ノ燈火ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第三十九條　兩色燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第五節　白燈

第四十條　燈窓ニハ甲種白燈ニ在リテハ無色透鏡又ハ無色圓筒形硝子ヲ、丁種白燈ニ在リテハ無色球形硝子ヲ裝置スベシ

第四十一條　火口ハ其ノ中心ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第四十二條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後甲種白燈ニシテ無色透鏡ヲ裝置スルモノニ在リテハ四燭光以上、無色圓筒形硝子ヲ裝置スルモノニ在リテハ七燭光以上、乙種白燈ニ在リテハ四燭光以上、丙種白燈ニ在リテハ二燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第四十三條　甲種白燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト下部燈胴トノ間ニ、其ノ他ノ白燈ニハ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第四十四條　油壺ヲ燈底ヨリ挿入スル白燈ニ在リテハ油壺ノ逸脫ヲ防止スルニ適當ナル裝置ヲ設クベシ

第六節　紅燈

第四十五條　燈窓ニハ無色透鏡ヲ裝置シ其ノ內面ニ接シ紅色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

第四十六條　紅色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナキ構造ト爲スベシ

紅色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ

紅色挿入硝子ハ二箇以上ノ硝子ヲ幅七ミリメートル以下ノ金屬枠ヲ以テ竪ニ接合シタル構造ト爲スコトヲ得

前項ノ硝子竪接合ノ金屬枠ハ火口ノ延長線ノ位置外ニ止マルコトヲ要ス

紅色挿入硝子ノ上緣及下緣ニ於ケル金屬枠ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第四十七條　火口ハ其ノ中心ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第四十八條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後一〇燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第四十九條　紅燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト下部燈胴トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第五十條　油壺ヲ燈底ヨリ挿入スル紅燈ニ在リテハ油壺ノ逸脫ヲ防止スルニ適當ナル裝置ヲ設クベシ

第七節　三色燈

第五十一條　燈窓ニハ無色透鏡ヲ裝置シ其ノ內面ニ接シ左舷側ニ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷側ニ綠色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

第五十二條　燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第五十三條　燈窓ノ前面ニハ燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ミ船燈ノ對稱面ト左右各二二・五度ノ角度ヲ爲ス平面ニ中心面ヲ有スル隔障ヲ設クベシ

隔障ハ燈籠前面ニ鋲附ト爲スベシ

第五十四條　著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナク且紅色硝子ト綠色硝子トヲ挿違スル虞ナキ構造ト爲スベシ

著色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ

著色挿入硝子ノ前緣ニ於ケル金屬枠ノ幅ハ七ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ズ

著色挿入硝子ノ上緣、下緣及後緣ニ於ケル金屬枠及挿入裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第五十五條　著色挿入硝子ノ前緣ニ於ケル金屬枠ノ幅ノ中心線ハ該線及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト二二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第五十六條　火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後緣ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第五十七條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後一〇燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第五十八條　三色燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第五十九條　三色燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第八節　船尾燈

第六十條　燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第六十一條　燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト六七・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第六十二條　火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後緣ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第六十三條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後四燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第六十四條　船尾燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第九節　操舵目標燈

第六十五條　燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第六十六條　燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト九〇度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第六十七條　火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後緣ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第六十八條　操舵目標燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第十節　信號燈

第六十九條　燈窓ニハ無色透鏡ヲ裝置スベシ

第七十條　燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト二二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第七十一條　火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ中心ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第七十二條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ五時間繼續燃照後五燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第七十三條　信號燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第七十四條　遮光板ハ敏速ニ開閉シ得ルモノニシテ滑動遮光板ニ在リテハ中央ヨリ兩側ニ開クモノナルコトヲ要ス

鍵盤ハ之ヲ押ヘ附クルニ必要ナル重量ガ四五〇グラム以上九〇〇グラム以下ニシテ其ノ作動距離ハ一〇ミリメートルヲ標準トス

第十一節　安全燈

第七十五條　燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第七十六條　安全燈內部ニハ燈火ガ直接外氣ニ通ズル部分ニ二重ノ金網ヲ設クベシ

前項ノ金網ハ徑〇・三二ミリメートル乃至〇・四〇ミリメートルノ針金ヲ使用シ一平方センチメートルニ付一四四以上ノ網目ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七十七條　安全燈ハ鍵又ハ特殊ノ方法ニ依ラザレバ開放シ得ザル構造ト爲シ且結合部ノ自然的弛緩ヲ防止シ得ル適當ナル裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第七十八條　安全燈ニハ之ヲ開放セズシテ點火シ得ル裝置ヲ設クベシ

第七十九條　安全燈ハ之ヲ高サ一・五メートルノ筒所ヨリ木床上ニ連續三回墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス

第八十條　安全燈ハ可燃性混氣中ニテ漏火セザルモノナルコトヲ要ス

第八十一條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ五時間繼續燃照後一・五燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第八十二條　安全燈ニハ燈窓外面ニ於テ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製枠棒ヲ取附クベシ

前項ノ枠棒ハ相隣レル枠棒ノ外側ヲ連ネタル直線ガ燈窓硝子ニ接觸セザル構造ト爲スコトヲ要ス

第三章　電氣船燈

第一節　通則

第八十三條　燈籠ハ燈蓋部ニ於テ開閉シ得ル構造ト爲スベシ

燈籠ハ電線ヲ挿入セル部分ヨリ飛沫ガ浸入セザル構造ト爲スベシ

第八十四條　電線ハ電氣工作物規程ニ依ル第四種絕緣電線ニシテ導體ノ直徑一ミリメートル以上ノ單線又ハ公稱切斷面積〇・九平方ミリメートル以上ノ撚線ナルコトヲ要ス

電線相互間及電線ト燈籠トノ間ノ絕緣抵抗ハ船燈毎ニ二メグオーム以上ナルコトヲ要ス

第八十五條　電球承口ハ內徑二三ミリメートルノ挿込承口ト爲シ上向ニ取附ケ且電球ガ一定ノ位置ヨリ移動セザル構造ト爲スベシ

電球承口ノ垂直軸ハ白燈、紅燈及安全燈ニ在リテハ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ、其ノ他ノ船燈ニ在リテハ燈窓硝子ノ垂直軸ノ後方九ミリメートルノ位置ニ在ルコトヲ要ス

電球承口取附臺ハ亞麻仁油ヲ以テ絕緣處理ヲ爲シタル櫸材又ハ櫻材ナルコトヲ要ス

第八十六條　電球ハ籠形金屬纖條ヲ使用セル眞空式白熱電球ナルコトヲ要ス

第八十七條　電氣船燈各部ノ寸法ハ第二表ニ依ル

第八十八條　兩色燈、丙種白燈、丁種白燈、水先燈及操舵目標燈ノ構造及寸法ハ本節ノ規定ニ依ルノ外當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二節　檣燈

第八十九條　燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第九十條　燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第九十一條　電球ハ甲種檣燈ニ在リテハ四〇ワット、乙種檣燈ニ在リテハ二〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第九十二條　檣燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈胴上部ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第三節　舷燈

第九十三條　甲種舷燈ノ燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置シ其ノ內面ニ接シ左舷舷燈ニ在リテハ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷舷燈ニ在リテハ綠色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

乙種舷燈ノ燈窓ニハ左舷舷燈ニ在リテハ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷舷燈ニ在リテハ綠色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第九十四條　燈窓硝子ノ後部留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ燈籠ノ側面ト一一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

燈窓硝子ノ前部留金ノ緣ヨリ燈籠ノ側面ニ至ル距離ハ該側面ヨリ電球承口ノ中心ニ至ル距離ヨリ一五ミリメートル以上小ナルコトヲ要ス

第九十五條　著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナク且左舷舷燈用ノ硝子ヲ右舷舷燈ニ、右舷舷燈用ノ硝子ヲ左舷舷燈ニ挿入シ得ザル構造ト爲スベシ

著色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ

著色挿入硝子ノ金屬枠及挿入裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第九十六條　電球ハ甲種舷燈ニ在リテハ四〇ワット、乙種舷燈ニ在リテハ二〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第九十七條　燈籠側部ノ掛具及隔板ニ取附クル突起金具ノ形狀及寸法ハ第一圖ニ依ル